II 調查結果

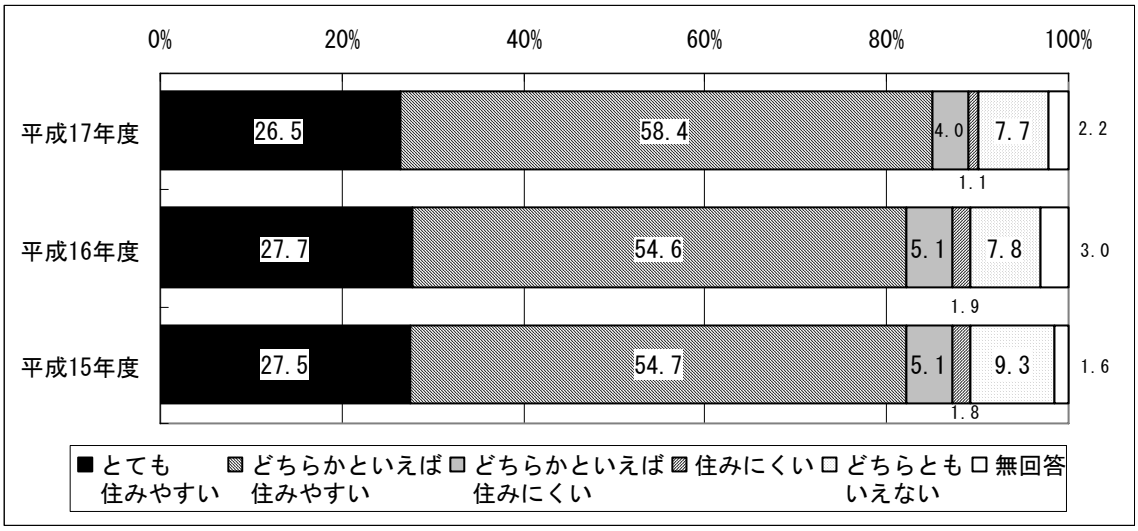
（集計編）

１．三重県の住みやすさについての評価及び今後の定住意向

問１－１　あなたにとって、三重県は住みやすい県ですか。（回答は単一選択式）

○全　体

（集計資料　p.1）



平成 17 年度

全体では、26.5%の人が「とても住みやすい」と答えており、これに「どちらかといえば住みやすい」（58.4%）を合わせると、“住みやすい”と答えた人は平成 10 年度の調査開始以来、最高の 84.9%を示している。

一方、「住みにくい」（1.1%）や「どちらかといえば住みにくい」（4.0%）と答えた“住みにくい”と感じている人は、5.1%となっている。

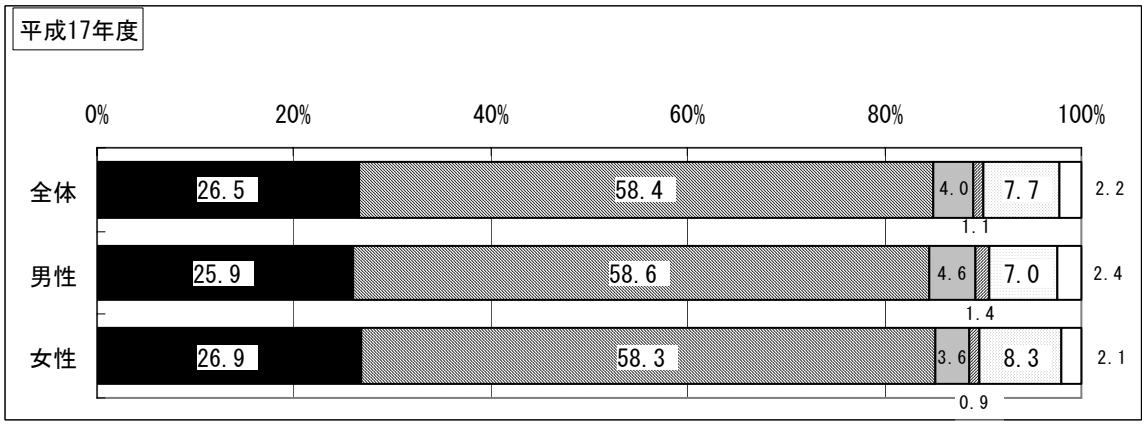
平成 16 年度、平成 15 年度との比較

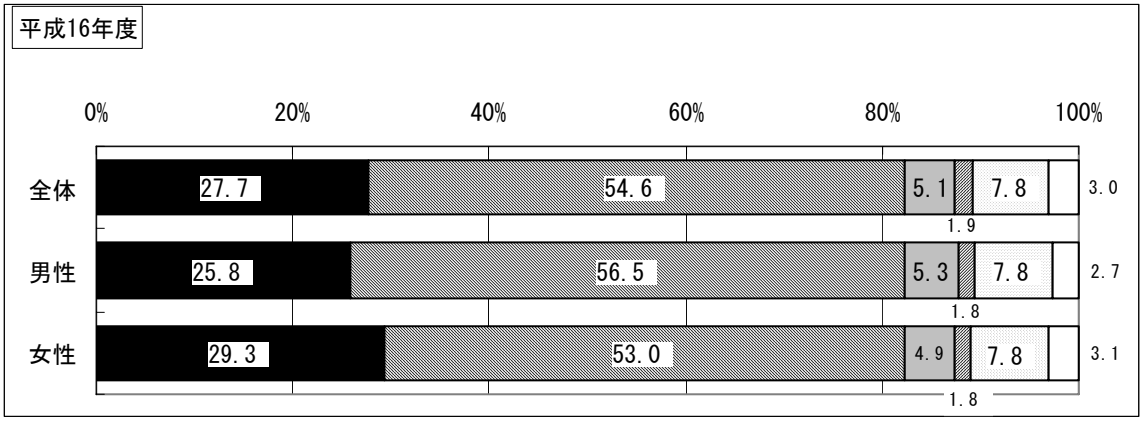
全体では、「とても住みやすい」と答えた人の割合は、15 年度から 16 年度にかけてはほぼ横ばい状態であったが、17 年度にかけては 1.2 ポイント減少している。また、“住みやすい”と答えた人の割合は、15 年度から 16 年度にかけてはほぼ横ばい状態であったが、17 年度にかけては 2.6 ポイント増加している。

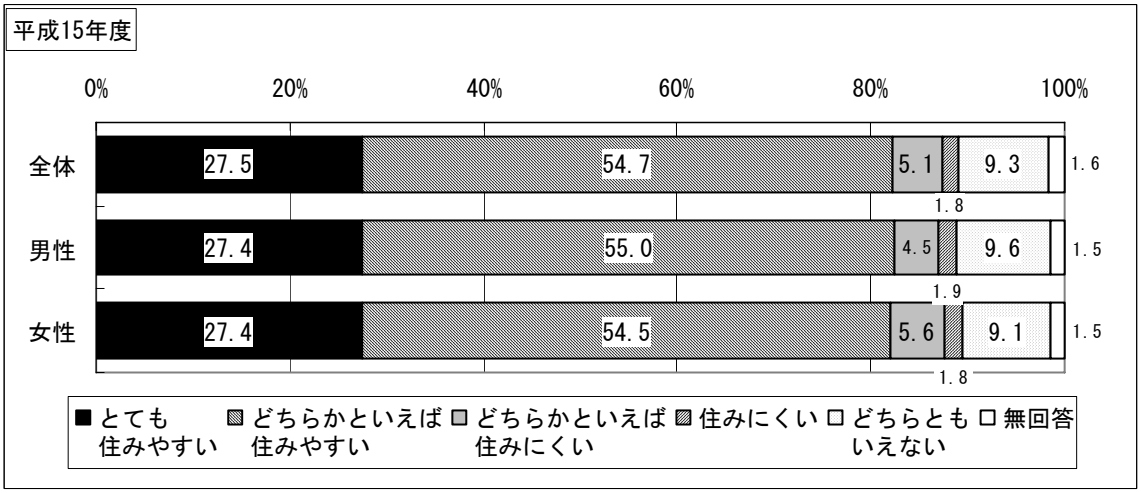
一方、“住みにくい”と感じている人の割合は、15 年度から 16 年度にかけてはほぼ横ばい状態であったが、17 年度にかけては 1.9 ポイント減少している。

○性　別

（集計資料　p.1）


平成17年度
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体
26.5
58.4
4.0
1.1
7.7
2.2
男性
25.9
58.6
4.6
1.4
7.0
2.4
女性
26.9
58.3
3.6
0.9
8.3
2.1


平成16年度
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体
27.7
54.6
5.1
1.9
7.8
3.0
男性
25.8
56.5
5.3
1.8
7.8
2.7
女性
29.3
53.0
4.9
1.8
7.8
3.1


平成15年度
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体
27.5
54.7
5.1
1.8
9.3
1.6
男性
27.4
55.0
4.5
1.9
9.6
1.5
女性
27.4
54.5
5.6
1.8
9.1
1.5
とても住みやすい
どちらかといえば住みやすい
どちらかといえば住みにくい
住みにくい
どちらともいえない
無回答

平成 17 年度

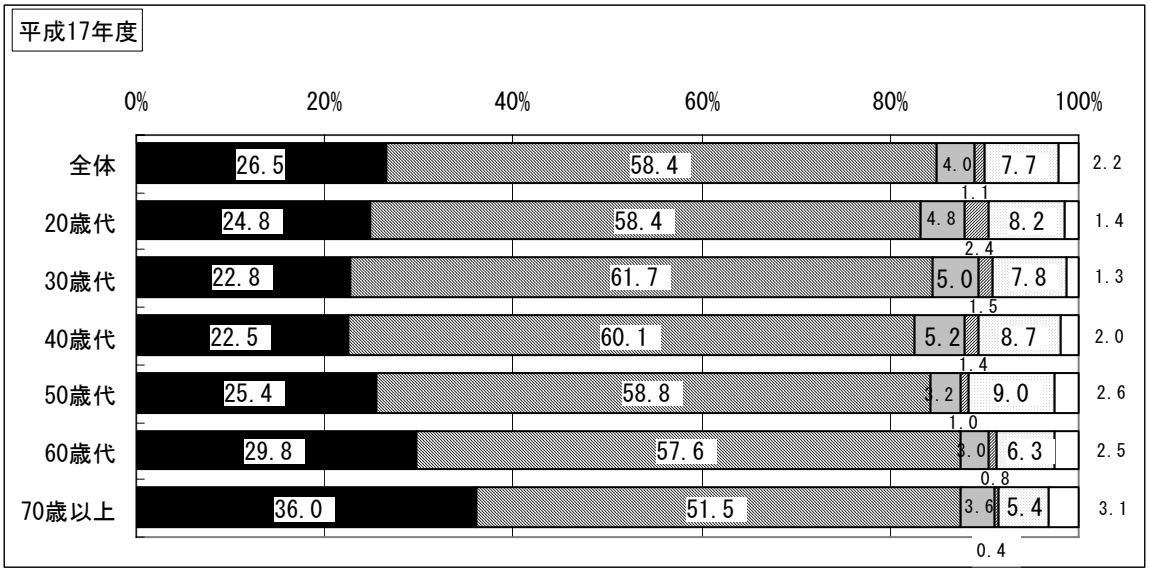
“住みやすい”と答えた人の割合は、男女に差はみられず、男女ともに 85%程度となっている。

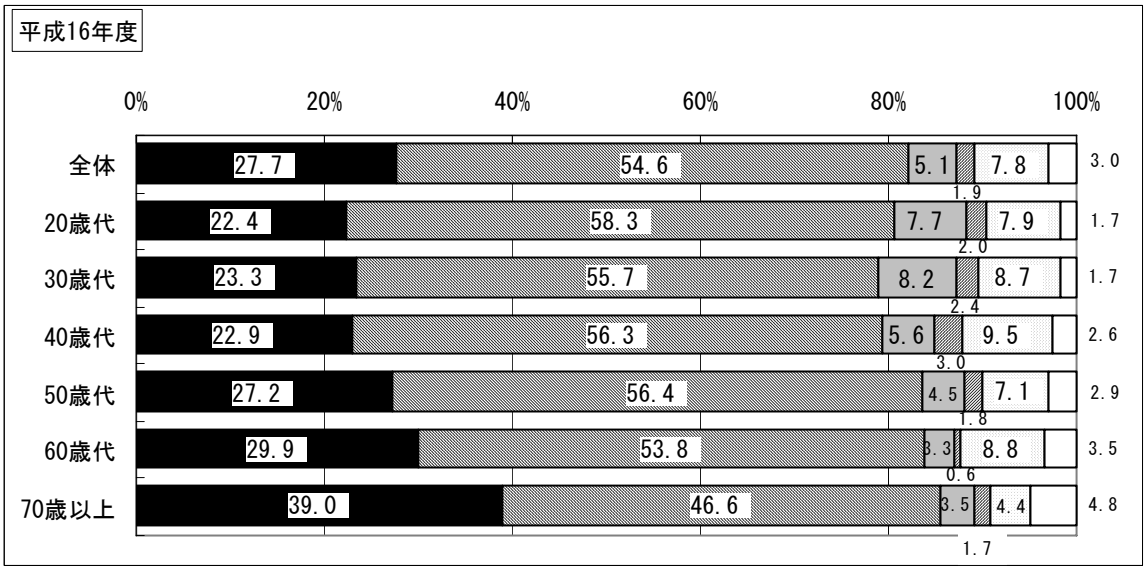
平成 15 年度、平成 16 年度との比較

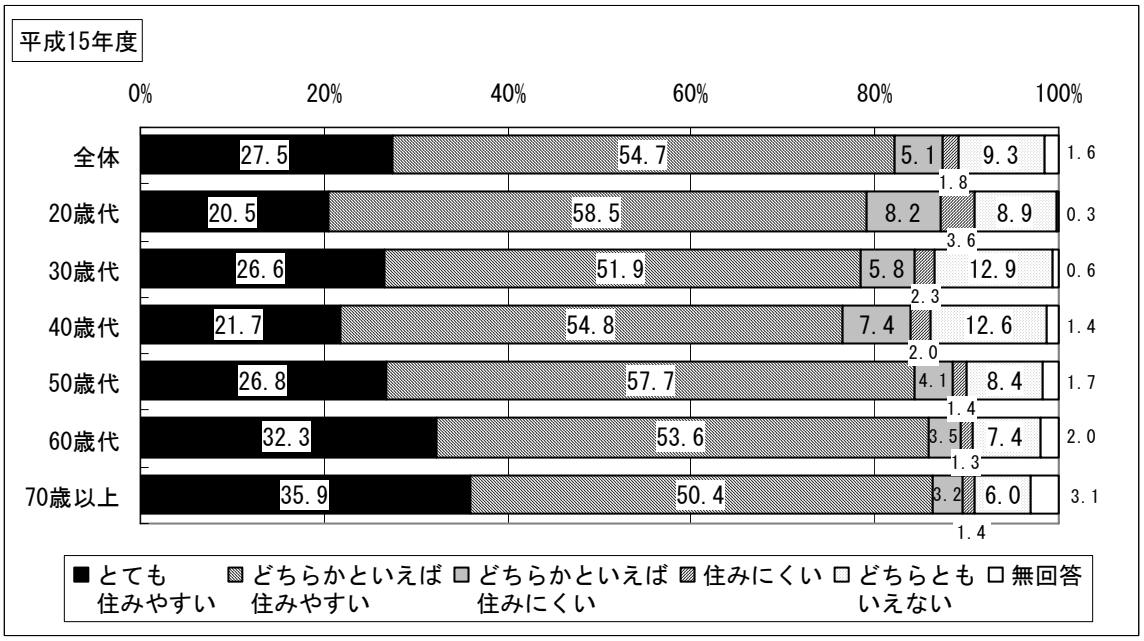
性別では、男性の「とても住みやすい」と答えた人の割合は 17 年度ではほぼ横ばい状態であるのに対し、女性では 2.4 ポイント減少している。“住みやすい”と答えた人の割合は、平成 16 年度から 17 年度にかけて男性では 2.2 ポイント、女性では 2.9 ポイント増加している。

○年齢層別

（集計資料　p.1）


平成17年度
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 26.5 58.4 4.0 1.1 7.7 2.2
20歳代 24.8 58.4 4.8 2.4 8.2 1.4
30歳代 22.8 61.7 5.0 1.5 7.8 1.3
40歳代 22.5 60.1 5.2 1.4 8.7 2.0
50歳代 25.4 58.8 3.2 1.0 9.0 2.6
60歳代 29.8 57.6 3.0 0.8 6.3 2.5
70歳以上 36.0 51.5 3.6 0.4 5.4 3.1


平成16年度
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 27.7 54.6 5.1 1.9 7.8 3.0
20歳代 22.4 58.3 7.7 2.0 7.9 1.7
30歳代 23.3 55.7 8.2 2.4 8.7 1.7
40歳代 22.9 56.3 5.6 3.0 9.5 2.6
50歳代 27.2 56.4 4.5 1.8 7.1 2.9
60歳代 29.9 53.8 3.3 0.6 8.8 3.5
70歳以上 39.0 46.6 3.5 1.7 4.4 4.8


平成15年度
0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 27.5 54.7 5.1 1.8 9.3 1.6
20歳代 20.5 58.5 8.2 3.6 8.9 0.3
30歳代 26.6 51.9 5.8 2.3 12.9 0.6
40歳代 21.7 54.8 7.4 2.0 12.6 1.4
50歳代 26.8 57.7 4.1 1.4 8.4 1.7
60歳代 32.3 53.6 3.5 1.3 7.4 2.0
70歳以上 35.9 50.4 3.2 1.4 6.0 3.1
■ とても住みやすい
▨ どちらかといえば住みやすい
▨ どちらかといえば住みにくい
▨ 住みにくい
□ どちらともいえない
□ 無回答

平成 17 年度

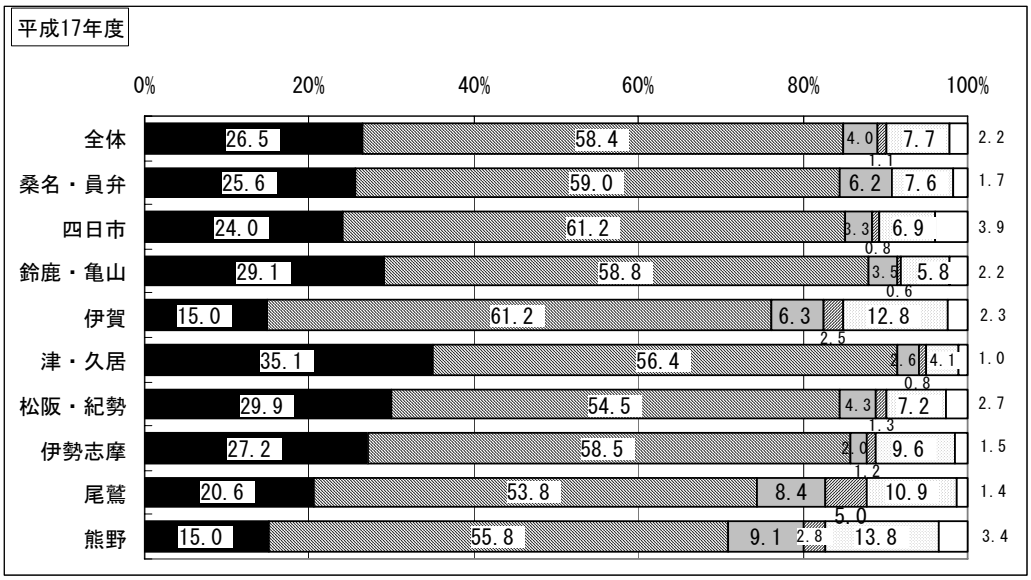
「とても住みやすい」と答えた人の割合は 50 歳代以上で約３割を占めている。また、“住みやすい”と答えた人の割合は、60 歳代以上で約９割を占めている。

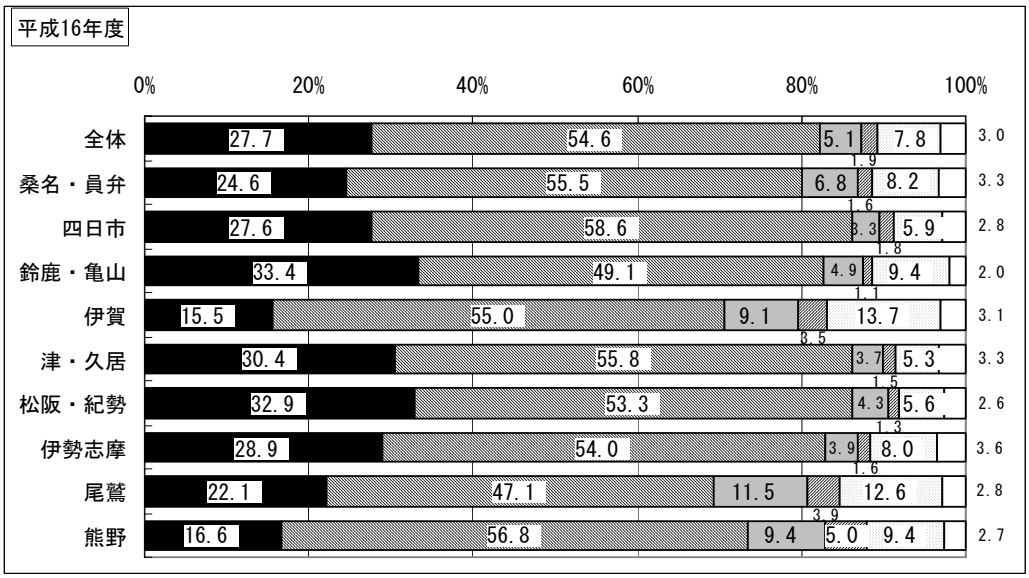
平成 15 年度、平成 16 年度との比較

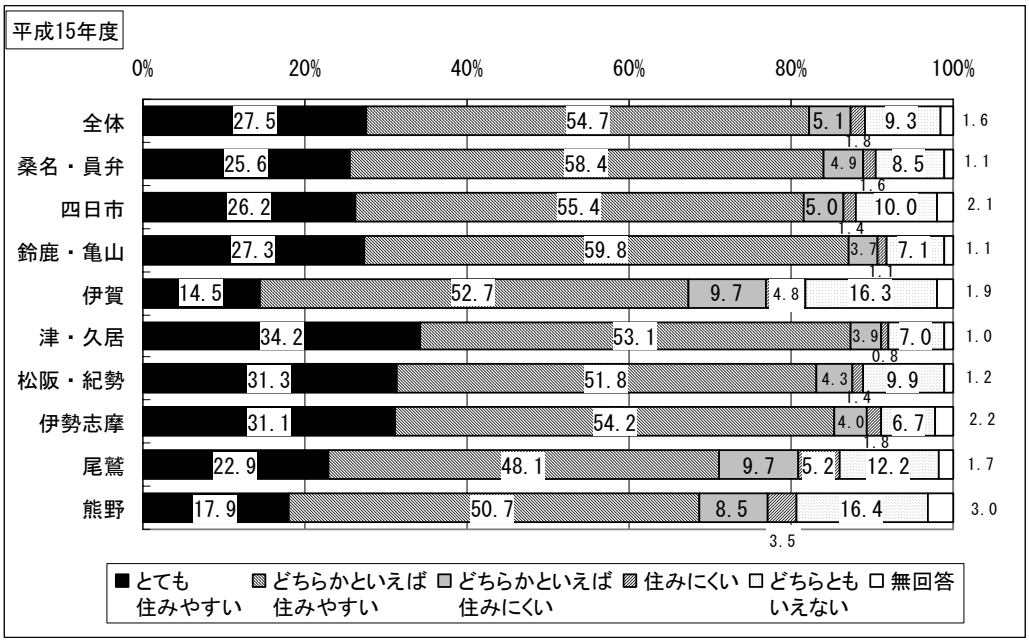
「とても住みやすい」と答えた人の割合は、15 年度から 16 年度にかけては特に大きな増減はみられないものの、17 年度にかけては 20 歳代を除いたすべての年齢層で若干減少している。また、“住みやすい”と答えた人の割合はいずれの年齢層においても増加しており、中でも 30 歳代（5.5 ポイント）の増加が大きくなっている。

○生活創造圏別

（集計資料　p. 1）







平成 17 年度

「とても住みやすい」と答えた人の割合は、津・久居（35.1%）、松阪・紀勢（29.9%）、鈴鹿・亀山（29.1%）、伊勢志摩（27.2%）、桑名・員弁（25.6%）では高く約３割を占めているのに対し、伊賀や熊野では 15.0%にとどまっている。また、“住みやすい”と答えた人の割合は、津・久居（91.5%）、鈴鹿・亀山（87.9%）、伊勢志摩（85.7%）四日市（85.2%）で高くなっている。

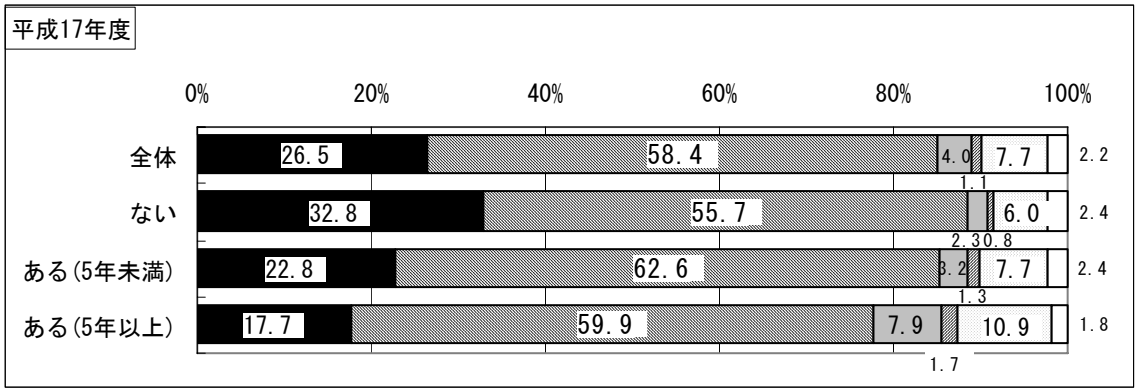
一方、熊野（70.8%）、尾鷲（74.4%）、伊賀（76.2%）では、“住みやすい”と答えた人の割合が７割台と、県全体と比較して低くなっている。

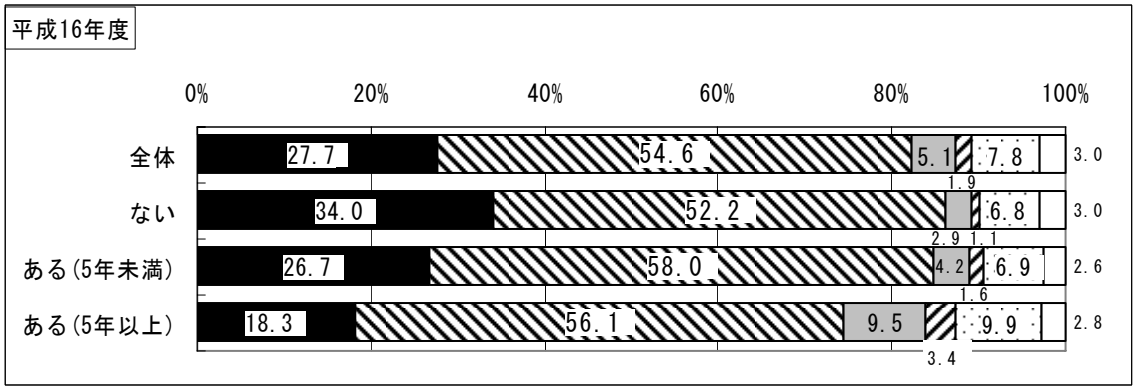
平成 15 年度、平成 16 年度との比較

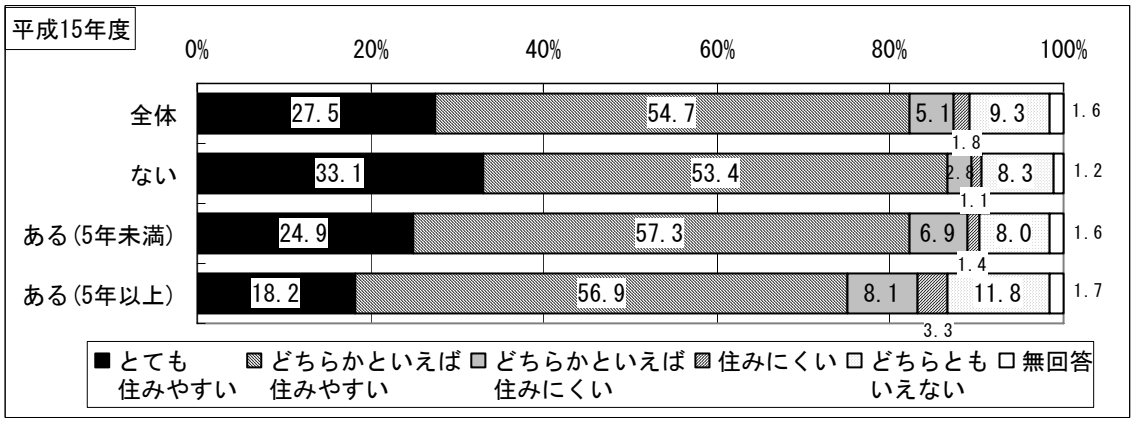
“住みやすい”と答えた人の割合は、15 年度、16 年度ともに、伊賀、尾鷲、熊野では県全体と比較して低く推移している。また、16 年度と比較し、17 年度では伊賀（5.7 ポイント）、鈴鹿・亀山（5.4 ポイント）、津・久居（5.3 ポイント）、尾鷲（5.2 ポイント）、桑名・員弁（4.5 ポイント）、伊勢志摩（2.8 ポイント）で増加しているのに対し、熊野（2.6 ポイント）、松阪・紀勢（1.8 ポイント）、四日市（1.0 ポイント）で減少している。

○県外在住の経験別

（集計資料　p.1）







平成 17 年度

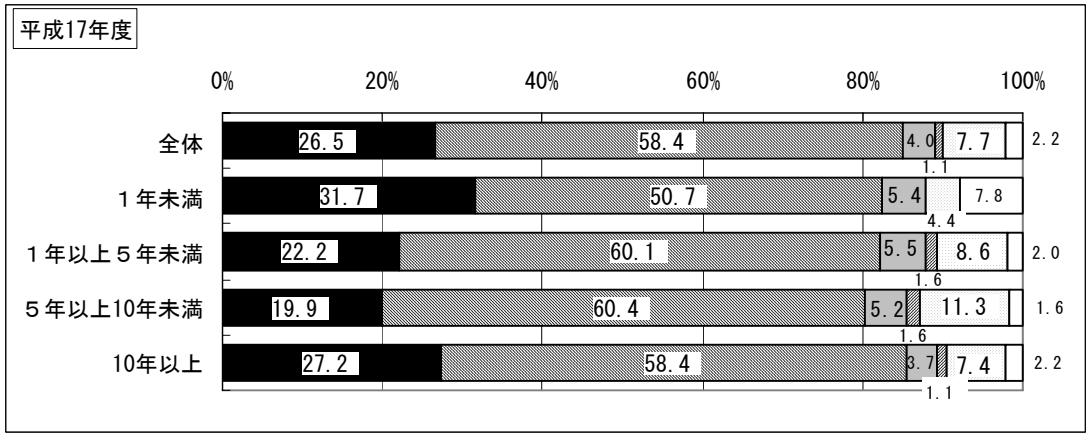
「とても住みやすい」と答えた人の割合は、県外在住の経験が「ない人」（32.8%）が「ある人」（５年未満が 22.8%、５年以上が 17.7%）を上回っており、県外在住経験年数が長いほど“住みやすい”と感じている人は少なくなっている。

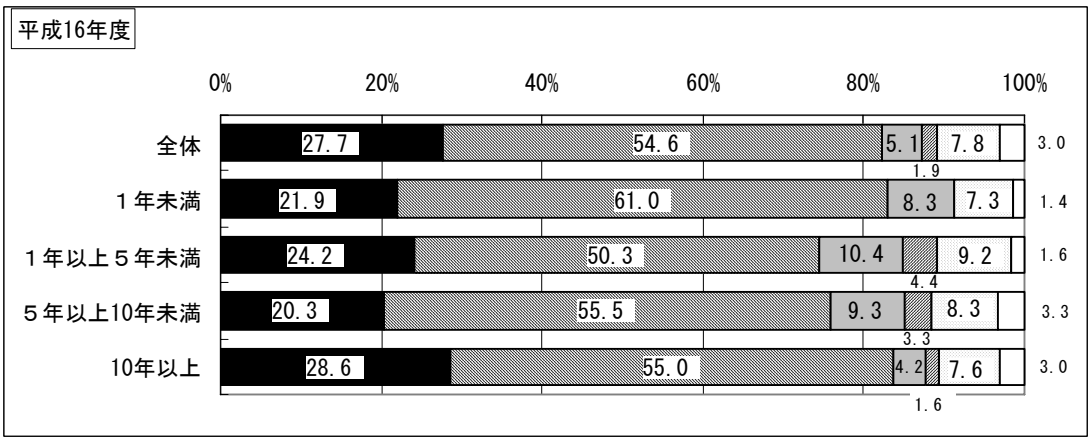
平成 15 年度、平成 16 年度との比較

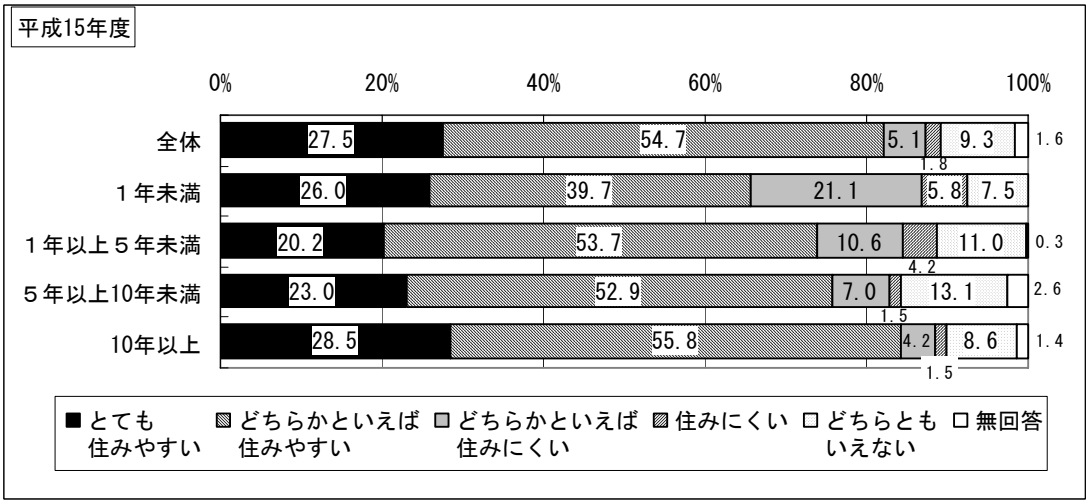
“住みやすい”と答えた人の割合は、15 年度と 16 年度では特に大きな変化はみられないものの、17 年度ではいずれの階層においても増加している。

○居住年数

（集計資料　p.1）







平成 17 年度

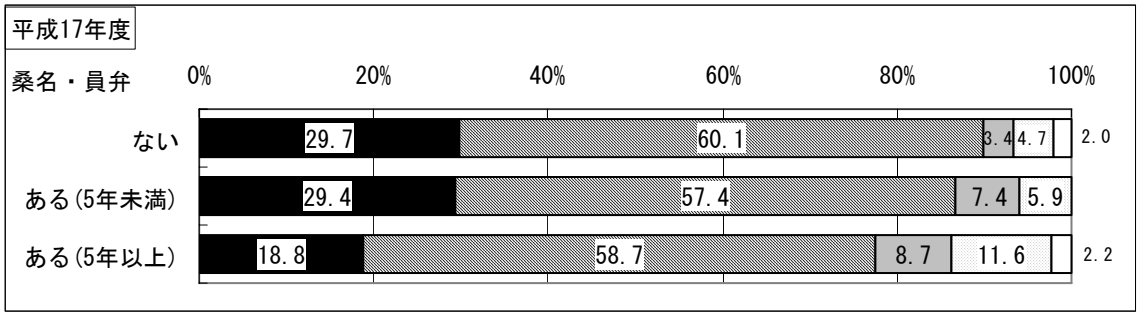
居住年数別では、“住みやすい”と答えた人の割合は、いずれの居住年数でも８割を超え高くなっており、中でも居住年数が 10 年以上の人では 85.6%となっている。

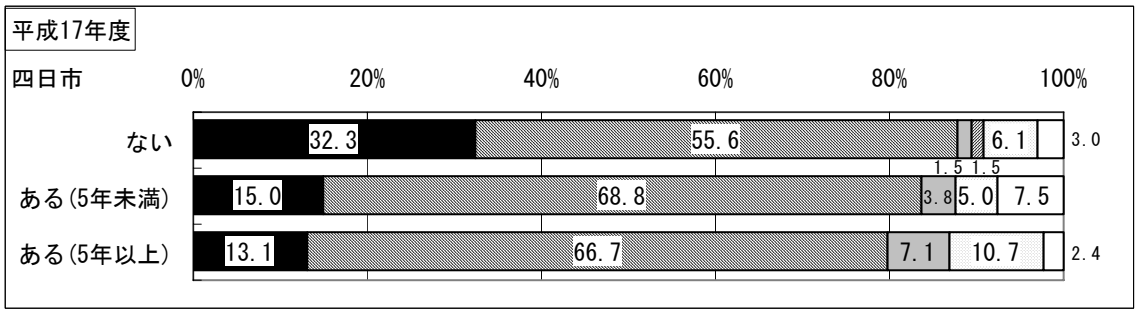
平成 15 年度、平成 16 年度との比較

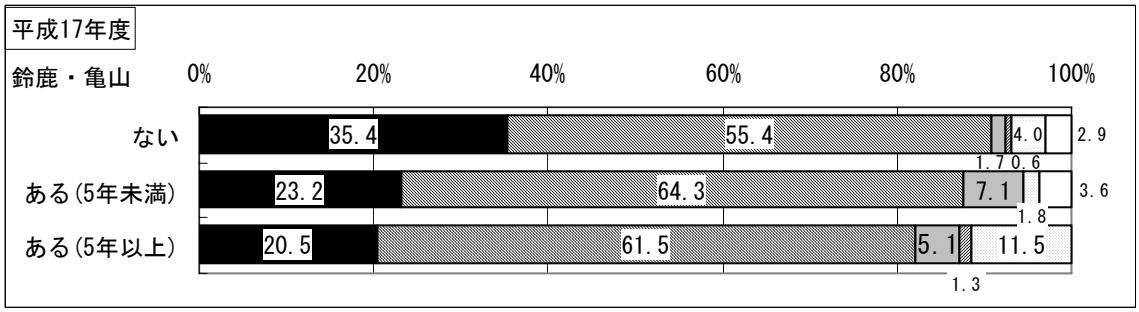
“住みやすい”と答えた人の割合は、16 年度から 17 年度にかけては居住年数が１年以上５年未満や５年以上 10 年未満では、それぞれ 7.8 ポイント、4.5 ポイント増加している

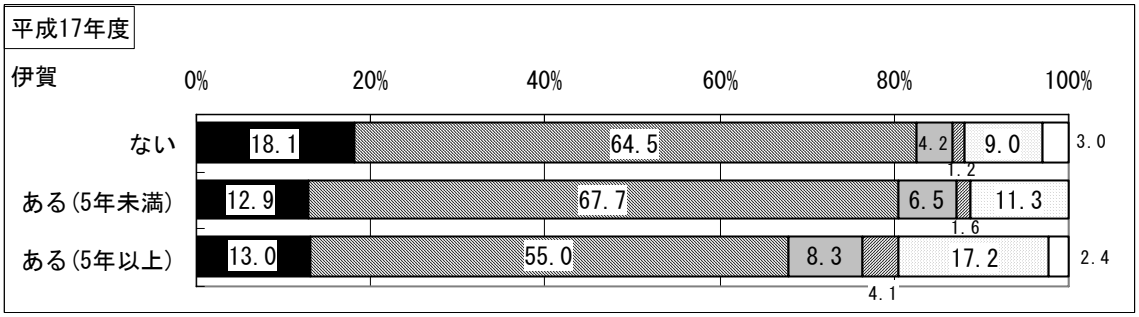
○生活創造圏・県外在住経験別

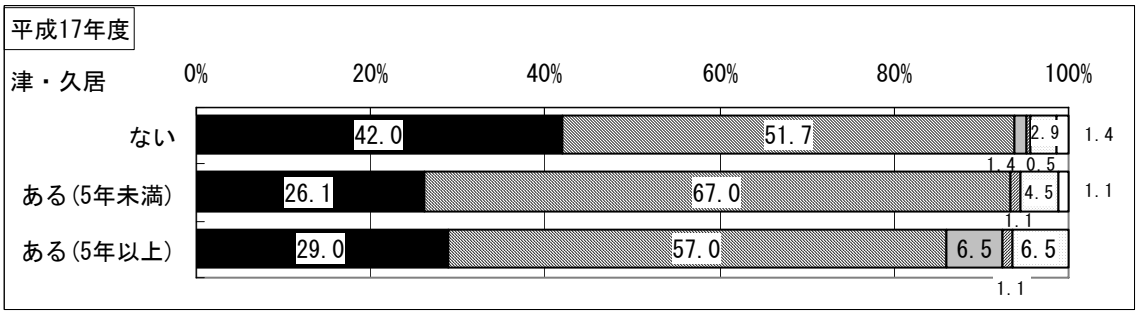
（集計資料　p.2）

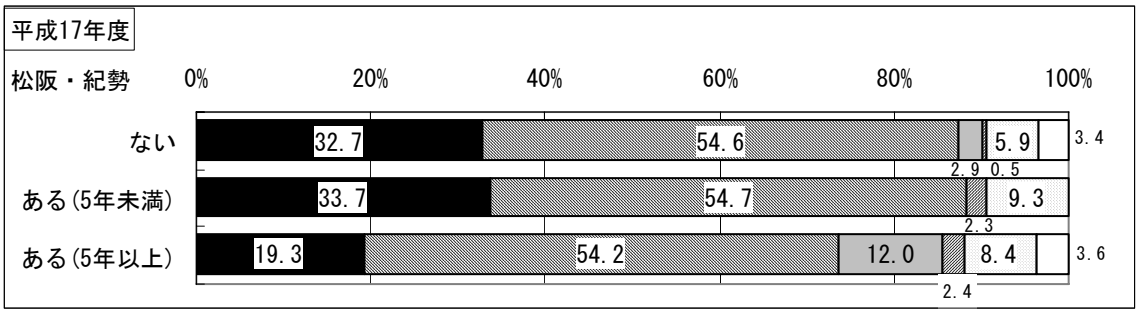


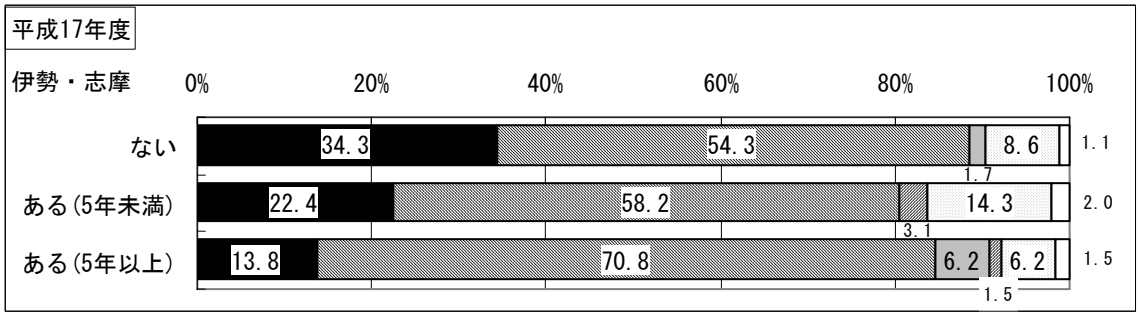


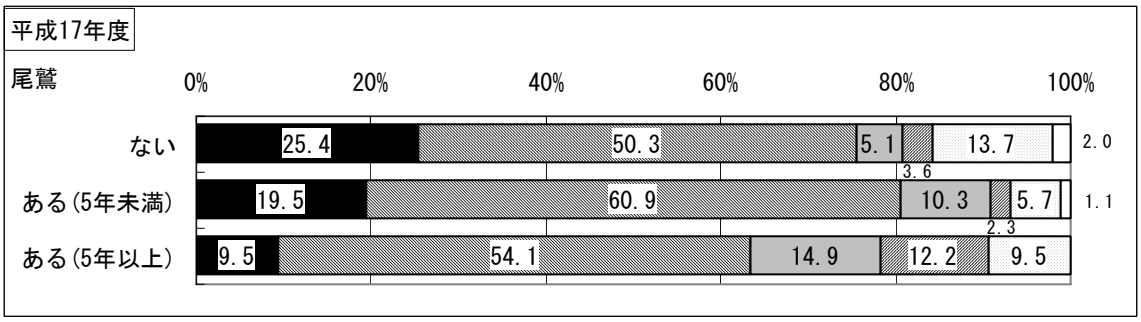


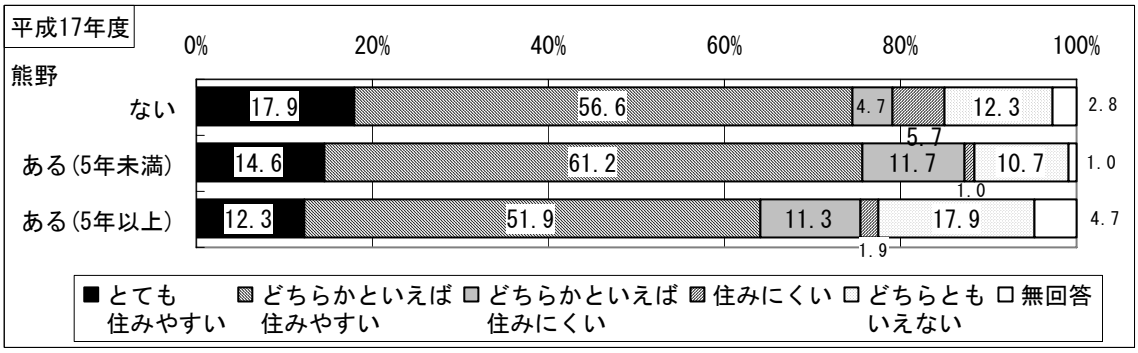












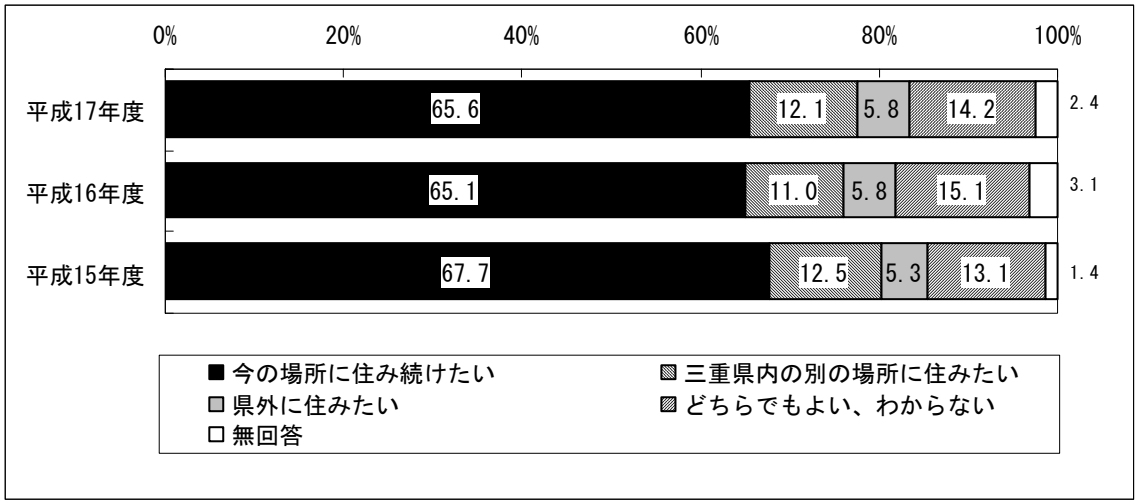
平成 17 年度

「とても住みやすい」の回答率が県全体より低い桑名・員弁、四日市、伊賀、尾鷲、熊野について県外在住経験との関連をみると、四日市では、県外在住経験が「ない人」に比べて県外在住経験が「ある人」の「とても住みやすい」の回答率が顕著に低くなっている。また、桑名・員弁では、県外在住経験が「ない人」と「ある人（５年未満)」で「とても住みやすい」の回答率がほぼ同様となっている。

問１－２　あなたは今後も三重県に住みたいと思いますか。（回答は単一選択式）

○全　体

（集計資料　p.3）



平成 17 年度

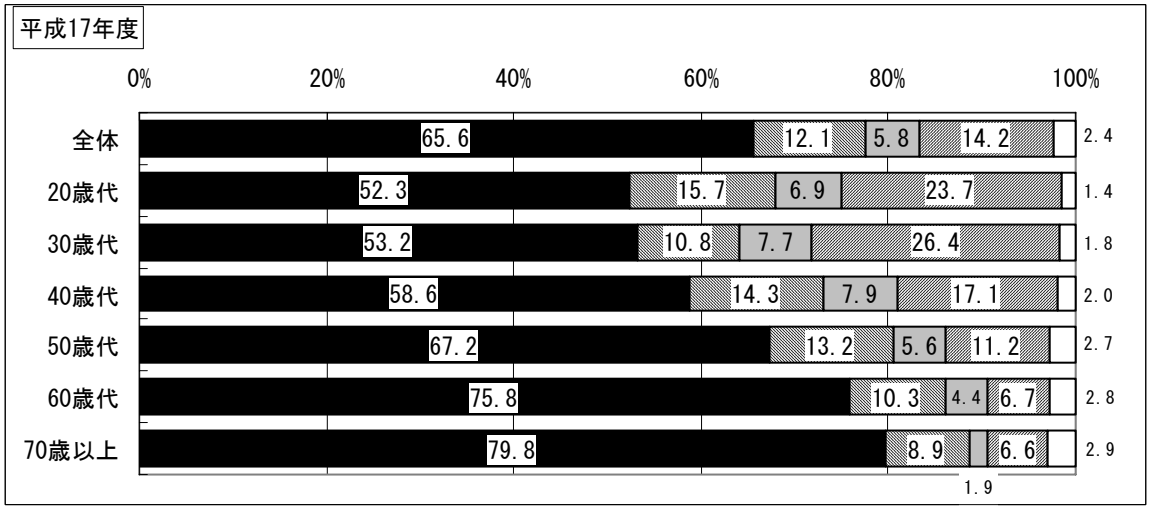
全体では、「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合が 65.6%となっており、これに「三重県内の別の場所に住みたい」（12.1%）を合わせた“今後も三重県に住みたい”と答えた人の割合は約８割（77.7%）を占めている。

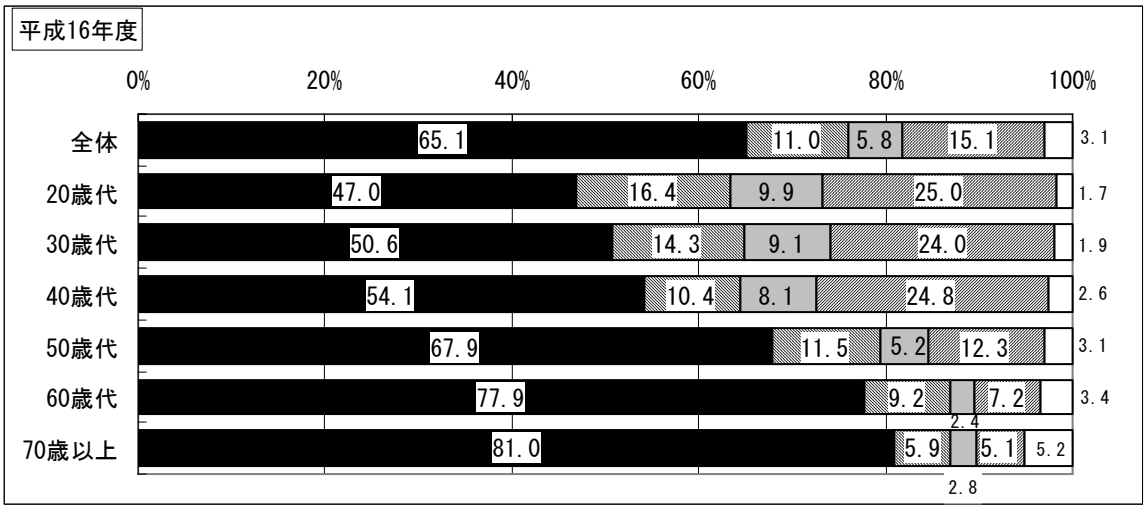
平成 15 年度、平成 16 年度との比較

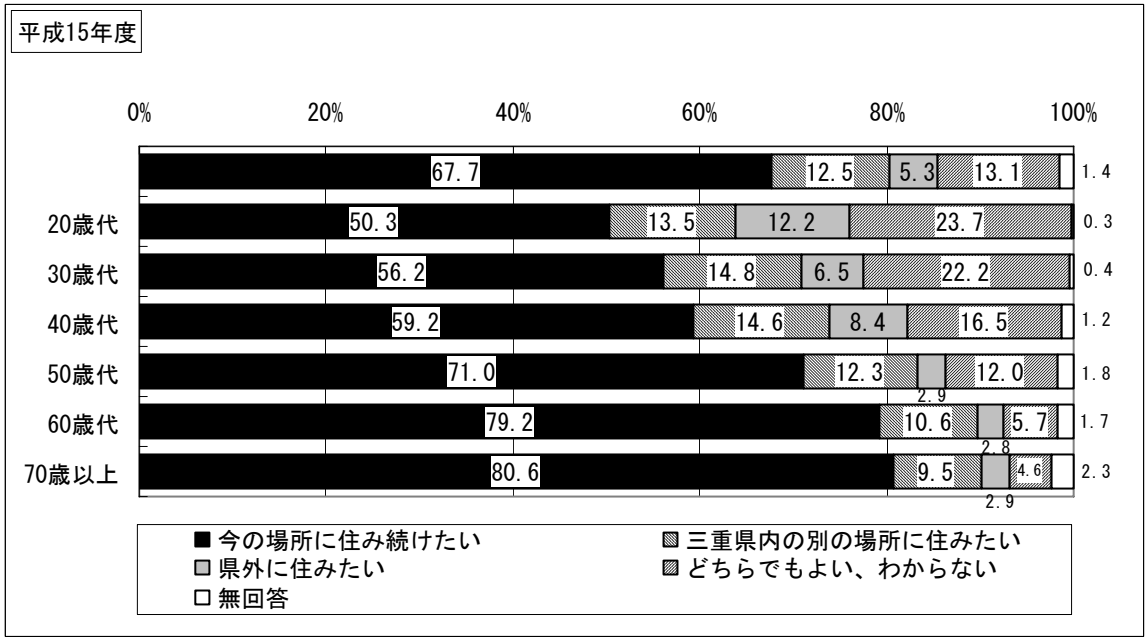
「今の場所に住み続けたい」人、「三重県内の別の場所に住みたい」人ともに 16 年度に比べて若干増加しており、“今後も三重県に住みたい”と答えた人の割合も 1.6 ポイント増加している。

○年齢層別

（集計資料　p.3）







平成 17 年度

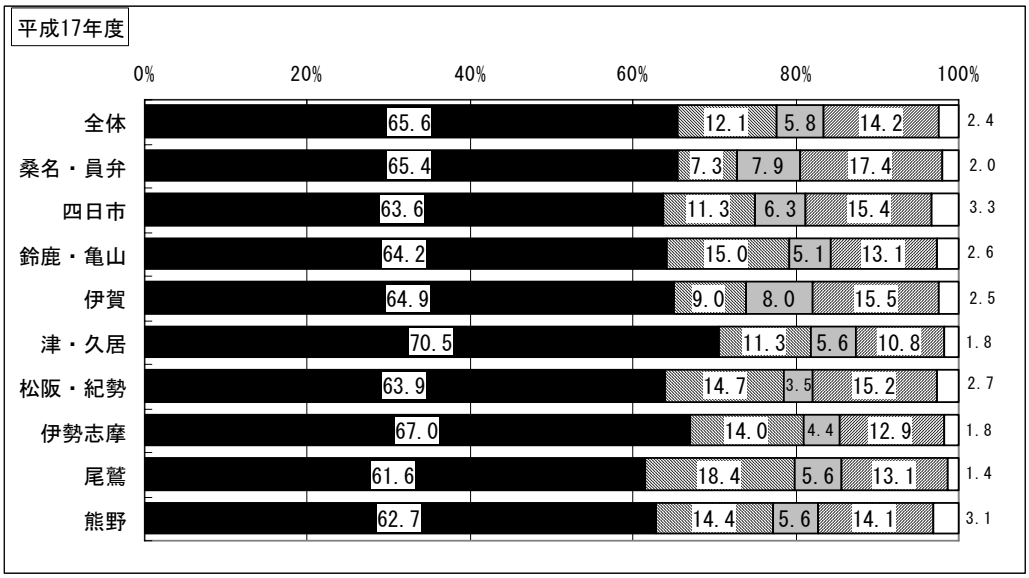
年齢層別では、「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は、年齢とともに高くなり、60 歳以上では約８割を占めている。また、“今後も三重県に住みたい”と答えた人の割合はいずれの年齢層においても６割を超えており定住意向は高くなっている。中でも 50 歳以上では定住意向は８割を超えている。

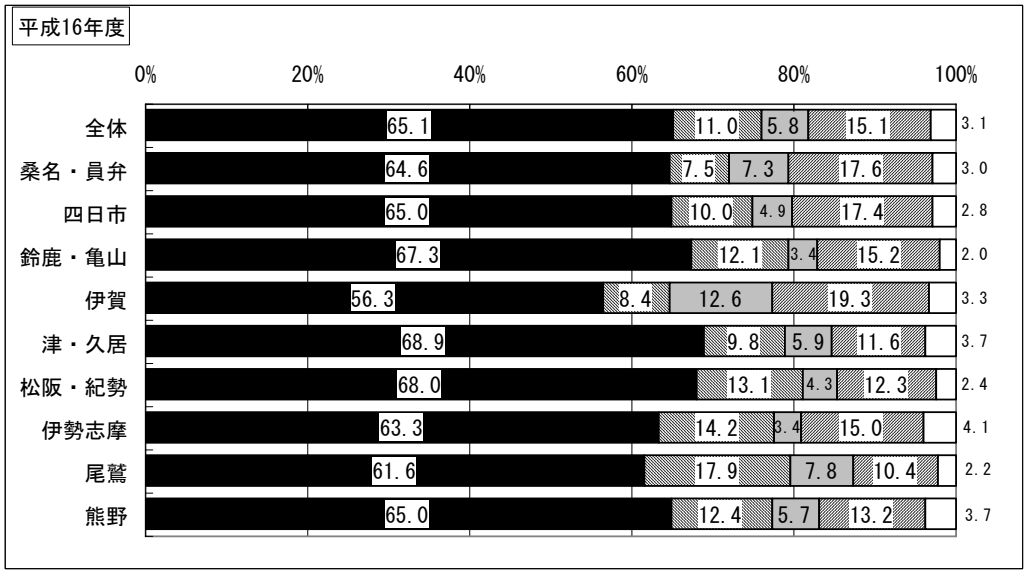
平成 15 年度、平成 16 年度との比較

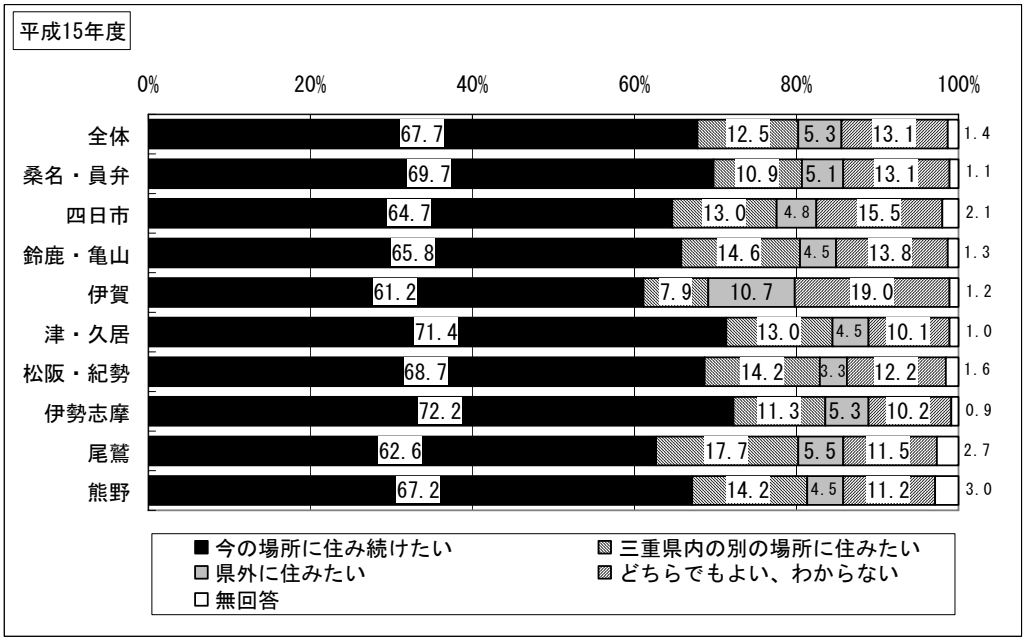
「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は、15 年度から 16 年度にかけては 70 歳以上を除いたすべての年齢層で減少していたものの、17 年度にかけては 20～40 歳代では増加に転じており、中でも 20 歳代の若年層では 5.3 ポイント増加している。一方、50 歳以上では引き続き減少している。

○生活創造圏別

（集計資料　p. 3）







平成 17 年度

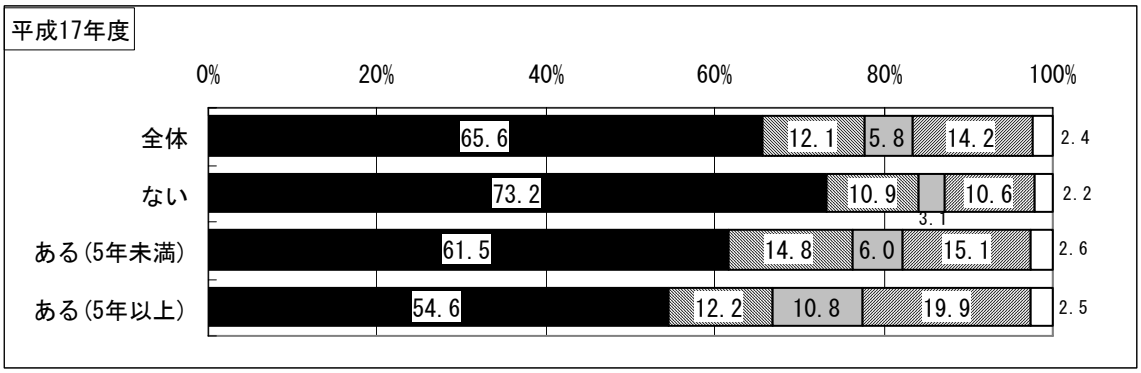
生活創造圏別では、「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は、いずれの生活創造圏においても６割を超え、特に津・久居は７割を超えるなど、定住意向は高くなっている。

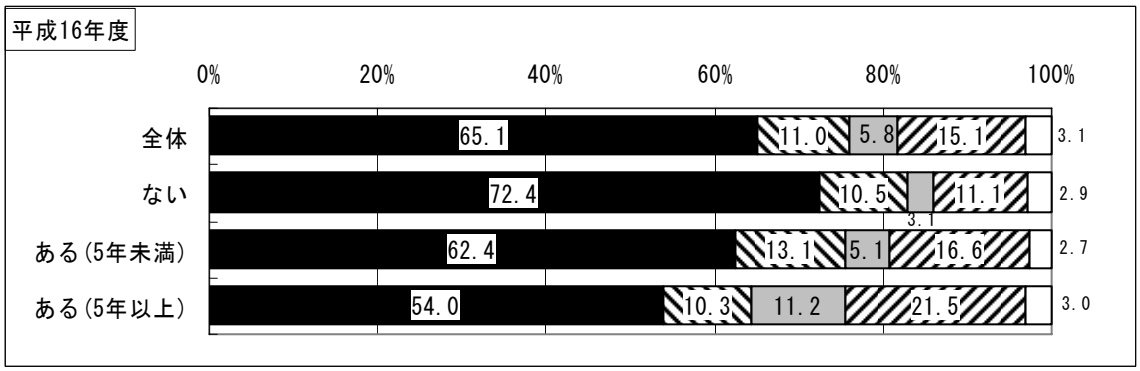
平成 15 年度、平成 16 年度との比較

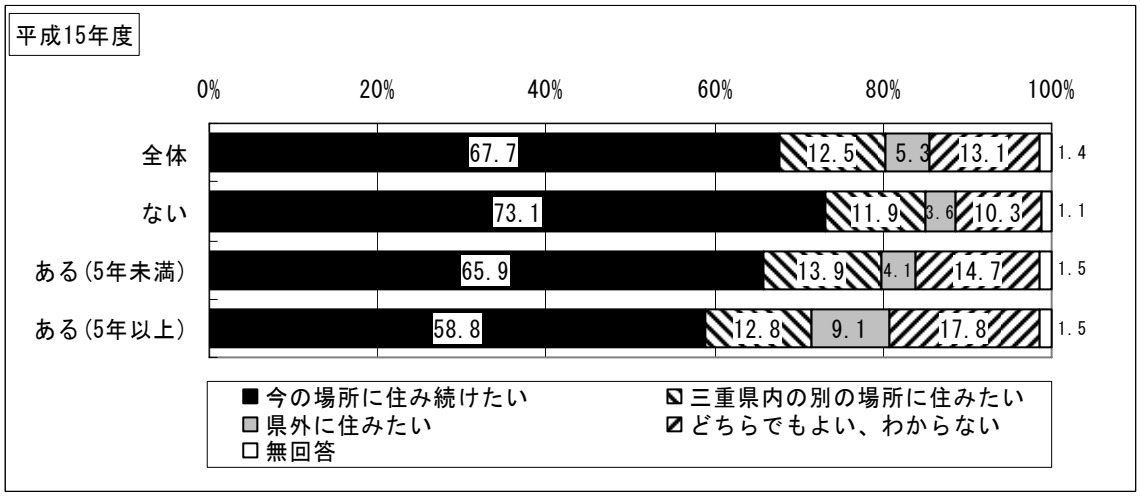
「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は、四日市、鈴鹿・亀山、松阪・紀勢、熊野などでは 16 年度に比べて減少しているのに対し、桑名・員弁、伊賀、津・久居、伊勢志摩などでは増加している。

○県外在住の経験別

（集計資料　p.3）







平成 17 年度

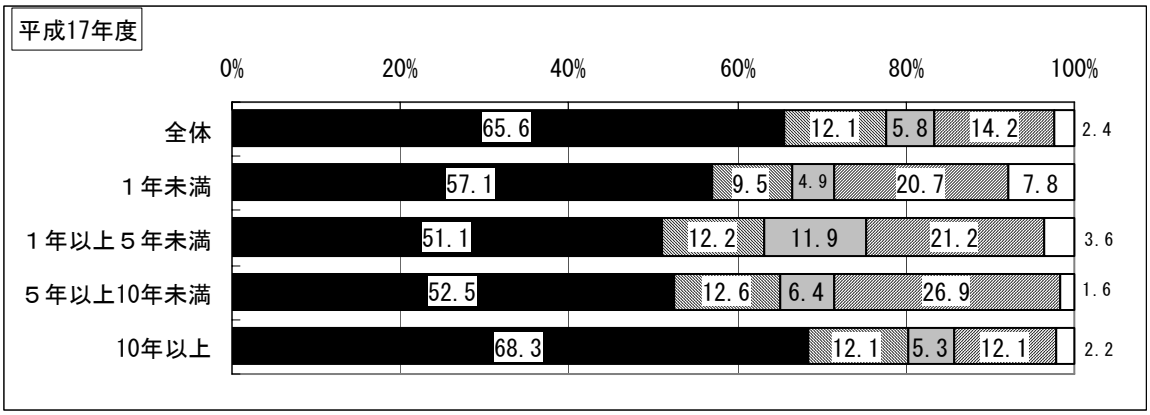
県外在住経験別では、「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は、県外在住経験が「ある人」に比べ県外在住経験が「ない人」の方が高くなっている。

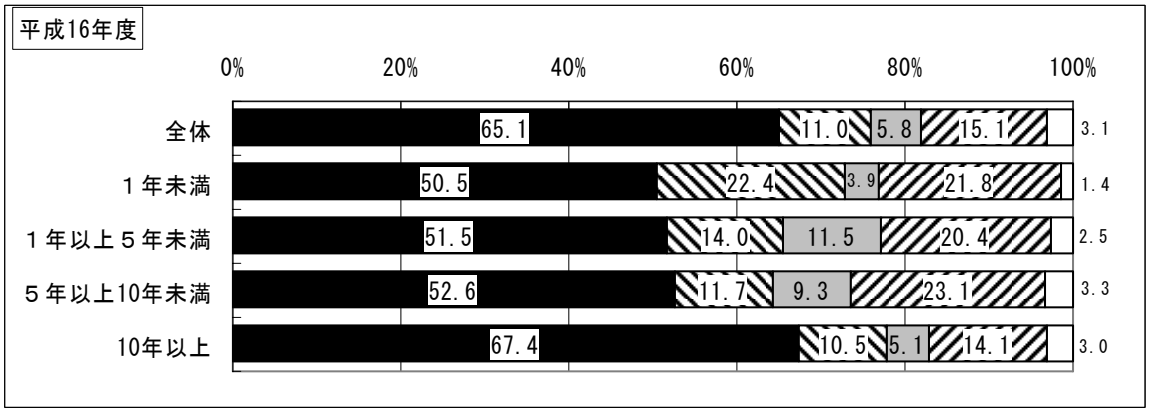
平成 15 年度、平成 16 年度との比較

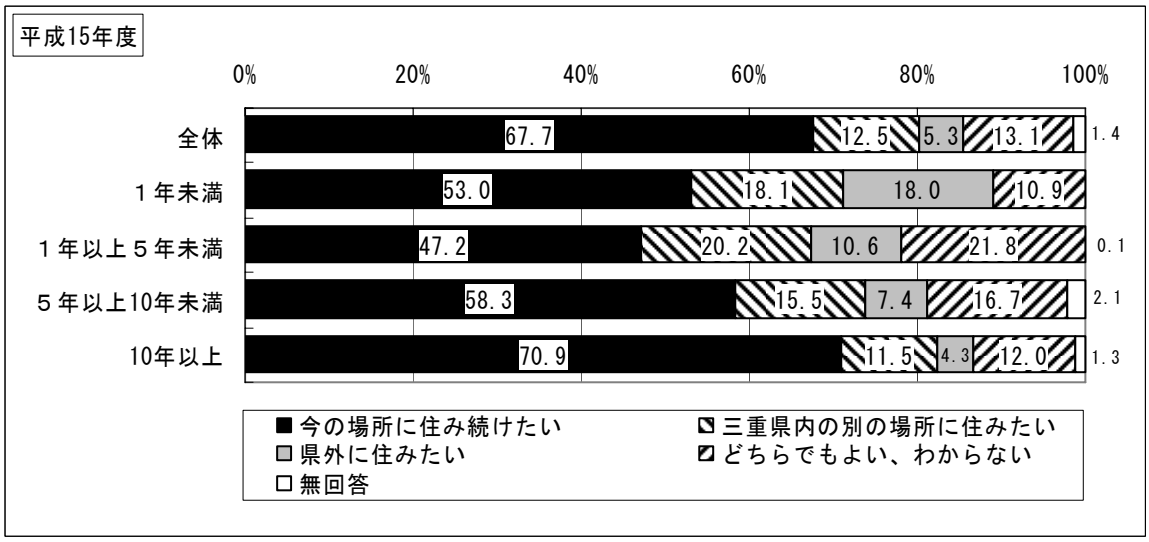
「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は、15 年度から 16 年度にかけてすべての階層で減少していたものの、17 年度にかけては「ない人」「ある（５年以上)」では若干増加している。

○居住期間

（集計資料　p.3）







平成 17 年度

居住年数別では、「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は、居住年数が 10 年以上の人では約７割（68.3%）を占めている。

平成 15 年度、平成 16 年度との比較

「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は、居住年数が１年未満では 16 年度に比べて 6.6 ポイント増加している。

２．県行政の各分野の取組についての重要意識・満足意識・認知意識

問２　以下に掲げたそれぞれの項目は、三重県が目指すべき社会の状態を表しています。
あなたは、これらのことをどのくらい重要と感じますか。
また、こうした社会を目指すにあたっての現在の行政の取組に対してどのくらい満足されていますか。
さらに、そうした行政の具体的な取組をどの程度ご存知ですか。

県行政の 44 項目の取組について、重要意識と満足意識、認知意識を調査した。また、重要意識と満足意識については、前回調査（平成 16 年度）との比較を行った。

○重要意識の選択肢

①重要	②どちらかといえば重要	③どちらともいえない
④どちらかといえば重要でない	⑤重要でない	⑥わからない

○満足意識の選択肢

①満足	②どちらかといえば満足	③どちらともいえない
④どちらかといえば不満	⑤不満	⑥わからない

○認知意識の選択肢

①取組の内容を知っている	②取り組んでいることは知っている
③あまり知らない	④知らない

各項目について県民の意識を測定するため、重要意識、満足意識と不満意識、認知意識を用いる。

「重要意識」＝「重要」と「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計
「満足意識」＝「満足」と「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
「不満意識」＝「不満」と「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計
「認知意識」＝「取組の内容を知っている」と「取り組んでいることは知っている」と答えた人の率の計

＜各項目と「県民しあわせプラン」のめざすべき社会像〔元気・くらしの安全安心・絆の３つの社会像〕との分類について＞

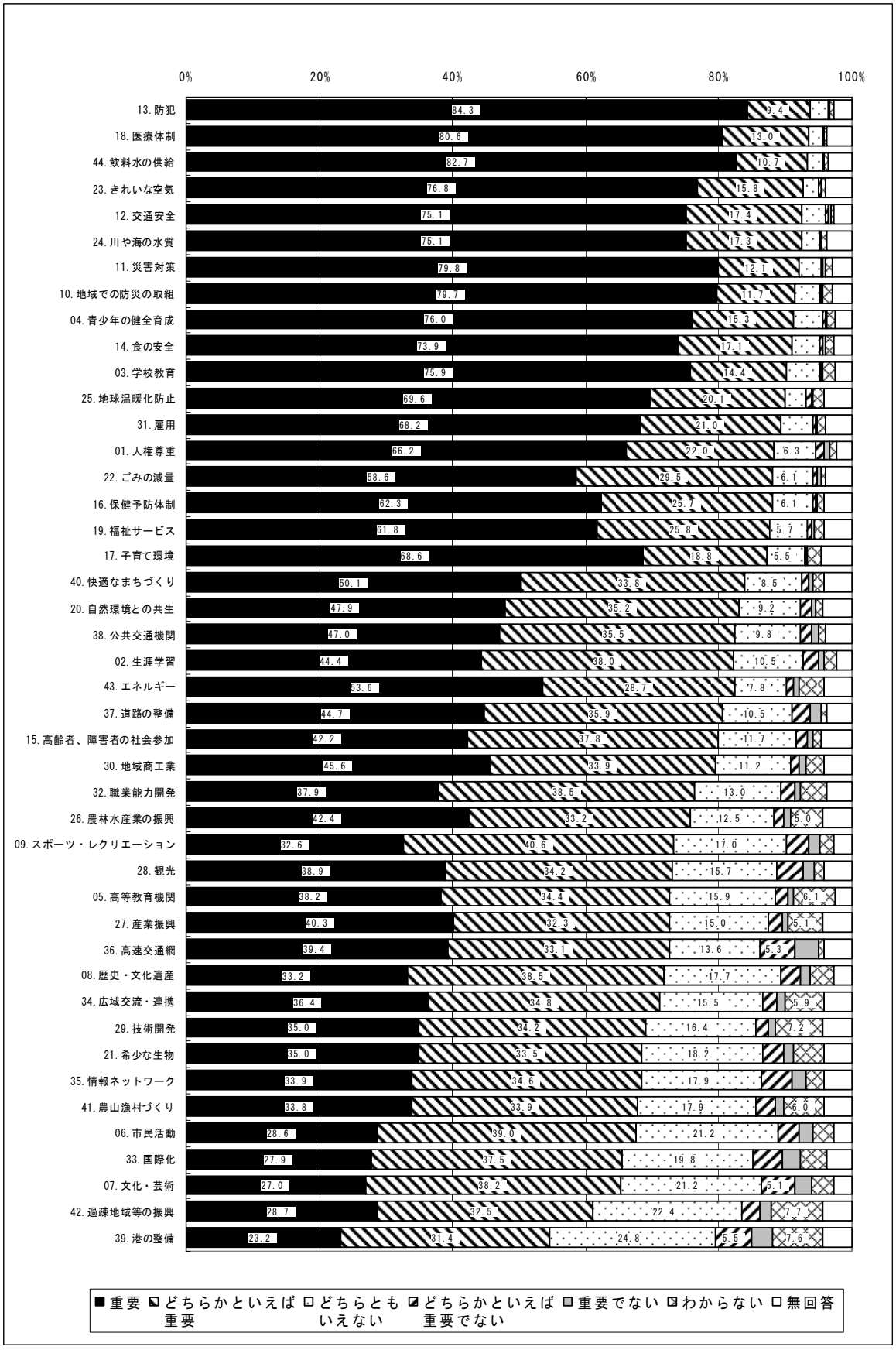
今回の調査では、県行政の各分野における 44 項目の取組について、各項目を「県民しあわせプラン」のめざすべき社会像〔元気・くらしの安全安心・絆の３つの社会像〕に分類して表示している。

めざすべき社会像	項目
元気 【一人ひとりが力を発揮し、経済や産業が元気な社会へ】	01. 人権尊重　02. 生涯学習　03. 学校教育　04. 青少年の健全育成　05. 高等教育機関　07. 文化・芸術　08. 歴史・文化遺産　09. スポーツ・レクリエーション　26. 農林水産業の振興　27. 産業振興　28. 観光　29. 技術開発　30. 地域商工業　31. 雇用　32. 職業能力開発
くらしの安全安心 【くらしの安全・安心が確立された社会へ】	10. 地域での防災の取組　11. 災害対策　12. 交通安全　13. 防犯　14. 食の安全　15. 高齢者、障害者の社会参加　16. 保健予防体制　17. 子育て環境　18. 医療体制　19. 福祉サービス　20. 自然環境との共生　21. 希少な生物　22. ごみの減量　23. きれいな空気　24. 川や海の水質　25. 地球温暖化防止　43. エネルギー　44. 飲料水の供給
絆 【助け合い、ささえあいによる絆社会へ】	06. 市民活動　33. 国際化　34. 広域交流・連携　35. 情報ネットワーク　36. 高速交通網　37. 道路の整備　38. 公共交通機関　39. 港の整備　40. 快適なまちづくり　41. 農山漁村づくり　42. 過疎地域等の振興

（１）重要意識に関する結果の概要

（重要意識は「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計）

（集計資料　p.4）



＜平成 17 年度＞

・44 項目すべての項目で重要意識が 50%以上で、そのうち 25 項目が 80%を上回っており、重要性に対する認識は全体として高い。

・44 項目の中で重要意識が最も高いのは、「防犯」（93.7%）で、以下「医療体制」（93.6%）、「飲料水の供給」（93.4%）、「きれいな空気」（92.6%）、「交通安全」（92.5%）などの項目が上位としてあげられている。

・重要意識が最も低いのは、「港の整備」（54.6%）で、次いで「過疎地域等の振興」（61.2%）、「文化・芸術」（65.2%）、「国際化」（65.4%）、「市民活動」（67.6%）の順となっている。

・しあわせプランの３つの社会像別にみると、「くらしの安全安心」に関する取組が上位を占め、「絆」に関する取組の重要意識が低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

・上位 10 項目を比較してみると、４位以下の順位に変動はあるものの、項目自体に変化はない。

・下位 10 項目を比較してみると、７位以下の順位に変動はあるものの、項目自体に変化はない。

○重要意識上位 10 項目

順位	平成 17 年度		平成 16 年度	
	項目	重要意識	項目	重要意識
第１位	防犯【くらし】	93.7%	防犯【くらし】	93.8%
第２位	医療体制【くらし】	93.6%	医療体制【くらし】	92.6%
第３位	飲料水の供給【くらし】	93.4%	飲料水の供給【くらし】	92.1%
第４位	きれいな空気【くらし】	92.6%	川や海の水質【くらし】	91.8%
第５位	交通安全【くらし】	92.5%	交通安全【くらし】	91.7%
第６位	川や海の水質【くらし】	92.4%	きれいな空気【くらし】	91.2%
第７位	災害対策【くらし】	91.9%	地域での防災の取組【くらし】	91.0%
第８位	地域での防災の取組【くらし】	91.4%	食の安全【くらし】	90.9%
第９位	青少年の健全育成【元気】	91.3%	災害対策【くらし】	90.5%
第10位	食の安全【くらし】	91.0%	青少年の健全育成【元気】	90.3%

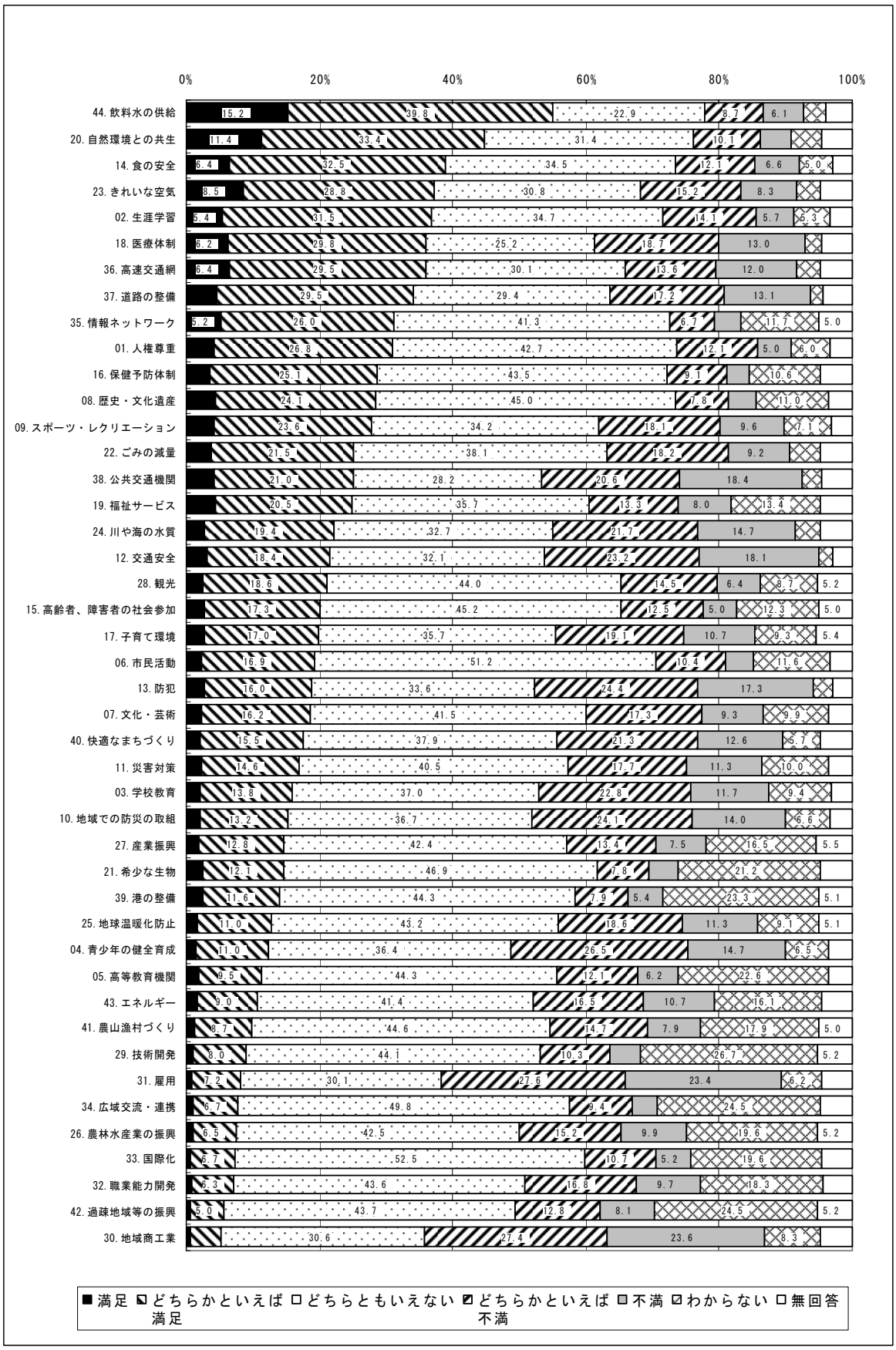
○重要意識下位 10 項目

順位	平成 17 年度		平成 16 年度	
	項目	重要意識	項目	重要意識
第１位	港の整備【絆】	54.6%	港の整備【絆】	52.3%
第２位	過疎地域等の振興【絆】	61.2%	過疎地域等の振興【絆】	59.4%
第３位	文化・芸術【元気】	65.2%	文化・芸術【元気】	62.7%
第４位	国際化【絆】	65.4%	国際化【絆】	63.0%
第５位	市民活動【絆】	67.6%	市民活動【絆】	65.6%
第６位	農山漁村づくり【絆】	67.7%	農山漁村づくり【絆】	66.1%
第７位	情報ネットワーク【絆】	68.5%	希少な生物【くらし】	67.9%
第８位	希少な生物【くらし】	68.5%	広域交流・連携【絆】	68.3%
第９位	技術開発【元気】	69.2%	情報ネットワーク【絆】	68.4%
第10位	広域交流・連携【絆】	71.2%	技術開発【元気】	69.5%

（２）満足意識・不満意識に関する結果の概要

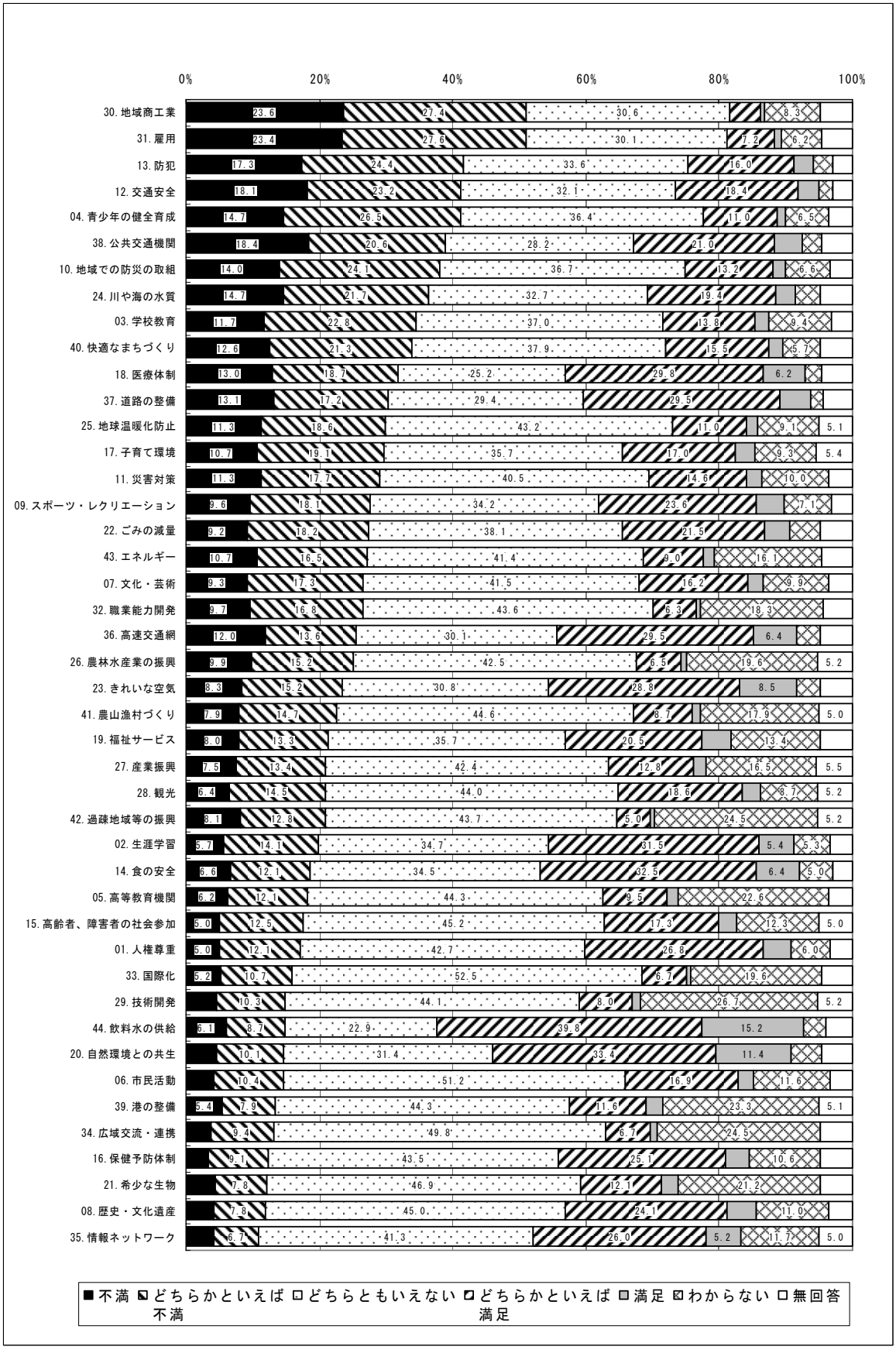
（満足意識は「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計）

（集計資料　p.5）



（不満意識は「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計）

（集計資料　p.5）



＜平成 17 年度＞

・満足意識については、「飲料水の供給」が 55.0％で最も高く、44 項目の中で唯一 50％を上回っている。以下、「自然環境との共生」（44.8％）、「食の安全」（38.9％）、「きれいな空気」（37.3％）、「生涯学習」（36.9％）の順となっており、満足意識が 30％以上の項目は 10 項目となっている。

・満足意識の高い項目について、しあわせプランの３つの社会像別にみると「くらしの安全安心」に関する項目が上位になっている。

・不満意識については、「地域商工業」と「雇用」が 51.0％で最も高くなっている。以下、「防犯」（41.7％）、「交通安全」（41.3％）、「青少年の健全育成」（41.2％）の順となっており、不満意識が 30％以上の項目は 12 項目となっている。

・不満意識の高い項目について、しあわせプランの３つの社会像別にみると「元気」に関する項目のうちの産業面に関する２項目が特に高くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

・満足意識について、上位 10 項目を比較してみると、「歴史・文化遺産」が消え、「高速交通網」が新たにあがっている。下位 10 項目を比較してみると、「港の整備」が消え、「エネルギー」が新たにあがっている。

・不満意識について、上位 10 項目を比較してみると、「道路の整備」が消え、「学校教育」が新たにあがっている。下位 10 項目を比較してみると、「国際化」が消え、「飲料水の供給」が新たにあがっている。

○満足意識上位 10 項目

順位	平成 17 年度		平成 16 年度	
	項目	満足意識	項目	満足意識
第１位	飲料水の供給【くらし】	55.0%	飲料水の供給【くらし】	51.1%
第２位	自然環境との共生【くらし】	44.8%	自然環境との共生【くらし】	40.5%
第３位	食の安全【くらし】	38.9%	医療体制【くらし】	35.1%
第４位	きれいな空気【くらし】	37.3%	生涯学習【元気】	34.7%
第５位	生涯学習【元気】	36.9%	きれいな空気【くらし】	34.5%
第６位	医療体制【くらし】	36.0%	食の安全【くらし】	34.1%
第７位	高速交通網【絆】	35.9%	人権尊重【元気】	31.4%
第８位	道路の整備【絆】	34.2%	道路の整備【絆】	29.2%
第９位	情報ネットワーク【絆】	31.2%	歴史・文化遺産【元気】	29.1%
第10位	人権尊重【元気】	30.9%	情報ネットワーク【絆】	28.2%

○満足意識下位 10 項目

順位	平成 17 年度		平成 16 年度	
	項目	満足意識	項目	満足意識
第１位	地域商工業【元気】	5.2%	過疎地域等の振興【絆】	5.4%
第２位	過疎地域等の振興【絆】	5.7%	地域商工業【元気】	6.2%
第３位	職業能力開発【元気】	7.1%	雇用【元気】	7.5%
第４位	国際化【絆】	7.4%	農林水産業の振興【元気】	7.5%
第５位	農林水産業の振興【元気】	7.5%	職業能力開発【元気】	7.8%
第６位	広域交流・連携【絆】	7.7%	国際化【絆】	7.9%
第７位	雇用【元気】	8.1%	技術開発【元気】	8.2%
第８位	技術開発【元気】	9.1%	農山漁村づくり【絆】	8.4%
第９位	農山漁村づくり【絆】	9.9%	広域交流・連携【絆】	8.6%
第10位	エネルギー【くらし】	10.7%	港の整備【絆】	10.0%

○不満意識上位 10 項目

順位	平成 17 年度		平成 16 年度	
	項目	不満意識	項目	不満意識
第１位	地域商工業【元気】	51.0%	雇用【元気】	53.6%
第２位	雇用【元気】	51.0%	地域商工業【元気】	49.1%
第３位	防犯【くらし】	41.7%	防犯【くらし】	42.8%
第４位	交通安全【くらし】	41.3%	交通安全【くらし】	42.4%
第５位	青少年の健全育成【元気】	41.2%	公共交通機関【絆】	41.4%
第６位	公共交通機関【絆】	39.0%	青少年の健全育成【元気】	39.3%
第７位	地域での防災の取組【くらし】	38.1%	川や海の水質【くらし】	38.0%
第８位	川や海の水質【くらし】	36.4%	快適なまちづくり【絆】	34.1%
第９位	学校教育【元気】	34.5%	地域での防災の取組【くらし】	32.0%
第10位	快適なまちづくり【絆】	33.9%	道路の整備【絆】	31.3%

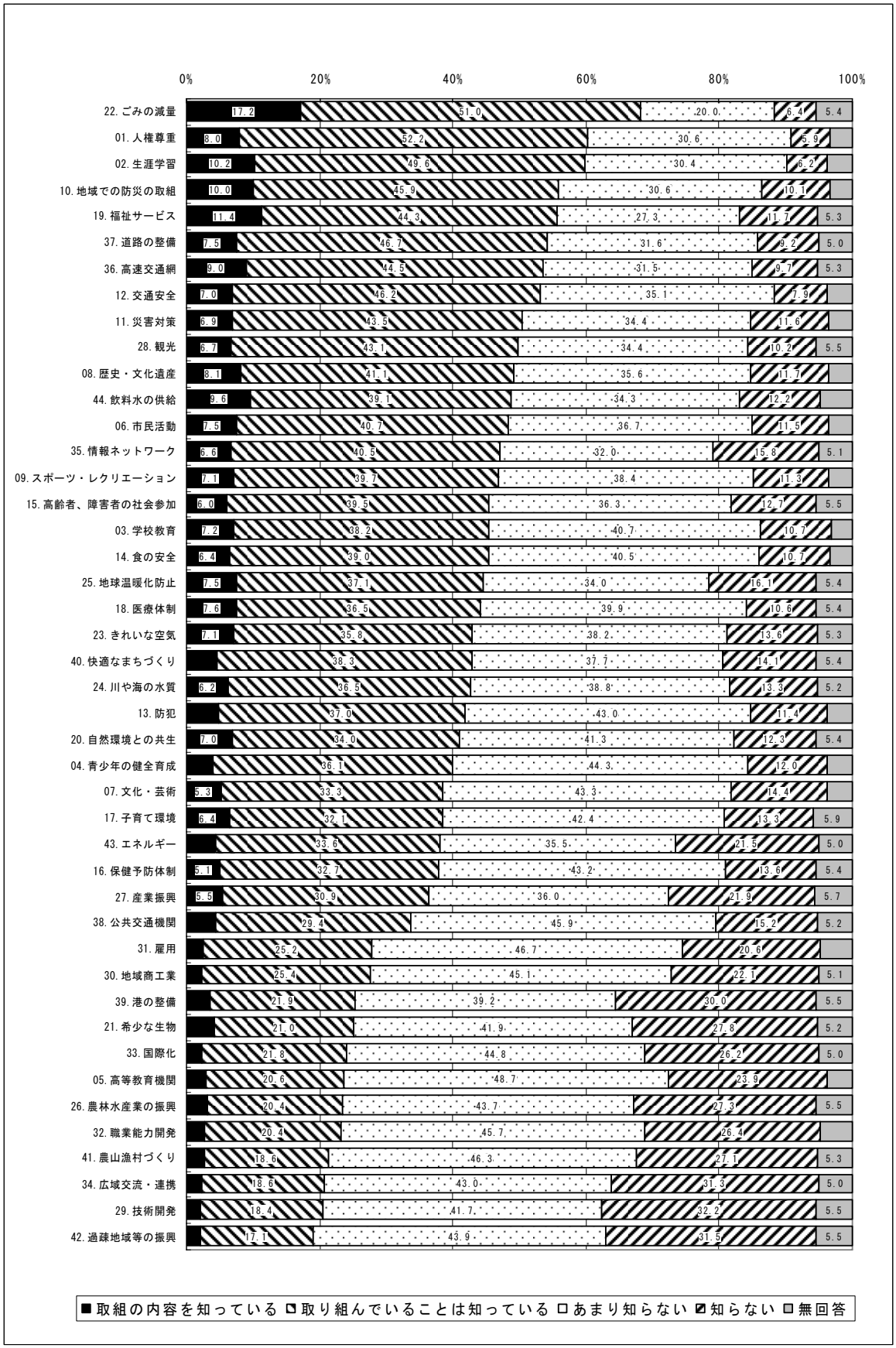
○不満意識下位 10 項目

順位	平成 17 年度		平成 16 年度	
	項目	不満意識	項目	不満意識
第１位	情報ネットワーク【絆】	10.8%	情報ネットワーク【絆】	11.0%
第２位	歴史・文化遺産【元気】	12.0%	港の整備【絆】	11.4%
第３位	希少な生物【くらし】	12.2%	歴史・文化遺産【元気】	12.3%
第４位	保健予防体制【くらし】	12.4%	広域交流・連携【絆】	12.4%
第５位	広域交流・連携【絆】	13.2%	希少な生物【くらし】	12.5%
第６位	港の整備【絆】	13.3%	保健予防体制【くらし】	13.2%
第７位	市民活動【絆】	14.6%	自然環境との共生【くらし】	15.1%
第８位	自然環境との共生【くらし】	14.7%	国際化【絆】	15.7%
第９位	飲料水の供給【くらし】	14.8%	市民活動【絆】	15.7%
第10位	技術開発【元気】	14.9%	技術開発【元気】	15.8%

（３）認知意識に関する結果の概要

（認知意識は「取組の内容を知っている」「取り組んでいることは知っている」と答えた人の率の計）

（集計資料　p.6）



＜平成 17 年度＞

・認知意識が 50%を上回った項目数は９項目となっており、認知意識が 30%を下回った項目数は 12 項目となっている。

・認知意識については、「ごみの減量」が 68.2%と最も高く、以下、「人権尊重」（60.2%）、「生涯学習」（59.8%）、「地域での防災の取組」（55.9%）、「福祉サービス」（55.7%）の順となっている。

・認知意識が最も低いのは、「過疎地域等の振興」（19.1%）で、次いで「技術開発」（20.5%）、「広域交流・連携」（20.8%）、「農山漁村づくり」（21.3%）、「職業能力開発」（23.2%）の順となっている。

＜平成 16 年度との比較＞

・上位 10 項目を比較してみると、順位に変動はあるものの、項目自体は変わっていない。また、「ごみの減量」は 16 年度に続き、17 年度でも第 1 位となっている。

・下位 10 項目を比較してみると、順位に変動はあるものの、項目自体は変わっていない。また、「港の整備」は 16 年度では第 1 位だったが、17 年度では第 10 位となっている。

○認知意識上位 10 項目

順位	平成 17 年度		平成 16 年度	
	項目	認知意識	項目	認知意識
第１位	ごみの減量【くらし】	68.2%	ごみの減量【くらし】	68.2%
第２位	人権尊重【元気】	60.2%	生涯学習【元気】	58.0%
第３位	生涯学習【元気】	59.8%	人権尊重【元気】	57.5%
第４位	地域での防災の取組【くらし】	55.9%	福祉サービス【くらし】	56.3%
第５位	福祉サービス【くらし】	55.7%	地域での防災の取組【くらし】	55.0%
第６位	道路の整備【絆】	54.2%	交通安全【くらし】	53.8%
第７位	高速交通網【絆】	53.5%	道路の整備【絆】	53.5%
第８位	交通安全【くらし】	53.2%	災害対策【くらし】	51.7%
第９位	災害対策【くらし】	50.4%	高速交通網【絆】	50.7%
第10位	観光【元気】	49.8%	観光【元気】	50.4%

○認知意識下位 10 項目

順位	平成 17 年度		平成 16 年度	
	項目	認知意識	項目	認知意識
第１位	過疎地域等の振興【絆】	19.1%	港の整備【絆】	19.3%
第２位	技術開発【元気】	20.5%	過疎地域等の振興【絆】	20.3%
第３位	広域交流・連携【絆】	20.8%	技術開発【元気】	20.9%
第４位	農山漁村づくり【絆】	21.3%	広域交流・連携【絆】	21.2%
第５位	職業能力開発【元気】	23.2%	農山漁村づくり【絆】	21.9%
第６位	農林水産業の振興【元気】	23.5%	農林水産業の振興【元気】	22.4%
第７位	高等教育機関【元気】	23.6%	職業能力開発【元気】	22.6%
第８位	国際化【絆】	24.0%	国際化【絆】	22.7%
第９位	希少な生物【くらし】	25.1%	希少な生物【くらし】	23.5%
第 10 位	港の整備【絆】	25.4%	高等教育機関【元気】	25.1%

（４）生活創造圏別の重要意識・満足意識・認知意識の概要

①圏域別重要意識上位５項目

＜平成17年度＞　　（単位：%）

生活創造圏	１位	２位	３位	４位	５位
県全体	13. 防犯 93.7	18. 医療体制 93.6	44. 飲料水の供給 93.4	23. きれいな空気 92.6	12. 交通安全 92.5
桑名・員弁	23. きれいな空気 94.4	18. 医療体制 92.5	13. 防犯 92.4	44. 飲料水の供給 91.9	24. 川や海の水質 91.5
四日市	13. 防犯 94.8	44. 飲料水の供給 94.8	10. 地域での防災の取組 94.2	18. 医療体制 94.2	12. 交通安全 24. 川や海の水質 93.7
鈴鹿・亀山	13. 防犯 95.6	12. 交通安全 94.6	18. 医療体制 93.6	44. 飲料水の供給 93.2	11. 災害対策 93.0
伊賀	18. 医療体制 94.5	23. きれいな空気 94.5	13. 防犯 94.0	44. 飲料水の供給 93.8	24. 川や海の水質 92.9
津・久居	18. 医療体制 94.4	13. 防犯 93.8	12. 交通安全 93.6	11. 災害対策 93.1	23. きれいな空気 92.9
松阪・紀勢	44. 飲料水の供給 94.9	12. 交通安全 94.6	13. 防犯 94.1	10. 地域での防災の取組 93.6	04. 青少年の健全育成 11. 災害対策 18. 医療体制 92.5
伊勢志摩	18. 医療体制 94.1	24. 川や海の水質 93.3	44. 飲料水の供給 93.0	23. きれいな空気 92.4	13. 防犯 92.1
尾鷲	13. 防犯 92.5	10. 地域での防災の取組 92.2	11. 災害対策 91.6	14. 食の安全 90.5	44. 飲料水の供給 90.5
熊野	18. 医療体制 91.2	11. 災害対策 90.3	13. 防犯 89.7	23. きれいな空気 89.6	44. 飲料水の供給 89.6

下段の数字は重要意識（「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計）

＜平成 17 年度＞

・全体の上位５項目では、「防犯」が全圏域で、「医療体制」「飲料水の供給」が８圏域で、「災害対策」「きれいな空気」が５圏域で、「交通安全」「川や海の水質」が４圏域で、「地域での防災の取組」が３圏域で、それぞれ上位５位までに入っている。

・上記以外の項目では、「青少年の健全育成」が松阪・紀勢で第５位に、「食の安全」が尾鷲で第４位に入っている。

＜平成 16 年度との比較＞

・松阪・紀勢、尾鷲以外の圏域で「医療体制」の順位が上がってきている。

・桑名・員弁で「きれいな空気」「医療体制」「川や海の水質」、四日市で「地域での防災の取組」、鈴鹿・亀山で「医療体制」「災害対策」、伊賀で「きれいな空気」、津・久居で「交通安全」「きれいな空気」、松阪・紀勢で「飲料水の供給」「地域での防災の取組」「青少年の健全育成」「災害対策」、伊勢志摩で「きれいな空気」、尾鷲で「地域での防災対策の取組」「災害対策」「食の安全」、熊野で「災害対策」が新たに上位５項目に入っている。

＜平成 16 年度＞　　（単位：%）

生活創造圏	１位	２位	３位	４位	５位
県全体	13. 防犯 93.8	18. 医療体制 92.6	44. 飲料水の供給 92.1	24. 川や海の水質 91.8	12. 交通安全 91.7
桑名・員弁	13. 防犯 94.4	44. 飲料水の供給 92.1	14. 食の安全 91.5	12. 交通安全 91.3	01. 人権尊重 90.6
四日市	13. 防犯 93.3	44. 飲料水の供給 92.9	24. 川や海の水質 92.9	12. 交通安全 92.6	18. 医療体制 92.3
鈴鹿・亀山	13. 防犯 93.0	12. 交通安全 92.8	44. 飲料水の供給 92.4	23. きれいな空気 92.4	14. 食の安全 92.1
伊賀	18. 医療体制 94.5	13. 防犯 92.7	24. 川や海の水質 92.4	44. 飲料水の供給 91.4	12. 交通安全 91.3
津・久居	13. 防犯 93.8	18. 医療体制 92.5	11. 災害対策 91.5	24. 川や海の水質 90.8	44. 飲料水の供給 90.8
松阪・紀勢	13. 防犯 94.7	18. 医療体制 93.8	24. 川や海の水質 92.5	12. 交通安全 92.5	23. きれいな空気 92.3
伊勢志摩	13. 防犯 95.6	44. 飲料水の供給 94.1	18. 医療体制 94.0	10. 地域での防災の取組 93.6	24. 川や海の水質 93.2
尾鷲	13. 防犯 90.5	18. 医療体制 90.5	04. 青少年の健全育成 89.4	44. 飲料水の供給 89.1	24. 川や海の水質 88.8
熊野	24. 川や海の水質 92.3	18. 医療体制 92.0	44. 飲料水の供給 91.0	23. きれいな空気 90.3	13. 防犯 89.6

下段の数字は重要意識（「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計）

○圏域別重要意識一覧

項　目	桑名･員弁	四日市	鈴鹿･亀山	伊賀	津･久居	松阪･紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
01. 人権尊重	86.8	91.2	89.4	89.2	86.4	87.7	86.6	85.3	87.2
02. 生涯学習	80.0	84.5	80.2	82.2	83.1	85.3	81.3	76.6	76.5
03. 学校教育	88.5	90.4	92.1	90.7	91.8	92.3	87.7	86.9	85.8
04. 青少年の健全育成	88.5	93.1	92.0	92.5	92.3	92.5	88.9	88.6	87.8
05. 高等教育機関	70.0	71.6	70.6	76.7	72.6	74.9	71.9	72.2	74.6
06. 市民活動	64.0	69.9	63.2	72.2	67.2	69.8	66.0	66.9	67.7
07. 文化・芸術	61.0	68.6	61.4	66.7	69.0	63.4	62.8	63.5	67.4
08. 歴史・文化遺産	65.5	72.2	69.0	77.1	75.1	70.8	69.3	74.9	72.8
09. スポーツ･レクリエーション	69.3	74.4	71.5	77.4	73.1	75.4	69.9	76.6	74.6
10. 地域での防災の取組	89.3	94.2	90.1	90.7	91.3	93.6	89.5	92.2	89.4
11. 災害対策	91.3	92.2	93.0	91.4	93.1	92.5	89.4	91.6	90.3
12. 交通安全	89.6	93.7	94.6	92.2	93.6	94.6	89.8	90.0	88.4
13. 防犯	92.4	94.8	95.6	94.0	93.8	94.1	92.1	92.5	89.7
14. 食の安全	90.2	92.3	92.0	91.2	91.5	92.2	88.0	90.5	85.2
15. 高齢者、障害者の社会参加	78.1	80.4	82.1	82.7	80.3	78.4	78.3	76.9	81.5
16. 保健予防体制	88.2	89.2	88.5	87.2	87.5	88.2	87.7	84.2	87.5
17. 子育て環境	86.5	87.3	87.5	88.7	88.2	87.7	86.0	85.5	84.7
18. 医療体制	92.5	94.2	93.6	94.5	94.4	92.5	94.1	89.5	91.2
19. 福祉サービス	87.4	87.0	87.2	91.3	88.5	87.1	86.5	81.6	88.4
20. 自然環境との共生	82.6	83.2	78.0	85.5	85.4	81.8	84.5	79.7	82.4
21. 希少な生物	65.1	69.4	68.4	67.2	69.8	67.1	71.9	65.4	64.9
22. ごみの減量	87.3	88.5	89.7	89.4	90.0	85.0	88.0	82.4	85.9
23. きれいな空気	94.4	92.5	92.1	94.5	92.9	90.9	92.4	89.4	89.6
24. 川や海の水質	91.5	93.7	91.7	92.9	92.3	92.0	93.3	89.9	89.3
25. 地球温暖化防止	89.0	90.6	90.4	90.8	90.2	88.8	89.2	86.9	86.5
26. 農林水産業の振興	70.3	76.0	73.8	78.0	75.9	77.3	76.1	79.7	77.7
27. 産業振興	66.3	75.2	68.7	74.7	75.7	69.5	73.4	73.9	76.2
28. 観光	65.7	73.0	68.1	75.1	72.8	72.4	81.6	72.7	77.5
29. 技術開発	62.0	71.6	65.8	68.4	73.9	68.1	70.2	69.1	65.8
30. 地域商工業	74.2	83.5	80.5	77.7	80.7	76.2	80.7	80.8	79.7
31. 雇用	89.0	90.1	90.4	89.0	89.7	88.5	88.6	87.2	85.8
32. 職業能力開発	70.5	77.7	75.4	75.2	78.5	80.5	75.1	76.1	75.2
33. 国際化	59.2	68.3	60.4	66.5	67.0	64.5	69.9	60.8	63.3
34. 広域交流・連携	67.7	71.9	67.7	73.4	72.3	72.2	71.3	70.8	72.7
35. 情報ネットワーク	62.1	70.2	64.6	72.6	71.7	67.6	68.4	66.0	68.6
36. 高速交通網	68.8	71.3	70.0	72.4	75.4	70.8	74.9	77.1	81.8
37. 道路の整備	76.9	79.1	81.1	82.9	80.8	82.6	80.4	82.5	85.3
38. 公共交通機関	80.3	84.3	82.7	79.7	84.1	83.4	81.3	81.1	81.8
39. 港の整備	44.6	56.7	51.7	53.4	58.8	53.2	58.5	61.8	52.6
40. 快適なまちづくり	80.3	86.5	84.9	84.4	83.6	84.7	83.1	80.5	81.2
41. 農山漁村づくり	59.5	64.5	69.0	69.4	69.7	69.3	71.1	74.9	71.4
42. 過疎地域等の振興	55.4	57.3	57.9	59.6	65.4	64.1	63.7	71.8	69.9
43. エネルギー	78.9	82.6	80.9	81.7	85.4	85.3	81.3	78.8	79.6
44. 飲料水の供給	91.9	94.8	93.2	93.8	92.6	94.9	93.0	90.5	89.6

※網掛け部分は、各圏域別の上位５項目を示す

②圏域別満足意識上位５項目

＜平成17年度＞　（単位：%）

生活創造圏	１位	２位	３位	４位	５位
県全体	44. 飲料水の供給 55. 0	20. 自然環境との共生 44. 8	14. 食の安全 38. 9	23. きれいな空気 37. 3	02. 生涯学習 36. 9
桑名・員弁	44. 飲料水の供給 55. 9	36. 高速交通網 48. 0	02. 生涯学習 46. 9	37. 道路の整備 44. 7	20. 自然環境との共生 42. 7
四日市	44. 飲料水の供給 58. 6	20. 自然環境との共生 42. 7	18. 医療体制 39. 4	36. 高速交通網 38. 8	14. 食の安全 35. 3
鈴鹿・亀山	44. 飲料水の供給 46. 7	20. 自然環境との共生 39. 3	14. 食の安全 36. 7	02. 生涯学習 34. 2	36. 高速交通網 32. 3
伊賀	20. 自然環境との共生 50. 9	44. 飲料水の供給 50. 1	23. きれいな空気 48. 1	14. 食の安全 39. 1	35. 情報ネットワーク 36. 6
津・久居	44. 飲料水の供給 57. 1	36. 高速交通網 45. 6	02. 生涯学習 44. 8	14. 食の安全 44. 6	20. 自然環境との共生 43. 1
松阪・紀勢	44. 飲料水の供給 53. 2	18. 医療体制 43. 9	20. 自然環境との共生 42. 8	02. 生涯学習 38. 2	23. きれいな空気 37. 7
伊勢志摩	44. 飲料水の供給 57. 9	20. 自然環境との共生 48. 6	23. きれいな空気 43. 6	14. 食の安全 40. 7	02. 生涯学習 36. 8
尾鷲	44. 飲料水の供給 56. 0	20. 自然環境との共生 51. 0	23. きれいな空気 42. 4	14. 食の安全 39. 9	08. 歴史・文化遺産 30. 9
熊野	23. きれいな空気 63. 3	20. 自然環境との共生 60. 8	44. 飲料水の供給 56. 4	24. 川や海の水質 41. 3	08. 歴史・文化遺産 38. 6

下段の数字は満足意識（「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計）

＜平成 17 年度＞

・「飲料水の供給」が伊賀、熊野以外の圏域で第１位となっている。

・全体の上位５項目では、「飲料水の供給」「自然環境との共生」が全圏域で、「食の安全」が６圏域で、「生涯学習」「きれいな空気」が５圏域で、「高速交通網」が４圏域で、「歴史・文化遺産」「医療体制」が２圏域で、それぞれ上位５位までに入っている。

・上記以外の項目では、「道路の整備」が桑名・員弁で第４位に、「情報ネットワーク」が伊賀で第５位に、「川や海の水質」が熊野で第４位に、それぞれ入っている。

＜平成 16 年度との比較＞

・桑名・員弁、四日市、鈴鹿・亀山、津・久居で「高速交通網」の順位があがってきている。

・「人権尊重」の満足意識は 16 年度では３圏域で上位５位に入っているが、17 年度ではすべての圏域で上位５位から外れている。

・桑名・員弁で「高速交通網」「自然環境との共生」、四日市で「食の安全」、鈴鹿・亀山で「情報ネットワーク」、津・久居で「高速交通網」、松阪・紀勢で「生涯学習」、伊勢志摩で「食の安全」、尾鷲で「歴史・文化遺産」、熊野で「川や海の水質」「歴史・文化遺産」が新たに上位５項目に入っている。

＜平成16年度＞ （単位：%）

生活創造圏	１位	２位	３位	４位	５位
県全体	44.飲料水の供給 51.1	20.自然環境との共生 40.5	18.医療体制 35.1	02.生涯学習 34.7	23.きれいな空気 34.5
桑名・員弁	44.飲料水の供給 51.5	20.自然環境との共生 39.3	02.生涯学習 36.5	14.食の安全 35.3	37.道路の整備 35.1
四日市	44.飲料水の供給 55.2	18.医療体制 39.7	20.自然環境との共生 39.4	01.人権尊重 33.8	36.高速交通網 33.7
鈴鹿・亀山	44.飲料水の供給 47.6	20.自然環境との共生 37.2	02.生涯学習 34.3	14.食の安全 33.0	23.きれいな空気 32.3
伊賀	20.自然環境との共生 47.9	44.飲料水の供給 46.6	23.きれいな空気 42.2	14.食の安全 30.8	01.人権尊重 30.2
津・久居	44.飲料水の供給 46.6	02.生涯学習 46.3	18.医療体制 37.2	14.食の安全 36.2	20.自然環境との共生 35.3
松阪・紀勢	44.飲料水の供給 53.8	18.医療体制 43.3	20.自然環境との共生 41.1	23.きれいな空気 39.2	14.食の安全 38.1
伊勢志摩	44.飲料水の供給 54.0	20.自然環境との共生 44.2	23.きれいな空気 38.8	02.生涯学習 34.4	18.医療体制 34.1
尾鷲	44.飲料水の供給 55.5	20.自然環境との共生 44.9	23.きれいな空気 44.3	14.食の安全 36.4	01.人権尊重 33.4
熊野	44.飲料水の供給 53.8	20.自然環境との共生 50.6	23.きれいな空気 49.8	14.食の安全 35.2	19.福祉サービス 32.5

下段の数字は満足意識（「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計）

○圏域別満足意識一覧

項　目	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
01. 人権尊重	32.3	29.5	26.2	32.4	33.9	30.7	31.3	27.6	29.8
02. 生涯学習	46.9	31.2	34.2	30.1	44.8	38.2	36.8	27.9	22.8
03. 学校教育	20.8	14.6	15.3	16.0	15.7	15.3	14.9	15.9	15.3
04. 青少年の健全育成	14.0	9.9	10.6	14.5	11.3	13.1	14.1	16.7	13.8
05. 高等教育機関	11.8	9.9	11.5	11.8	10.0	12.8	12.3	11.2	13.8
06. 市民活動	16.2	19.0	18.6	20.8	18.9	16.3	22.8	20.3	25.7
07. 文化・芸術	15.2	19.3	15.6	18.3	24.6	19.0	16.9	14.8	14.5
08. 歴史・文化遺産	27.8	22.6	19.8	33.6	32.6	31.8	29.8	30.9	38.6
09. スポーツ･レクリエーション	29.8	27.3	29.4	25.3	28.5	27.8	28.1	16.4	29.2
10. 地域での防災の取組	17.1	17.6	10.6	10.3	14.1	13.3	19.0	22.3	17.9
11. 災害対策	25.3	17.6	11.2	15.3	16.7	17.4	14.9	16.2	17.5
12. 交通安全	24.7	19.8	20.4	21.0	22.8	19.3	22.2	21.7	28.2
13. 防犯	17.2	16.8	15.4	20.6	20.8	16.8	20.5	27.3	29.4
14. 食の安全	38.7	35.3	36.7	39.1	44.6	36.4	40.7	39.9	38.3
15. 高齢者、障害者の社会参加	23.6	15.4	16.6	24.4	20.5	18.4	21.9	21.2	30.1
16. 保健予防体制	33.4	27.8	25.2	26.4	28.9	30.0	28.9	27.6	32.9
17. 子育て環境	21.9	19.3	19.8	20.8	21.0	20.0	17.8	10.5	21.3
18. 医療体制	37.9	39.4	27.5	33.3	38.7	43.9	35.3	13.6	18.5
19. 福祉サービス	27.6	20.4	19.8	26.4	26.1	23.8	28.1	30.3	34.1
20. 自然環境との共生	42.7	42.7	39.3	50.9	43.1	42.8	48.6	51.0	60.8
21. 希少な生物	15.2	14.9	12.2	17.0	14.4	12.3	16.4	15.8	16.0
22. ごみの減量	30.7	19.6	23.3	29.1	25.6	21.7	28.7	24.8	30.4
23. きれいな空気	36.2	25.9	26.9	48.1	41.0	37.7	43.6	42.4	63.3
24. 川や海の水質	23.8	20.4	18.5	22.3	21.6	20.0	25.2	26.8	41.3
25. 地球温暖化防止	15.7	6.9	11.9	15.8	13.1	12.6	14.1	13.9	25.1
26. 農林水産業の振興	5.6	6.9	6.7	8.6	9.7	9.1	6.2	6.7	7.9
27. 産業振興	17.7	15.7	16.3	15.3	18.0	14.9	7.6	6.9	10.3
28. 観光	25.3	20.9	23.0	25.3	20.3	18.5	17.8	15.3	22.9
29. 技術開発	9.5	10.2	8.6	9.8	10.0	7.2	8.2	6.4	8.5
30. 地域商工業	7.6	4.7	6.1	5.3	4.7	6.1	3.5	4.1	4.4
31. 雇用	9.3	9.6	8.9	8.6	8.2	8.8	5.3	3.3	4.0
32. 職業能力開発	7.3	6.9	5.8	8.3	9.5	7.5	5.3	4.8	5.6
33. 国際化	5.6	6.6	7.3	8.8	10.5	7.2	5.3	6.9	8.5
34. 広域交流・連携	7.3	6.6	6.1	9.8	9.2	9.1	5.0	10.6	13.2
35. 情報ネットワーク	29.2	29.7	30.4	36.6	36.9	29.9	27.7	19.2	31.0
36. 高速交通網	48.0	38.8	32.3	29.1	45.6	33.4	30.2	10.6	6.0
37. 道路の整備	44.7	33.3	30.0	32.1	40.0	32.0	33.7	13.1	12.2
38. 公共交通機関	35.1	32.0	21.0	20.5	26.9	23.0	19.9	10.3	9.4
39. 港の整備	11.8	13.0	10.6	9.8	23.6	14.2	14.3	8.7	6.9
40. 快適なまちづくり	22.4	16.9	12.5	16.0	21.5	17.4	17.5	12.8	13.2
41. 農山漁村づくり	10.7	9.1	11.1	9.1	11.5	9.9	8.8	6.4	8.2
42. 過疎地域等の振興	5.4	3.6	4.2	5.8	8.2	7.2	5.9	4.2	6.0
43. エネルギー	12.9	8.0	8.6	11.0	14.4	14.1	7.9	6.2	5.0
44. 飲料水の供給	55.9	58.6	46.7	50.1	57.1	53.2	57.9	56.0	56.4

※網掛け部分は、各圏域別の上位５項目を示す

③圏域別不満意識上位５項目

＜平成17年度＞　（単位：%）

生活創造圏	１位	２位	３位	４位	５位
県全体	30. 地域商工業 51.0	31. 雇用 51.0	13. 防犯 41.7	12. 交通安全 41.3	04. 青少年の健全育成 41.2
桑名・員弁	31. 雇用 42.9	13. 防犯 41.0	30. 地域商工業 40.8	04. 青少年の健全育成 37.3	12. 交通安全 33.4
四日市	30. 地域商工業 56.5	31. 雇用 48.8	13. 防犯 46.0	04. 青少年の健全育成 45.5	12. 交通安全 45.2
鈴鹿・亀山	31. 雇用 51.2	13. 防犯 50.5	12. 交通安全 47.9	04. 青少年の健全育成 45.7	30. 地域商工業 45.4
伊賀	31. 雇用 50.9	30. 地域商工業 44.4	10. 地域での防災の取組 43.6	38. 公共交通機関 43.1	04. 青少年の健全育成 40.1
津・久居	30. 地域商工業 56.4	31. 雇用 49.3	04. 青少年の健全育成 39.7	12. 交通安全 39.5	13. 防犯 39.3
松阪・紀勢	12. 交通安全 52.4	31. 雇用 47.8	30. 地域商工業 47.3	13. 防犯 44.4	04. 青少年の健全育成 42.7
伊勢志摩	31. 雇用 59.4	30. 地域商工業 54.1	38. 公共交通機関 39.5	10. 地域での防災の取組 38.9	13. 防犯 38.6
尾鷲	31. 雇用 70.2	18. 医療体制 64.6	30. 地域商工業 64.6	36. 高速交通網 57.7	38. 公共交通機関 55.7
熊野	36. 高速交通網 72.7	31. 雇用 69.0	18. 医療体制 63.4	37. 道路の整備 63.0	30. 地域商工業 60.2

下段の数字は不満意識（「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計）

＜平成 17 年度＞

・「雇用」が全圏域で上位２位までに入っており、５圏域で第１位となっている。
・全体の上位５項目では、「地域商工業」「雇用」が全圏域で、「青少年の健全育成」「防犯」が６圏域で、「交通安全」が５圏域で、「公共交通機関」が３圏域で、「地域での防災の取組」「医療体制」「高速交通網」が２圏域で、それぞれ第５位までに入っている。
・上記以外の項目では、「道路の整備」が熊野で第４位に入っている。
・圏域別でみると、尾鷲、熊野では「高速交通網」がそれぞれ第４位、第１位と不満項目の上位としてあげられており、不満意識が他圏域に比べ高くなっている。
・尾鷲、熊野では、不満意識が 50%を超えているものがそれぞれ６項目あり、他の圏域に比べ不満意識は高くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

・四日市、鈴鹿・亀山、伊賀、津・久居、松阪・紀勢で「青少年の健全育成」が新たに上位５項目に入っている。
・伊賀、伊勢志摩で新たに「地域での防災の取組」が上位５項目に入っている。
・尾鷲、熊野で「医療体制」の不満意識は上昇している。

＜平成16年度＞ （単位：%）

生活創造圏	１位	２位	３位	４位	５位
県全体	31.雇用 53.6	30.地域商工業 49.1	13.防犯 42.8	12.交通安全 42.4	38.公共交通機関 41.4
桑名・員弁	13.防犯 47.1	31.雇用 43.1	04.青少年の健全育成 37.7	12.交通安全 37.7	38.公共交通機関 35.6
四日市	30.地域商工業 51.1	31.雇用 49.6	13.防犯 47.5	12.交通安全 44.2	25.川や海の水質 42.9
鈴鹿・亀山	13.防犯 48.7	31.雇用 47.5	38.公共交通機関 45.5	30.地域商工業 45.3	12.交通安全 43.3
伊賀	31.雇用 57.2	30.地域商工業 47.6	38.公共交通機関 45.4	12.交通安全 44.4	18.医療体制 42.6
津・久居	31.雇用 53.9	30.地域商工業 51.8	12.交通安全 41.8	13.防犯 39.9	38.公共交通機関 38.3
松阪・紀勢	31.雇用 55.4	30.地域商工業 48.1	12.交通安全 45.8	38.公共交通機関 44.3	13.防犯 41.8
伊勢志摩	31.雇用 64.3	30.地域商工業 57.6	38.公共交通機関 44.7	04.青少年の健全育成 43.2	12.交通安全 42.2
尾鷲	31.雇用 65.3	30.地域商工業 61.9	36.高速交通網 59.1	38.公共交通機関 55.2	18.医療体制 53.2
熊野	36.高速交通網 70.0	31.雇用 66.5	37.道路の整備 63.1	30.地域商工業 56.1	38.公共交通機関 55.3

下段の数字は満足意識（「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計）

○圏域別不満意識一覧

項　目	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
01. 人権尊重	13.8	17.9	19.5	16.5	17.2	16.6	17.6	21.2	16.0
02. 生涯学習	15.7	22.9	21.4	24.8	14.4	18.9	18.4	25.7	28.5
03. 学校教育	31.5	37.2	34.8	34.9	33.9	35.8	33.0	32.6	33.9
04. 青少年の健全育成	37.3	45.5	45.7	40.1	39.7	42.7	38.4	36.2	33.6
05. 高等教育機関	14.6	17.9	16.3	21.6	21.0	17.1	17.5	25.9	17.9
06. 市民活動	12.4	15.7	16.6	15.5	14.1	15.2	12.9	15.0	13.8
07. 文化・芸術	25.5	30.1	22.1	28.8	25.3	24.6	24.5	34.2	34.4
08. 歴史・文化遺産	8.5	14.1	15.6	13.0	12.3	10.7	9.1	15.8	9.7
09. スポーツ・レクリエーション	25.2	29.4	22.7	30.3	30.0	28.3	24.9	37.1	26.3
10. 地域での防災の取組	32.3	36.3	38.3	43.6	38.0	40.9	38.9	37.9	36.3
11. 災害対策	21.3	25.9	29.1	27.8	29.7	30.5	34.5	39.2	38.9
12. 交通安全	33.4	45.2	47.9	39.6	39.5	52.4	34.2	32.8	33.2
13. 防犯	41.0	46.0	50.5	37.4	39.3	44.4	38.6	27.0	24.8
14. 食の安全	19.4	24.2	20.8	16.3	15.1	17.1	17.0	16.4	15.9
15. 高齢者、障害者の社会参加	15.5	20.3	20.5	16.1	16.7	14.5	18.4	14.2	15.0
16. 保健予防体制	11.5	11.0	14.4	13.6	13.6	10.7	12.2	12.0	12.9
17. 子育て環境	23.0	29.2	32.9	30.0	31.3	28.7	29.9	48.2	29.5
18. 医療体制	27.3	26.8	32.9	39.6	28.5	26.7	31.9	64.6	63.4
19. 福祉サービス	17.4	24.8	24.6	21.8	22.3	17.1	19.9	17.9	19.1
20. 自然環境との共生	14.6	17.1	15.0	14.1	17.7	13.6	11.1	9.7	8.4
21. 希少な生物	10.7	11.5	12.8	13.1	11.8	15.2	12.0	10.3	9.1
22. ごみの減量	20.0	32.2	30.7	24.1	30.7	27.8	24.3	21.1	20.1
23. きれいな空気	23.0	37.7	30.0	15.3	19.5	20.1	16.4	18.1	11.0
24. 川や海の水質	32.8	41.3	38.7	33.6	35.1	37.7	35.4	33.1	25.8
25. 地球温暖化防止	25.8	35.5	35.4	28.0	27.7	29.7	26.9	28.7	21.3
26. 農林水産業の振興	23.0	23.1	18.2	27.0	26.2	27.0	26.6	39.3	34.8
27. 産業振興	15.4	17.3	15.6	20.8	20.8	19.0	29.9	38.4	38.9
28. 観光	13.3	21.8	15.1	17.8	20.2	20.9	32.4	22.3	26.6
29. 技術開発	11.0	13.2	13.1	13.3	14.8	16.3	19.9	19.8	21.9
30. 地域商工業	40.8	56.5	45.4	44.4	56.4	47.3	54.1	64.6	60.2
31. 雇用	42.9	48.8	51.2	50.9	49.3	47.8	59.4	70.2	69.0
32. 職業能力開発	25.5	25.4	23.4	29.0	23.1	27.0	29.8	35.7	39.5
33. 国際化	17.1	14.6	17.6	14.8	16.4	16.3	15.0	17.6	17.9
34. 広域交流・連携	11.2	12.9	12.8	13.8	14.9	10.7	14.0	16.7	15.7
35. 情報ネットワーク	11.2	8.3	10.5	10.5	10.5	14.1	11.4	14.8	11.6
36. 高速交通網	15.5	21.5	26.5	28.3	21.6	26.7	27.2	57.7	72.7
37. 道路の整備	22.4	32.8	33.5	34.3	23.1	30.5	26.4	55.2	63.0
38. 公共交通機関	28.9	34.1	44.1	43.1	38.5	41.7	39.5	55.7	57.1
39. 港の整備	9.9	12.7	15.7	7.6	14.1	13.4	15.5	26.7	17.0
40. 快適なまちづくり	26.4	36.9	37.4	36.4	31.3	34.0	33.0	40.4	35.7
41. 農山漁村づくり	17.7	15.7	19.8	24.8	23.6	26.4	26.9	40.7	34.5
42. 過疎地域等の振興	15.2	14.8	21.4	18.5	23.9	21.1	24.8	42.3	39.5
43. エネルギー	24.2	25.1	28.8	25.6	27.0	28.6	29.8	34.8	30.4
44. 飲料水の供給	12.1	13.8	18.6	15.8	16.2	16.0	12.8	12.3	12.6

※網掛け部分は、各圏域別の上位５項目を示す

④圏域別認知意識上位５項目

＜平成17年度＞　（単位：%）

生活創造圏	１位	２位	３位	４位	５位
県全体	22. ごみの減量 68.2	01. 人権尊重 60.2	02. 生涯学習 59.8	10. 地域での防災の取組 55.9	19. 福祉サービス 55.7
桑名・員弁	22. ごみの減量 68.2	02. 生涯学習 62.1	01. 人権尊重 61.8	11. 災害対策 54.2	19. 福祉サービス 53.9
四日市	22. ごみの減量 63.1	01. 人権尊重 59.0	10. 地域での防災の取組 57.0	02. 生涯学習 54.3	37. 道路の整備 53.7
鈴鹿・亀山	22. ごみの減量 65.1	02. 生涯学習 54.9	01. 人権尊重 54.0	36. 高速交通網 54.0	12. 交通安全 50.8
伊賀	22. ごみの減量 72.9	01. 人権尊重 66.7	19. 福祉サービス 61.6	02. 生涯学習 58.4	08. 歴史・文化遺産 56.2
津・久居	02. 生涯学習 70.3	22. ごみの減量 70.2	01. 人権尊重 65.2	36. 高速交通網 63.1	37. 道路の整備 62.8
松阪・紀勢	22. ごみの減量 69.3	02. 生涯学習 61.3	01. 人権尊重 61.2	12. 交通安全 59.4	37. 道路の整備 59.4
伊勢志摩	22. ごみの減量 71.1	10. 地域での防災の取組 64.6	19. 福祉サービス 61.1	02. 生涯学習 58.5	01. 人権尊重 57.3
尾鷲	10. 地域での防災の取組 72.4	22. ごみの減量 67.1	11. 災害対策 66.3	08. 歴史・文化遺産 63.0	19. 福祉サービス 60.5
熊野	22. ごみの減量 67.1	19. 福祉サービス 66.5	10. 地域での防災の取組 61.4	08. 歴史・文化遺産 60.8	12. 交通安全 58.6

下段の数字は認知意識（「取組の内容を知っている」「取り組んでいることは知っている」と答えた人の率の計）

＜平成 17 年度＞

・「ごみの減量化」が全圏域で上位２位までに入っており、７圏域で第１位となっている。

・全体の上位５項目では、「ごみの減量化」が全圏域で、「人権尊重」「生涯学習」が７圏域で、「福祉サービス」が５圏域で、「地域での防災の取組」が４圏域で、「歴史・文化遺産」「交通安全」「道路の整備」が３圏域で、「災害対策」「高速交通網」は２圏域で、それぞれ上位５位までに入っている。

＜平成 16 年度との比較＞

・16年度にあった「公共交通機関」「スポーツ・レクリエーション」「技術開発」は17年度ではすべての圏域で上位５位から落ちている。

・桑名・員弁で「福祉サービス」、四日市で「人権尊重」「地域での防災の取組」「生涯学習」、鈴鹿・亀山で「生涯学習」「人権尊重」「高速交通網」、伊賀で「生涯学習」「歴史・文化遺産」、津・久居で「高速交通網」「道路の整備」、松阪・紀勢で「交通安全」「道路の整備」、伊勢志摩で「人権尊重」、尾鷲で「歴史・文化遺産」、熊野で「交通安全」が新たに上位５項目に入っている。

＜平成16年度＞ （単位：%）

生活創造圏	１位	２位	３位	４位	５位
県全体	22. ごみの減量 68.2	02. 生涯学習 58.0	01. 人権尊重 57.5	19. 福祉サービス 56.3	10. 地域での防災の取組 55.0
桑名・員弁	22. ごみの減量 72.2	01. 人権尊重 61.6	02. 生涯学習 59.2	10. 地域での防災の取組 57.8	11. 災害対策 56.4
四日市	22. ごみの減量 66.5	38. 公共交通機関 60.3	37. 道路の整備 60.1	19. 福祉サービス 57.6	10. 地域での防災の取組 57.3
鈴鹿・亀山	22. ごみの減量 64.1	02. 生涯学習 57.1	12. 交通安全 52.5	29. 技術開発 52.5	38. 公共交通機関 09. ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ 51.6
伊賀	22. ごみの減量 67.4	01. 人権尊重 61.5	19. 福祉サービス 59.0	12. 交通安全 54.1	29. 技術開発 52.7
津・久居	22. ごみの減量 68.7	02. 生涯学習 67.6	01. 人権尊重 60.6	19. 福祉サービス 57.1	12. 交通安全 57.1
松阪・紀勢	22. ごみの減量 69.7	01. 人権尊重 60.0	02. 生涯学習 57.4	08. 歴史・文化遺産 56.8	19. 福祉サービス 56.5
伊勢志摩	22. ごみの減量 70.0	10. 地域での防災の取組 62.8	02. 生涯学習 61.5	19. 福祉サービス 56.6	11. 災害対策 56.6
尾鷲	10. 地域での防災の取組 72.5	19. 福祉サービス 67.5	11. 災害対策 66.9	22. ごみの減量 66.3	37. 道路の整備 60.8
熊野	22. ごみの減量 71.0	19. 福祉サービス 67.8	10. 地域での防災の取組 64.0	11. 災害対策 60.3	08. 歴史・文化遺産 09. ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ 57.8

下段の数字は認知意識（「取組の内容を知っている」「取り組んでいることは知っている」と答えた人の率の計）

○圏域別認知意識一覧

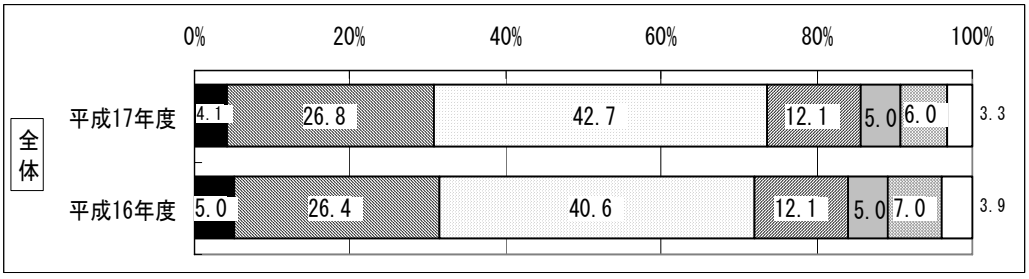
項　目	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
01. 人権尊重	61.8	59.0	54.0	66.7	65.2	61.2	57.3	49.6	49.2
02. 生涯学習	62.1	54.3	54.9	58.4	70.3	61.3	58.5	58.2	48.3
03. 学校教育	42.2	45.4	44.0	48.6	46.6	46.2	45.3	42.9	41.1
04. 青少年の健全育成	36.2	37.2	38.4	44.6	42.6	41.7	40.4	39.3	42.0
05. 高等教育機関	21.4	24.0	21.7	26.1	24.7	23.2	24.2	21.2	23.8
06. 市民活動	44.4	43.5	46.9	54.7	51.5	48.1	49.1	47.9	54.9
07. 文化・芸術	34.0	39.7	37.1	37.8	44.1	38.0	36.9	35.6	37.0
08. 歴史・文化遺産	40.1	42.4	43.1	56.2	53.3	55.1	50.6	63.0	60.8
09. スポーツ・レクリエーション	43.2	44.3	48.9	51.9	48.4	44.1	48.5	35.3	55.1
10. 地域での防災の取組	53.6	57.0	48.6	50.7	53.0	56.4	64.6	72.4	61.4
11. 災害対策	54.2	49.6	42.1	47.7	49.7	51.9	52.6	66.3	58.3
12. 交通安全	47.2	47.9	50.8	52.6	59.7	59.4	52.9	55.7	58.6
13. 防犯	45.3	40.2	37.4	45.1	41.0	43.0	42.1	39.5	42.6
14. 食の安全	41.3	41.0	44.1	45.6	51.0	48.9	46.2	46.3	43.6
15. 高齢者、障害者の社会参加	48.3	42.4	39.6	52.6	45.4	42.7	47.9	49.1	46.7
16. 保健予防体制	39.6	36.6	35.5	37.6	42.1	36.9	34.8	42.3	40.1
17. 子育て環境	38.2	37.8	40.8	40.3	42.3	35.8	34.8	35.1	37.3
18. 医療体制	42.7	45.7	39.6	48.6	42.0	46.5	44.2	35.6	48.3
19. 福祉サービス	53.9	52.6	50.1	61.6	55.4	53.2	61.1	60.5	66.5
20. 自然環境との共生	40.5	41.3	36.7	44.1	39.3	39.6	43.0	44.3	50.8
21. 希少な生物	22.8	25.6	21.4	28.4	23.0	25.4	27.8	27.3	28.5
22. ごみの減量	68.2	63.1	65.1	72.9	70.2	69.3	71.1	67.1	67.1
23. きれいな空気	41.8	46.6	38.7	43.3	39.5	43.1	44.7	43.4	46.4
24. 川や海の水質	39.3	40.2	38.6	45.1	43.0	38.5	51.8	46.0	47.3
25. 地球温暖化防止	44.7	40.8	47.3	46.8	45.1	43.1	46.2	45.4	44.5
26. 農林水産業の振興	20.2	20.2	18.9	24.6	27.7	22.5	27.5	26.4	29.1
27. 産業振興	34.3	36.9	37.4	36.9	42.3	36.4	31.8	29.8	27.0
28. 観光	45.5	46.0	46.4	54.4	52.0	50.8	53.0	55.1	53.7
29. 技術開発	17.7	22.9	20.1	20.8	22.8	18.2	20.2	18.6	14.8
30. 地域商工業	27.2	28.3	25.5	27.6	30.8	25.4	27.4	23.1	29.4
31. 雇用	24.4	28.1	28.5	30.4	30.5	29.7	24.6	21.4	23.2
32. 職業能力開発	20.5	25.6	25.3	21.6	25.9	21.6	21.7	15.6	16.3
33. 国際化	20.5	23.2	26.5	25.6	29.2	18.4	24.5	20.9	19.2
34. 広域交流・連携	19.4	18.8	18.2	25.6	23.6	20.0	18.1	25.1	29.5
35. 情報ネットワーク	41.3	47.9	44.4	48.9	52.1	44.7	49.1	39.3	47.0
36. 高速交通網	51.7	51.8	54.0	45.3	63.1	54.8	50.3	56.8	52.7
37. 道路の整備	51.1	53.7	50.2	48.9	62.8	59.4	50.0	54.3	55.4
38. 公共交通機関	40.2	32.7	32.3	34.6	34.6	36.1	28.1	26.4	33.5
39. 港の整備	18.3	24.2	22.0	13.6	45.1	24.1	24.8	19.5	14.4
40. 快適なまちづくり	39.0	43.5	42.8	41.9	48.0	46.2	38.3	39.9	37.9
41. 農山漁村づくり	20.7	17.3	18.2	20.6	25.6	21.1	24.0	24.5	24.8
42. 過疎地域等の振興	17.9	14.3	14.7	18.3	21.0	24.6	21.9	23.1	27.9
43. エネルギー	37.6	35.6	33.8	39.3	46.4	44.4	32.2	30.9	24.4
44. 飲料水の供給	48.6	48.8	42.8	52.7	50.0	51.0	47.3	50.1	42.6

※網掛け部分は、各圏域別の上位５項目を示す

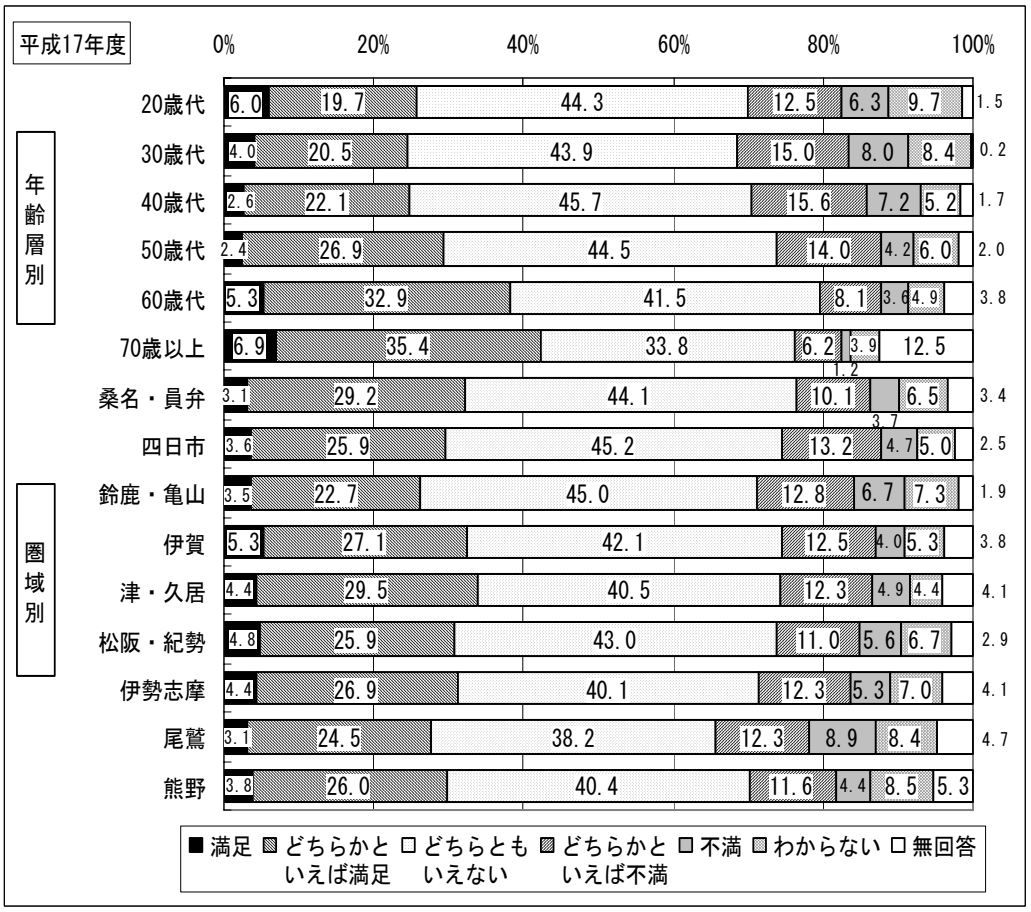
（５）個別項目ごとの満足意識（年齢層別、生活創造圏別）

１）人権尊重

性別、出身地、障害の有無などによる差別がなく、一人ひとりの人権が尊重され、個性や能力が十分発揮できること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	30.9	17.1
平成16年度	31.4	17.1



	満足意識	不満意識
20歳代	25.7	18.8
30歳代	24.5	23.0
40歳代	24.7	22.8
50歳代	29.3	18.2
60歳代	38.2	11.7
70歳以上	42.3	7.4
桑名・員弁	32.3	13.8
四日市	29.5	17.9
鈴鹿・亀山	26.2	19.5
伊賀	32.4	16.5
津・久居	33.9	17.2
松阪・紀勢	30.7	16.6
伊勢志摩	31.3	17.6
尾鷲	27.6	21.2
熊野	29.8	16.0

＜平成 17 年度＞

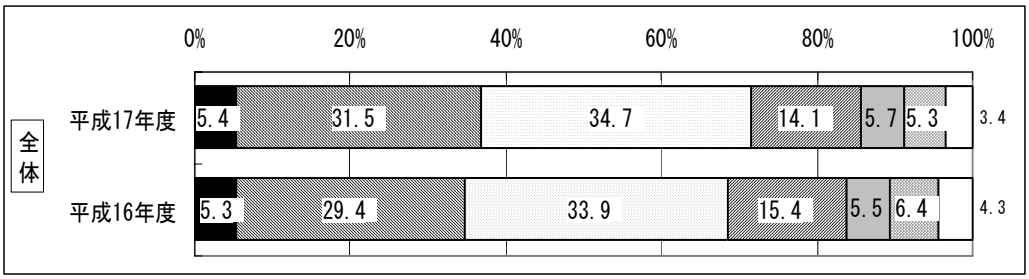
- すべての年齢層及び圏域で満足意識が不満意識を上回っている。
- 年齢層別の不満意識は、30 歳代が（23.0%）と最も高く、70 歳以上が（7.4%）と最も低くなっている。また、年齢が上がるに従って満足意識が高くなる傾向がみられる。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（21.2%）が最も高く、桑名・員弁（13.8%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

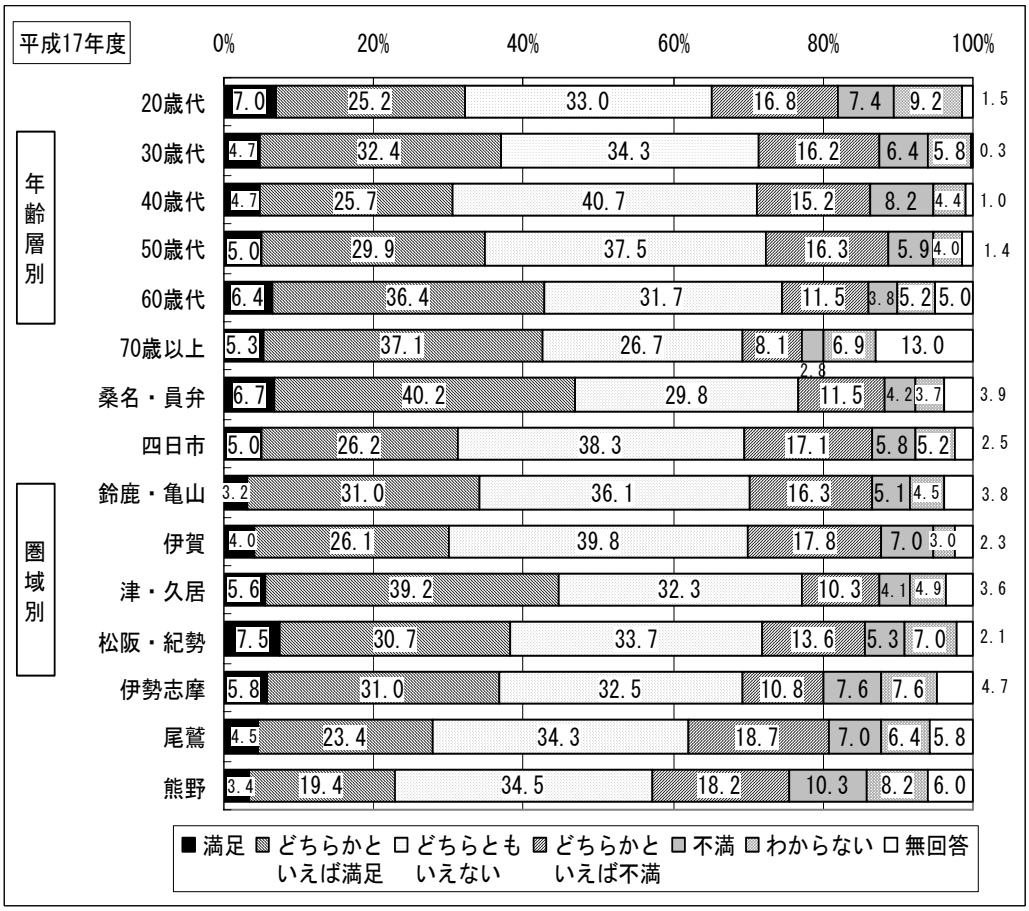
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

２）生涯学習

誰もが興味や必要に応じて、図書館や博物館、講座などで学ぶことができる環境が整っていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	36.9	19.8
平成16年度	34.7	20.9



	満足意識	不満意識
20歳代	32.2	24.2
30歳代	37.1	22.6
40歳代	30.4	23.4
50歳代	34.9	22.2
60歳代	42.8	15.3
70歳以上	42.4	10.9
桑名・員弁	46.9	15.7
四日市	31.2	22.9
鈴鹿・亀山	34.2	21.4
伊賀	30.1	24.8
津・久居	44.8	14.4
松阪・紀勢	38.2	18.9
伊勢志摩	36.8	18.4
尾鷲	27.9	25.7
熊野	22.8	28.5

＜平成 17 年度＞

・ 年齢層別の不満意識は、20 歳代（24.2%）が最も高く、年齢が上がるに従って低くなる傾向が見られる。

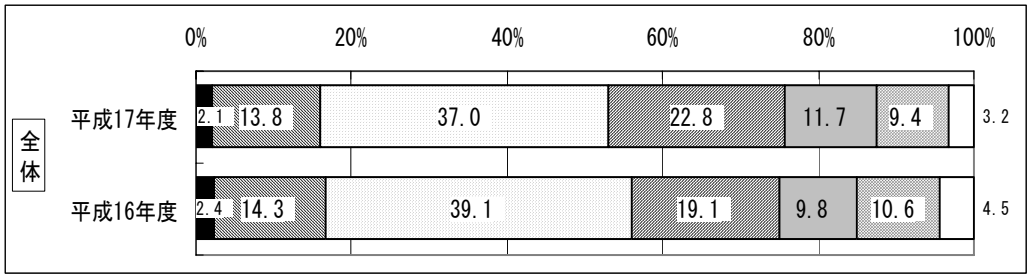
・ 圏域別の不満意識は、熊野（28.5%）が最も高く、津・久居（14.4%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

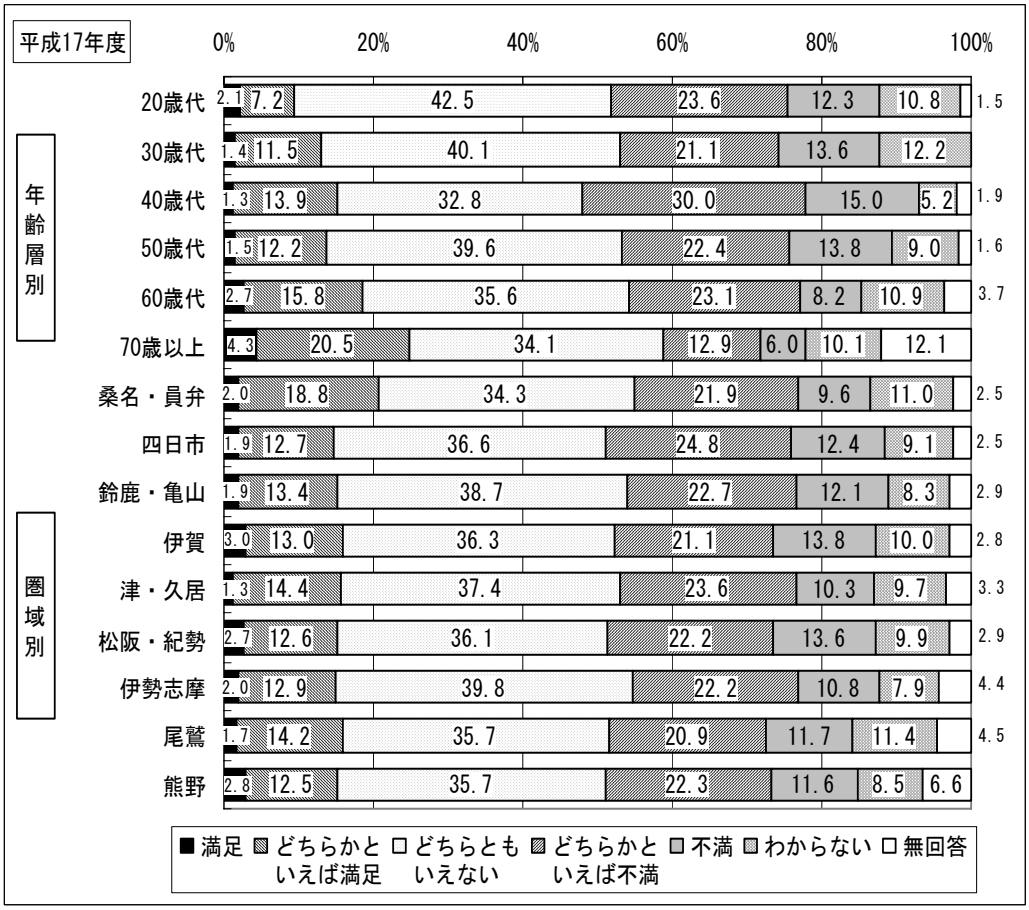
・ 全体の満足意識は、16 年度と比べて 2.2 ポイント増加し、不満意識は 1.1 ポイント減少している。

３）学校教育

児童生徒一人ひとりに基礎・基本の学力が定着し、自ら学び、考え、判断する力が身に付いていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	15.9	34.5
平成16年度	16.7	28.9



	満足意識	不満意識
20歳代	9.3	35.9
30歳代	12.9	34.7
40歳代	15.2	45.0
50歳代	13.7	36.2
60歳代	18.5	31.3
70歳以上	24.8	18.9
桑名・員弁	20.8	31.5
四日市	14.6	37.2
鈴鹿・亀山	15.3	34.8
伊賀	16.0	34.9
津・久居	15.7	33.9
松阪・紀勢	15.3	35.8
伊勢志摩	14.9	33.0
尾鷲	15.9	32.6
熊野	15.3	33.9

＜平成 17 年度＞

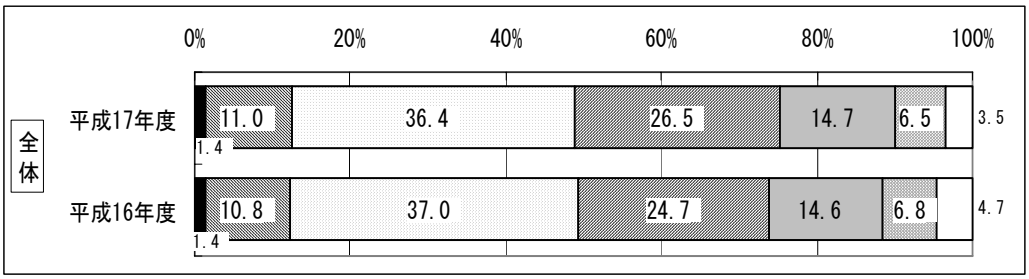
- 年齢層別の不満意識は、40 歳代で４割を超え最も高くなっている。
- 圏域別の不満意識は、四日市（37.2%）が最も高く、桑名・員弁（31.5%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

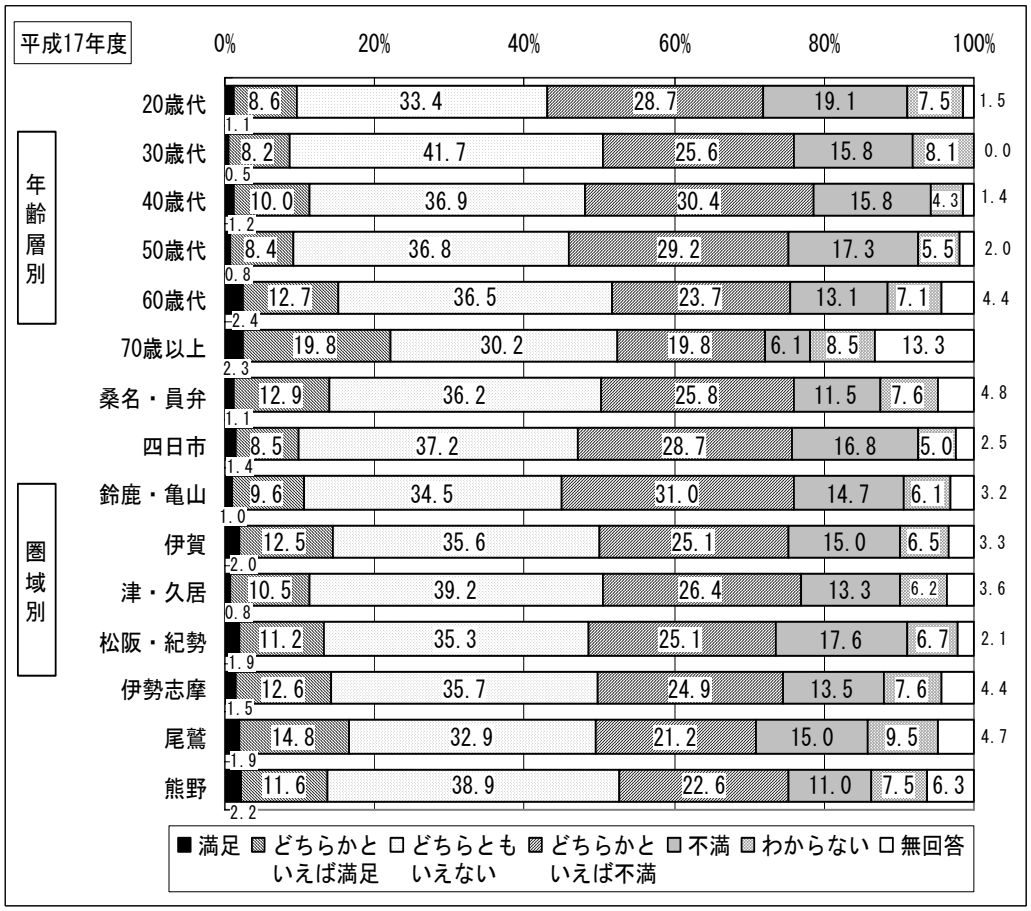
- 全体の不満意識は、16 年度と比べて 5.6 ポイント増加している。

４）青少年の健全育成

青少年が犯罪や非行に走ることなく、自立性や社会性を身につけ健全に育っていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	12.4	41.2
平成16年度	12.2	39.3



	満足意識	不満意識
20歳代	9.7	47.8
30歳代	8.7	41.4
40歳代	11.2	46.2
50歳代	9.2	46.5
60歳代	15.1	36.8
70歳以上	22.1	25.9
桑名・員弁	14.0	37.3
四日市	9.9	45.5
鈴鹿・亀山	10.6	45.7
伊賀	14.5	40.1
津・久居	11.3	39.7
松阪・紀勢	13.1	42.7
伊勢志摩	14.1	38.4
尾鷲	16.7	36.2
熊野	13.8	33.6

＜平成 17 年度＞

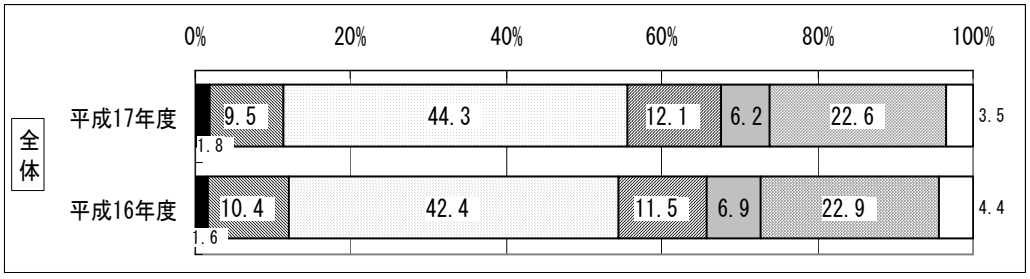
- すべての年齢層及び圏域で不満意識が満足意識を上回っている。
- 年齢層別の不満意識は、50 歳代以下で４割を超え高くなっている。
- 圏域別の不満意識は、鈴鹿・亀山（45.7%）が最も高く、熊野（33.6%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

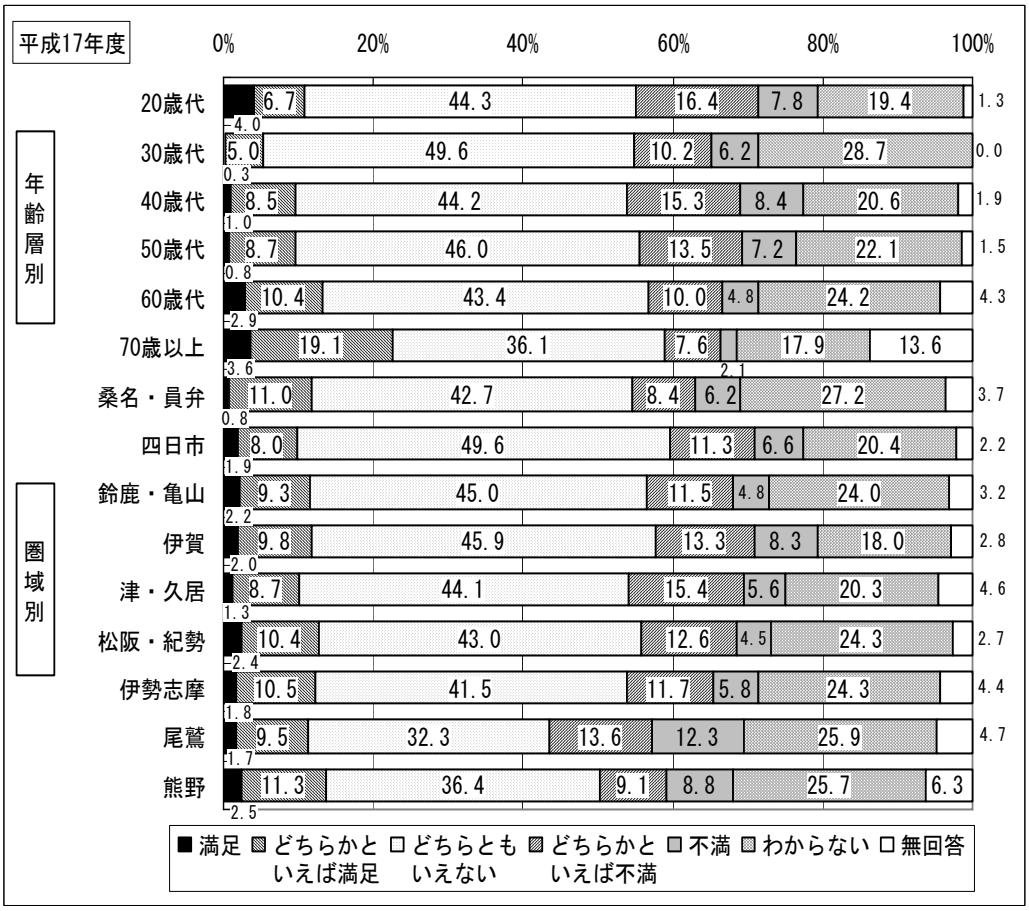
- 全体の不満意識は、16 年度と比べて 1.9 ポイント増加している。

５）高等教育機関

県内の大学など高等教育機関において、魅力ある教育や研究が行われていること。



	満足意識	不満意識
全体 平成17年度	11.3	18.3
全体 平成16年度	12.0	18.4



	満足意識	不満意識
20歳代	10.7	24.2
30歳代	5.3	16.4
40歳代	9.5	23.7
50歳代	9.5	20.7
60歳代	13.3	14.8
70歳以上	22.7	9.7
桑名・員弁	11.8	14.6
四日市	9.9	17.9
鈴鹿・亀山	11.5	16.3
伊賀	11.8	21.6
津・久居	10.0	21.0
松阪・紀勢	12.8	17.1
伊勢志摩	12.3	17.5
尾鷲	11.2	25.9
熊野	13.8	17.9

＜平成 17 年度＞

・ 年齢層別の不満意識は、20 歳代（24.2%）が最も高く、70 歳以上（9.7%）が最も低くなっている。

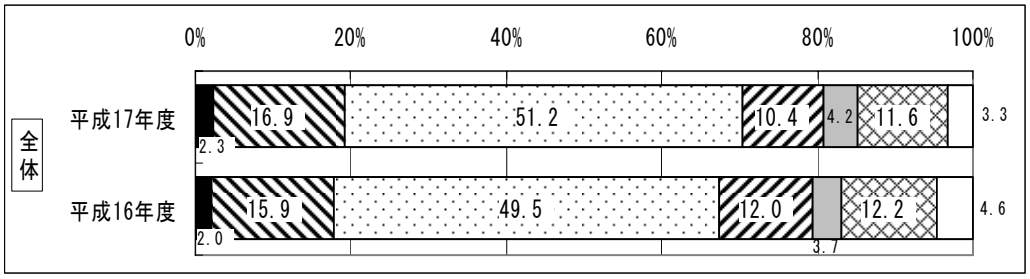
・ 圏域別の不満意識は、尾鷲（25.9%）が最も高く、桑名・員弁（14.6%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

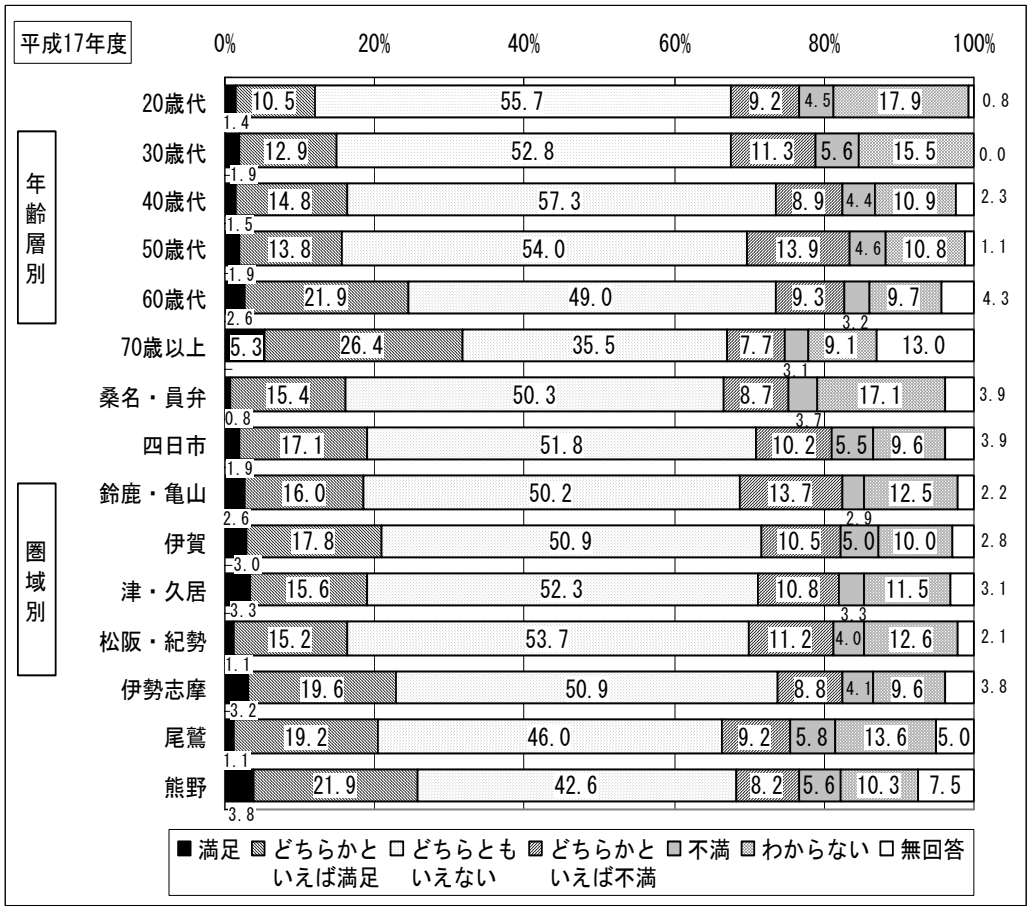
・ 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

６）市民活動

ＮＰＯやボランティアなどの活動、自治会やＰＴＡ等の地域活動など、様々な社会活動に参加しやすいこと。



	満足意識	不満意識
平成17年度	19.2	14.6
平成16年度	17.9	15.7



	満足意識	不満意識
20歳代	11.9	13.7
30歳代	14.8	16.9
40歳代	16.3	13.3
50歳代	15.7	18.5
60歳代	24.5	12.5
70歳以上	31.7	10.8
桑名・員弁	16.2	12.4
四日市	19.0	15.7
鈴鹿・亀山	18.6	16.6
伊賀	20.8	15.5
津・久居	18.9	14.1
松阪・紀勢	16.3	15.2
伊勢志摩	22.8	12.9
尾鷲	20.3	15.0
熊野	25.7	13.8

＜平成 17 年度＞

・ 年齢層別の満足意識は、年齢が上がるに従って高くなる傾向が見られる。

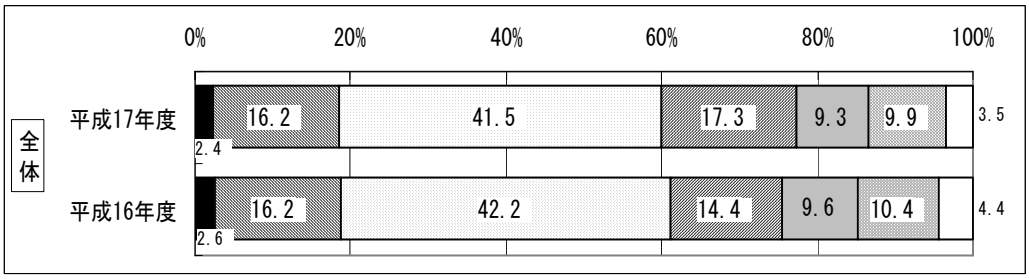
・ 圏域別の不満意識に大きな差はみられないが、満足意識では、熊野（25.7%）が最も高く、桑名・員弁（16.2%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

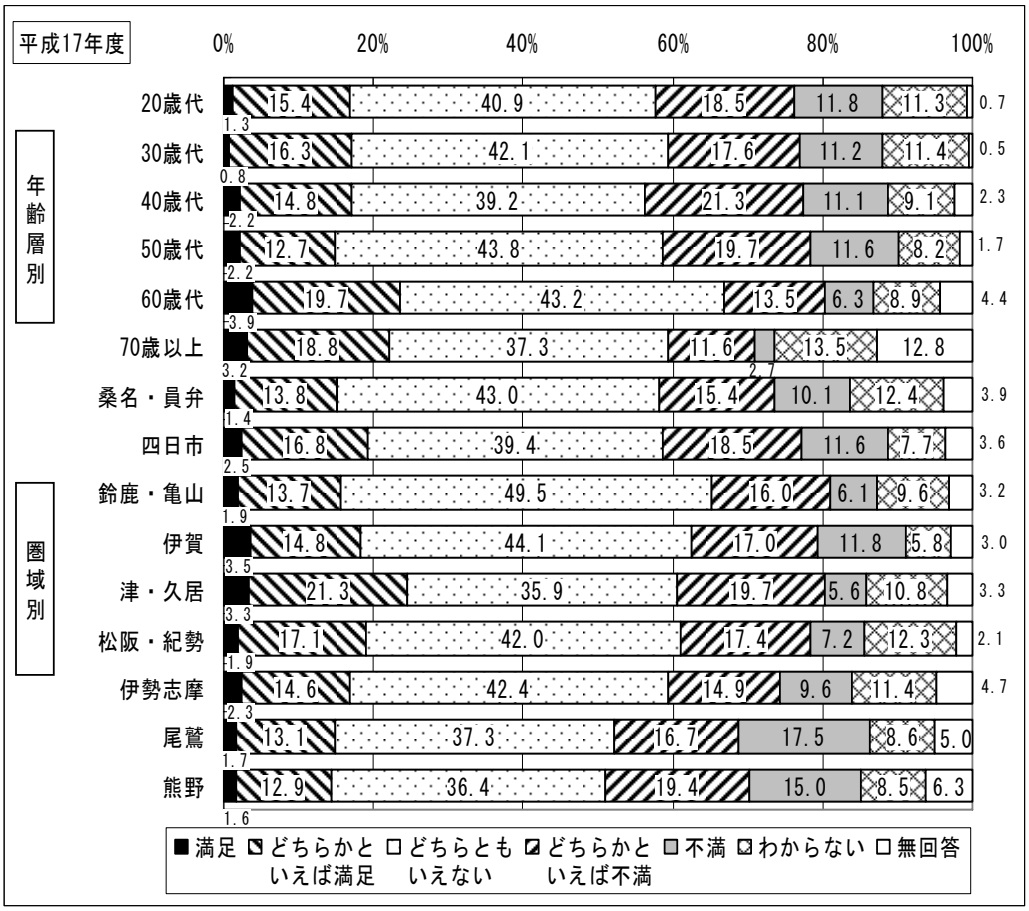
・ 全体の満足意識は、16 年度と比べて 1.3 ポイント増加し、不満意識は 1.1 ポイント減少している。

7）文化・芸術

音楽、美術などの様々な芸術や文化と直接触れ親しめる機会が多いこと。



	満足意識	不満意識
全体 平成17年度	18.6	26.6
全体 平成16年度	18.8	24.0



	満足意識	不満意識
20歳代	16.7	30.3
30歳代	17.1	28.8
40歳代	17.0	32.4
50歳代	14.9	31.3
60歳代	23.6	19.8
70歳以上	22.0	14.3
桑名・員弁	15.2	25.5
四日市	19.3	30.1
鈴鹿・亀山	15.6	22.1
伊賀	18.3	28.8
津・久居	24.6	25.3
松阪・紀勢	19.0	24.6
伊勢志摩	16.9	24.5
尾鷲	14.8	34.2
熊野	14.5	34.4

＜平成 17 年度＞

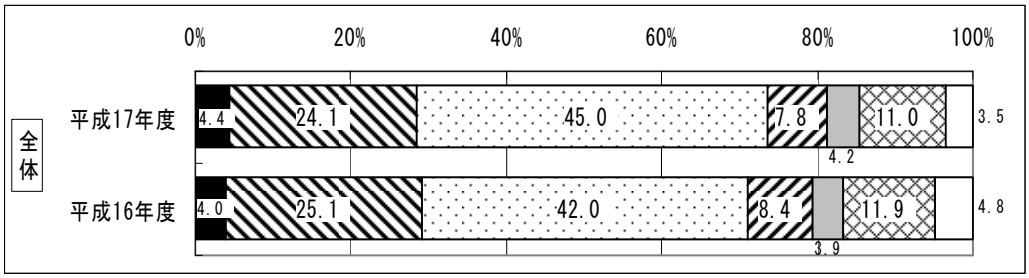
- 年齢層別の不満意識は、40 歳代（32.4%）が最も高く、70 歳以上（14.3%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、熊野（34.4%）が最も高く、次いで尾鷲（34.2%）、四日市（30.1%）の順となっている。

＜平成 16 年度との比較＞

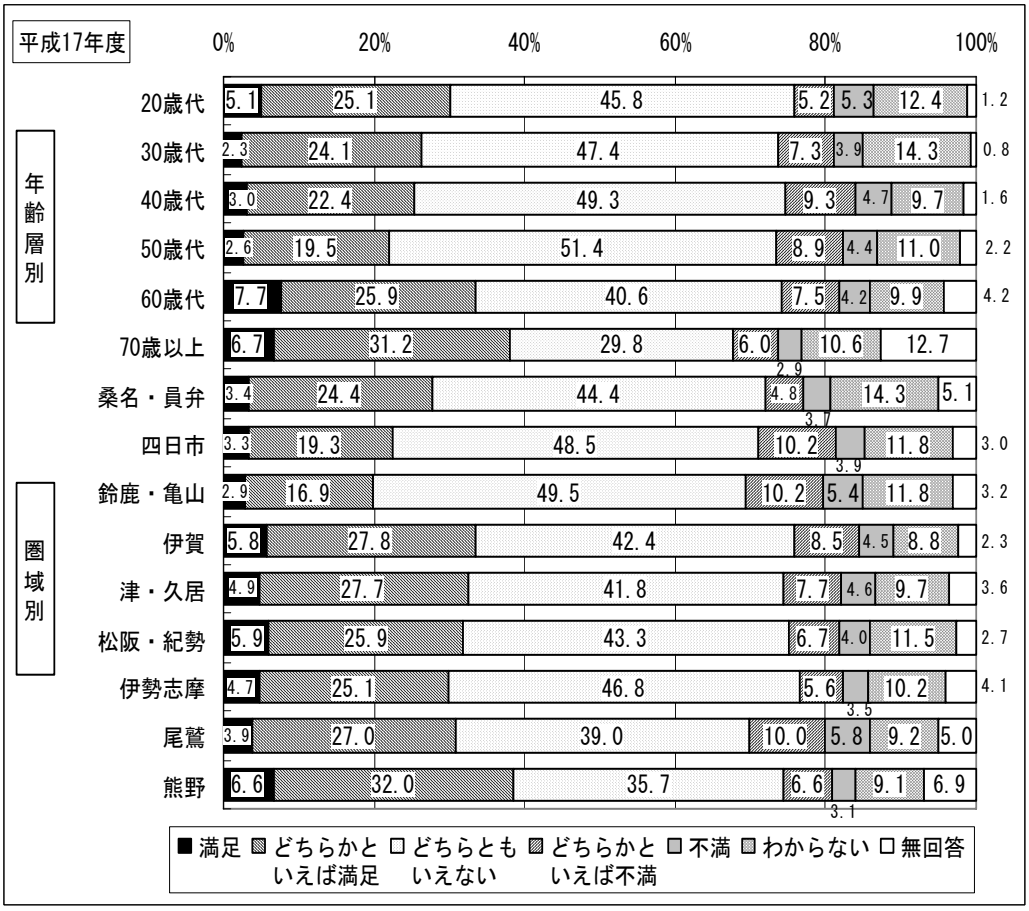
- 全体の不満意識は、16 年度と比べて 2.6 ポイント増加している。

８）歴史・文化遺産

文化財や伝統行事などの様々な文化遺産が守られ、地域づくり等に積極的に活用されていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	28.5	12.0
平成16年度	29.1	12.3



	満足意識	不満意識
20歳代	30.2	10.5
30歳代	26.4	11.2
40歳代	25.4	14.0
50歳代	22.1	13.3
60歳代	33.6	11.7
70歳以上	37.9	8.9
桑名・員弁	27.8	8.5
四日市	22.6	14.1
鈴鹿・亀山	19.8	15.6
伊賀	33.6	13.0
津・久居	32.6	12.3
松阪・紀勢	31.8	10.7
伊勢志摩	29.8	9.1
尾鷲	30.9	15.8
熊野	38.6	9.7

＜平成 17 年度＞

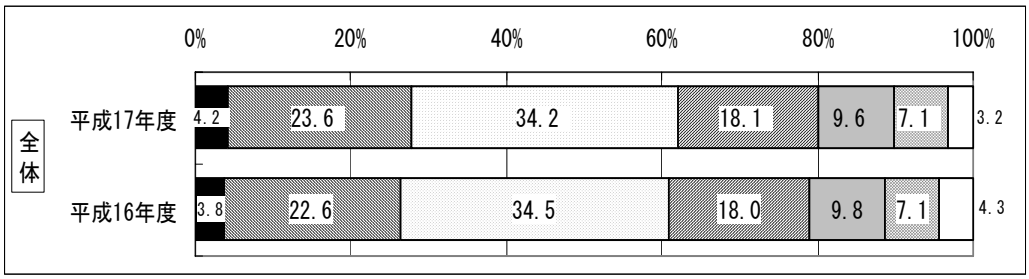
- すべての年齢層及び圏域で満足意識が不満意識を上回っている。
- 年齢層別の満足意識は、70 歳以上（37.9%）が最も高くなっている。
- 圏域別の満足意識は、熊野（38.6%）が最も高く、鈴鹿・亀山（19.8%）や四日市（22.6%）で低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

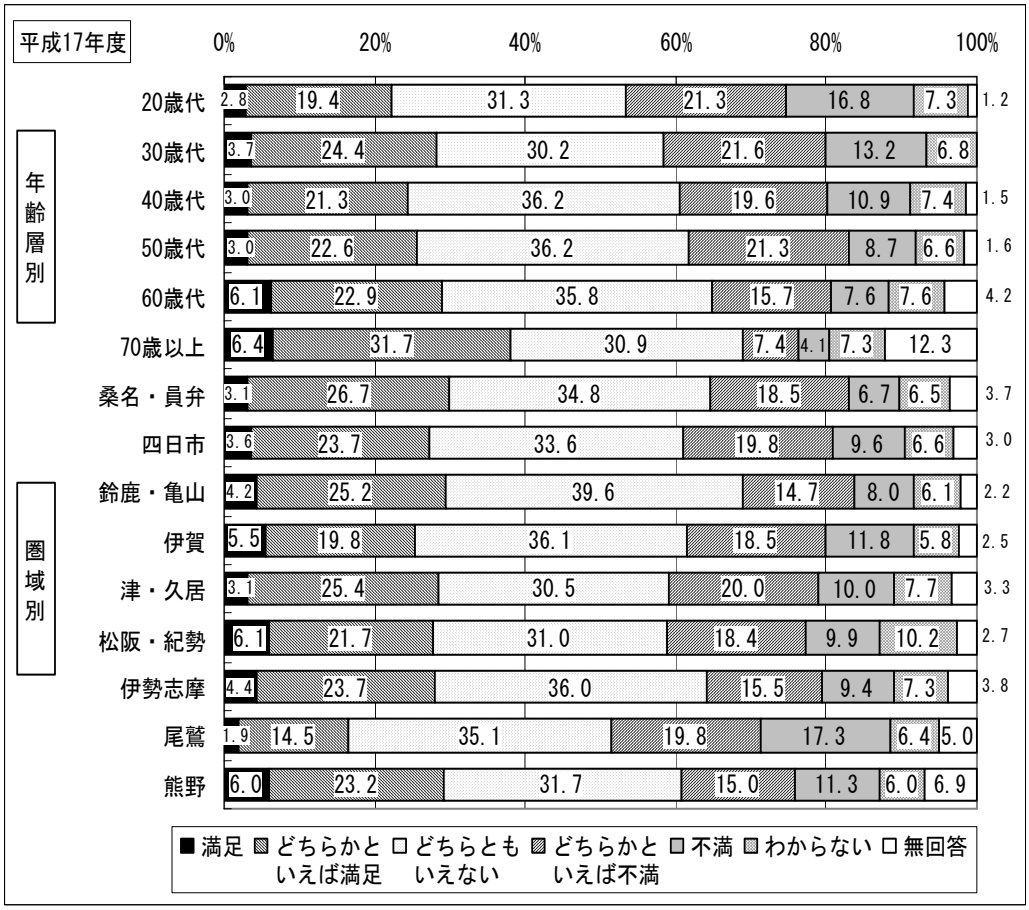
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

９）スポーツ・レクリエーション

スポーツやレクリエーションを楽しむための機会や施設が充実していること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	27.8	27.7
平成16年度	26.4	27.8



	満足意識	不満意識
20歳代	22.2	38.1
30歳代	28.1	34.8
40歳代	24.3	30.5
50歳代	25.6	30.0
60歳代	29.0	23.3
70歳以上	38.1	11.5
桑名・員弁	29.8	25.2
四日市	27.3	29.4
鈴鹿・亀山	29.4	22.7
伊賀	25.3	30.3
津・久居	28.5	30.0
松阪・紀勢	27.8	28.3
伊勢志摩	28.1	24.9
尾鷲	16.4	37.1
熊野	29.2	26.3

＜平成 17 年度＞

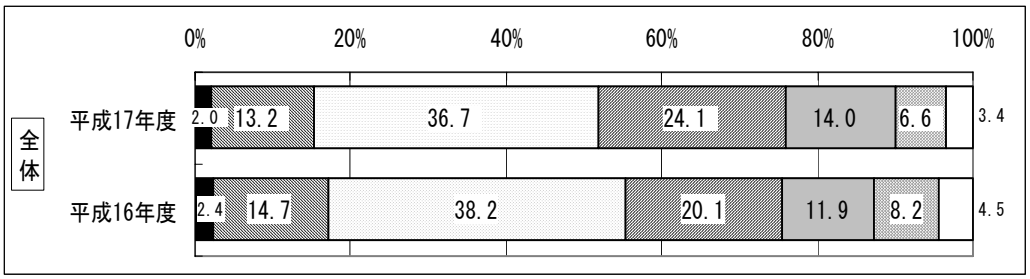
- 年齢層別では、50 歳代以下では不満意識が満足意識より高く、60 歳代以上では満足意識の方が不満意識より高くなっている。
- 圏域別では、尾鷲の満足意識（16.4%）が最も低く、不満意識（37.1%）も最も高くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

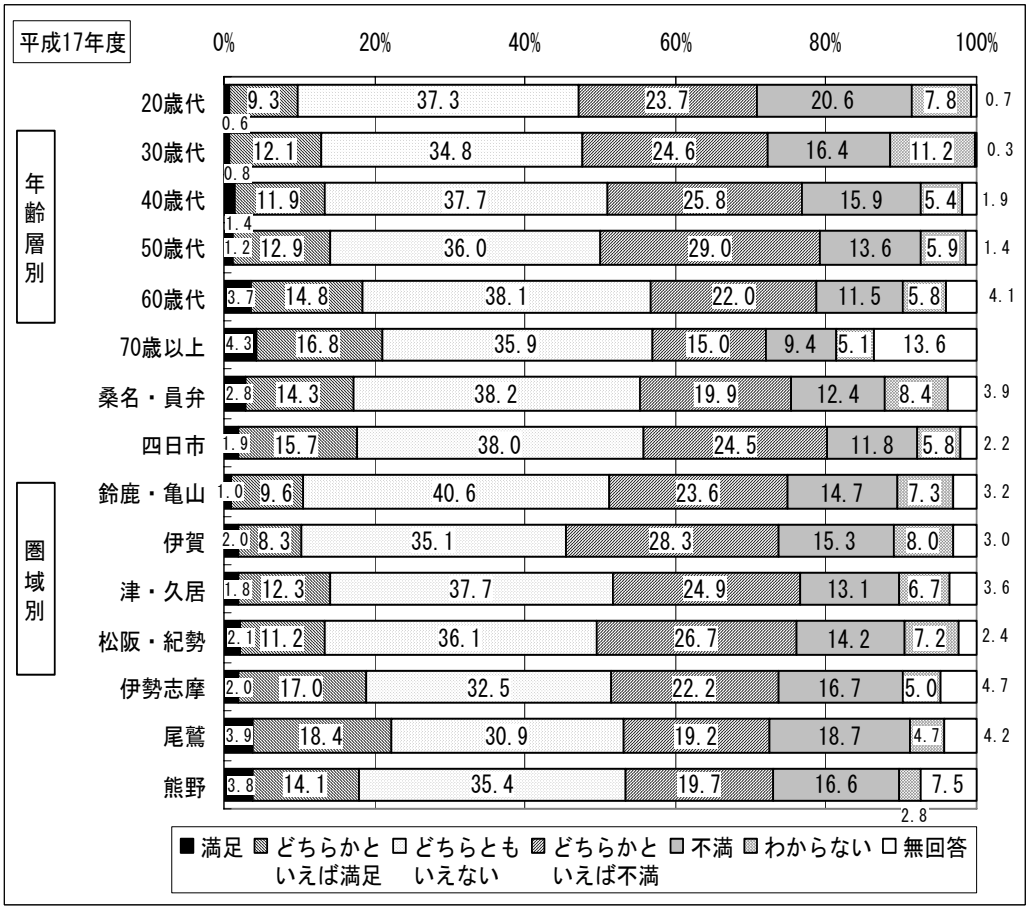
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 1.4 ポイント増加している。

10）地域での防災の取組

地震・津波、風水害などの自然災害に対して地域での自主的な備えができていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	15.2	38.1
平成16年度	17.1	32.0



	満足意識	不満意識
20歳代	9.9	44.3
30歳代	12.9	41.0
40歳代	13.3	41.7
50歳代	14.1	42.6
60歳代	18.5	33.5
70歳以上	21.1	24.4
桑名・員弁	17.1	32.3
四日市	17.6	36.3
鈴鹿・亀山	10.6	38.3
伊賀	10.3	43.6
津・久居	14.1	38.0
松阪・紀勢	13.3	40.9
伊勢志摩	19.0	38.9
尾鷲	22.3	37.9
熊野	17.9	36.3

＜平成 17 年度＞

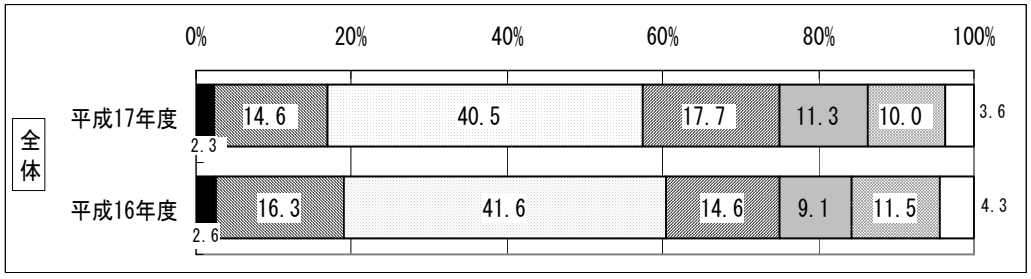
- すべての年齢層及び圏域で不満意識が満足意識を上回っている。
- 年齢層別の不満意識は、20 歳代（44.3%）が最も高く、70 歳以上（24.4%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、伊賀（43.6%）が最も高く、桑名・員弁（32.3%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

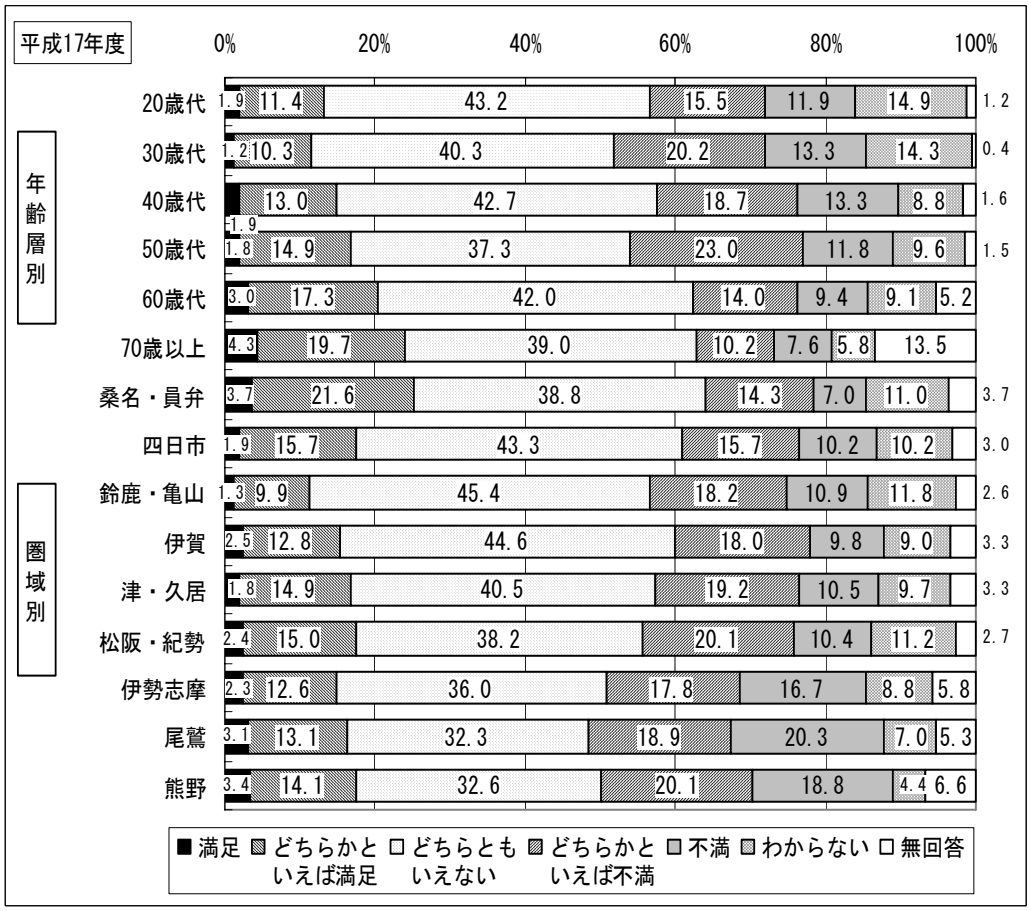
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 1.9 ポイント減少し、不満意識は 6.1 ポイント増加している。

11）災害対策

洪水や高潮、土砂災害などに備える堤防や砂防ダムなどの施設が整備され、自然災害による被害を最小限におさえられること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	16.9	29.0
平成16年度	18.9	23.7



	満足意識	不満意識
20歳代	13.3	27.4
30歳代	11.5	33.5
40歳代	14.9	32.0
50歳代	16.7	34.8
60歳代	20.3	23.4
70歳以上	24.0	17.8
桑名・員弁	25.3	21.3
四日市	17.6	25.9
鈴鹿・亀山	11.2	29.1
伊賀	15.3	27.8
津・久居	16.7	29.7
松阪・紀勢	17.4	30.5
伊勢志摩	14.9	34.5
尾鷲	16.2	39.2
熊野	17.5	38.9

＜平成 17 年度＞

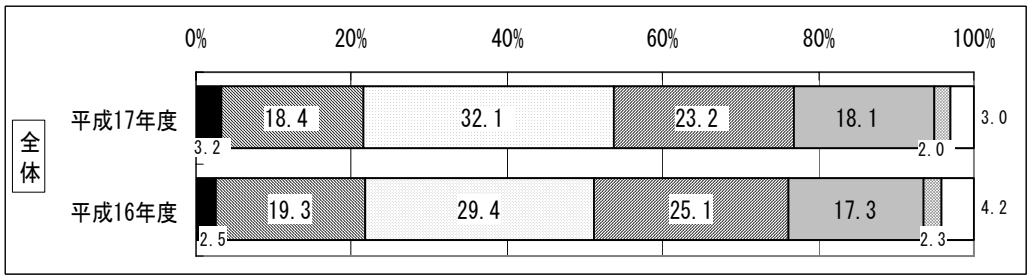
- 年齢層別の不満意識は、50 歳代（34.8%）が最も高く、70 歳以上（17.8%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（39.2%）が最も高く、次いで熊野(38.9%)、伊勢志摩（34.5%）の順となっている。

＜平成 16 年度との比較＞

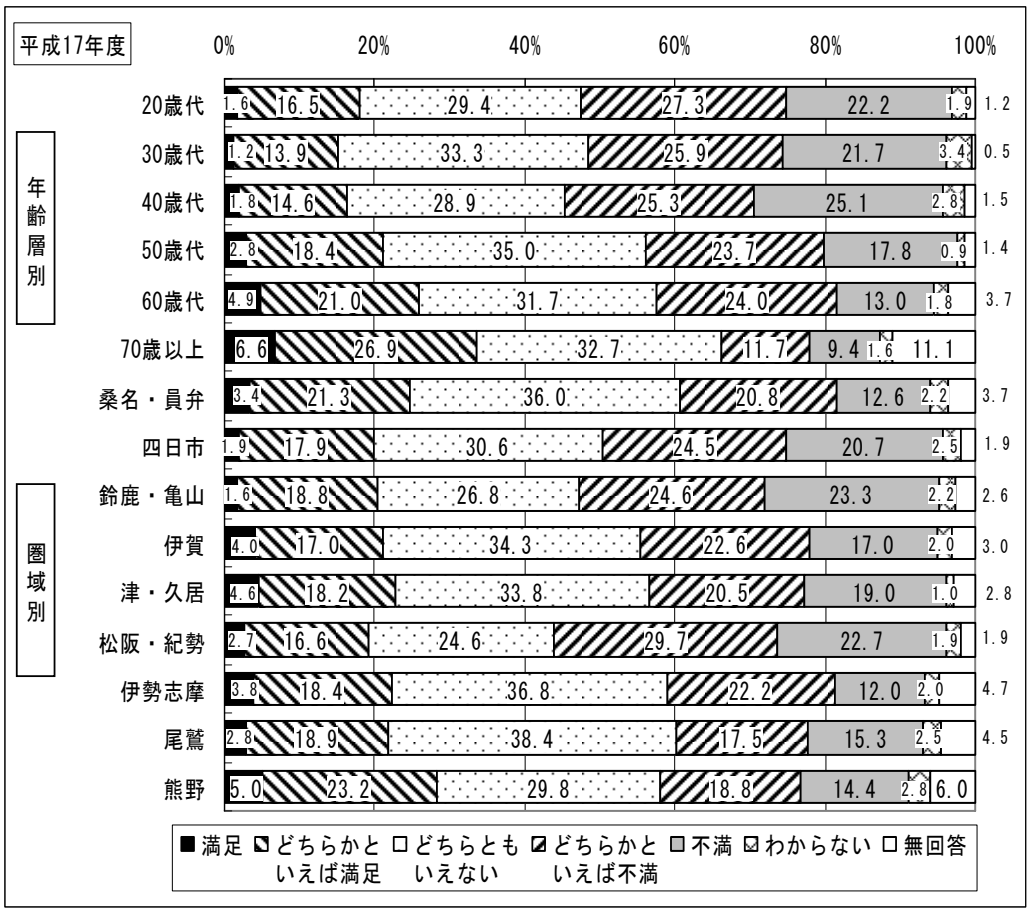
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 2.0 ポイント減少し、不満意識は 5.3 ポイント増加している。

12）交通安全

交通ルールが守られ、誰もが安全にかつ安心して道路を通行できる環境になっていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	21.6	41.3
平成16年度	21.8	42.4



	満足意識	不満意識
20歳代	18.1	49.5
30歳代	15.1	47.6
40歳代	16.4	50.4
50歳代	21.2	41.5
60歳代	25.9	37.0
70歳以上	33.5	21.1
桑名・員弁	24.7	33.4
四日市	19.8	45.2
鈴鹿・亀山	20.4	47.9
伊賀	21.0	39.6
津・久居	22.8	39.5
松阪・紀勢	19.3	52.4
伊勢志摩	22.2	34.2
尾鷲	21.7	32.8
熊野	28.2	33.2

＜平成 17 年度＞

・ 年齢層別の不満意識は、20～40 歳代で高く約半数を占めている。

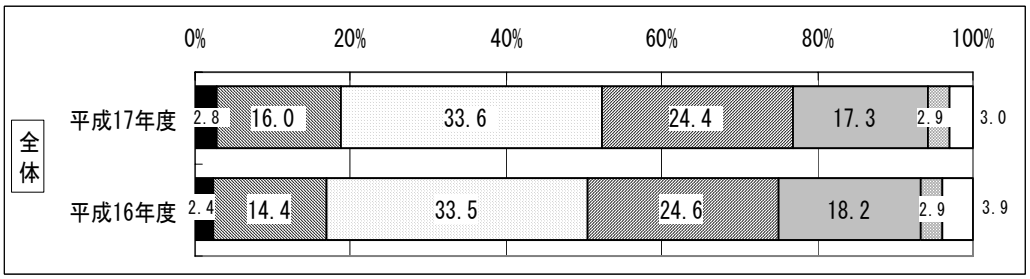
・ 圏域別の不満意識は、松阪・紀勢（52.4%）が最も高く、尾鷲（32.8%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

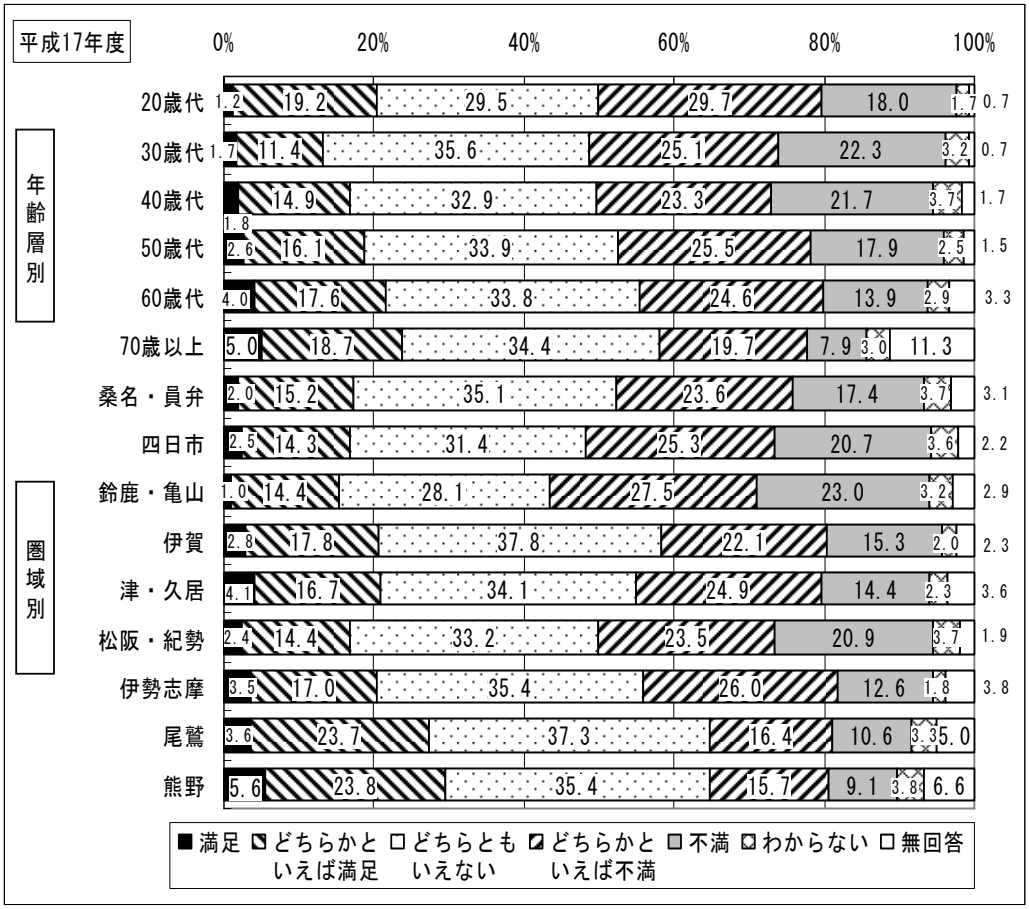
・ 全体の不満意識は、16 年度と比べて 1.1 ポイント減少している。

13）防犯

犯罪などに対する不安を感じることなく、安心して生活ができること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	18.8	41.7
平成16年度	16.8	42.8



	満足意識	不満意識
20歳代	20.4	47.7
30歳代	13.1	47.4
40歳代	16.7	45.0
50歳代	18.7	43.4
60歳代	21.6	38.5
70歳以上	23.7	27.6
桑名・員弁	17.2	41.0
四日市	16.8	46.0
鈴鹿・亀山	15.4	50.5
伊賀	20.6	37.4
津・久居	20.8	39.3
松阪・紀勢	16.8	44.4
伊勢志摩	20.5	38.6
尾鷲	27.3	27.0
熊野	29.4	24.8

＜平成 17 年度＞

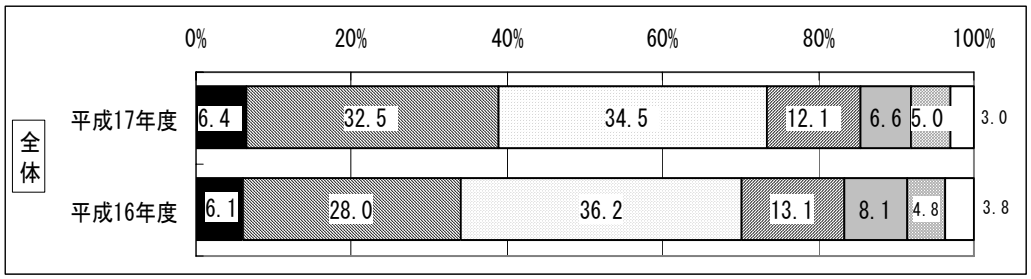
- 全体では、不満意識が 41.7%（第３位）と高くなっている。
- 年齢層別の不満意識は、20 歳代（47.7%）が最も高く、年齢が上がるに従って減少している。
- 圏域別の不満意識は、鈴鹿・亀山（50.5%）が最も高く、熊野（24.8%）や尾鷲（27.0%）で低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

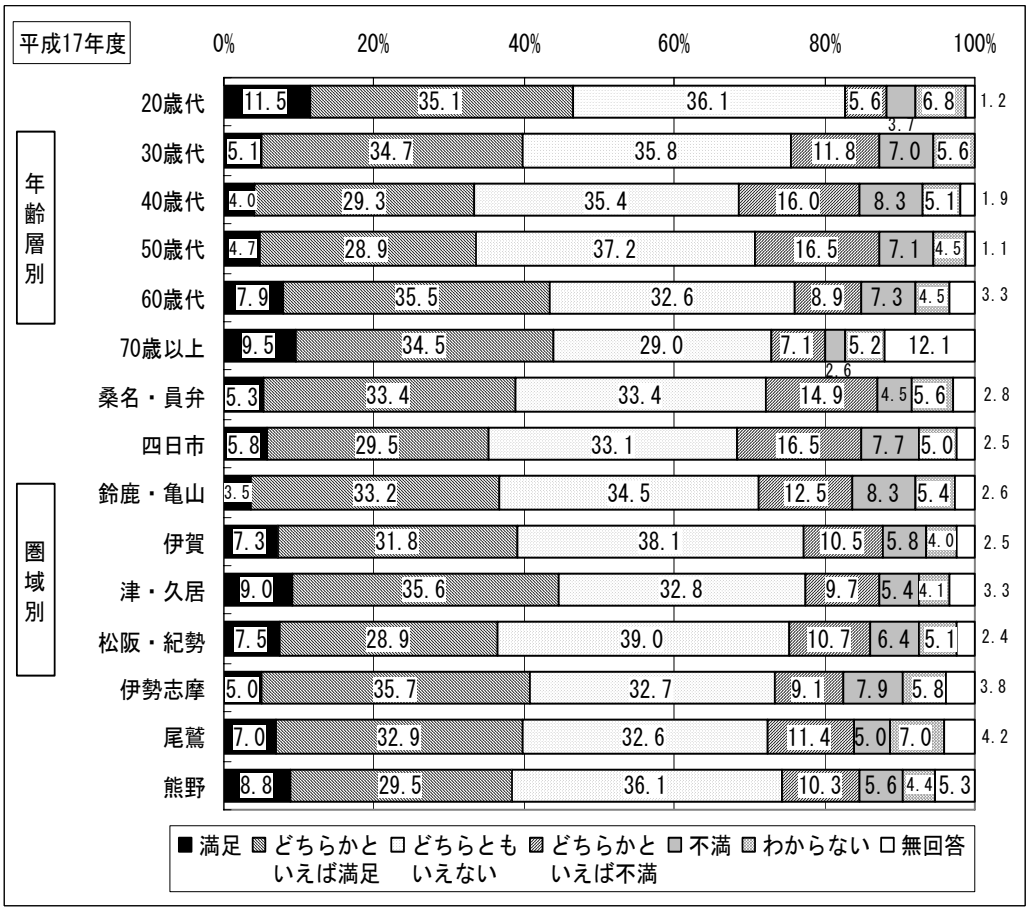
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 2.0 ポイント増加し、不満意識は 1.1 ポイント減少している。

14）食の安全

安心して食べられる食品が安定的に供給されていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	38.9	18.7
平成16年度	34.1	21.2



	満足意識	不満意識
20歳代	46.6	9.3
30歳代	39.8	18.8
40歳代	33.3	24.3
50歳代	33.6	23.6
60歳代	43.4	16.2
70歳以上	44.0	9.7
桑名・員弁	38.7	19.4
四日市	35.3	24.2
鈴鹿・亀山	36.7	20.8
伊賀	39.1	16.3
津・久居	44.6	15.1
松阪・紀勢	36.4	17.1
伊勢志摩	40.7	17.0
尾鷲	39.9	16.4
熊野	38.3	15.9

＜平成 17 年度＞

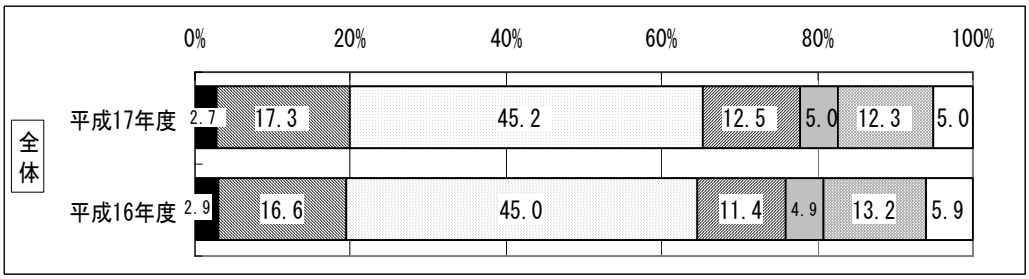
- 全体では、満足意識が 38.9%（第３位）と高くなっている。
- すべての年齢層及び圏域で満足意識が不満意識を上回っている。

＜平成 16 年度との比較＞

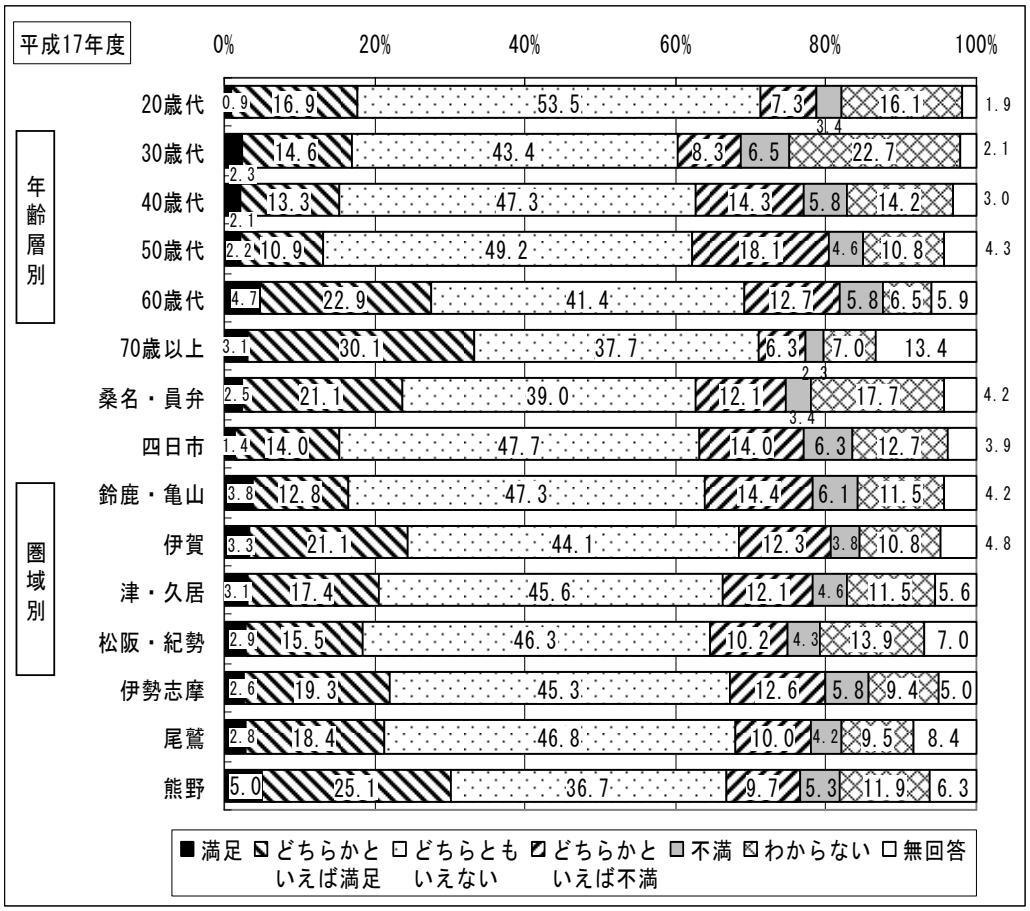
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 4.8 ポイント増加し、不満意識は 2.5 ポイント減少している。

15）高齢者、障害者の社会参加

高齢者や障害者が就労や趣味の集いなど、様々な社会参加ができること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	20.0	17.5
平成16年度	19.5	16.3



	満足意識	不満意識
20歳代	17.8	10.7
30歳代	16.9	14.8
40歳代	15.4	20.1
50歳代	13.1	22.7
60歳代	27.6	18.5
70歳以上	33.2	8.6
桑名・員弁	23.6	15.5
四日市	15.4	20.3
鈴鹿・亀山	16.6	20.5
伊賀	24.4	16.1
津・久居	20.5	16.7
松阪・紀勢	18.4	14.5
伊勢志摩	21.9	18.4
尾鷲	21.2	14.2
熊野	30.1	15.0

＜平成 17 年度＞

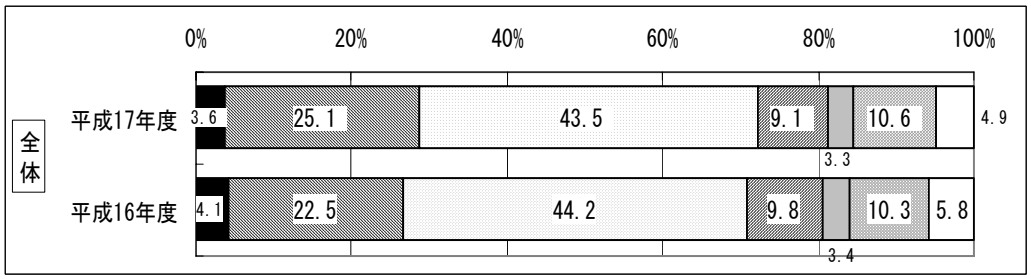
- 年齢層別の不満意識は、50 歳代（22.7%）が最も高く、70 歳以上（8.6%）が最も低くなっている。
- 圏域別の満足意識は、熊野（30.1%）が最も高く、四日市（15.4%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

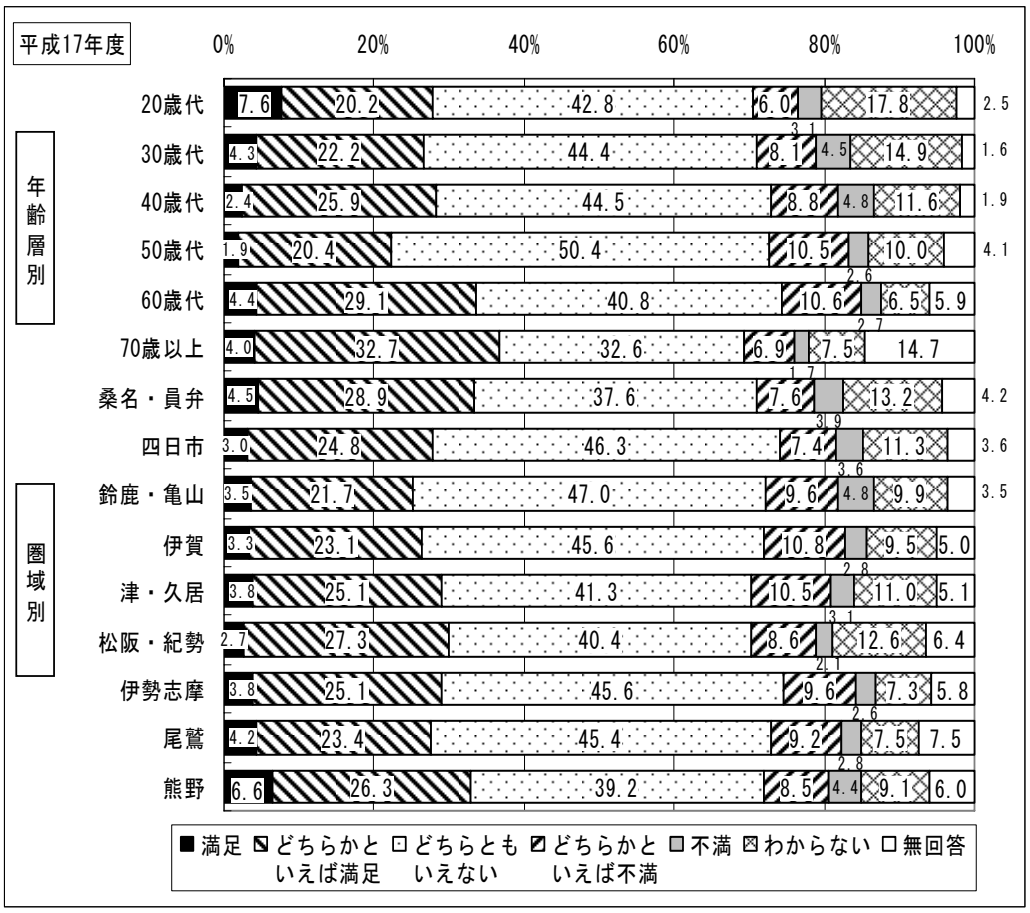
- 全体の不満意識は、16 年度と比べて 1.2 ポイント増加している。

16）保健予防体制

感染症の発生、まん延や生活習慣病の不安を感じることなく生活できること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	28.7	12.4
平成16年度	26.6	13.2



	満足意識	不満意識
20歳代	27.8	9.1
30歳代	26.5	12.6
40歳代	28.3	13.6
50歳代	22.3	13.1
60歳代	33.5	13.3
70歳以上	36.7	8.6
桑名・員弁	33.4	11.5
四日市	27.8	11.0
鈴鹿・亀山	25.2	14.4
伊賀	26.4	13.6
津・久居	28.9	13.6
松阪・紀勢	30.0	10.7
伊勢志摩	28.9	12.2
尾鷲	27.6	12.0
熊野	32.9	12.9

＜平成 17 年度＞

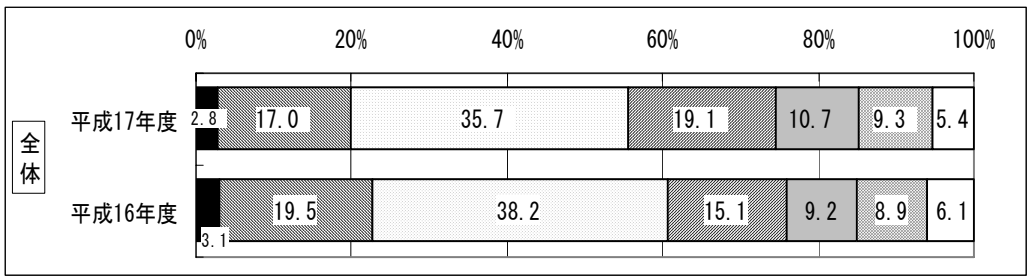
- すべての年齢層及び圏域で満足意識が不満意識を上回っている。
- 年齢層別の満足意識は、70 歳以上（36.7%）が最も高くなっている。
- 圏域別の満足意識は、桑名・員弁（33.4%）が最も高く、次いで熊野（32.9%）、松阪・紀勢（30.0%）の順となっている。

＜平成 16 年度との比較＞

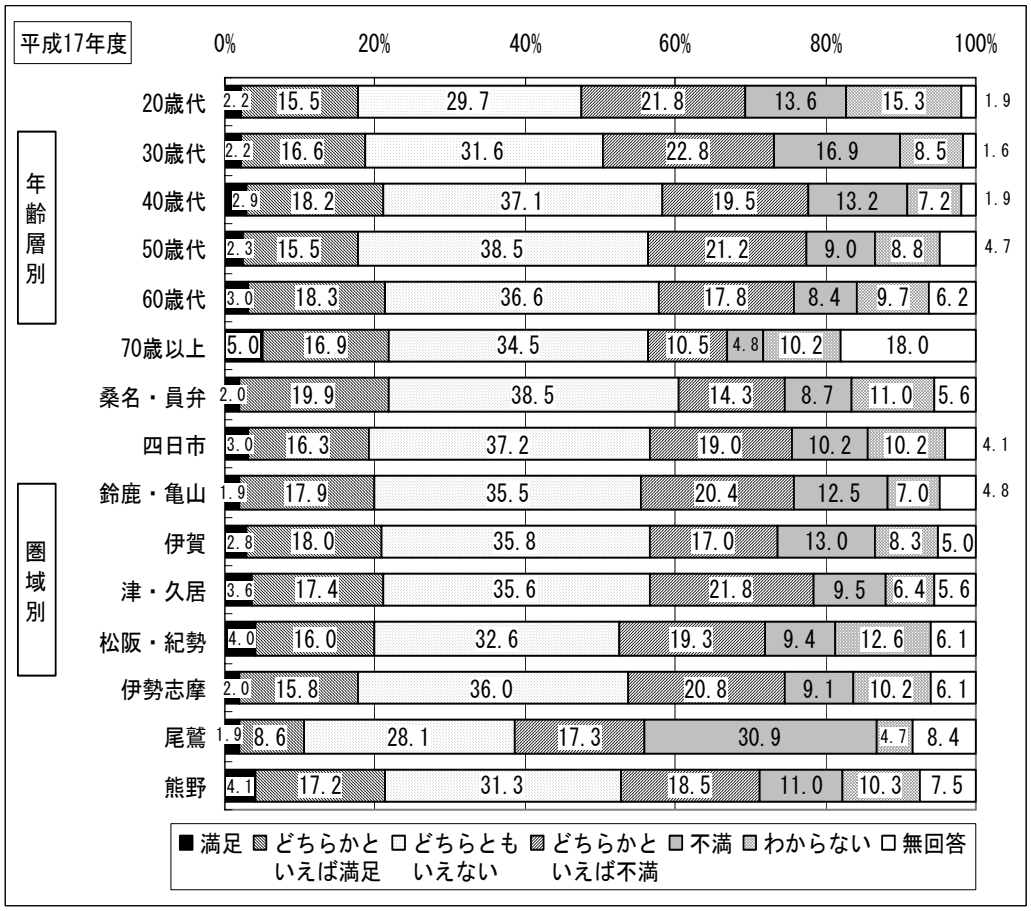
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 2.1 ポイント増加している。

17）子育て環境

子どもを安心して産み育てられる環境が充実していること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	19.8	29.8
平成16年度	22.6	24.3



	満足意識	不満意識
20歳代	17.7	35.4
30歳代	18.8	39.7
40歳代	21.1	32.7
50歳代	17.8	30.2
60歳代	21.3	26.2
70歳以上	21.9	15.3
桑名・員弁	21.9	23.0
四日市	19.3	29.2
鈴鹿・亀山	19.8	32.9
伊賀	20.8	30.0
津・久居	21.0	31.3
松阪・紀勢	20.0	28.7
伊勢志摩	17.8	29.9
尾鷲	10.5	48.2
熊野	21.3	29.5

＜平成 17 年度＞

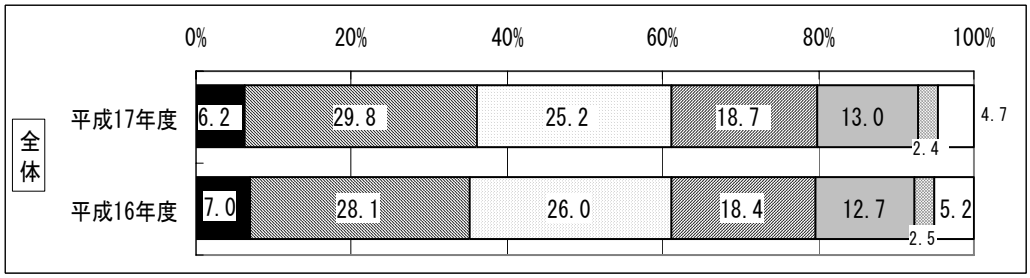
- 年齢層別では、30 歳代（39.7%）をピークに年齢が上がるに従って不満意識が減少している。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（48.2%）が最も高く、桑名・員弁（23.0%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

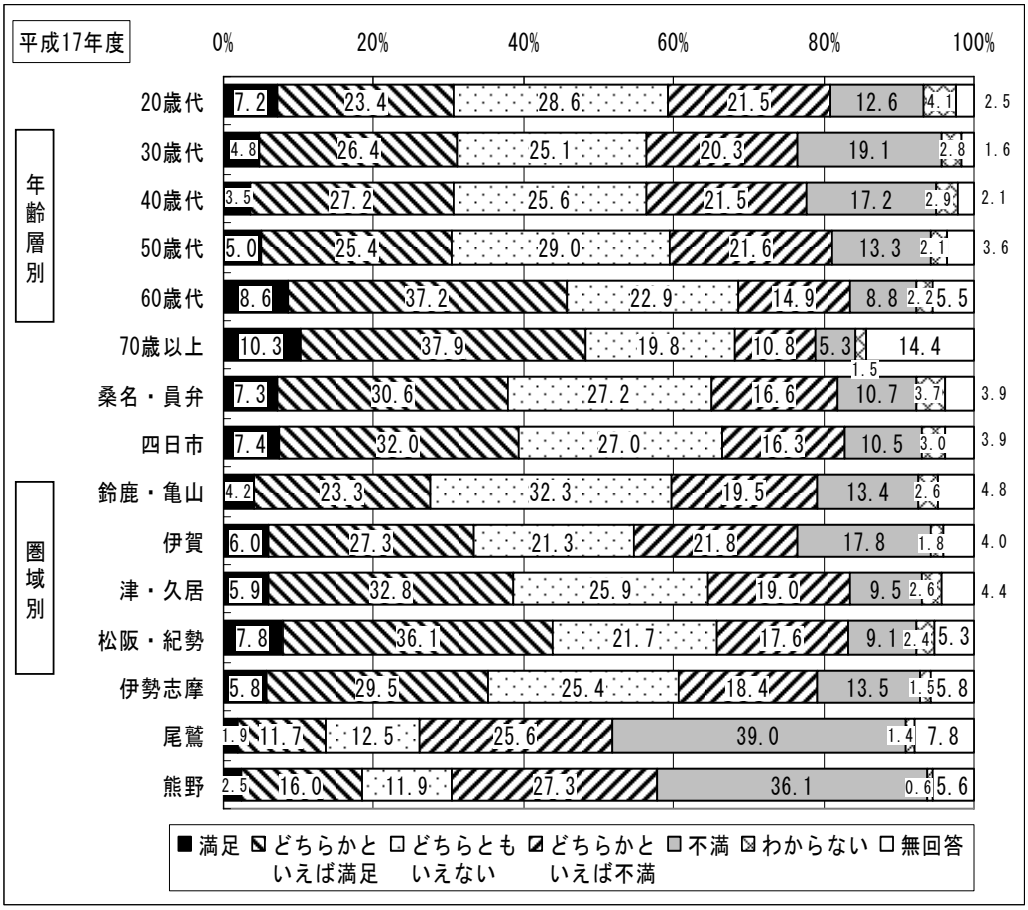
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 2.8 ポイント減少し、不満意識は 5.5 ポイント増加している。

18）医療体制

病状に応じて、身近なところで適切な医療が受けられること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	36.0	31.7
平成16年度	35.1	31.1



	満足意識	不満意識
20歳代	30.6	34.1
30歳代	31.2	39.4
40歳代	30.7	38.7
50歳代	30.4	34.9
60歳代	45.8	23.7
70歳以上	48.2	16.1
桑名・員弁	37.9	27.3
四日市	39.4	26.8
鈴鹿・亀山	27.5	32.9
伊賀	33.3	39.6
津・久居	38.7	28.5
松阪・紀勢	43.9	26.7
伊勢志摩	35.3	31.9
尾鷲	13.6	64.6
熊野	18.5	63.4

＜平成 17 年度＞

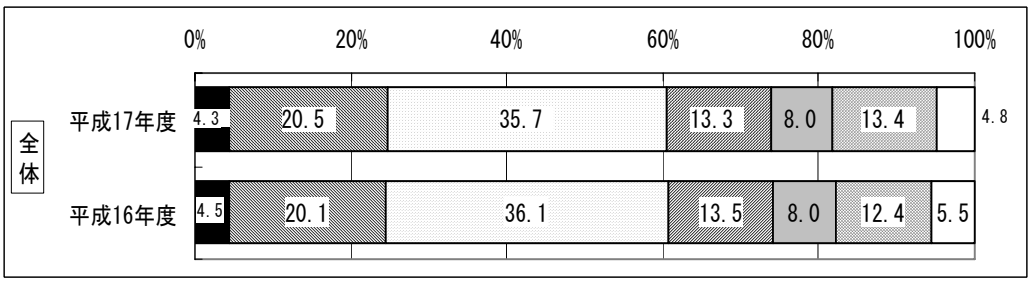
- 年齢層別では、30 歳代（39.4%）をピークに年齢が上がるに従って不満意識が減少している。また、60 歳以上の満足度が高くなっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（64.6%）と熊野（63.4%）が特に高く、圏域による差が大きくなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

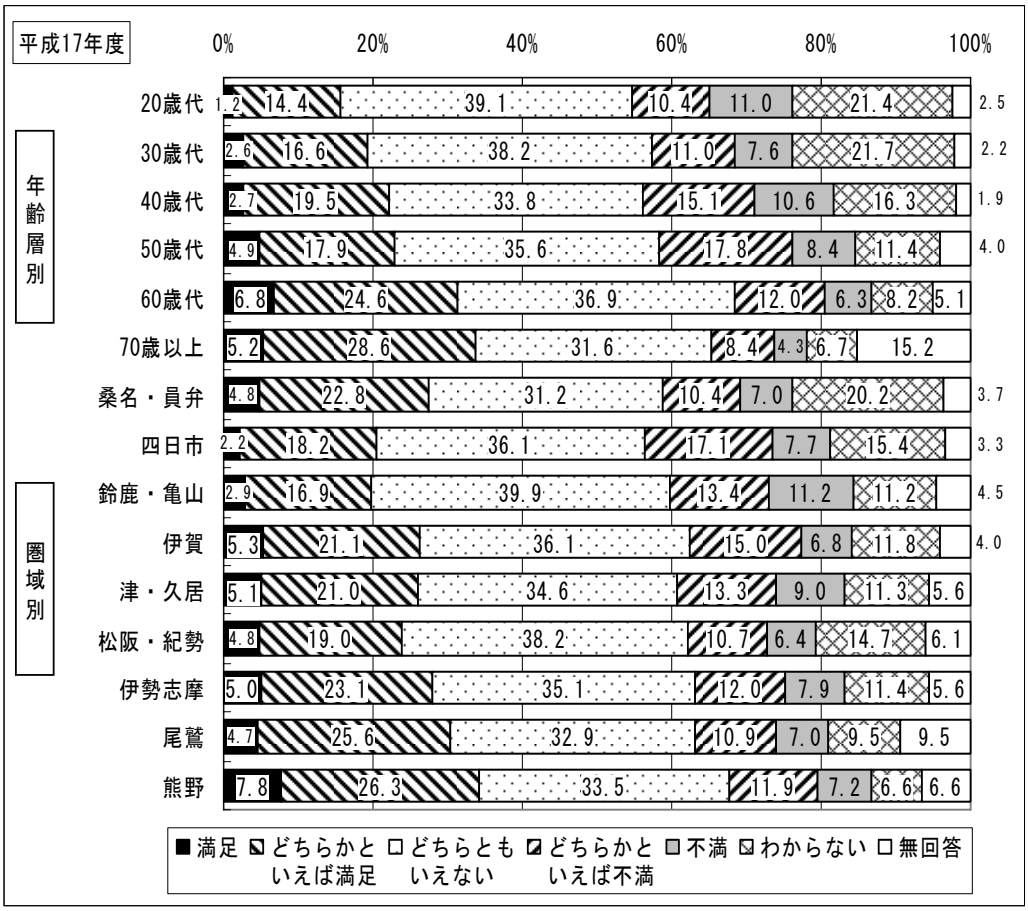
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

19）福祉サービス

高齢者・障害者の介護、在宅支援などの福祉サービスが利用しやすいこと。



	満足意識	不満意識
平成17年度	24.8	21.3
平成16年度	24.6	21.5



	満足意識	不満意識
20歳代	15.6	21.4
30歳代	19.2	18.6
40歳代	22.2	25.7
50歳代	22.8	26.2
60歳代	31.4	18.3
70歳以上	33.8	12.7
桑名・員弁	27.6	17.4
四日市	20.4	24.8
鈴鹿・亀山	19.8	24.6
伊賀	26.4	21.8
津・久居	26.1	22.3
松阪・紀勢	23.8	17.1
伊勢志摩	28.1	19.9
尾鷲	30.3	17.9
熊野	34.1	19.1

＜平成 17 年度＞

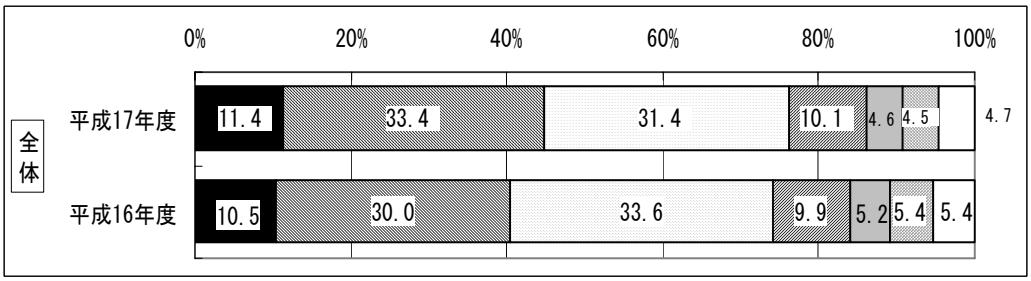
- 年齢層別の満足意識は、年齢が上がるに従って高くなっている。
- 圏域別の不満意識は、四日市（24.8%）が最も高く、松阪・紀勢（17.1%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

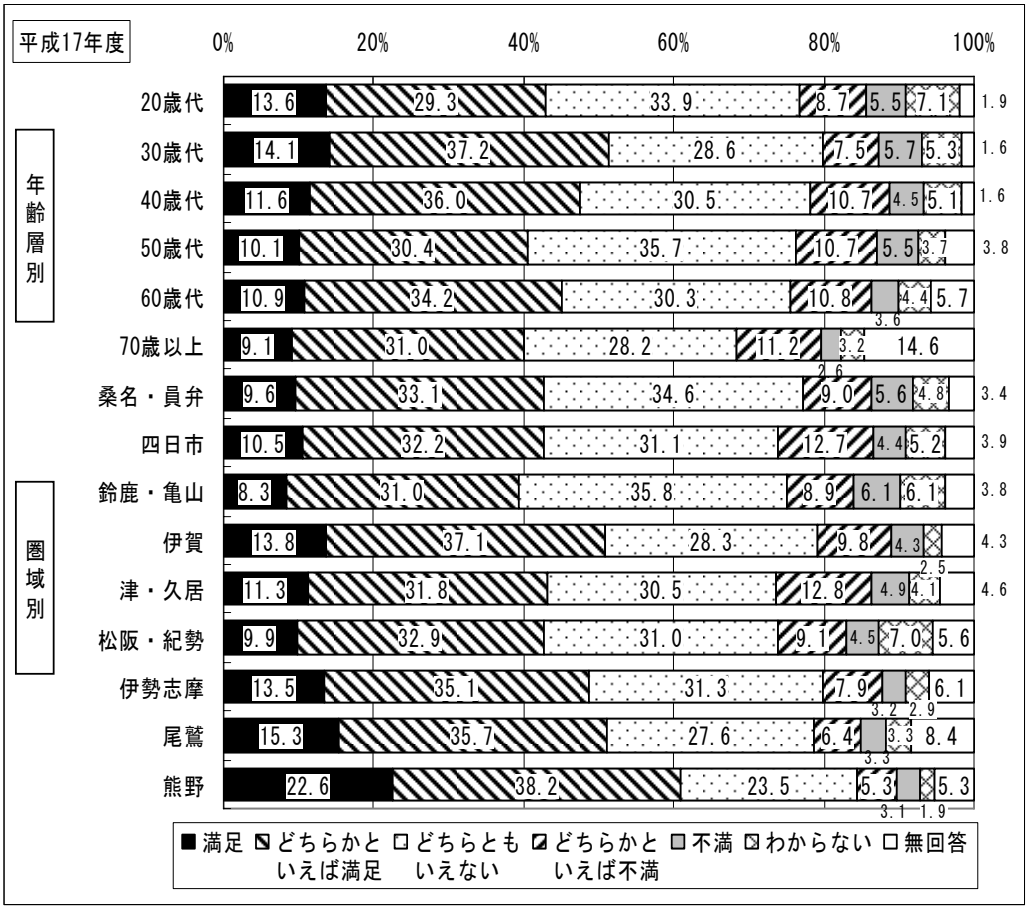
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

20）自然環境との共生

身近に触れあうことのできる豊かな自然環境があること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	44.8	14.7
平成16年度	40.5	15.1



	満足意識	不満意識
20歳代	42.9	14.2
30歳代	51.3	13.2
40歳代	47.6	15.2
50歳代	40.5	16.2
60歳代	45.1	14.4
70歳以上	40.1	13.8
桑名・員弁	42.7	14.6
四日市	42.7	17.1
鈴鹿・亀山	39.3	15.0
伊賀	50.9	14.1
津・久居	43.1	17.7
松阪・紀勢	42.8	13.6
伊勢志摩	48.6	11.1
尾鷲	51.0	9.7
熊野	60.8	8.4

＜平成 17 年度＞

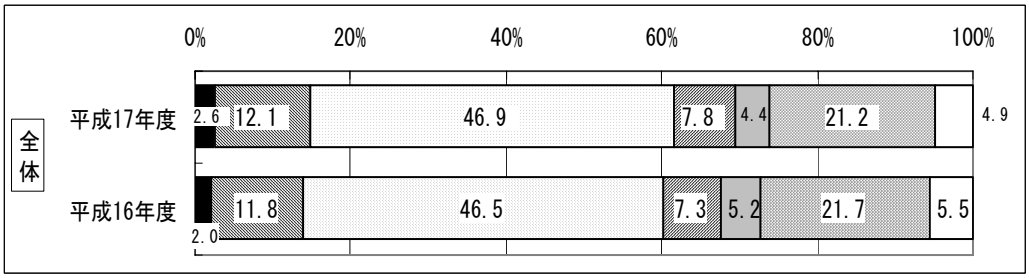
- 全体では、満足意識が 44.8%（第２位）と高くなっている。
- すべての年齢層及び圏域で満足意識が不満意識を上回っている。
- 圏域別の満足意識は、熊野（60.8%）が最も高く、圏域による差が大きくなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

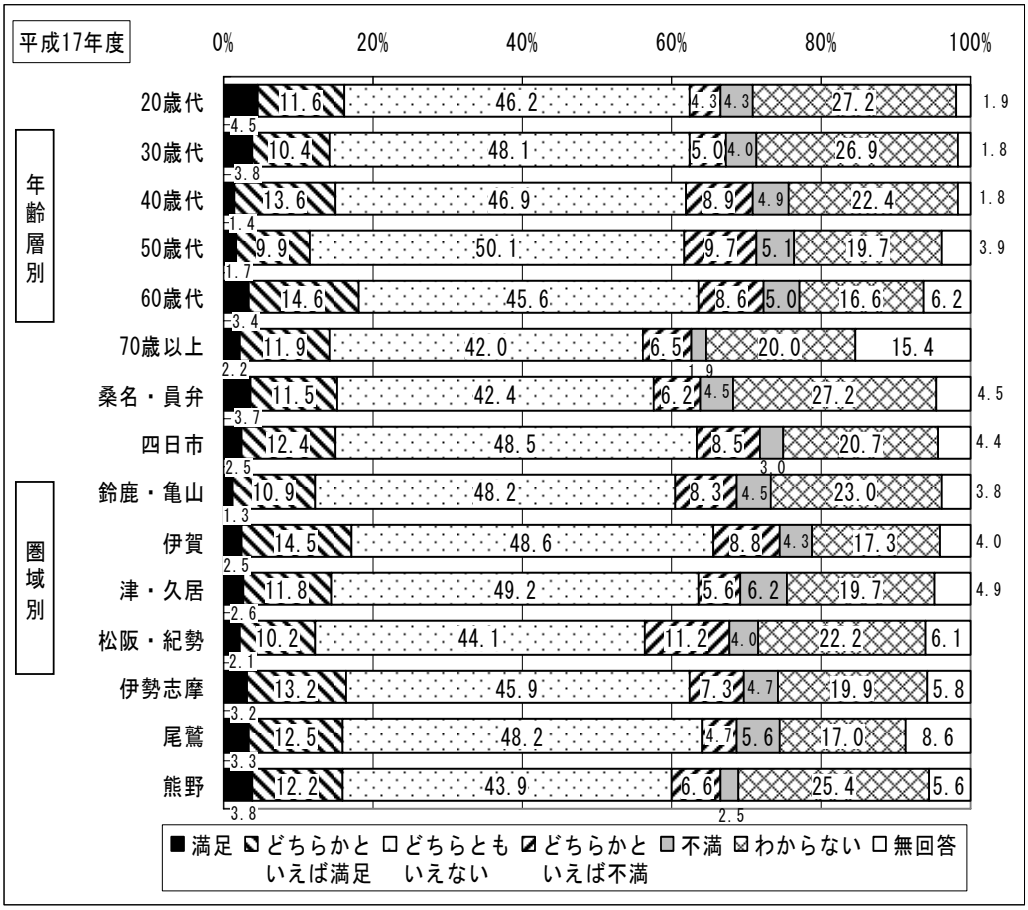
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 4.3 ポイント増加している。

21）希少な生物

希少な野生動物や植物が保護されていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	14.7	12.2
平成16年度	13.8	12.5



	満足意識	不満意識
20歳代	16.1	8.6
30歳代	14.2	9.0
40歳代	15.0	13.8
50歳代	11.6	14.8
60歳代	18.0	13.6
70歳以上	14.1	8.4
桑名・員弁	15.2	10.7
四日市	14.9	11.5
鈴鹿・亀山	12.2	12.8
伊賀	17.0	13.1
津・久居	14.4	11.8
松阪・紀勢	12.3	15.2
伊勢志摩	16.4	12.0
尾鷲	15.8	10.3
熊野	16.0	9.1

＜平成 17 年度＞

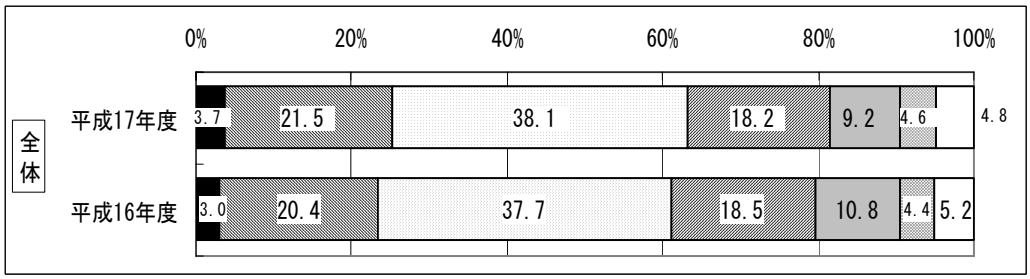
- 年齢層別では、50 歳代の満足意識（11.6%）が最も低く、不満意識（14.8%）は最も高くなっている。
- 圏域別の不満意識は、松阪・紀勢（15.2%）が最も高く、熊野（9.1%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

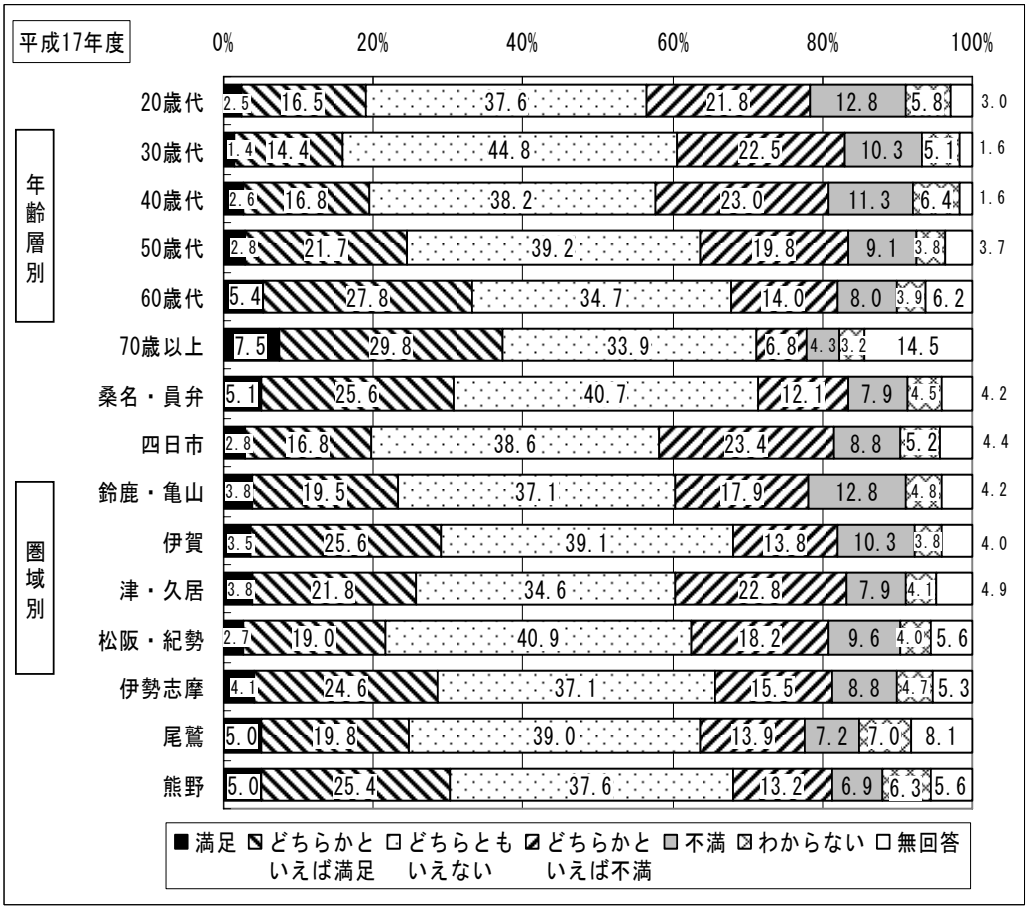
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

22）ごみの減量

職場や家庭から出るゴミが少ないこと。



	満足意識	不満意識
平成17年度	25.2	27.4
平成16年度	23.4	29.3



	満足意識	不満意識
20歳代	19.0	34.6
30歳代	15.8	32.8
40歳代	19.4	34.3
50歳代	24.5	28.9
60歳代	33.2	22.0
70歳以上	37.3	11.1
桑名・員弁	30.7	20.0
四日市	19.6	32.2
鈴鹿・亀山	23.3	30.7
伊賀	29.1	24.1
津・久居	25.6	30.7
松阪・紀勢	21.7	27.8
伊勢志摩	28.7	24.3
尾鷲	24.8	21.1
熊野	30.4	20.1

＜平成 17 年度＞

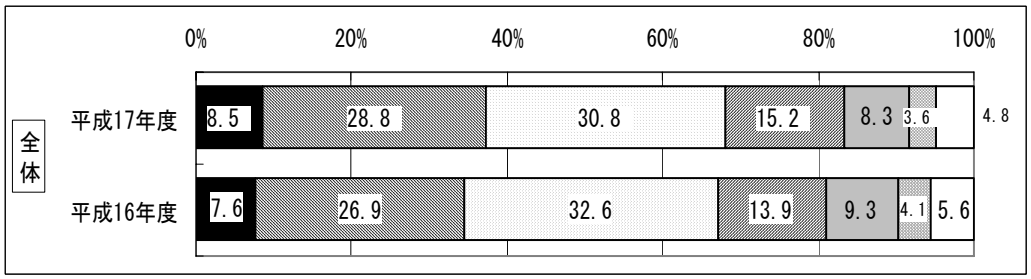
- 年齢層別の不満意識は、20 歳代（34.6%）が最も高く、70 歳以上（11.1%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、四日市（32.2%）が最も高く、桑名・員弁（20.0%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

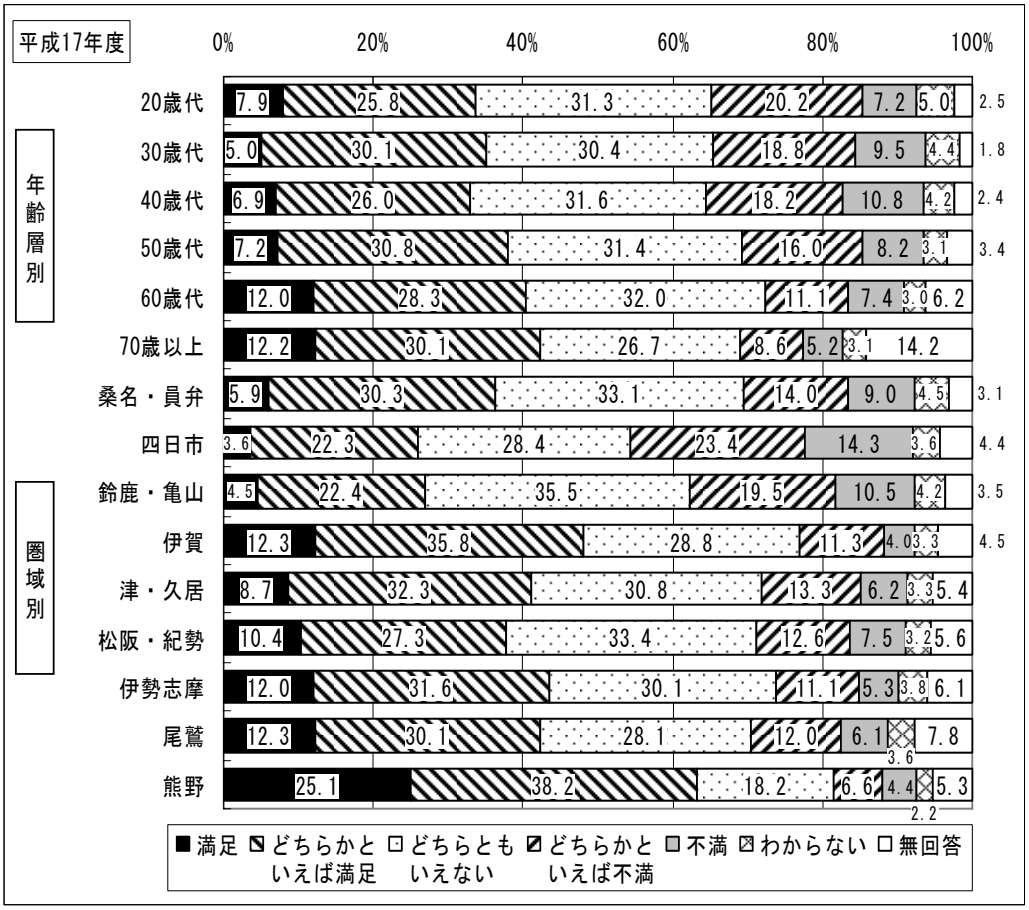
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 1.8 ポイント増加し、不満意識は 1.9 ポイント減少している。

23）きれいな空気

空気が汚染されておらず、きれいであること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	37.3	23.5
平成16年度	34.5	23.2



	満足意識	不満意識
20歳代	33.7	27.4
30歳代	35.1	28.3
40歳代	32.9	29.0
50歳代	38.0	24.2
60歳代	40.3	18.5
70歳以上	42.3	13.8
桑名・員弁	36.2	23.0
四日市	25.9	37.7
鈴鹿・亀山	26.9	30.0
伊賀	48.1	15.3
津・久居	41.0	19.5
松阪・紀勢	37.7	20.1
伊勢志摩	43.6	16.4
尾鷲	42.4	18.1
熊野	63.3	11.0

＜平成 17 年度＞

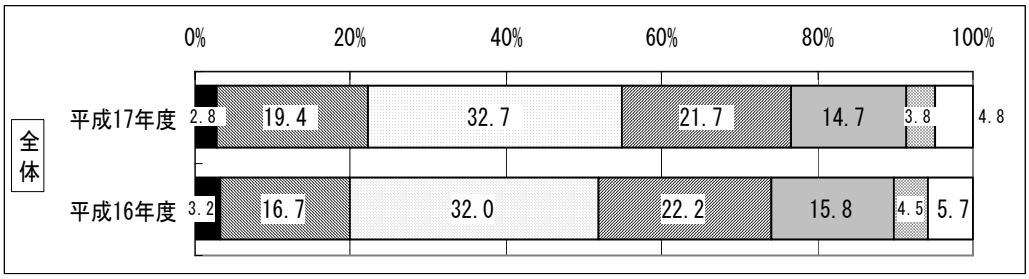
- 年齢層別の不満意識は、40 歳代（29.0%）が最も高く、70 歳以上（13.8%）が最も低くなっている。
- 圏域別の満足意識は、熊野（63.3%）が最も高く、他の圏域との差が大きくなっている。
- 圏域別の不満意識は、四日市（37.7%）が最も高く、熊野（11.0%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

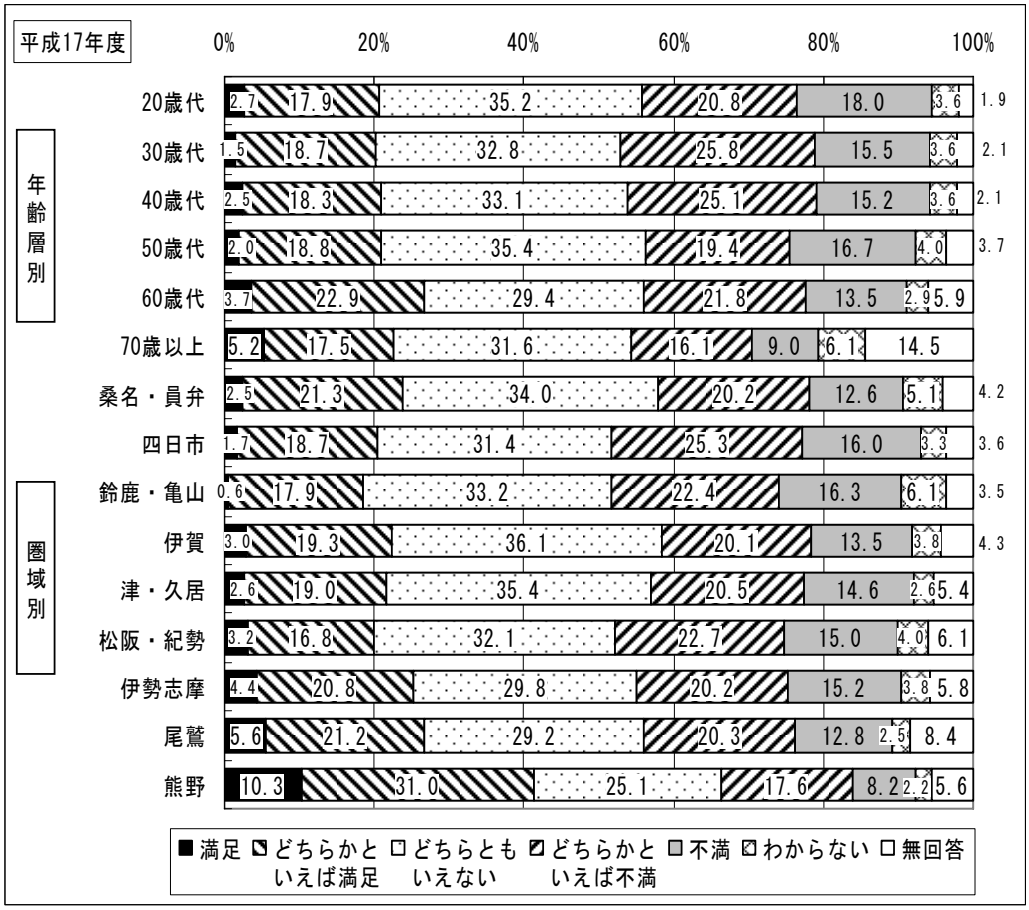
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 2.8 ポイント増加している。

24）川や海の水質

川や海などの水が汚染されておらず、きれいであること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	22.2	36.4
平成16年度	19.9	38.0



	満足意識	不満意識
20歳代	20.6	38.8
30歳代	20.2	41.3
40歳代	20.8	40.3
50歳代	20.8	36.1
60歳代	26.6	35.3
70歳以上	22.7	25.1
桑名・員弁	23.8	32.8
四日市	20.4	41.3
鈴鹿・亀山	18.5	38.7
伊賀	22.3	33.6
津・久居	21.6	35.1
松阪・紀勢	20.0	37.7
伊勢志摩	25.2	35.4
尾鷲	26.8	33.1
熊野	41.3	25.8

＜平成 17 年度＞

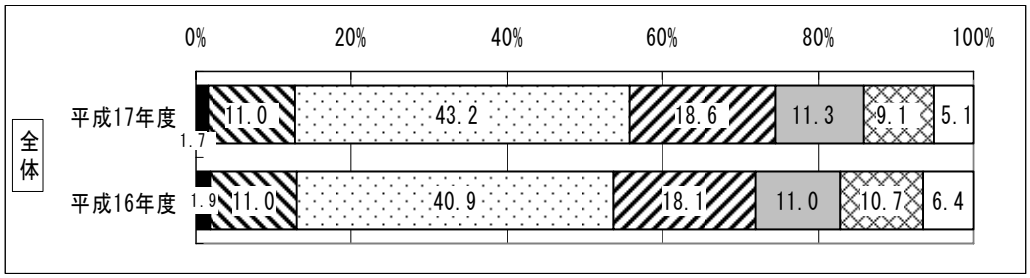
- 年齢層別では、30 歳代（41.3%）をピークに年齢が上がるに従って不満意識が減少している。
- 圏域別の満足意識は、熊野（41.3%）が最も高く、他の圏域との差が大きくなっている。
- 圏域別の不満意識は、四日市（41.3%）が最も高く、熊野（25.8%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

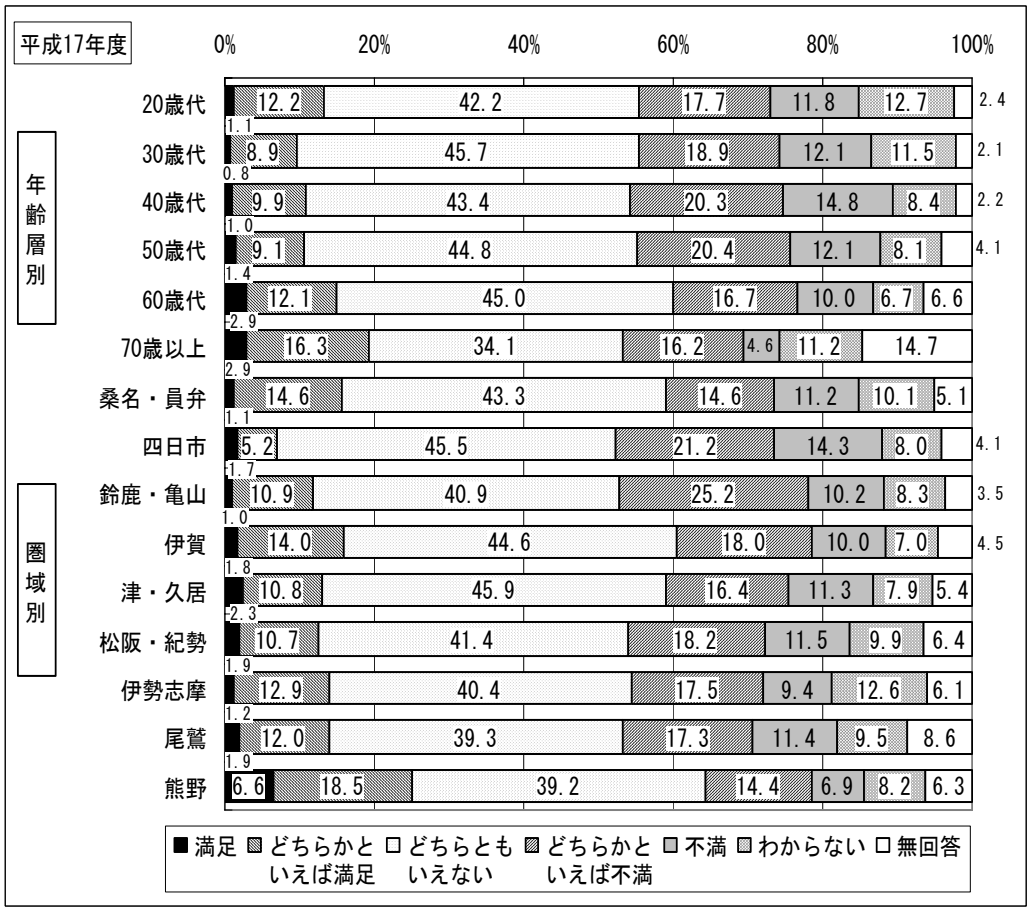
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 2.3 ポイント増加し、不満意識は 1.6 ポイント減少している。

25）地球温暖化防止

温暖化の原因となる二酸化炭素などのガスについて、企業や家庭からの排出が抑えられたり、森林による吸収が高められていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	12.7	29.9
平成16年度	12.9	29.1



	満足意識	不満意識
20歳代	13.3	29.5
30歳代	9.7	31.0
40歳代	10.9	35.1
50歳代	10.5	32.5
60歳代	15.0	26.7
70歳以上	19.2	20.8
桑名・員弁	15.7	25.8
四日市	6.9	35.5
鈴鹿・亀山	11.9	35.4
伊賀	15.8	28.0
津・久居	13.1	27.7
松阪・紀勢	12.6	29.7
伊勢志摩	14.1	26.9
尾鷲	13.9	28.7
熊野	25.1	21.3

＜平成 17 年度＞

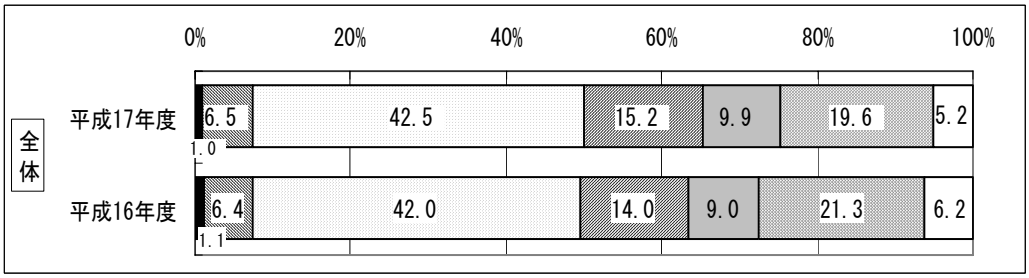
- 年齢層別の不満意識は、40 歳代（35.1%）が最も高く、70 歳以上（20.8%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、四日市（35.5%）が最も高く、次いで鈴鹿・亀山（35.4%）の順となっている。

＜平成 16 年度との比較＞

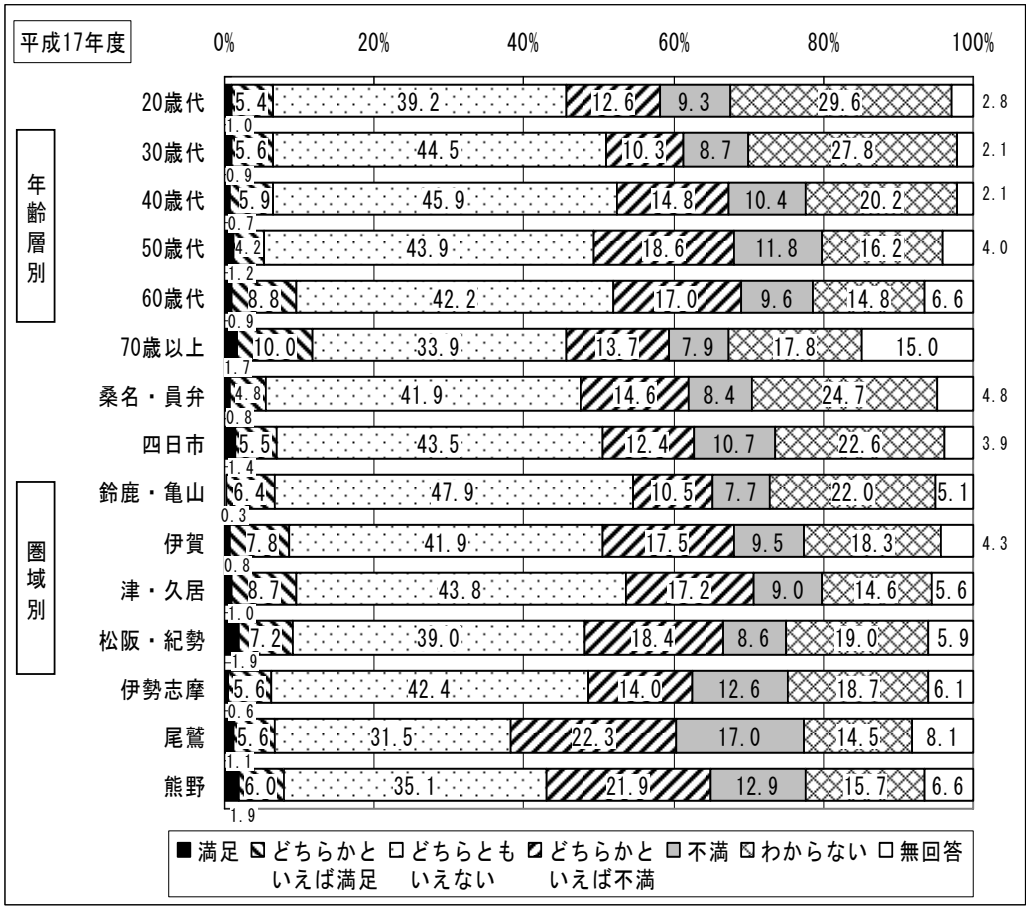
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

26）農林水産業の振興

農林水産業の担い手が育ち、産業として活発であること。



	満足意識	不満意識
全体 平成17年度	7.5	25.1
全体 平成16年度	7.5	23.0



	満足意識	不満意識
20歳代	6.4	21.9
30歳代	6.5	19.0
40歳代	6.6	25.2
50歳代	5.4	30.4
60歳代	9.7	26.6
70歳以上	11.7	21.6
桑名・員弁	5.6	23.0
四日市	6.9	23.1
鈴鹿・亀山	6.7	18.2
伊賀	8.6	27.0
津・久居	9.7	26.2
松阪・紀勢	9.1	27.0
伊勢志摩	6.2	26.6
尾鷲	6.7	39.3
熊野	7.9	34.8

＜平成 17 年度＞

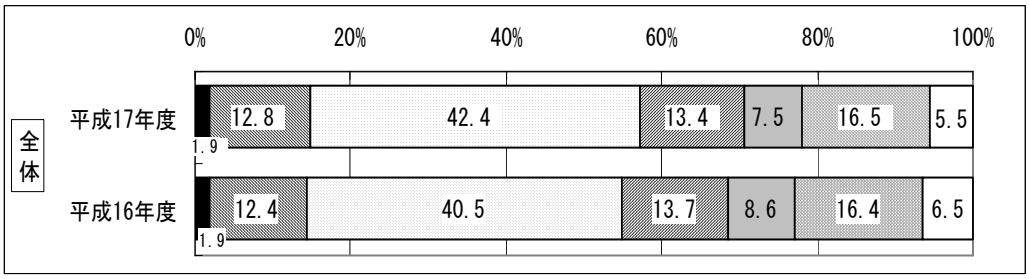
- すべての年齢層及び圏域で不満意識が満足意識を上回っている。
- 年齢層別の不満意識は、50 歳代（30.4%）が最も高く、30 歳代（19.0%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（39.3%）や熊野（34.8%）で高く、鈴鹿・亀山（18.2%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

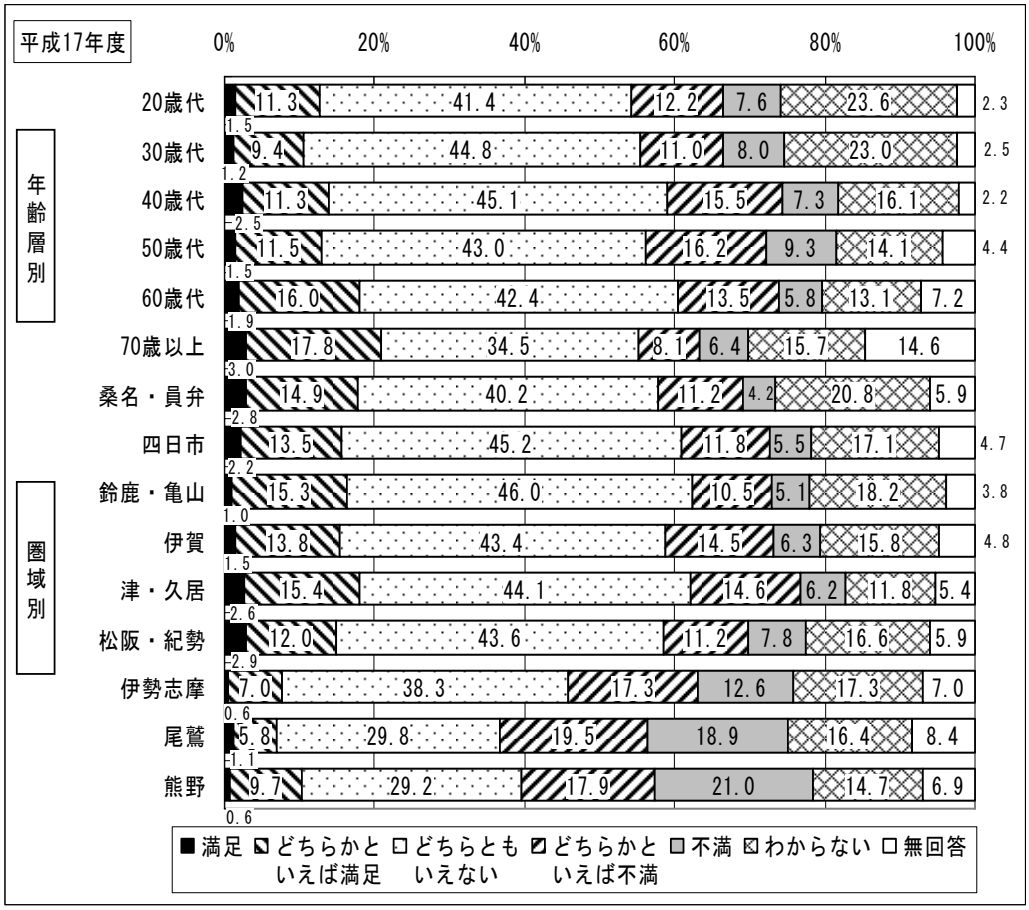
- 全体の不満意識は、16 年度と比べて 2.1 ポイント増加している。

27）産業振興

新しい分野の産業や企業の育成、先端企業の誘致などにより県内産業が活性化していること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	14.7	20.9
平成16年度	14.3	22.3



	満足意識	不満意識
20歳代	12.8	19.8
30歳代	10.6	19.0
40歳代	13.8	22.8
50歳代	13.0	25.5
60歳代	17.9	19.3
70歳以上	20.8	14.5
桑名・員弁	17.7	15.4
四日市	15.7	17.3
鈴鹿・亀山	16.3	15.6
伊賀	15.3	20.8
津・久居	18.0	20.8
松阪・紀勢	14.9	19.0
伊勢志摩	7.6	29.9
尾鷲	6.9	38.4
熊野	10.3	38.9

＜平成 17 年度＞

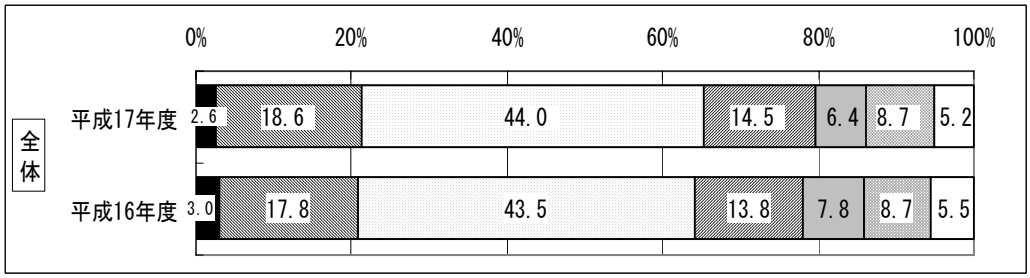
- 年齢層別の不満意識は、50 歳代（25.5%）が最も高く、70 歳以上（14.5%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、熊野（38.9%）が最も高く、次いで尾鷲（38.4%）の順となっている。

＜平成 16 年度との比較＞

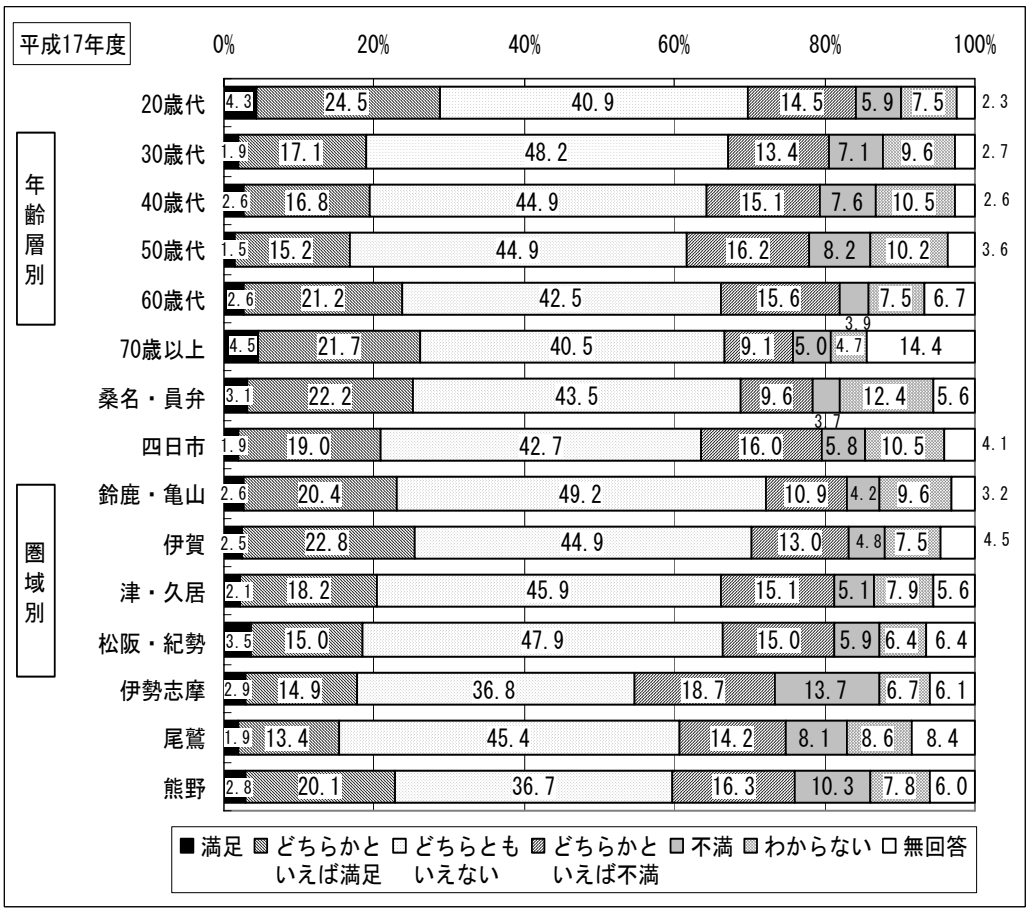
- 全体の不満意識は、16 年度と比べて 1.4 ポイント減少している。

28）観光

地域の名勝や特産品などの観光資源に魅力を感じてたくさんの人が三重県を訪れること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	21.2	20.9
平成16年度	20.8	21.6



	満足意識	不満意識
20歳代	28.8	20.4
30歳代	19.0	20.5
40歳代	19.4	22.7
50歳代	16.7	24.4
60歳代	23.8	19.5
70歳以上	26.2	14.1
桑名・員弁	25.3	13.3
四日市	20.9	21.8
鈴鹿・亀山	23.0	15.1
伊賀	25.3	17.8
津・久居	20.3	20.2
松阪・紀勢	18.5	20.9
伊勢志摩	17.8	32.4
尾鷲	15.3	22.3
熊野	22.9	26.6

＜平成 17 年度＞

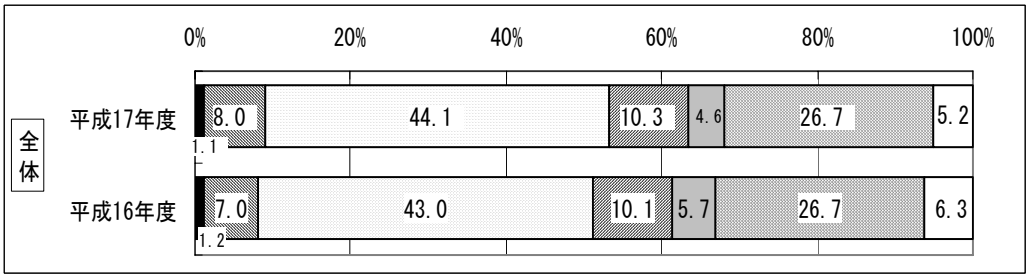
- 年齢層別の不満意識は、50 歳代（24.4%）が最も高く、70 歳以上（14.1%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、伊勢志摩（32.4%）が最も高く、桑名・員弁（13.3%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

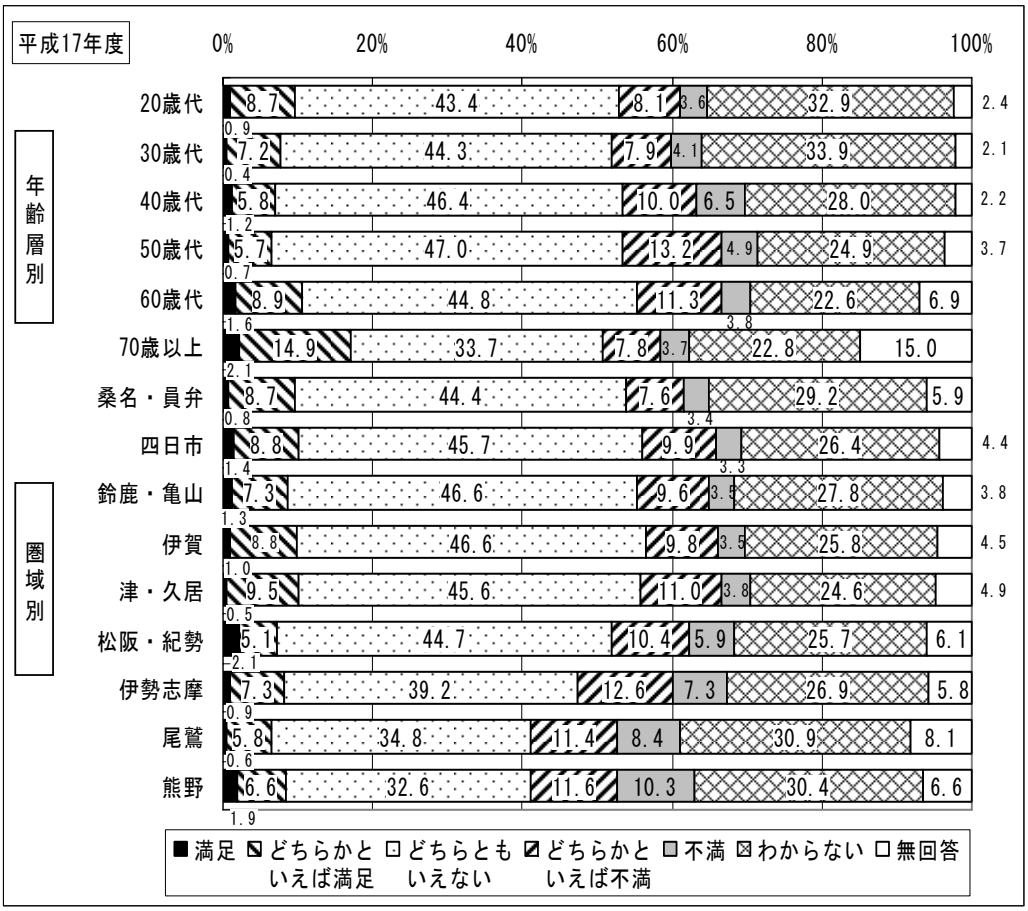
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

29）技術開発

県内産業の発展のため、様々な分野での研究開発が進んでいること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	9.1	14.9
平成16年度	8.2	15.8



	満足意識	不満意識
20歳代	9.6	11.7
30歳代	7.6	12.0
40歳代	7.0	16.5
50歳代	6.4	18.1
60歳代	10.5	15.1
70歳以上	17.0	11.5
桑名・員弁	9.5	11.0
四日市	10.2	13.2
鈴鹿・亀山	8.6	13.1
伊賀	9.8	13.3
津・久居	10.0	14.8
松阪・紀勢	7.2	16.3
伊勢志摩	8.2	19.9
尾鷲	6.4	19.8
熊野	8.5	21.9

＜平成 17 年度＞

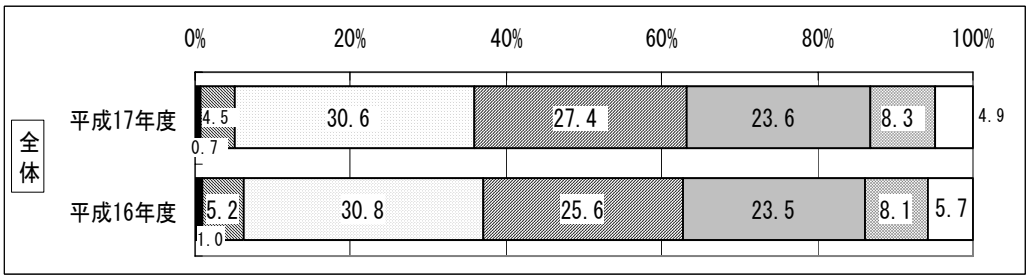
- 全体では、「どちらともいえない」（44.1%）と「わからない」（26.7%）を合わせると 70.8%と高くなっている。
- 年齢層別では、70 歳以上の満足意識（17.0%）が最も高く、不満意識（11.5%）は最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、熊野（21.9%）が最も高く、次いで伊勢志摩（19.9%）、尾鷲（19.8%）の順となっている。

＜平成 16 年度との比較＞

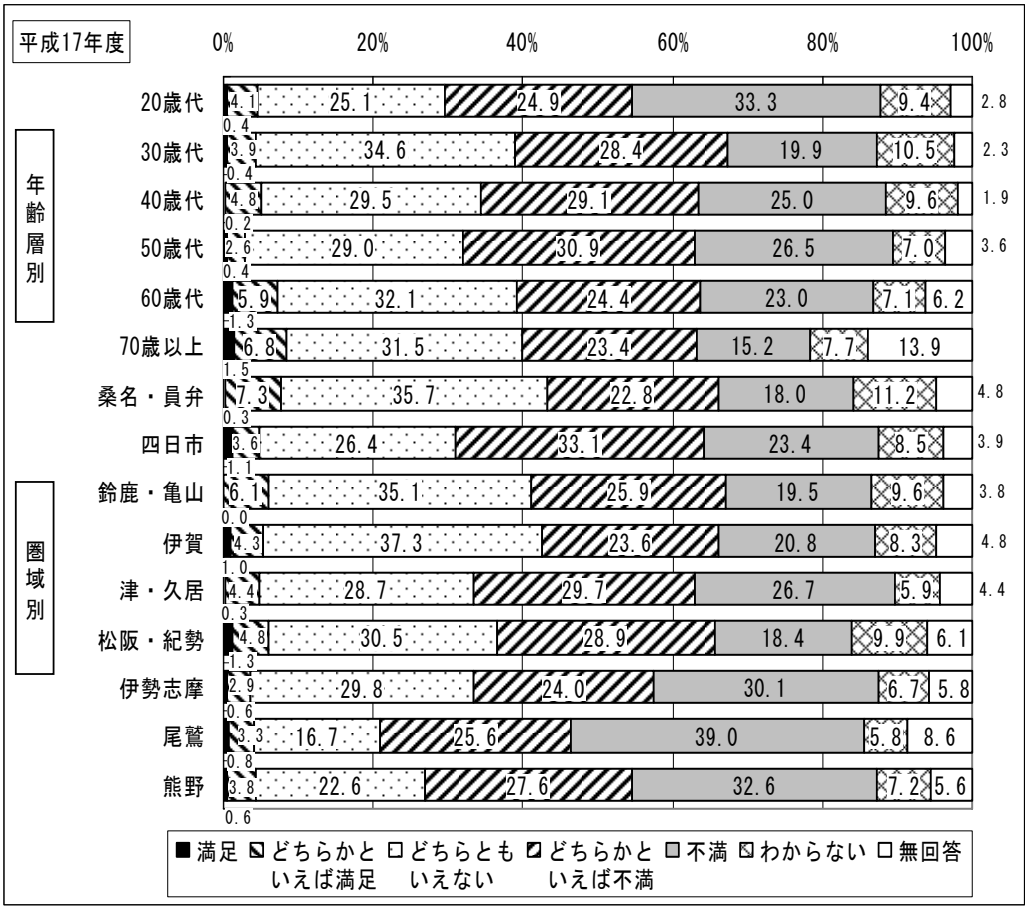
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

30）地域商工業

地域の中小企業や商店街が活気に満ちていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	5.2	51.0
平成16年度	6.2	49.1



	満足意識	不満意識
20歳代	4.5	58.2
30歳代	4.3	48.3
40歳代	5.0	54.1
50歳代	3.0	57.4
60歳代	7.2	47.4
70歳以上	8.3	38.6
桑名・員弁	7.6	40.8
四日市	4.7	56.5
鈴鹿・亀山	6.1	45.4
伊賀	5.3	44.4
津・久居	4.7	56.4
松阪・紀勢	6.1	47.3
伊勢志摩	3.5	54.1
尾鷲	4.1	64.6
熊野	4.4	60.2

＜平成 17 年度＞

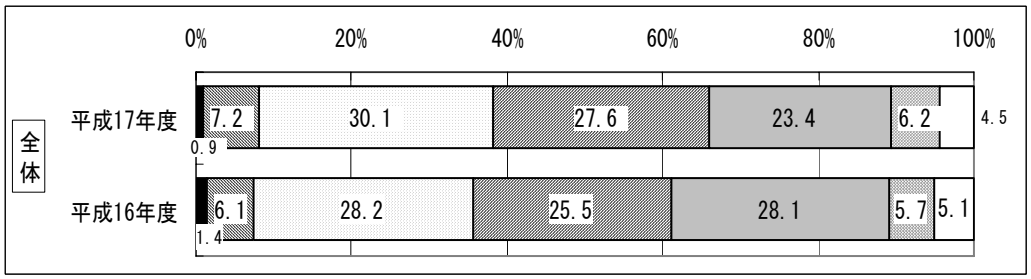
- 全体では、31）雇用と並んで、不満意識が 51.0%（第１位）と最も高くなっている。
- すべての年齢層及び圏域で不満意識が満足意識を上回っている。
- 年齢層別の不満意識は、20 歳代（58.2%）が最も高く、70 歳以上（38.6%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（64.6%）が最も高く、桑名・員弁（40.8%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

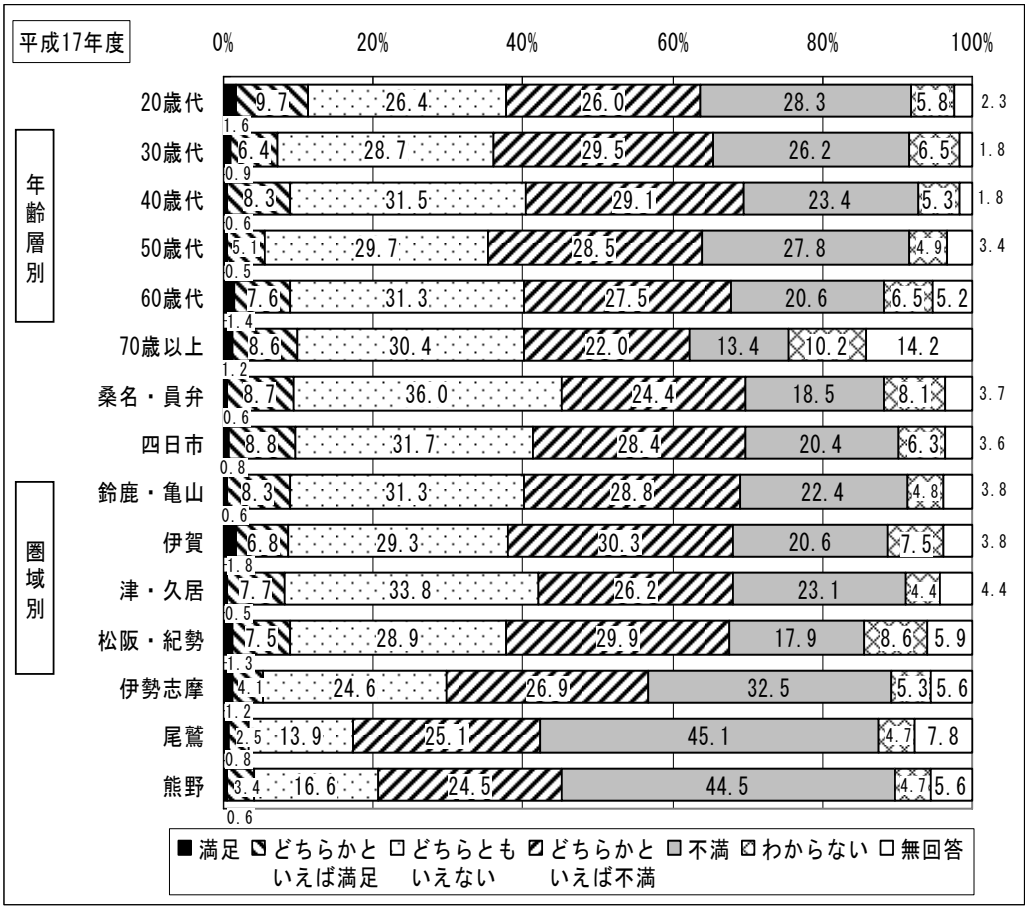
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 1.0 ポイント減少し、不満意識は 1.9 ポイント増加している。

31）雇用

働く意欲のある人にいきいきと働ける場が確保されていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	8.1	51.0
平成16年度	7.5	53.6



	満足意識	不満意識
20歳代	11.3	54.3
30歳代	7.3	55.7
40歳代	8.9	52.5
50歳代	5.6	56.3
60歳代	9.0	48.1
70歳以上	9.8	35.4
桑名・員弁	9.3	42.9
四日市	9.6	48.8
鈴鹿・亀山	8.9	51.2
伊賀	8.6	50.9
津・久居	8.2	49.3
松阪・紀勢	8.8	47.8
伊勢志摩	5.3	59.4
尾鷲	3.3	70.2
熊野	4.0	69.0

＜平成 17 年度＞

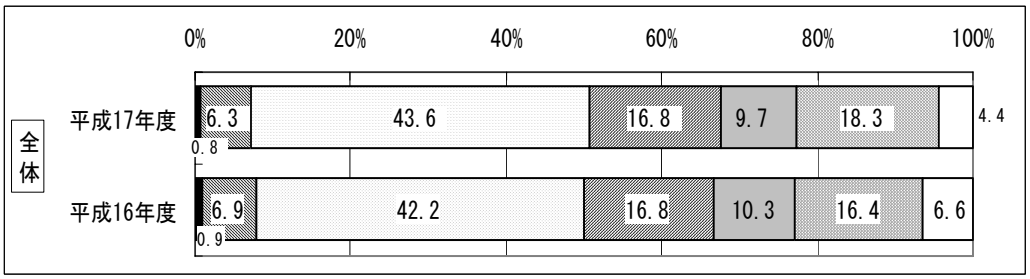
- 全体では、30）地域商工業と並んで、不満意識が 51.0%（第１位）と最も高くなっている。
- すべての年齢層及び圏域で不満意識が満足意識を上回っている。
- 年齢層別の不満意識は、50 歳代以下が５割を超え高くなっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（70.2%）、熊野（69.0%）で高くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

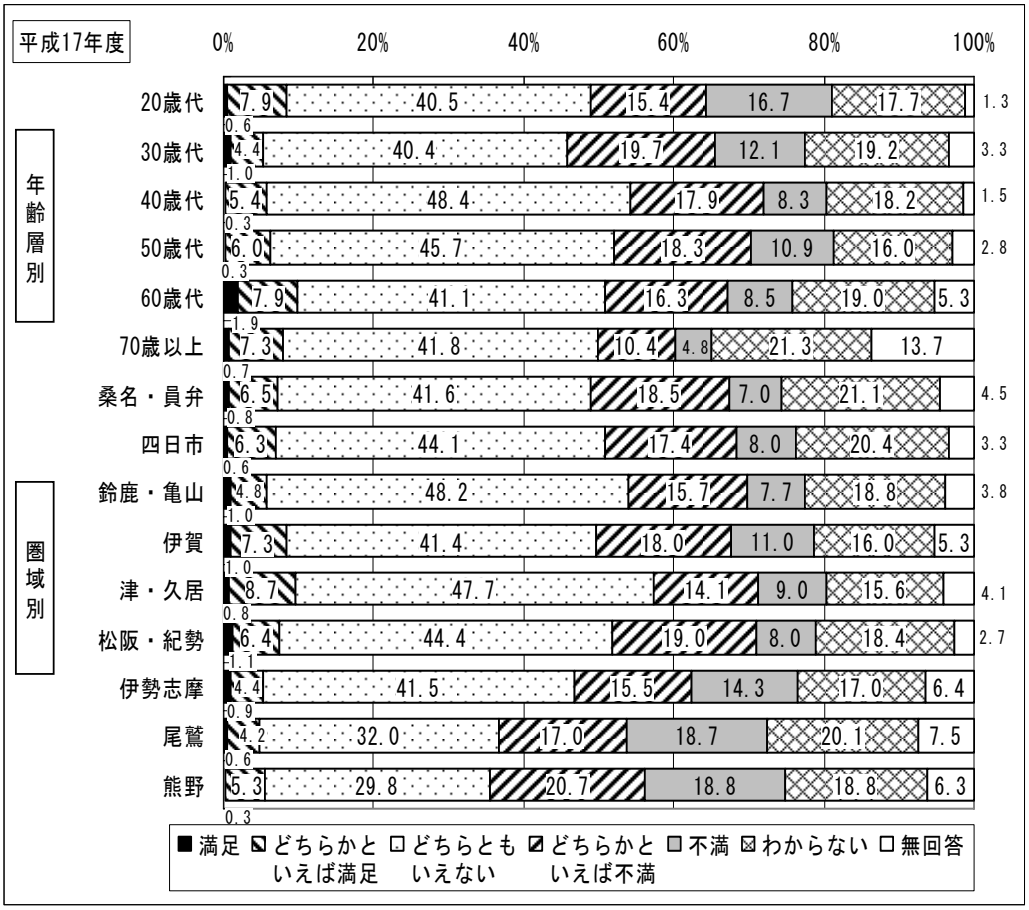
- 全体の不満意識は、16 年度と比べて 2.6 ポイント減少している。

32）職業能力開発

社会の変化に対応した職業能力を身につける機会が確保されていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	7.1	26.5
平成16年度	7.8	27.1



	満足意識	不満意識
20歳代	8.5	32.1
30歳代	5.4	31.8
40歳代	5.7	26.2
50歳代	6.3	29.2
60歳代	9.8	24.8
70歳以上	8.0	15.2
桑名・員弁	7.3	25.5
四日市	6.9	25.4
鈴鹿・亀山	5.8	23.4
伊賀	8.3	29.0
津・久居	9.5	23.1
松阪・紀勢	7.5	27.0
伊勢志摩	5.3	29.8
尾鷲	4.8	35.7
熊野	5.6	39.5

＜平成 17 年度＞

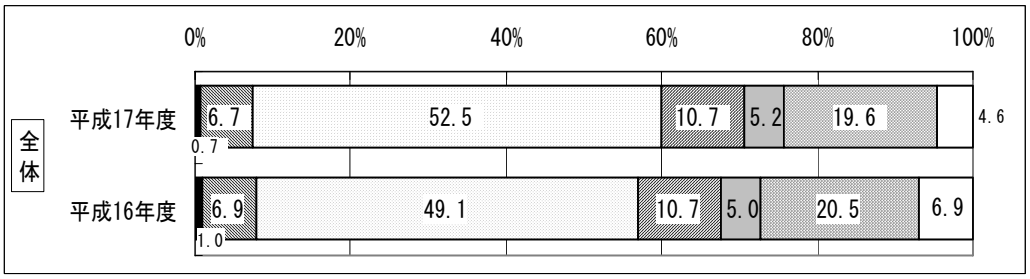
- すべての年齢層及び圏域で不満意識が満足意識を上回っている。
- 年齢層別の不満意識は、20 歳代（32.1%）が最も高く、70 歳以上（15.2%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、熊野（39.5%）が最も高く、次いで尾鷲（35.7%）の順となっている。

＜平成 16 年度との比較＞

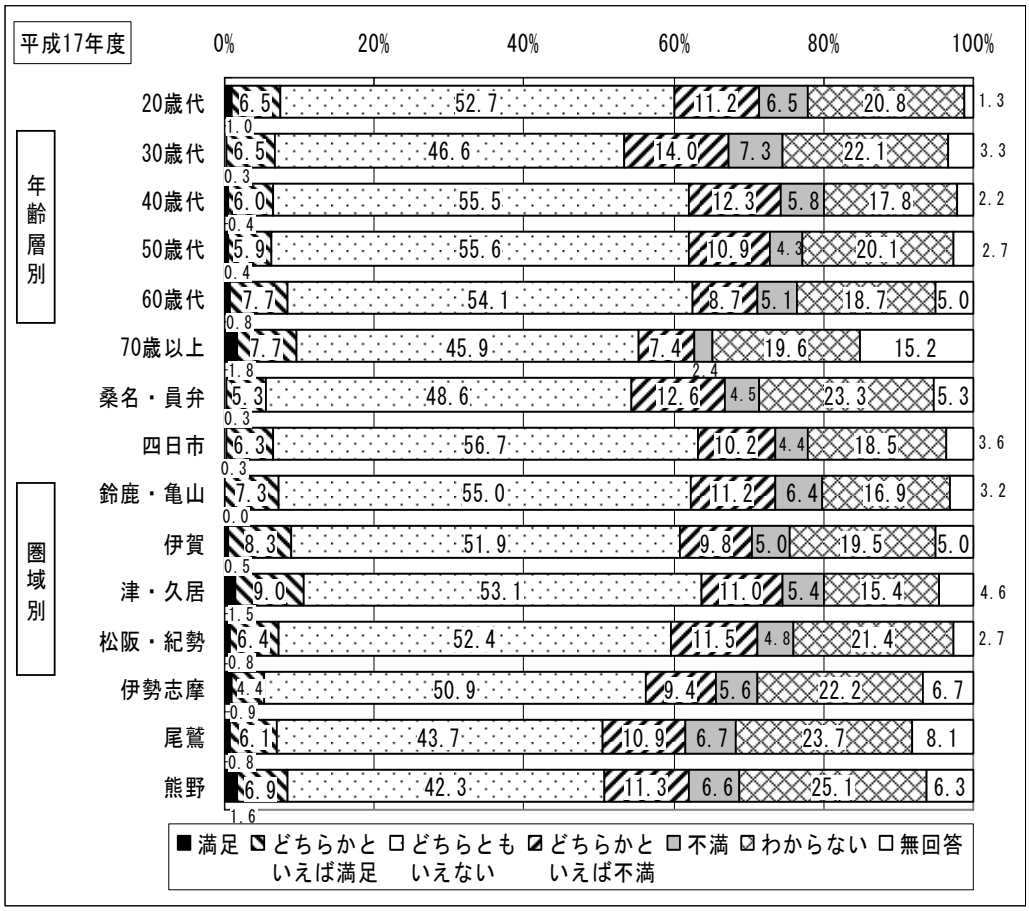
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

33）国際化

様々な国の人々と互いに理解し合いながら、交流、共生できること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	7.4	15.9
平成16年度	7.9	15.7



	満足意識	不満意識
20歳代	7.5	17.7
30歳代	6.8	21.3
40歳代	6.4	18.1
50歳代	6.3	15.2
60歳代	8.5	13.8
70歳以上	9.5	9.8
桑名・員弁	5.6	17.1
四日市	6.6	14.6
鈴鹿・亀山	7.3	17.6
伊賀	8.8	14.8
津・久居	10.5	16.4
松阪・紀勢	7.2	16.3
伊勢志摩	5.3	15.0
尾鷲	6.9	17.6
熊野	8.5	17.9

＜平成 17 年度＞

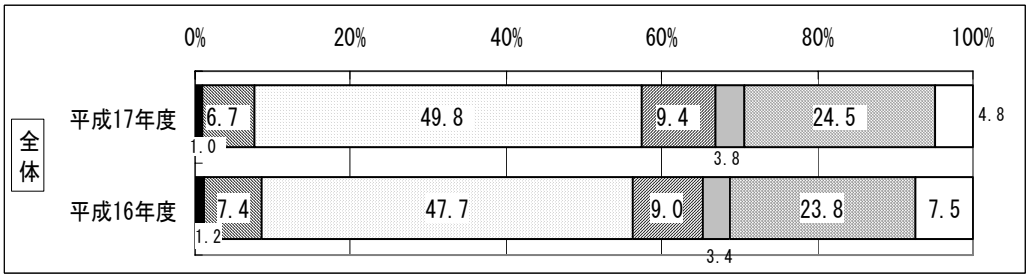
- 全体では、「どちらともいえない」（52.5%）と「わからない」（19.6%）を合わせると 72.1%と高くなっている。
- 年齢層別では、不満意識は 30 歳代（21.3%）をピークに年齢が上がるに従って減少している。
- 圏域別による大きな意識の差はみられない。

＜平成 16 年度との比較＞

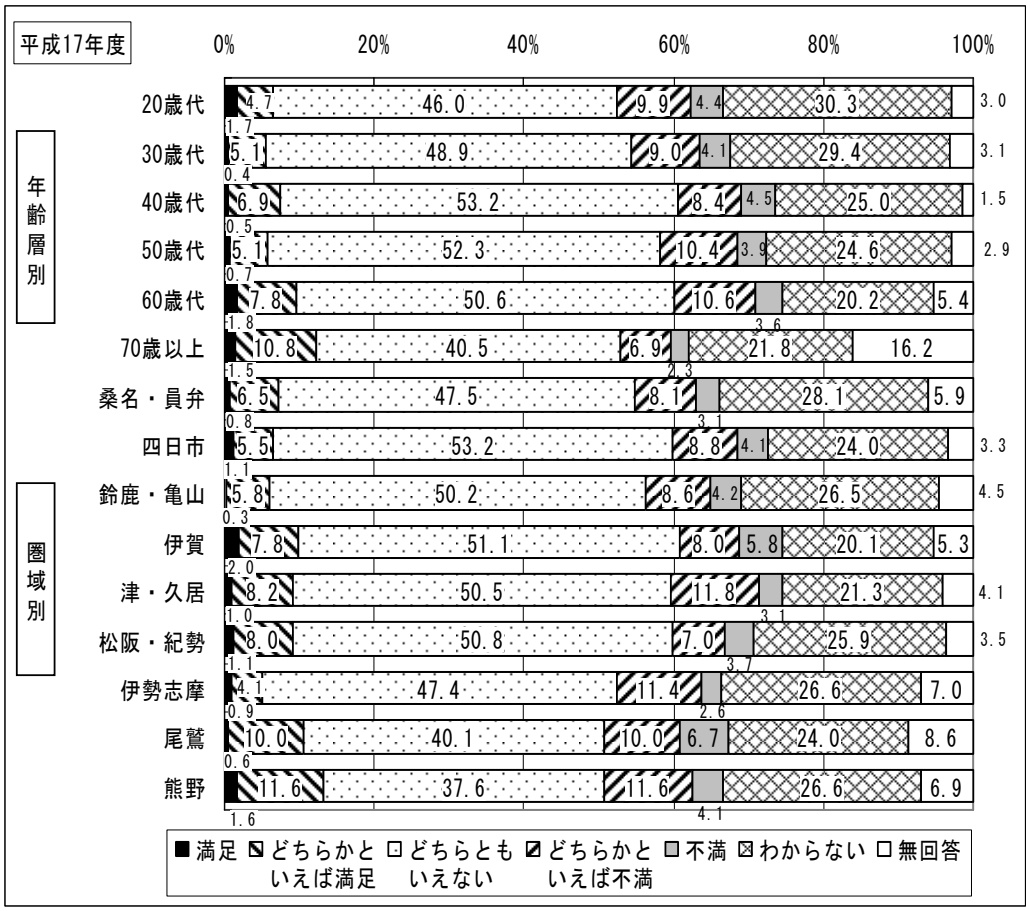
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

34）広域交流・連携

環境や防災など近隣府県等と共同で取り組むことが効果的な分野において、県境を越えた様々な交流・連携が行われていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	7.7	13.2
平成16年度	8.6	12.4



	満足意識	不満意識
20歳代	6.4	14.3
30歳代	5.5	13.1
40歳代	7.4	12.9
50歳代	5.8	14.3
60歳代	9.6	14.2
70歳以上	12.3	9.2
桑名・員弁	7.3	11.2
四日市	6.6	12.9
鈴鹿・亀山	6.1	12.8
伊賀	9.8	13.8
津・久居	9.2	14.9
松阪・紀勢	9.1	10.7
伊勢志摩	5.0	14.0
尾鷲	10.6	16.7
熊野	13.2	15.7

＜平成 17 年度＞

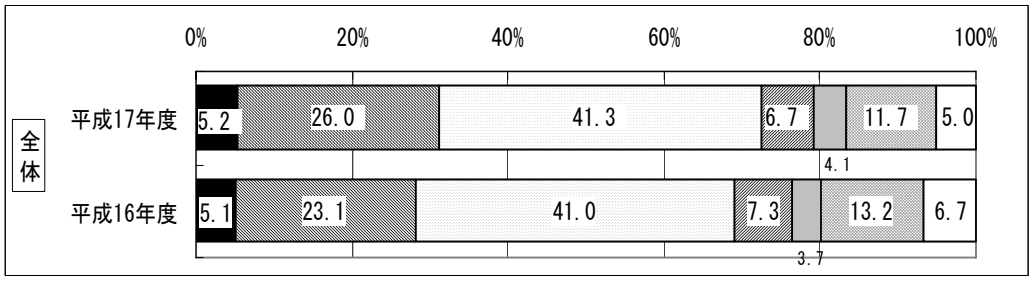
- 全体では、「どちらともいえない」（49.8%）と「わからない」（24.5%）を合わせると 74.3%と高くなっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（16.7%）が最も高く、松阪・紀勢（10.7%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

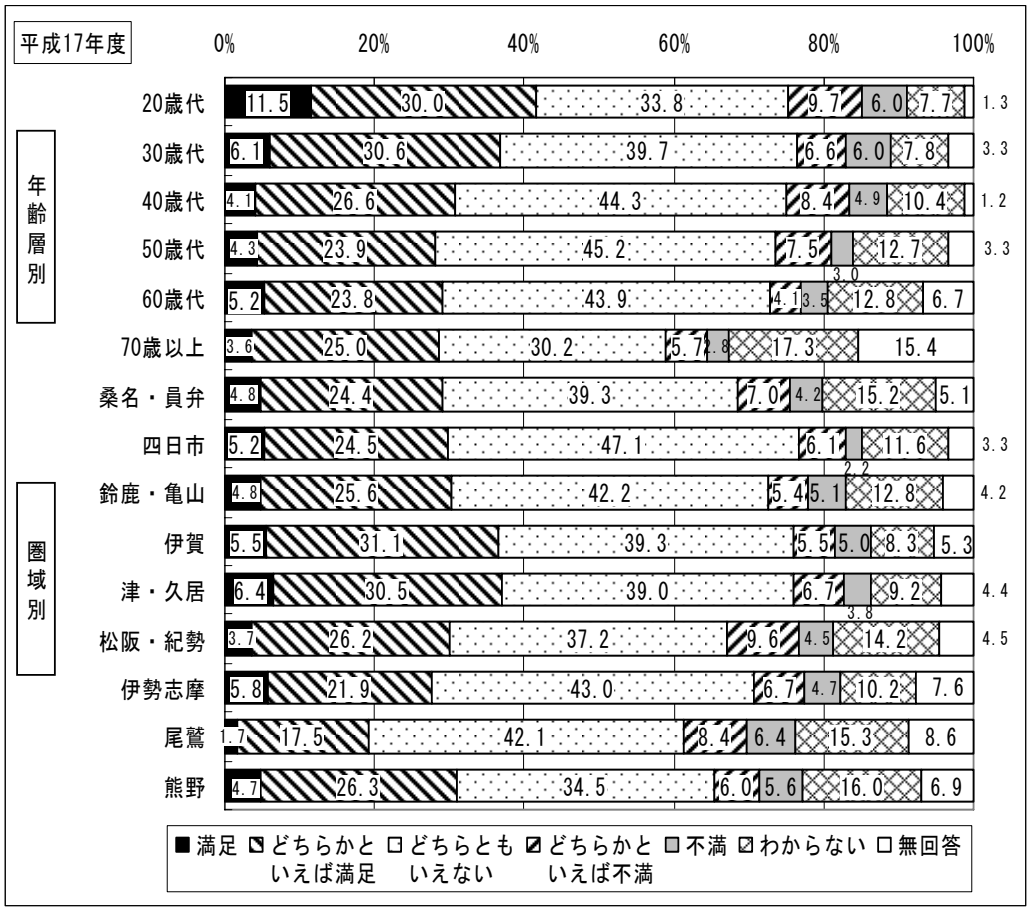
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

35）情報ネットワーク

ケーブルテレビ網やインターネットなどを利用して様々な情報を得ることができること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	31.2	10.8
平成16年度	28.2	11.0



	満足意識	不満意識
20歳代	41.5	15.7
30歳代	36.7	12.6
40歳代	30.7	13.3
50歳代	28.2	10.5
60歳代	29.0	7.6
70歳以上	28.6	8.5
桑名・員弁	29.2	11.2
四日市	29.7	8.3
鈴鹿・亀山	30.4	10.5
伊賀	36.6	10.5
津・久居	36.9	10.5
松阪・紀勢	29.9	14.1
伊勢志摩	27.7	11.4
尾鷲	19.2	14.8
熊野	31.0	11.6

＜平成 17 年度＞

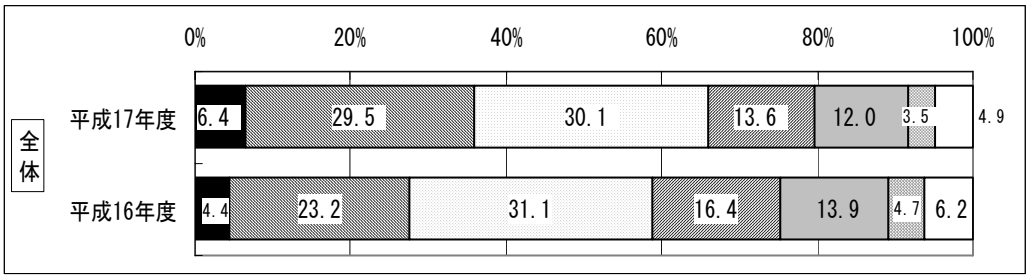
- すべての年齢層及び圏域で満足意識が不満意識を上回っている。
- 年齢層別の満足意識は、20 歳代（41.5%）、30 歳代（36.7%）が高くなっている。
- 圏域別の満足意識は、津・久居（36.9%）、伊賀（36.6%）が高くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

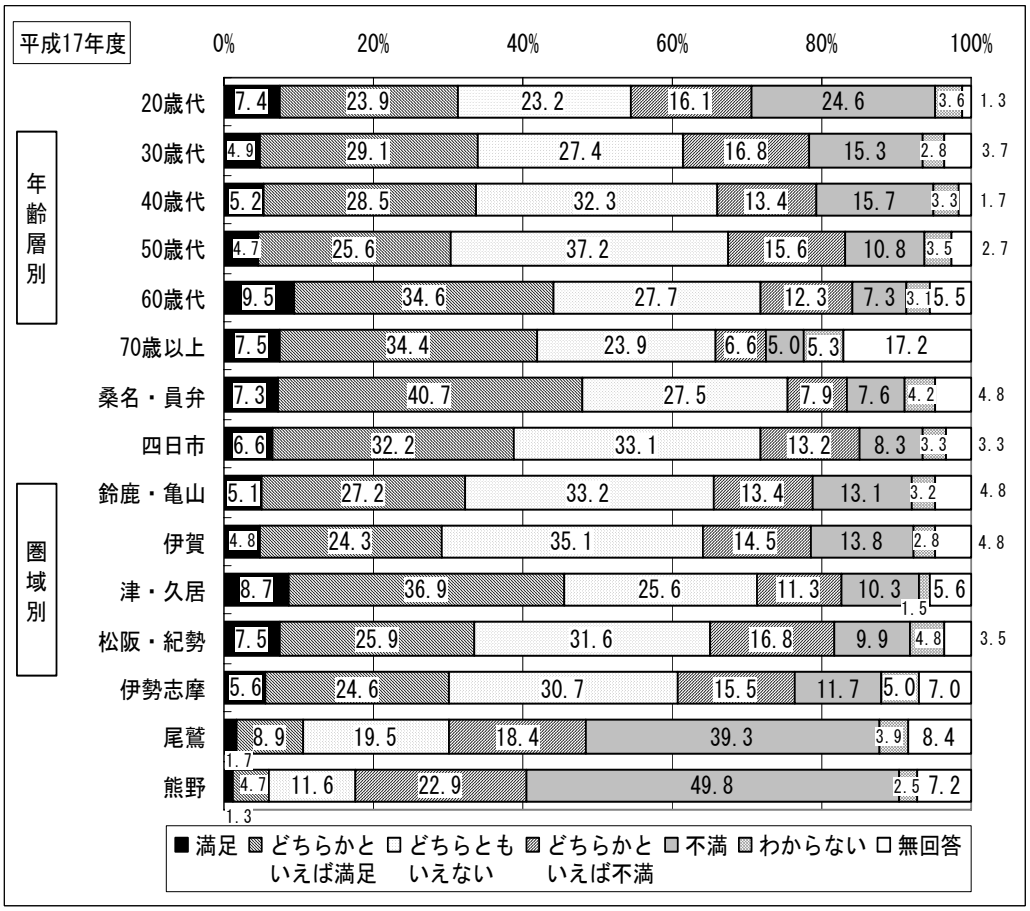
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 3.0 ポイント増加している。

36）高速交通網

空港、新幹線、高速道路などの高速交通機関が利用しやすくなり、遠くの地域へ短時間で移動できること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	35.9	25.6
平成16年度	27.6	30.3



	満足意識	不満意識
20歳代	31.3	40.7
30歳代	34.0	32.1
40歳代	33.7	29.1
50歳代	30.3	26.4
60歳代	44.1	19.6
70歳以上	41.9	11.6
桑名・員弁	48.0	15.5
四日市	38.8	21.5
鈴鹿・亀山	32.3	26.5
伊賀	29.1	28.3
津・久居	45.6	21.6
松阪・紀勢	33.4	26.7
伊勢志摩	30.2	27.2
尾鷲	10.6	57.7
熊野	6.0	72.7

＜平成 17 年度＞

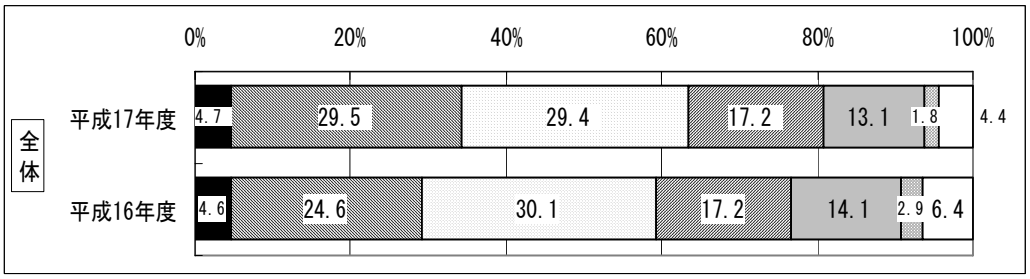
- 年齢層別の不満意識は、20 歳代（40.7%）が最も高く、年齢が上がるに従って減少している。
- 圏域別の不満意識は、熊野（72.7%）、尾鷲（57.7%）が特に高く、圏域による差が大きくなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

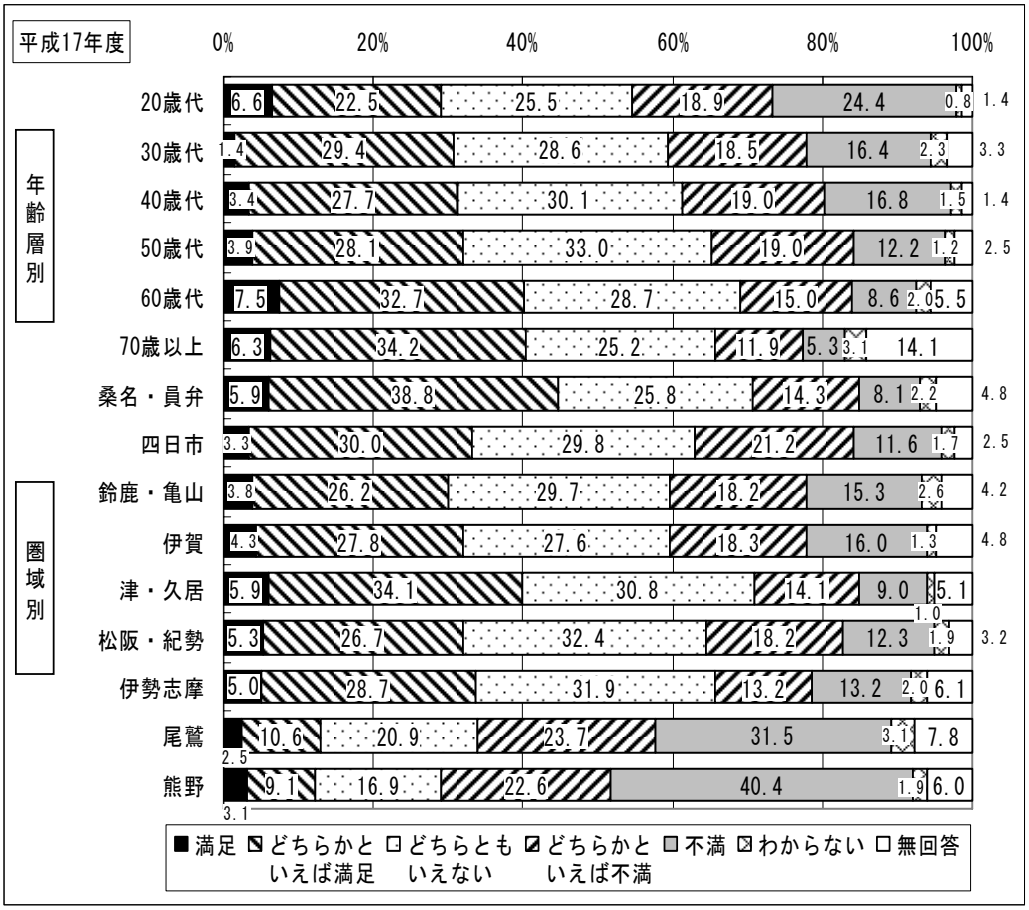
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 8.3 ポイント増加し、不満意識は 4.7 ポイント減少している。

37）道路の整備

道路が整備され、快適に移動できること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	34.2	30.3
平成16年度	29.2	31.3



	満足意識	不満意識
20歳代	29.1	43.3
30歳代	30.8	34.9
40歳代	31.1	35.8
50歳代	32.0	31.2
60歳代	40.2	23.6
70歳以上	40.5	17.2
桑名・員弁	44.7	22.4
四日市	33.3	32.8
鈴鹿・亀山	30.0	33.5
伊賀	32.1	34.3
津・久居	40.0	23.1
松阪・紀勢	32.0	30.5
伊勢志摩	33.7	26.4
尾鷲	13.1	55.2
熊野	12.2	63.0

＜平成 17 年度＞

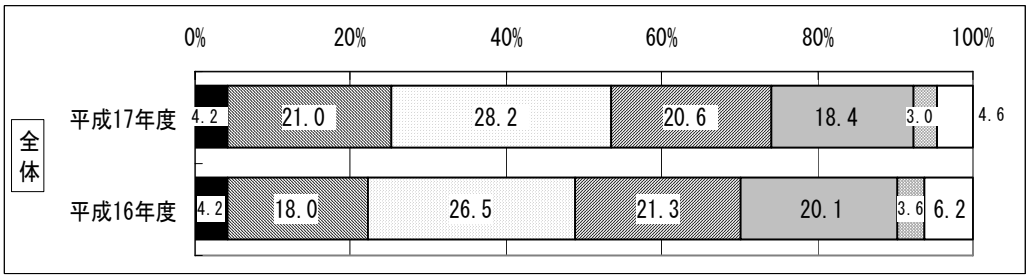
- 年齢層別の不満意識は、20 歳代（43.3%）が最も高く、年齢が上がるに従って低くなる傾向が見られる。
- 圏域別の不満意識は、熊野（63.0%）、尾鷲（55.2%）が特に高く、圏域による差が大きくなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

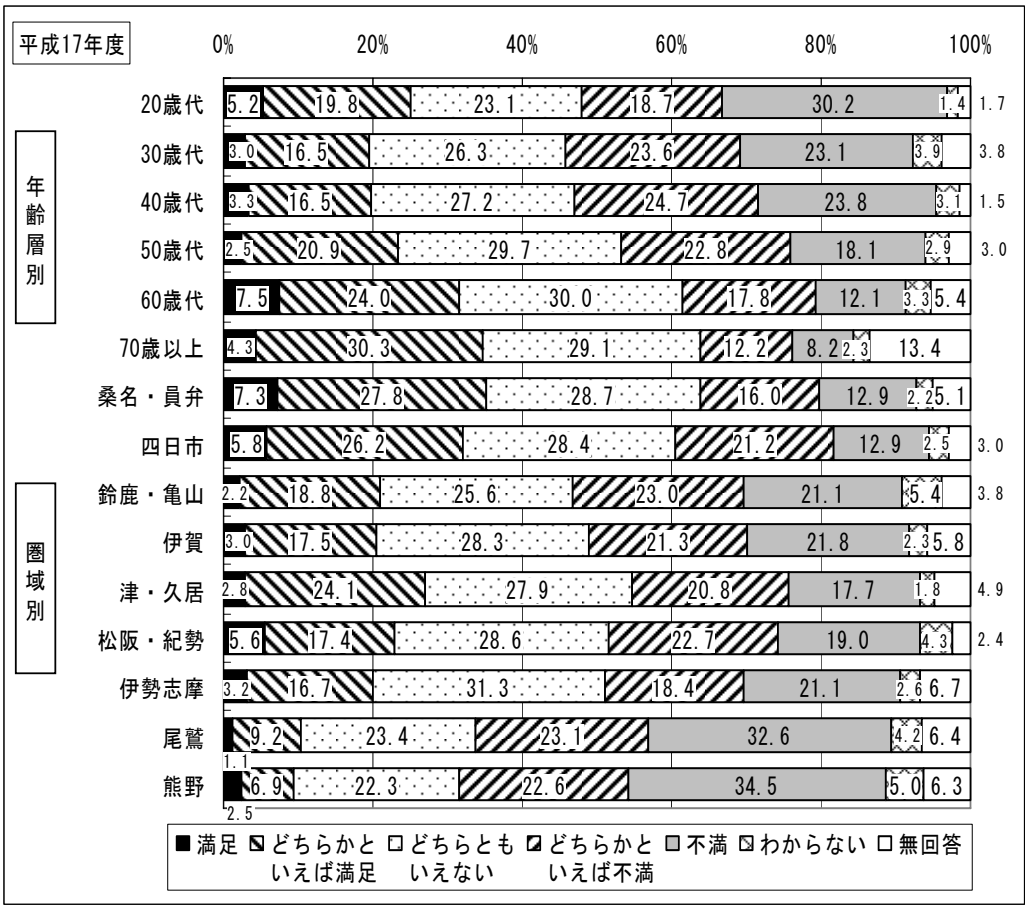
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 5.0 ポイント増加し、不満意識は 1.0 ポイント減少している。

38）公共交通機関

バス、鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと。



	満足意識	不満意識
平成17年度	25.2	39.0
平成16年度	22.2	41.4



	満足意識	不満意識
20歳代	25.0	48.9
30歳代	19.5	46.7
40歳代	19.8	48.5
50歳代	23.4	40.9
60歳代	31.5	29.9
70歳以上	34.6	20.4
桑名・員弁	35.1	28.9
四日市	32.0	34.1
鈴鹿・亀山	21.0	44.1
伊賀	20.5	43.1
津・久居	26.9	38.5
松阪・紀勢	23.0	41.7
伊勢志摩	19.9	39.5
尾鷲	10.3	55.7
熊野	9.4	57.1

＜平成 17 年度＞

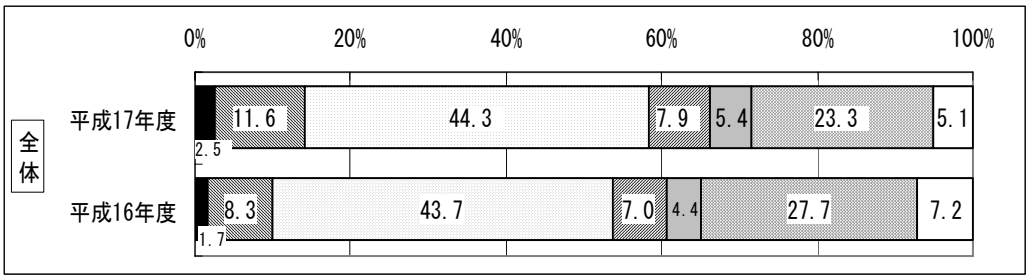
- 年齢層別の不満意識は、20 歳代（48.9%）が最も高く、年齢が上がるに従って低くなる傾向が見られる。
- 圏域別の不満意識は、熊野（57.1%）、尾鷲（55.7%）が特に高く、圏域による差が大きくなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

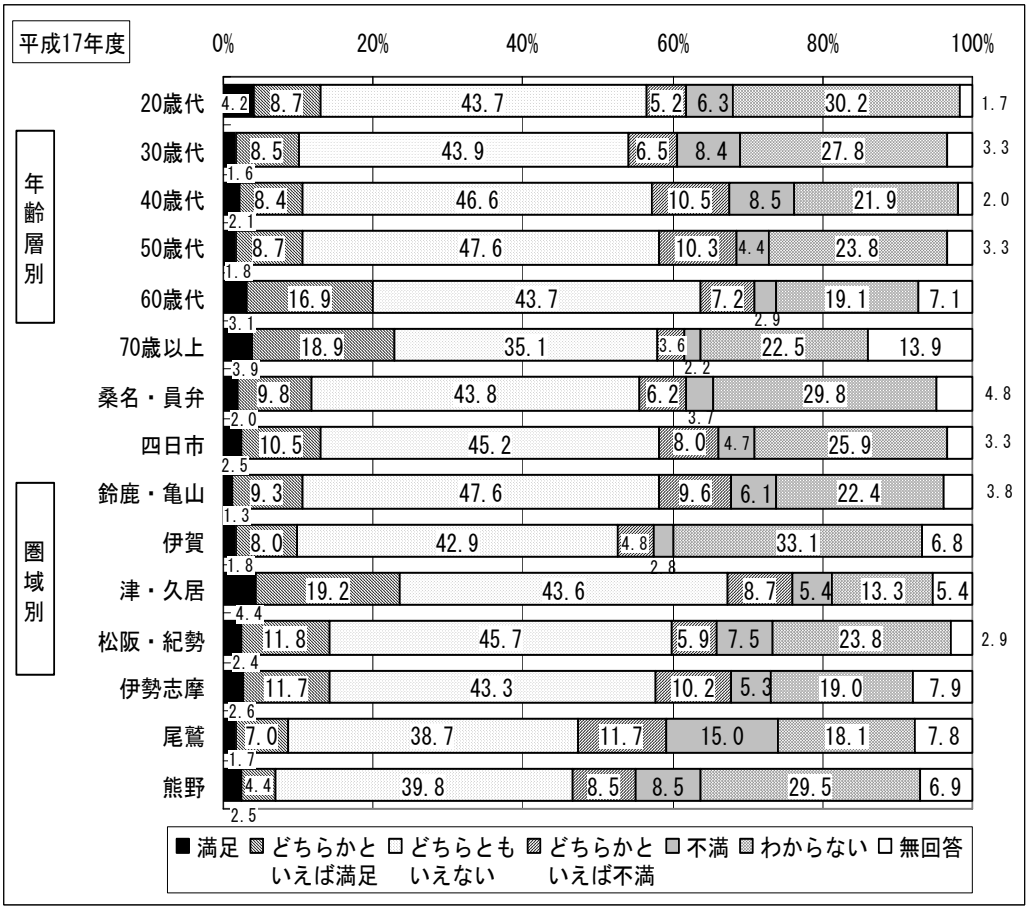
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 3.0 ポイント増加し、不満意識は 2.4 ポイント減少している。

39）港の整備

港が整備され、多くの船や人々が利用していること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	14.1	13.3
平成16年度	10.0	11.4



	満足意識	不満意識
20歳代	12.9	11.5
30歳代	10.1	14.9
40歳代	10.5	19.0
50歳代	10.5	14.7
60歳代	20.0	10.1
70歳以上	22.8	5.8
桑名・員弁	11.8	9.9
四日市	13.0	12.7
鈴鹿・亀山	10.6	15.7
伊賀	9.8	7.6
津・久居	23.6	14.1
松阪・紀勢	14.2	13.4
伊勢志摩	14.3	15.5
尾鷲	8.7	26.7
熊野	6.9	17.0

＜平成 17 年度＞

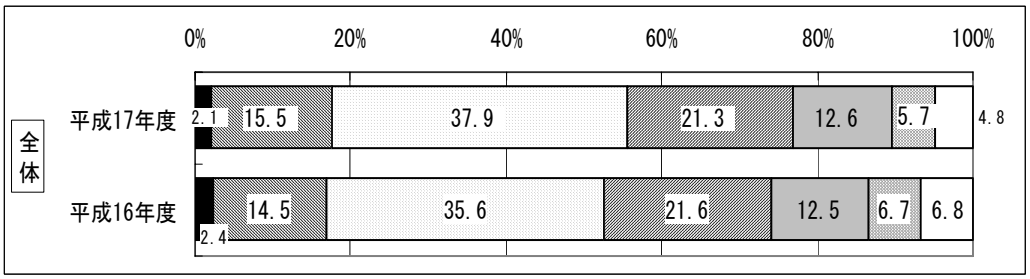
- 全体では、「どちらともいえない」（44.3%）と「わからない」（23.3%）を合わせると 67.6%と高くなっている。
- 年齢層別の不満意識は、40 歳代（19.0%）が最も高く、70 歳以上（5.8%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（26.7%）が最も高く、伊賀（7.6%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

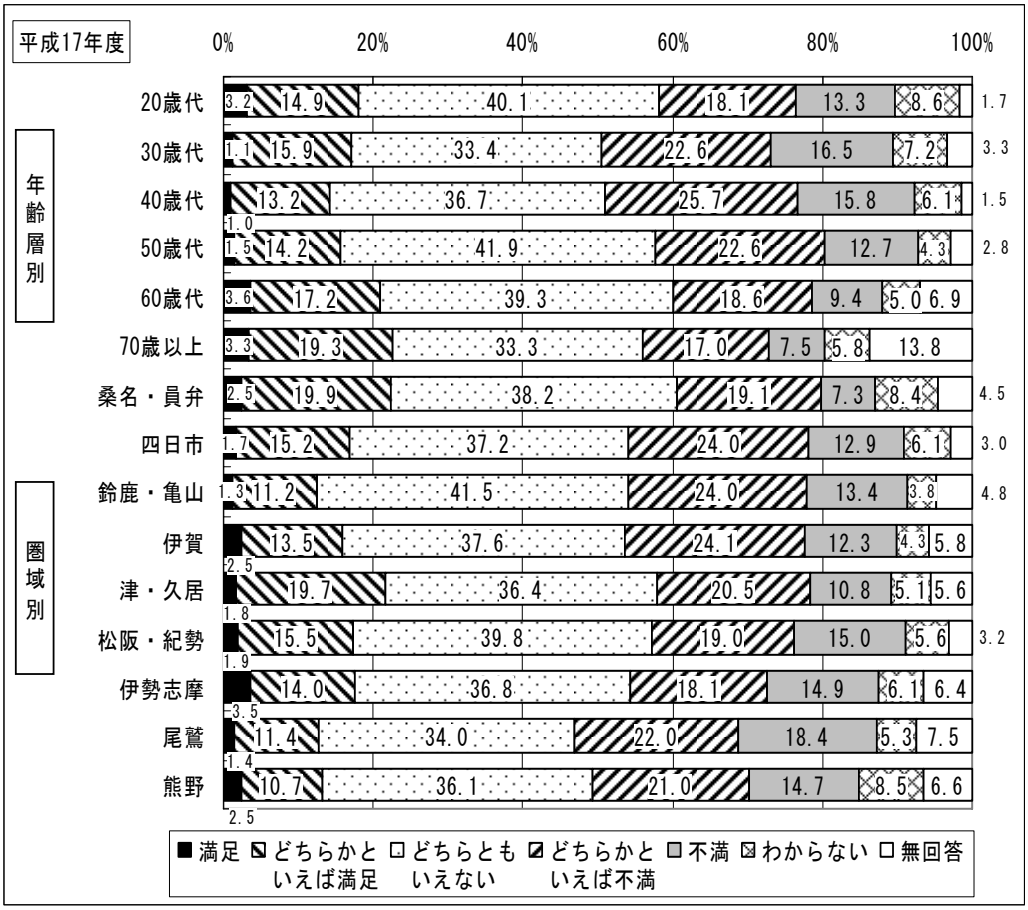
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 4.1 ポイント増加し、不満意識は 1.9 ポイント減少している。

40）快適なまちづくり

段差のない公共的施設、公園や歩道など、快適で暮らしやすいまちづくりが行われていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	17.6	33.9
平成16年度	16.9	34.1



	満足意識	不満意識
20歳代	18.1	31.4
30歳代	17.0	39.1
40歳代	14.2	41.5
50歳代	15.7	35.3
60歳代	20.8	28.0
70歳以上	22.6	24.5
桑名・員弁	22.4	26.4
四日市	16.9	36.9
鈴鹿・亀山	12.5	37.4
伊賀	16.0	36.4
津・久居	21.5	31.3
松阪・紀勢	17.4	34.0
伊勢志摩	17.5	33.0
尾鷲	12.8	40.4
熊野	13.2	35.7

＜平成 17 年度＞

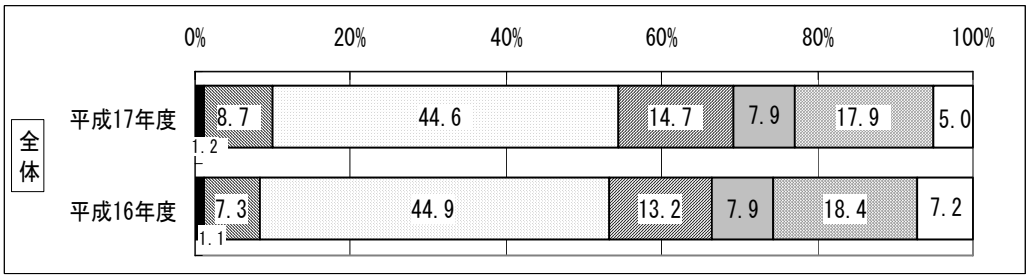
- すべての年齢層及び圏域で不満意識が満足意識を上回っている。
- 年齢層別の不満意識は、40 歳代（41.5%）が最も高く、次いで 30 歳代（39.1%）の順となっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（40.4%）が最も高く、桑名・員弁（26.4%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

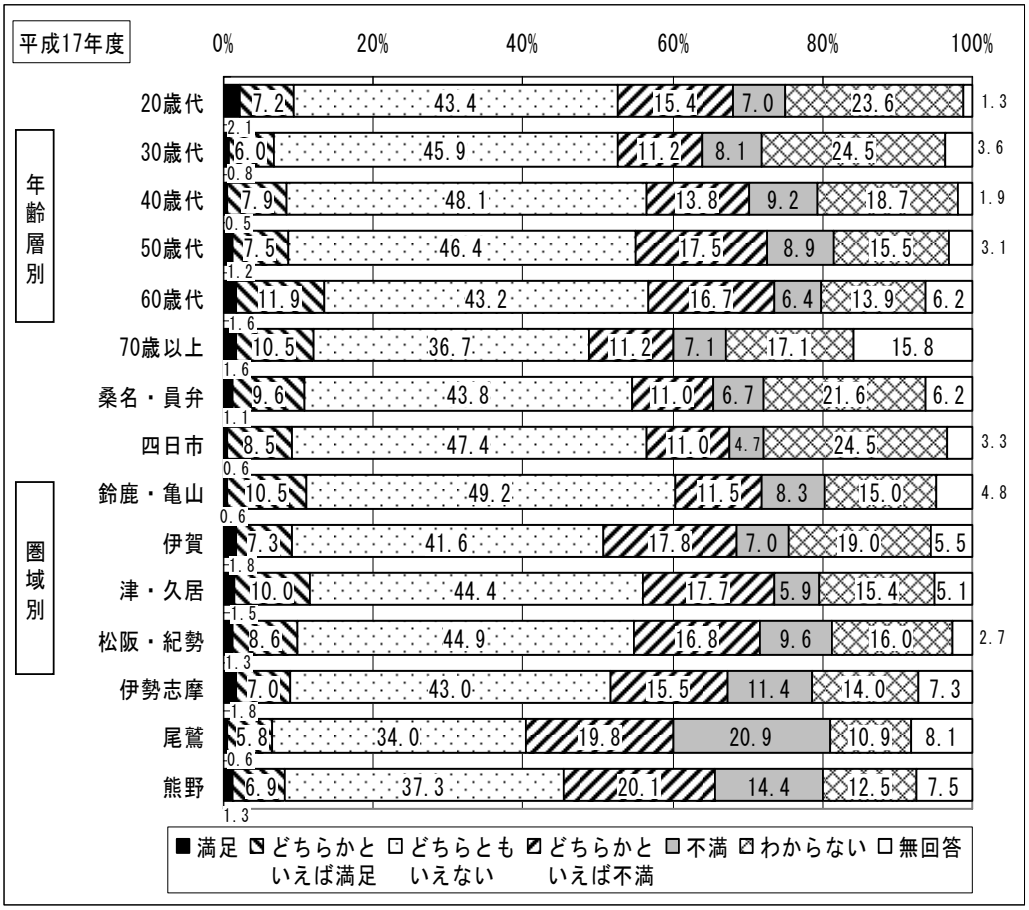
- 全体の満足意識及び不満意識とも、大きな変化はみられない。

41）農山漁村づくり

農山漁村の生活基盤が整備され、住民や訪れた人々にとって魅力がある地域になっていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	9.9	22.6
平成16年度	8.4	21.1



	満足意識	不満意識
20歳代	9.3	22.4
30歳代	6.8	19.3
40歳代	8.4	23.0
50歳代	8.7	26.4
60歳代	13.5	23.1
70歳以上	12.1	18.3
桑名・員弁	10.7	17.7
四日市	9.1	15.7
鈴鹿・亀山	11.1	19.8
伊賀	9.1	24.8
津・久居	11.5	23.6
松阪・紀勢	9.9	26.4
伊勢志摩	8.8	26.9
尾鷲	6.4	40.7
熊野	8.2	34.5

＜平成 17 年度＞

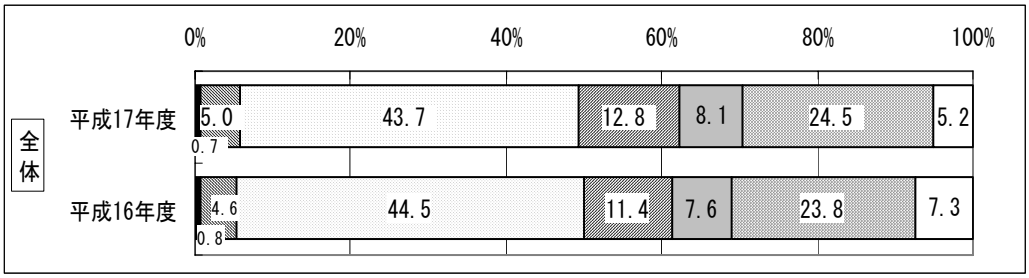
- すべての年齢層及び圏域で不満意識が満足意識を上回っている。
- 年齢層別の不満意識は、50 歳代（26.4%）が最も高く、70 歳以上（18.3%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（40.7%）、熊野（34.5%）が特に高くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

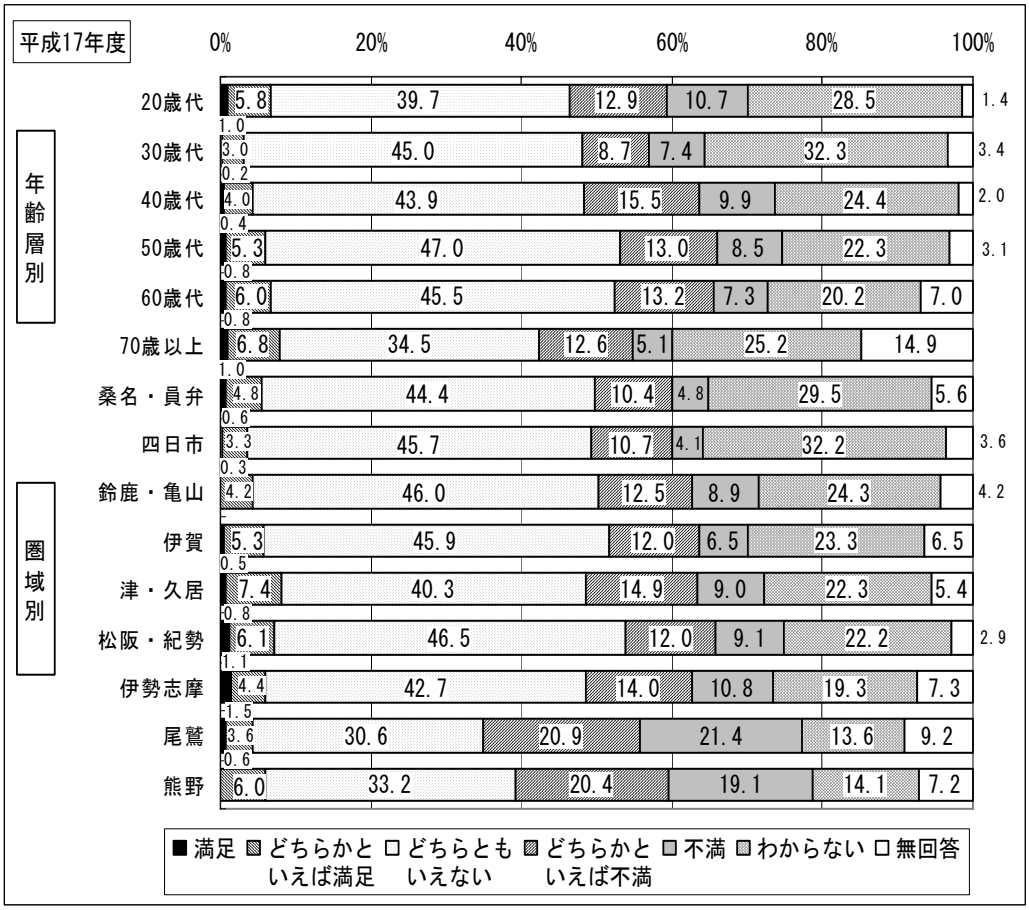
- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 1.5 ポイント、不満意識は 1.5 ポイント増加している。

42）過疎地域等の振興

過疎地域や離島等が活性化や地域おこしの取組を通じて魅力のある地域になっていること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	5.7	20.9
平成16年度	5.4	19.0



	満足意識	不満意識
20歳代	6.8	23.6
30歳代	3.2	16.1
40歳代	4.4	25.4
50歳代	6.1	21.5
60歳代	6.8	20.5
70歳以上	7.8	17.7
桑名・員弁	5.4	15.2
四日市	3.6	14.8
鈴鹿・亀山	4.2	21.4
伊賀	5.8	18.5
津・久居	8.2	23.9
松阪・紀勢	7.2	21.1
伊勢志摩	5.9	24.8
尾鷲	4.2	42.3
熊野	6.0	39.5

＜平成 17 年度＞

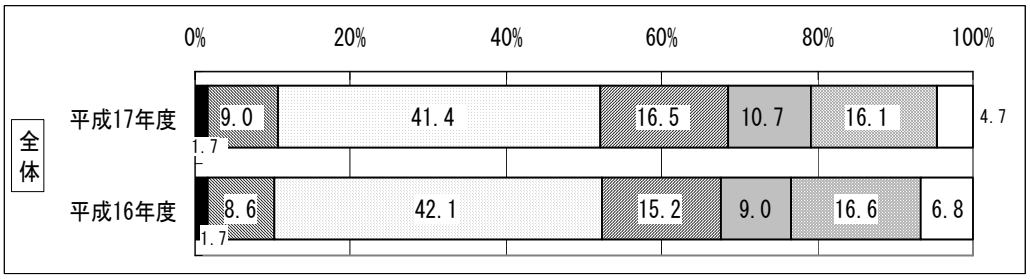
- すべての年齢層及び圏域で不満意識が満足意識を上回っている。
- 年齢層別の不満意識は、40 歳代（25.4%）が最も高く、30 歳代（16.1%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（42.3%）、熊野（39.5%）が特に高くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

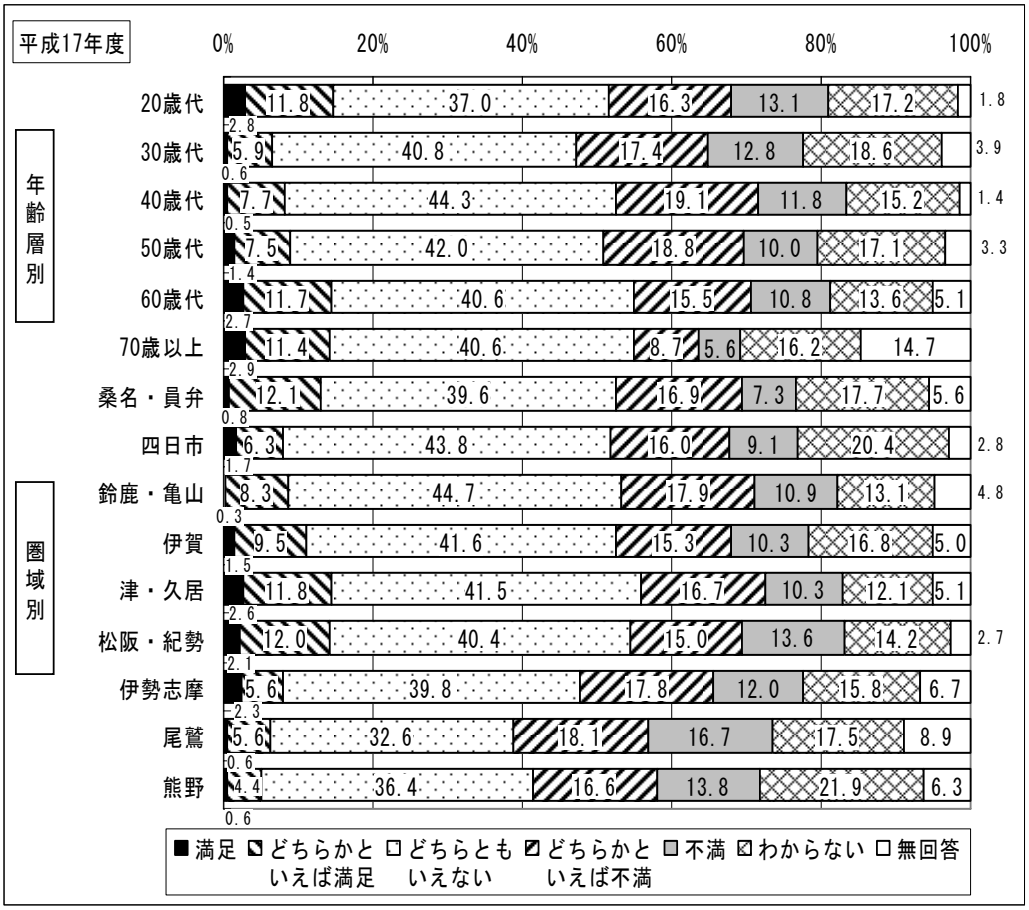
- 全体の不満意識は、16 年度と比べて 1.9 ポイント増加している。

43）エネルギー

省エネルギーの意識や、太陽光発電の普及など地球にやさしいエネルギー対策が進んでいること。



	満足意識	不満意識
全体 平成17年度	10.7	27.2
全体 平成16年度	10.3	24.2



	満足意識	不満意識
20歳代	14.6	29.4
30歳代	6.5	30.2
40歳代	8.2	30.9
50歳代	8.9	28.8
60歳代	14.4	26.3
70歳以上	14.3	14.3
桑名・員弁	12.9	24.2
四日市	8.0	25.1
鈴鹿・亀山	8.6	28.8
伊賀	11.0	25.6
津・久居	14.4	27.0
松阪・紀勢	14.1	28.6
伊勢志摩	7.9	29.8
尾鷲	6.2	34.8
熊野	5.0	30.4

＜平成 17 年度＞

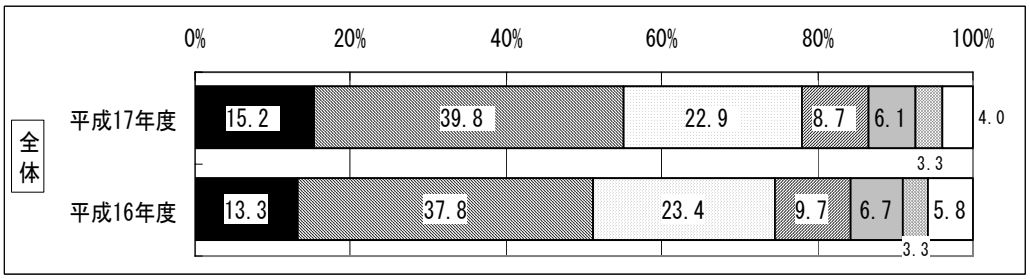
- 年齢層別の不満意識は、40 歳代（30.9%）が最も高く、70 歳以上（14.3%）が最も低くなっている。
- 圏域別の不満意識は、尾鷲（34.8%）が最も高く、桑名・員弁（24.2%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

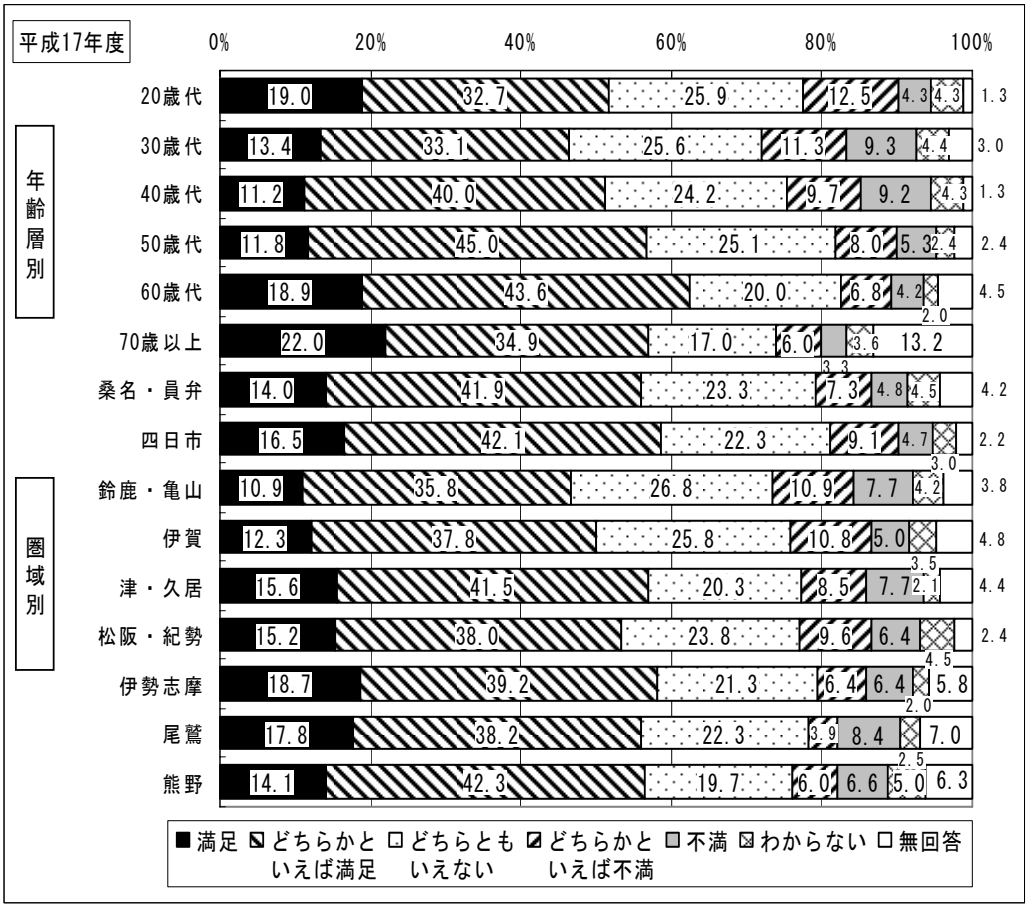
- 全体の不満意識は、16 年度と比べて 3.0 ポイント増加している。

44）飲料水の供給

安心して飲める水が安定的に供給されること。



	満足意識	不満意識
平成17年度	55.0	14.8
平成16年度	51.1	16.4



	満足意識	不満意識
20歳代	51.7	16.8
30歳代	46.5	20.6
40歳代	51.2	18.9
50歳代	56.8	13.3
60歳代	62.5	11.0
70歳以上	56.9	9.3
桑名・員弁	55.9	12.1
四日市	58.6	13.8
鈴鹿・亀山	46.7	18.6
伊賀	50.1	15.8
津・久居	57.1	16.2
松阪・紀勢	53.2	16.0
伊勢志摩	57.9	12.8
尾鷲	56.0	12.3
熊野	56.4	12.6

＜平成 17 年度＞

- 全体では、満足意識が 55.0%（第 1 位）と最も高くなっている。
- すべての年齢層及び圏域で満足意識が不満意識を上回っている。
- 年齢層別の満足意識は、60 歳代（62.5%）が最も高く、30 歳代（46.5%）が最も低くなっている。
- 圏域別の満足意識は、四日市（58.6%）が最も高く、鈴鹿・亀山（46.7%）が最も低くなっている。

＜平成 16 年度との比較＞

- 全体の満足意識は、16 年度と比べて 3.9 ポイント増加し、不満意識は 1.6 ポイント減少している。

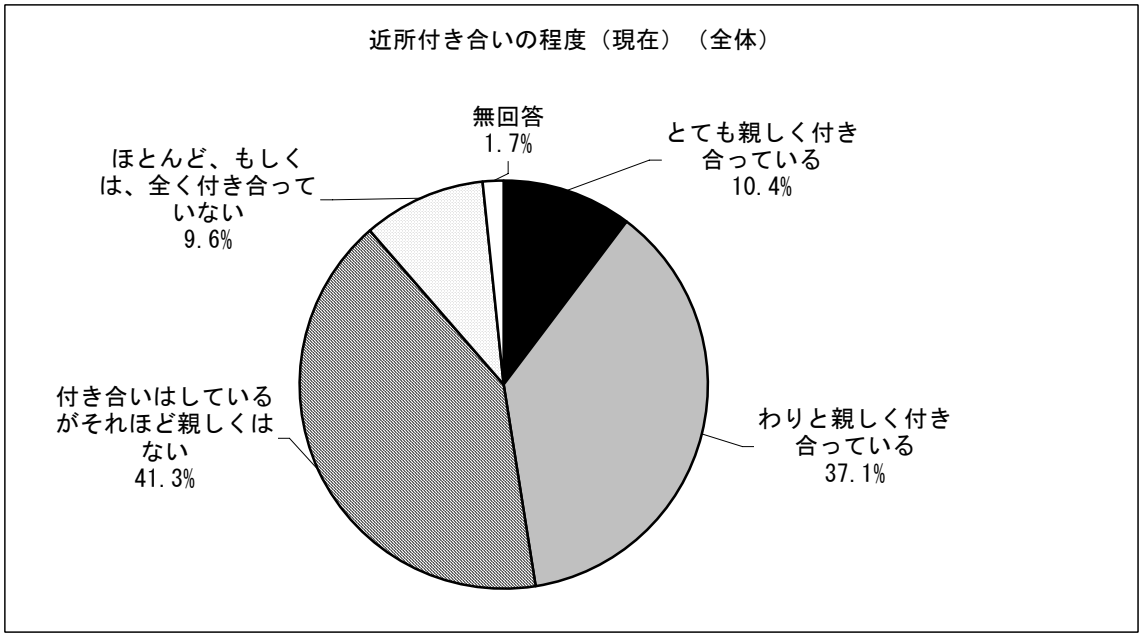
３．「地域の人のつながりと活動に関する意識」についての調査

（１）近所付き合いの程度（現在）

問３－１　あなたは、現在どの程度近所付き合いをしていますか。（回答は単一選択式）

○全　体

（集計資料　p. 139）

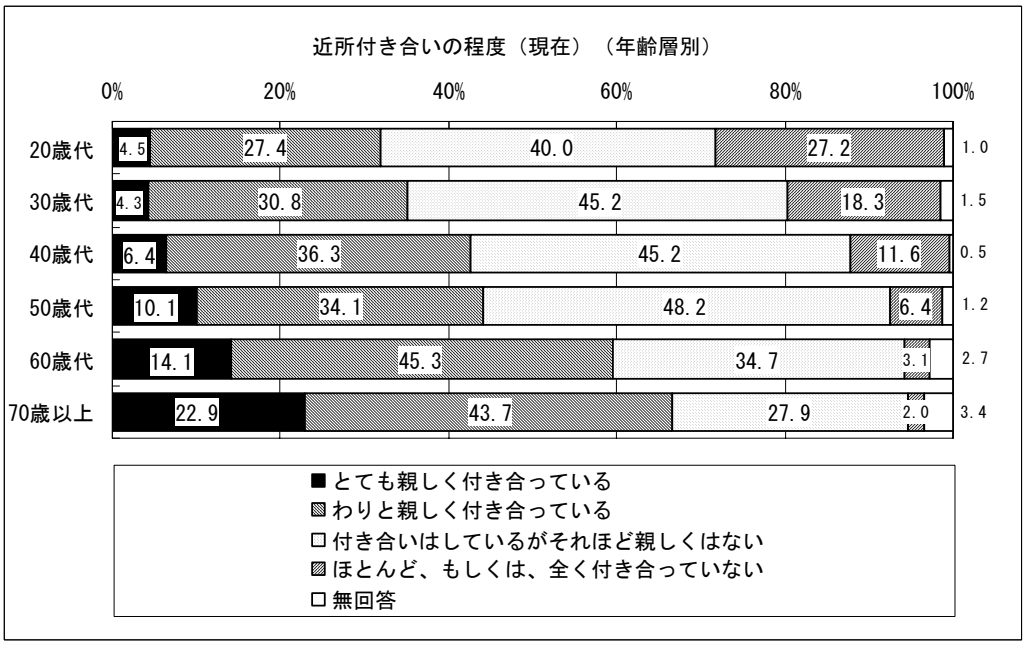


平成 17 年度

近所付き合いの程度は、「付き合いはしているがそれほど親しくはない」と答えた人の割合が41.3%と最も高くなっている。また、「わりと親しく付き合っている」（37.1%）と「とても親しく付き合っている」（10.4%）を合わせた、“日常的に親しく近所付き合いをしている人”が約５割（47.5%）を占めている。一方、「ほとんど、もしくは、全く付き合っていない」と回答した人は約１割（9.6%）となっている。

○年齢層別

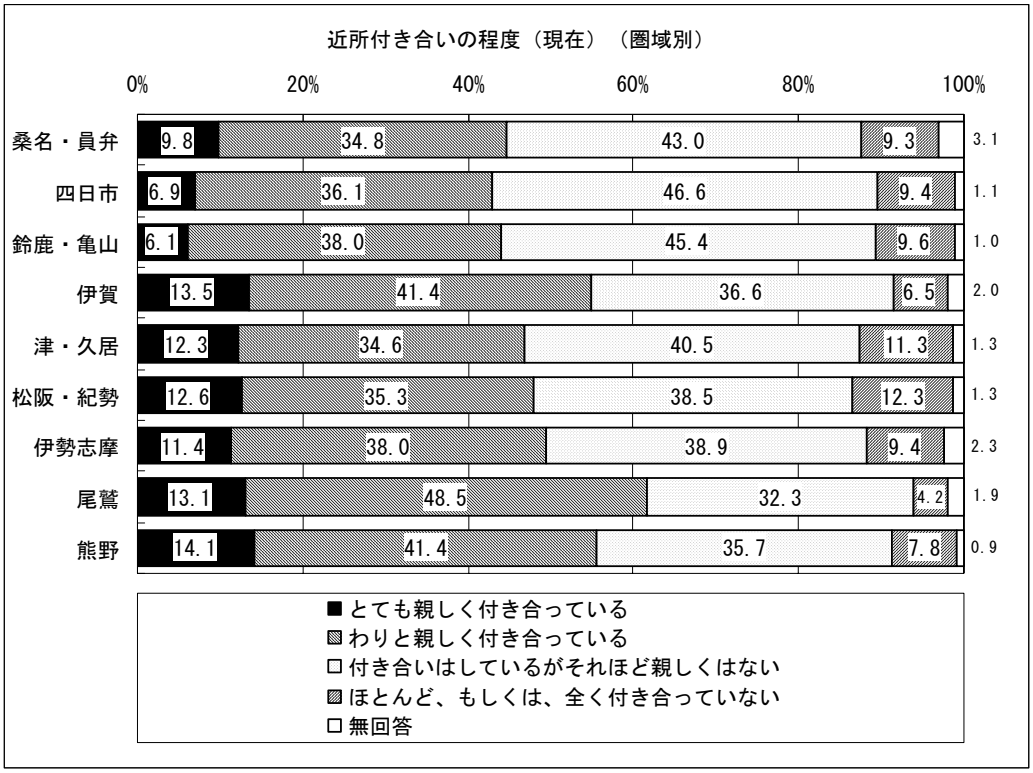
（集計資料　p. 139）



年齢層別でみると、“日常的に親しく近所付き合いをしている人”の割合は年齢とともに高くなっており、60 歳代以上では５割を超えている。

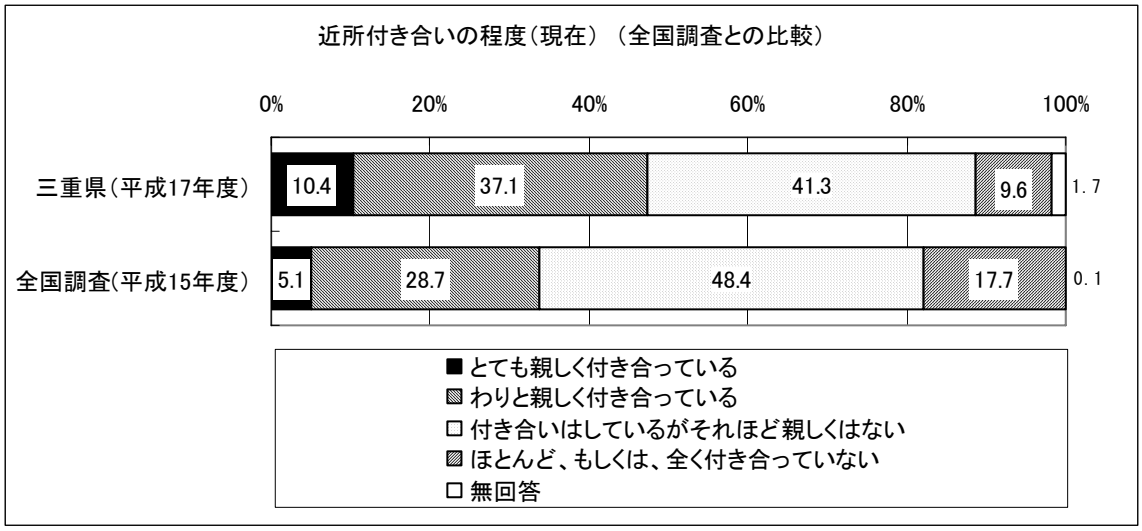
○生活創造圏別

（集計資料　p. 139）



生活創造圏別でみると、“日常的に親しく近所付き合いをしている人”の割合は県南部の尾鷲（61.6%）、熊野（55.5%）や、県中部の伊賀（54.9%）などで高く５割を超えている。

○全国調査との比較



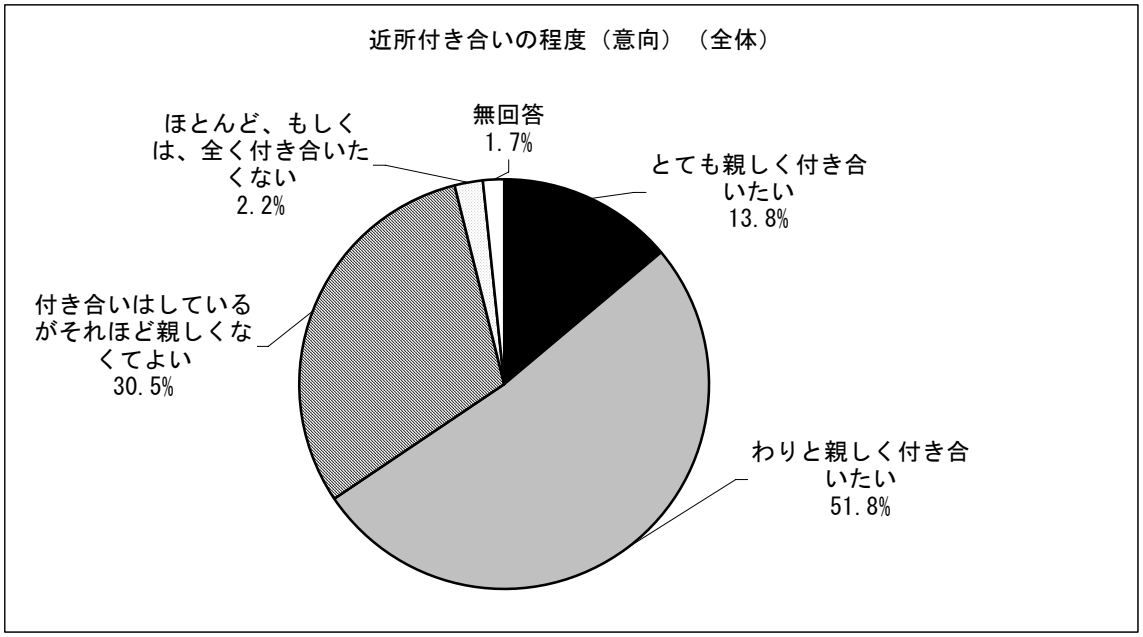
平成 15 年度に全国段階で実施された調査（内閣府「平成 15 年度国民生活選好度調査」）と比較すると、“日常的に親しく近所付き合いをしている人” の割合は 47.5%と全国（33.8%）を 13.7 ポイント上回っている。

（２）近所付き合いの程度（意向）

問３－２　あなたは、今後どの程度近所付き合いをしたいと思いますか。 （回答は単一選択式）

○全　体

（集計資料　p. 140）

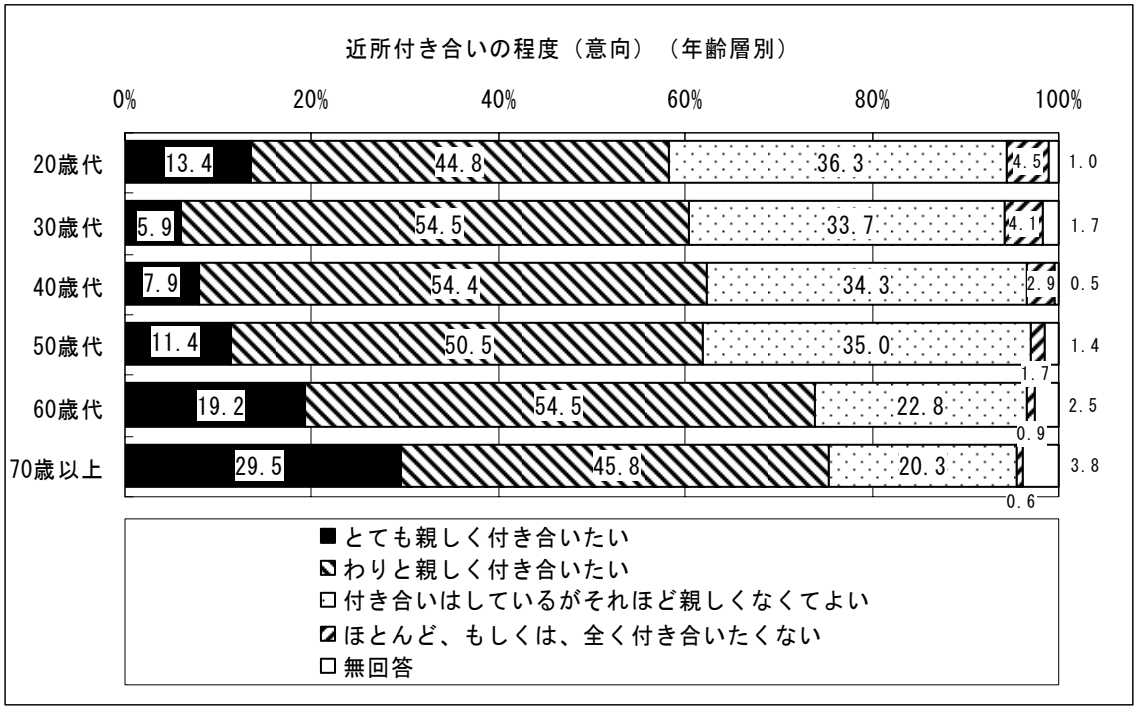


平成 17 年度

近所付き合いの今後の意向については、「わりと親しく付き合いたい」と回答した人が 51.8%と最も高くなっており、これに「とても親しく付き合いたい」（13.8%）を合わせた、“近所付き合いに積極的な意向を示した人”は約７割（65.6%）を占めている。一方、「付き合いはしているがそれほど親しくなくてよい」と回答した人は 30.5%、「ほとんど、もしくは、全く付き合いたくない」と回答した人は 2.2%となっている。

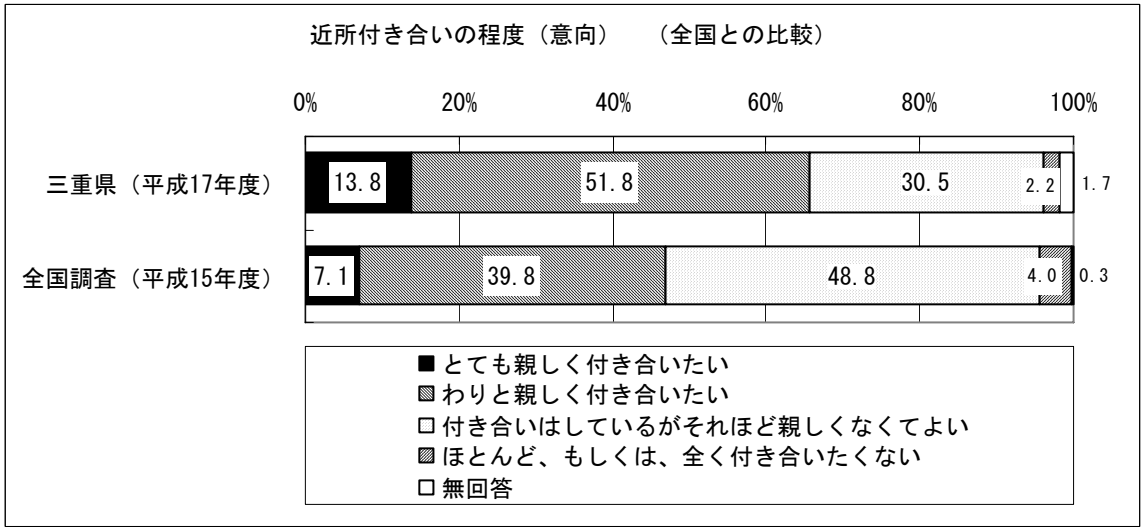
○年齢層別

（集計資料　p. 140）



年齢層別でみると、“近所付き合いに積極的な意向を示した人” の割合は年齢とともに高くなる傾向が見られ、60 歳代以上では 7 割を超えている。

○全国調査との比較



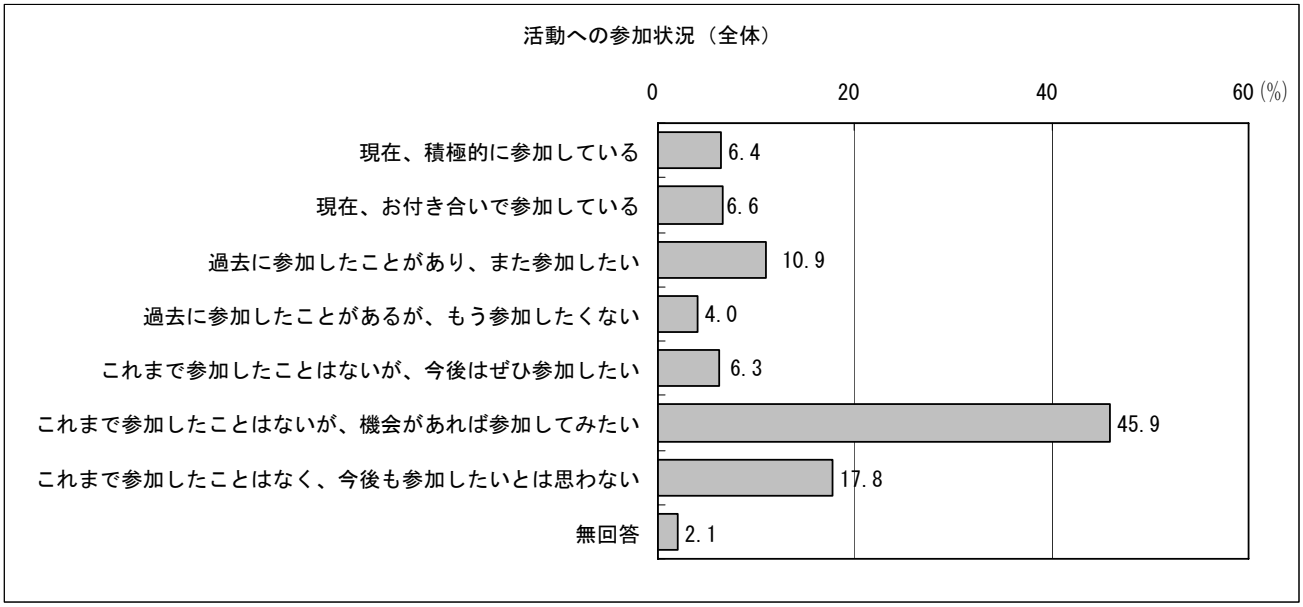
全国調査（内閣府「平成 15 年度国民生活選好度調査」）と比較すると、“近所付き合いに積極的な意向を示した人” の割合は 65.6％と全国（46.9％）を 18.7 ポイント上回っている。

（３）活動への参加状況

問３－３　近年、ＮＰＯ（民間非営利団体）と呼ばれる、営利を目的としないボランティア団体や市民団体の活動が盛んになっていますが、あなたは、ＮＰＯやボランティア、地域の活動などに参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。（回答は単一選択式）

○全　体

（集計資料　p. 141～p. 142）

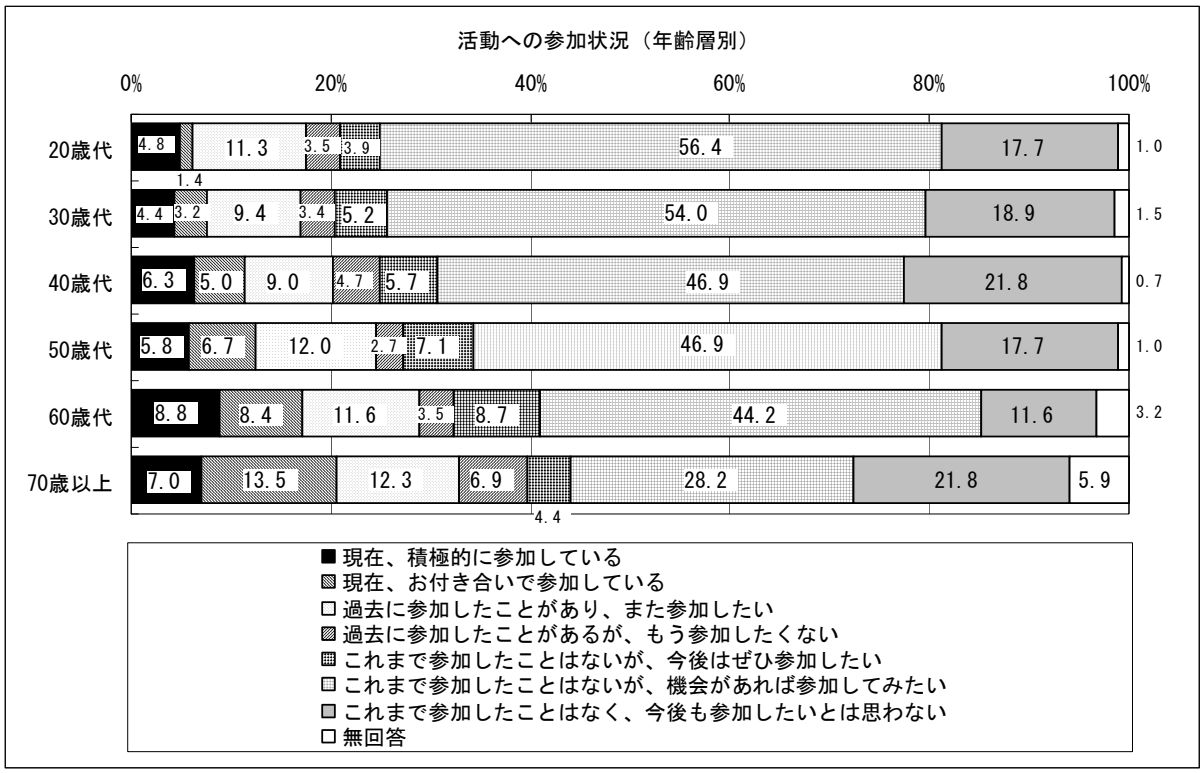


平成 17 年度

ＮＰＯやボランティア、地域の活動への参加状況や今後の意向については、“何らかの活動への参加経験者”（「現在、積極的に参加している」(6.4%)、「現在、お付き合いで参加している」(6.6%)、「過去に参加したことがあり、また参加したい」（10.9%）、「過去に参加したことがあるが、もう参加したくない」（4.0%））は約３割（27.9%）を占めている。また、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」と回答した人は約５割（45.9%）を占めているのに対し、「これまで参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」と回答した人は約２割（17.8%）にとどまっている。

○年齢層別

（集計資料　p. 141～p. 142）



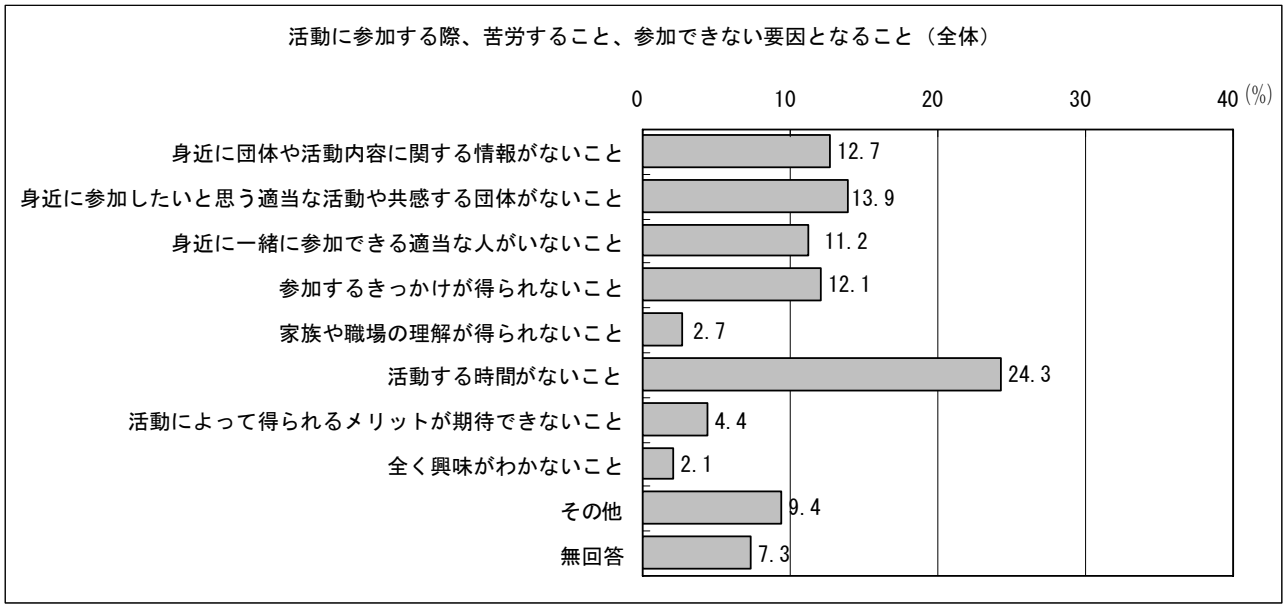
年齢層別でみると、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」と回答した人は 20 歳代や 30 歳代の若年層で高く５割を超えている。

（４）活動に参加する際、苦労すること、参加できない要因となること

【問３－３で、１～４に○をつけた方だけにお伺いします】
問３－４　ＮＰＯやボランティア、地域での活動に参加する際に苦労すること、または、参加できない要因となることはどんなことですか。（回答は単一選択式）

○全　体

（集計資料　p. 143～p. 144）

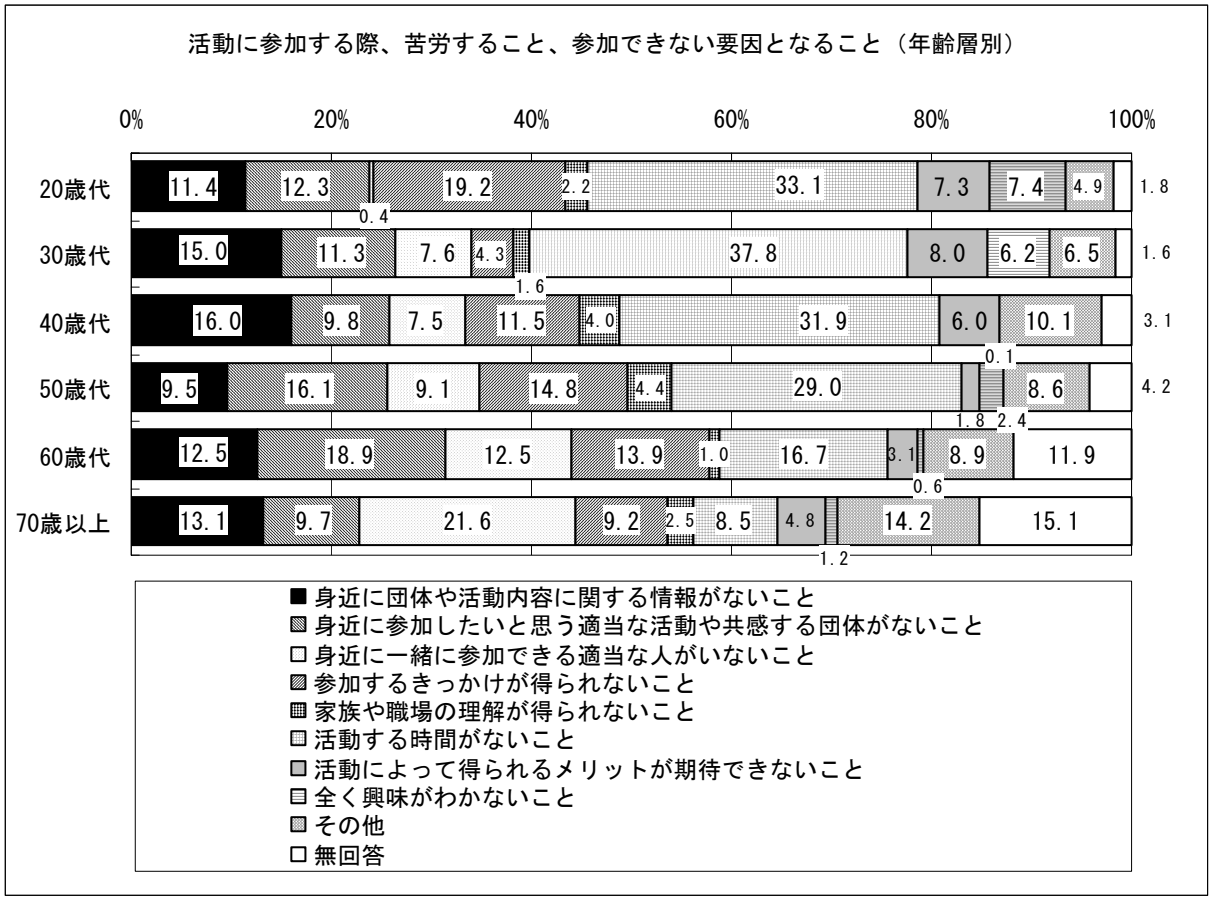


平成 17 年度

地域活動に参加する際、苦労すること、参加できない要因については、「活動する時間がないこと」と回答した人の割合が 24.3%と最も高くなっており、次いで「身近に参加したいと思う適当な活動や共感する団体がないこと」（13.9%）、「身近に団体や活動内容に関する情報がないこと」（12.7%）、「参加するきっかけが得られないこと」（12.1%）、「身近に一緒に参加できる適当な人がいないこと」（11.2%）の順となっている。

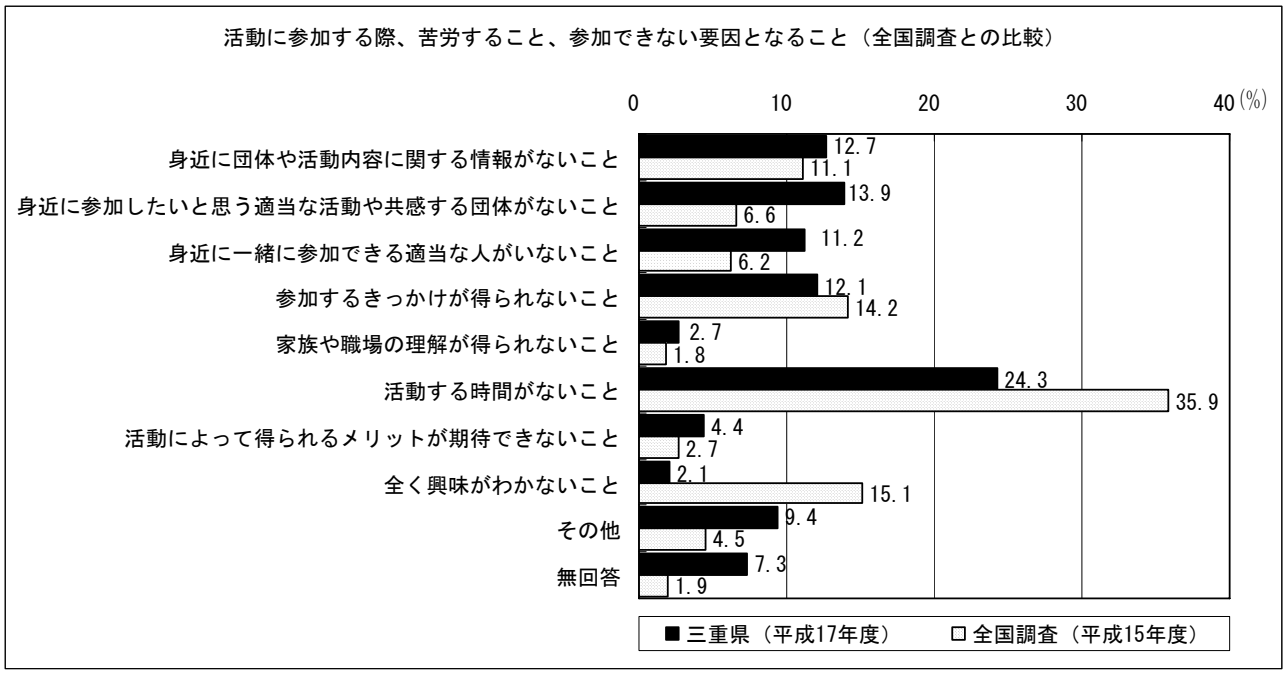
○年齢層別

（集計資料　p. 143～p. 144）



年齢層別でみると、「身近に一緒に参加できる適当な人がいないこと」と回答した人は、70 歳以上で高く約２割（21.6%）を占めており、「活動する時間がないこと」と回答した人の割合は、20～50 歳代で高く約３～４割を占めている。

○全国調査との比較



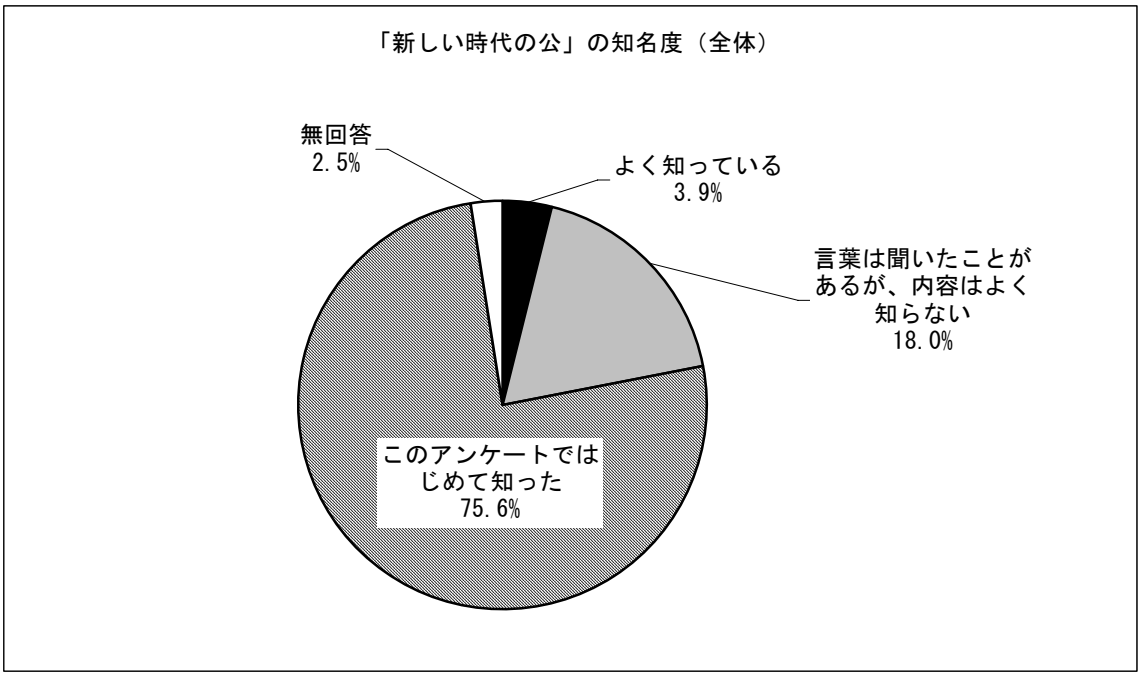
全国調査（内閣府「平成 15 年度国民生活選好度調査」）と比較すると、「活動する時間がないこと」と回答した人は 24.3%と、全国（35.9%）を 11.6 ポイント下回っている。また、「全く興味がわかないこと」と回答した人は 2.1%と、全国（15.1%）を 13.0 ポイント下回っている。

（５）「新しい時代の公」の知名度

問３－５　あなたは、「新しい時代の公」という言葉を知っていましたか。 （回答は単一選択式）

○全　体

（集計資料　p. 145）

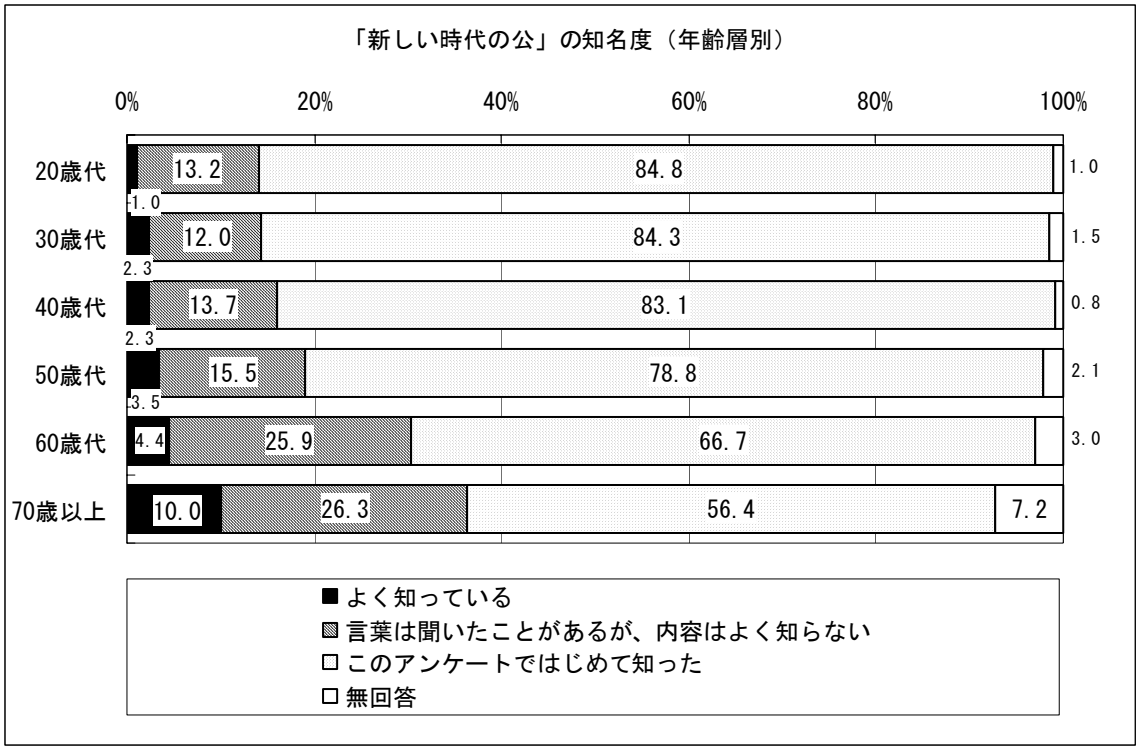


平成 17 年度

「新しい時代の公」の知名度については、「このアンケートではじめて知った」と回答した人の割合が 75.6%と最も高くなっている。一方、「言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」と回答した人は 18.0%、「よく知っている」と回答した人は 3.9%となっている。

○年齢層別

（集計資料　p. 145）



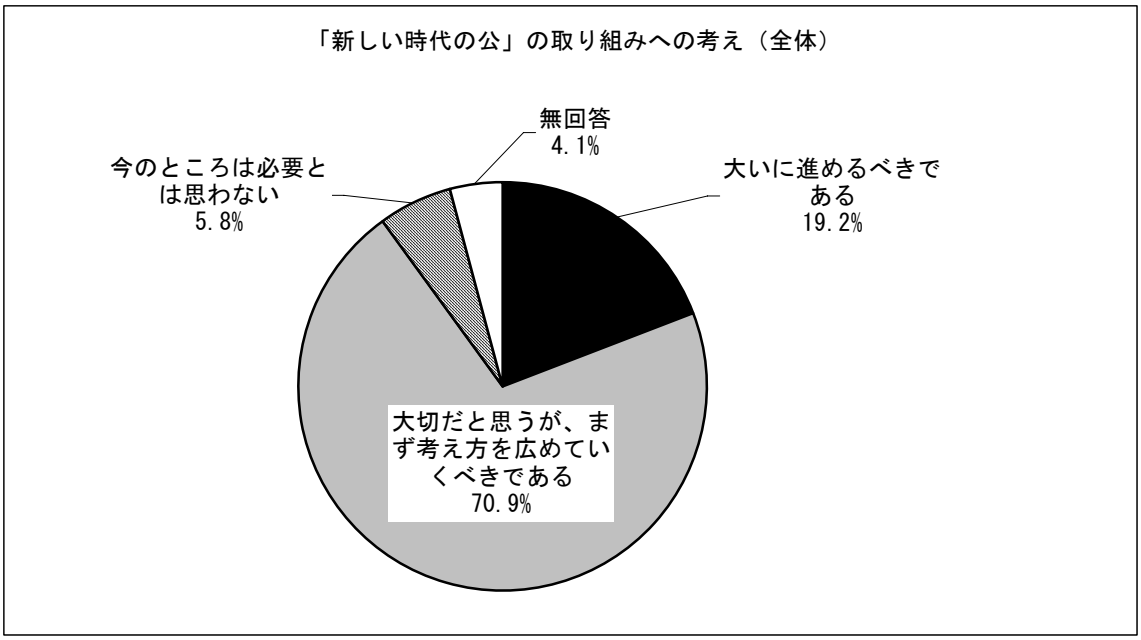
年齢層別でみると、「このアンケートではじめて知った」と回答した人は 20～50 歳代で高く約８割を占めている。

（６）「新しい時代の公」の取り組みへの考え

問３－６　あなたは、「新しい時代の公」の取り組みを、どのように思いますか。 （回答は単一選択式）

○全　体

（集計資料　p. 146）



平成 17 年度

「新しい時代の公」への取り組みへの考えについては、「大切だと思うが、まず考え方を広めていくべきである」と回答した人の割合が 70.9％と最も高く、次いで「大いに進めるべきである」（19.2％）となっており、取り組みに対し肯定的な考えの人が約９割（90.1％）を占めている。一方、「今のところは必要とは思わない」と回答した人は 5.8％となっている。

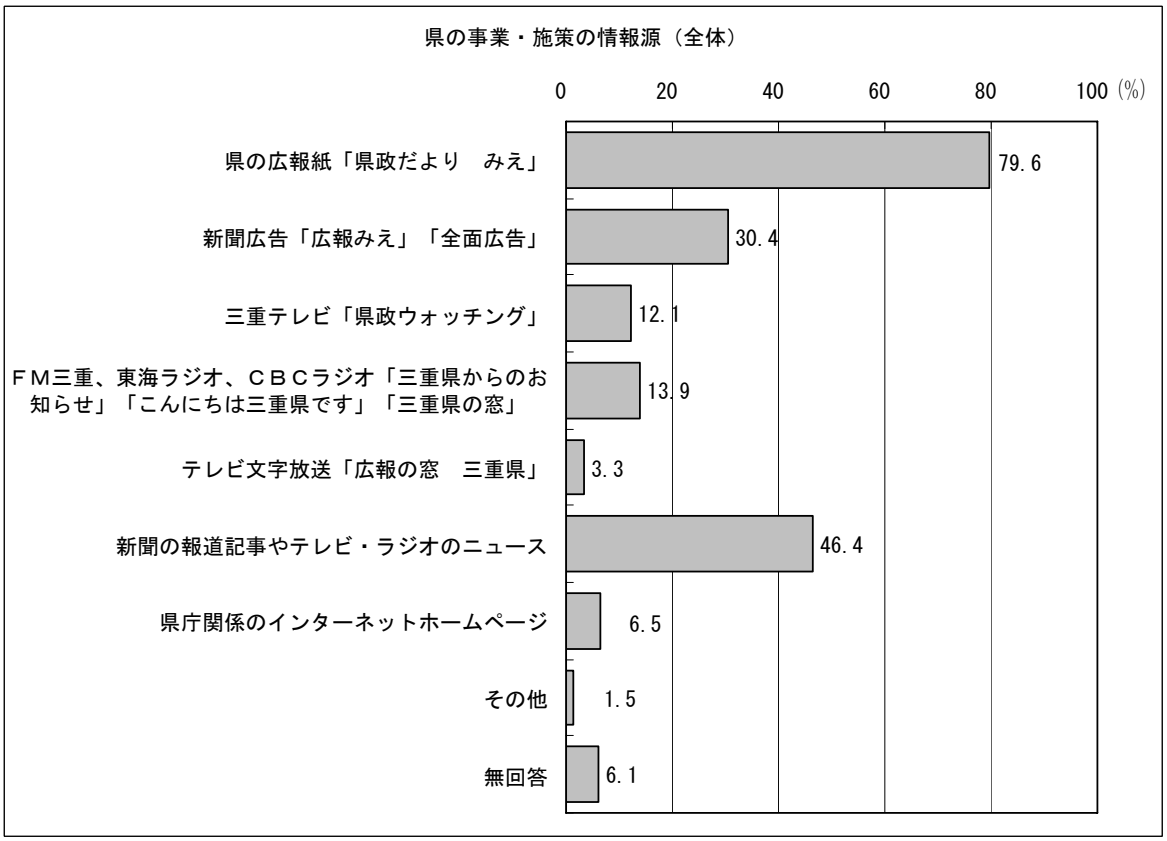
４．広聴広報活動に関する質問

（１）県の事業・施策の情報源

問４－１　あなたは、県が行っている施策や事業について、どこから情報を得ていますか。（回答は複数選択式）

○全　体

（集計資料　p.147）



平成 17 年度

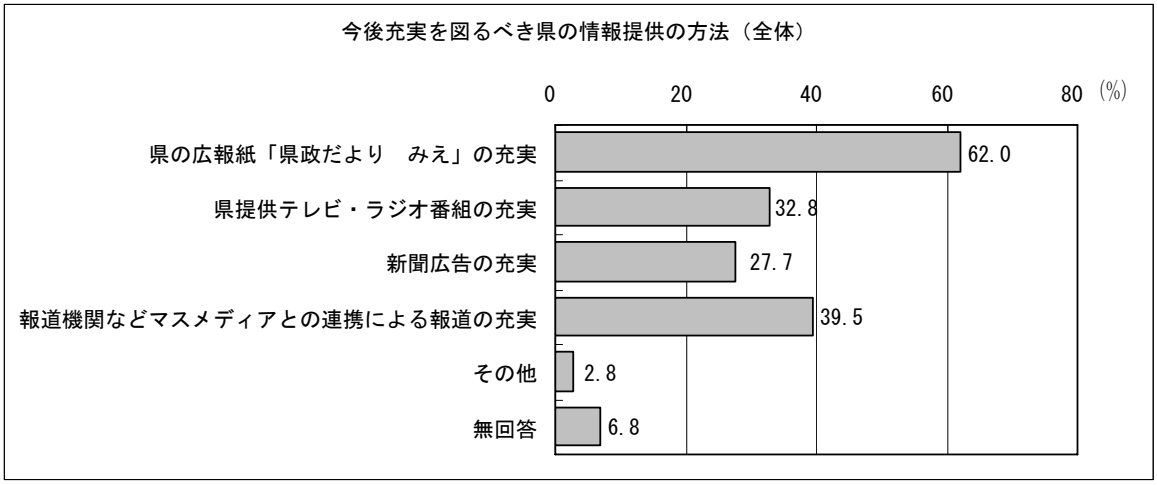
県の事業・施策の情報源については、「県の広報紙『県政だより　みえ』」と回答した人の割合が79.6%と最も高くなっており、次いで「新聞の報道記事やテレビ・ラジオのニュース」（46.4%）、「新聞広告『広報みえ』『全面広告』」（30.4%）、「ＦＭ三重・東海ラジオ・ＣＢＣラジオ・『三重県からのお知らせ』・『こんにちは三重県です』・『三重県の窓』」（13.9%）、「三重テレビ『県政ウォッチング』」（12.1%）の順となっている。

（２）今後充実を図るべき県の情報をお知らせするための効果的な方法

問４－２　今後県の情報提供を充実するためには、どのような方法が良いと思いますか。 （回答は複数選択式）

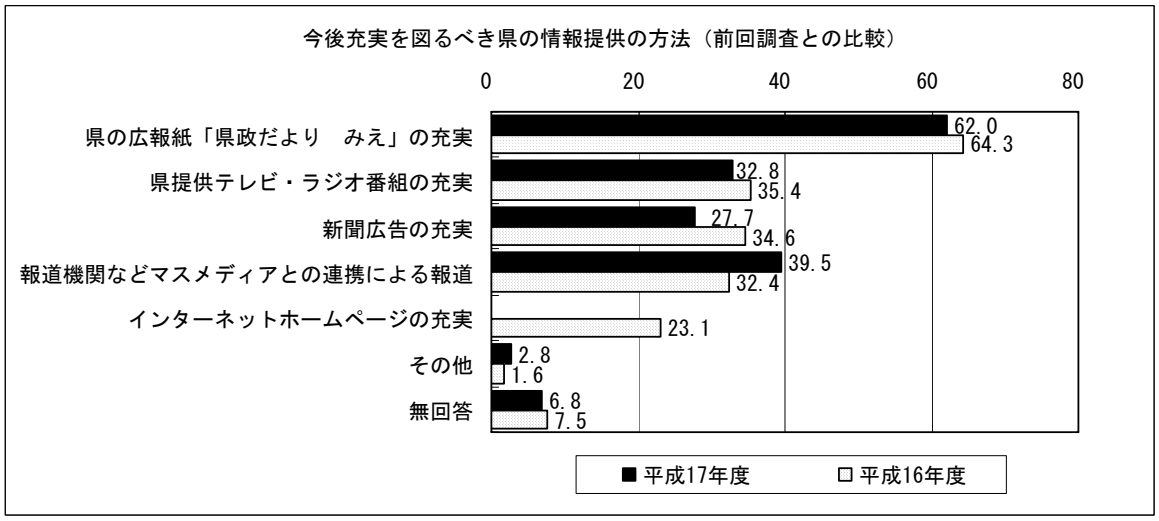
○全　体

（集計資料　p. 148）



平成 17 年度

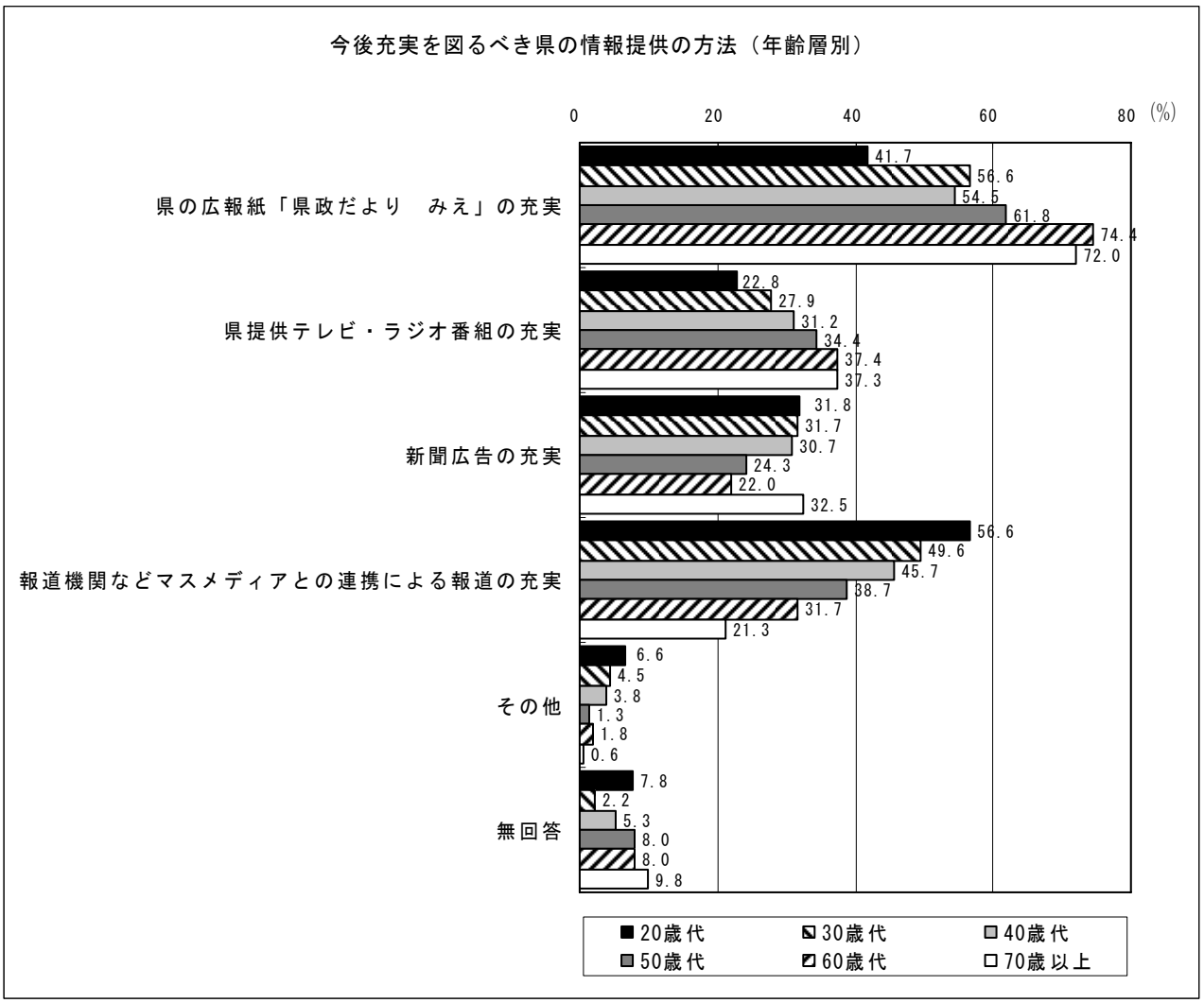
効果的な情報提供の方法については、「県の広報紙『県政だより　みえ』の充実」と回答した人の割合が 62.0％と最も高く、次いで「報道機関などマスメディアとの連携による報道の充実」（39.5％）、「県提供テレビ・ラジオ番組の充実」（32.8％）、「新聞広告の充実」（27.7％）の順となっている。



平成 16 年度と比べると、「報道機関などマスメディアとの連携による報道の充実」と回答した人の割合は 7.1 ポイント増加しているのに対し、「新聞広告の充実」と回答した人の割合は 6.9 ポイント減少している。

○年齢層別

（集計資料　p. 148）



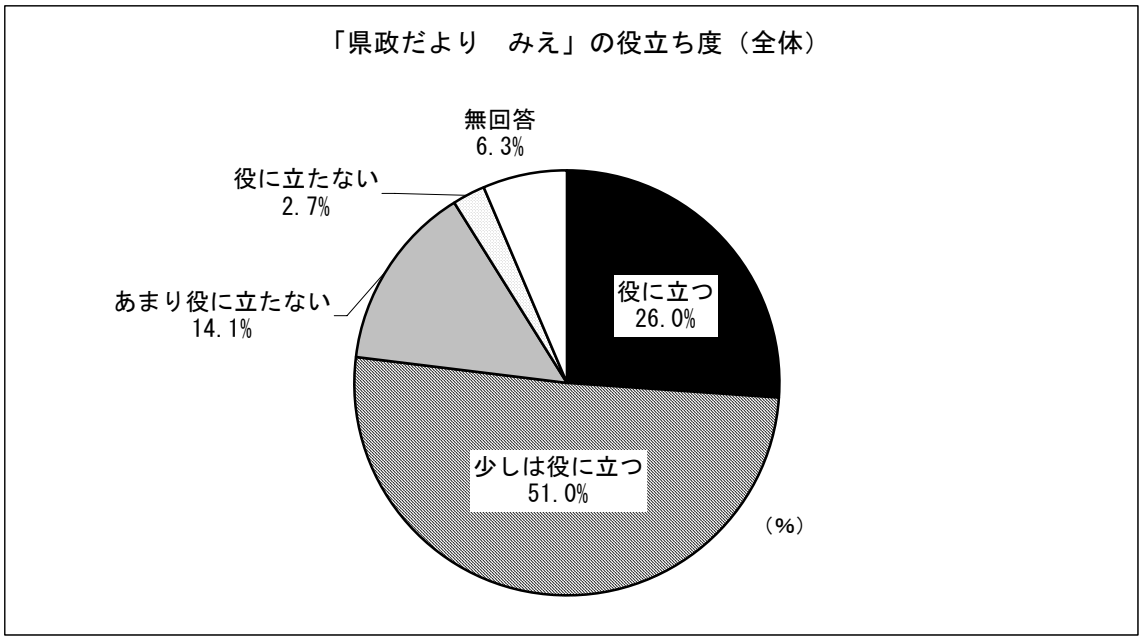
年齢層別にみると、「県の広報紙『県政だより　みえ』の充実」「県提供テレビ・ラジオ番組の充実」と回答した人の割合は、年齢とともに高くなる傾向が見られるのに対し、「報道機関などマスメディアとの連携による報道の充実」と回答した人の割合は、若い年齢層ほど高くなっている。

（３）「県政だより　みえ」の役立ち度

問４－３　「県政だより　みえ」（各戸配布の県の広報紙）は、どの程度役に立つと思いますか。（回答は単一選択式）

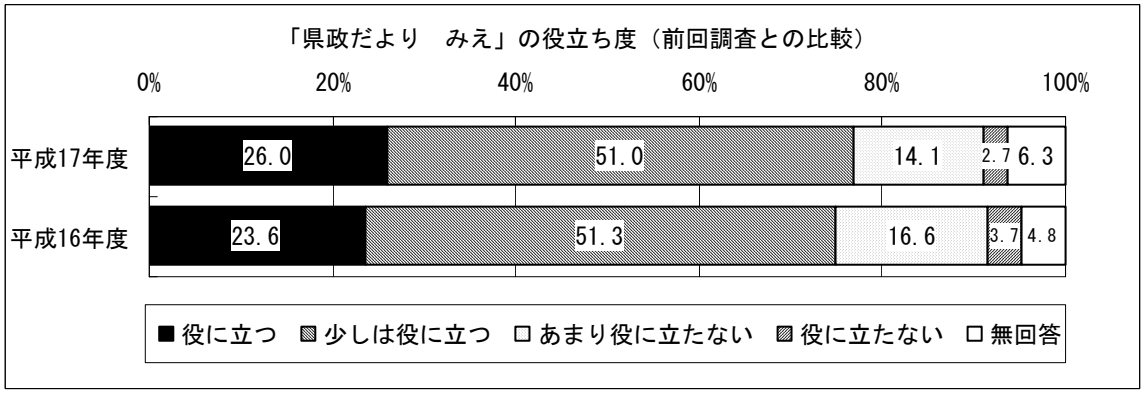
○全　体

（集計資料　p. 149）



平成 17 年度

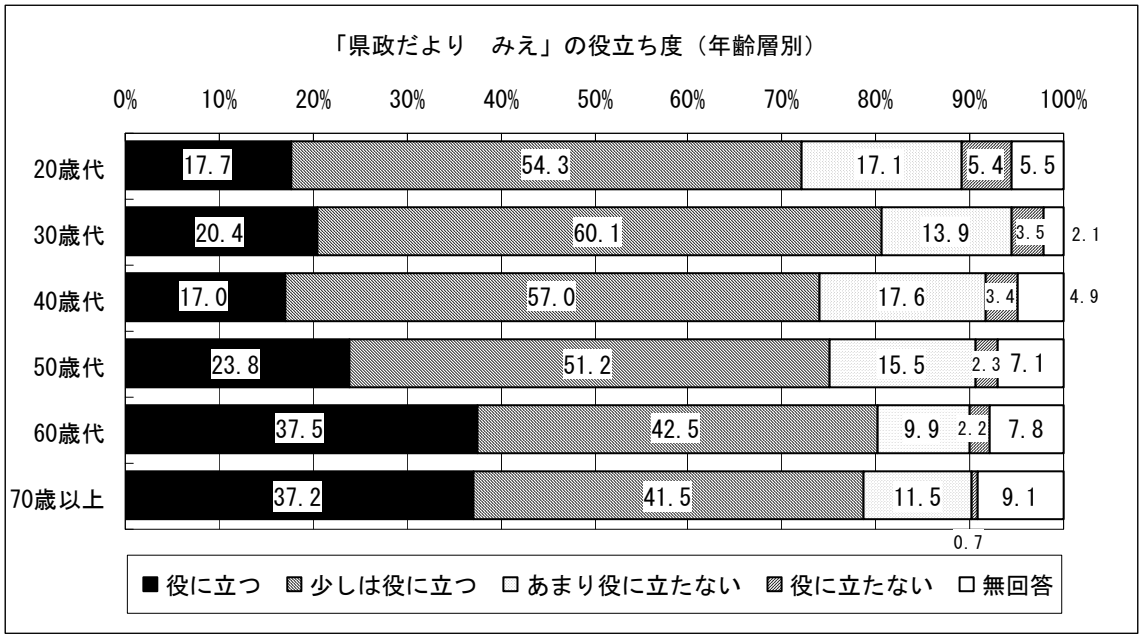
『県政だより　みえ』の役立ち度については、「少しは役に立つ」と回答した人の割合が 51.0%と最も高く、これに「役に立つ」（26.0%）を合わせると、“役立っている人”が約８割（77.0%）を占めている。



なお、平成 16 年度と比べて特に大きな変化はみられない。

○年齢層別

（集計資料　p. 149）



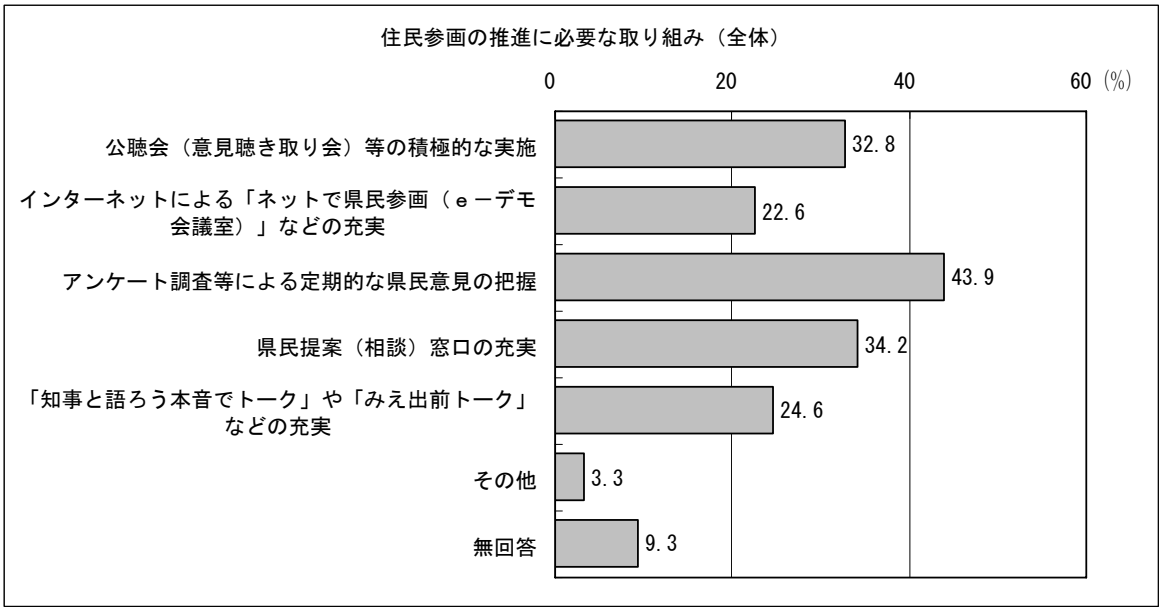
年齢層別でみると、「役に立つ」と回答した人の割合は、年齢とともに高くなる傾向にあり、60歳代以上では約４割を占めている。

（４）住民参画の推進に必要な取り組み

問４－４　県民の皆さんの意見や要望をより一層県政に反映させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（回答は複数選択式）

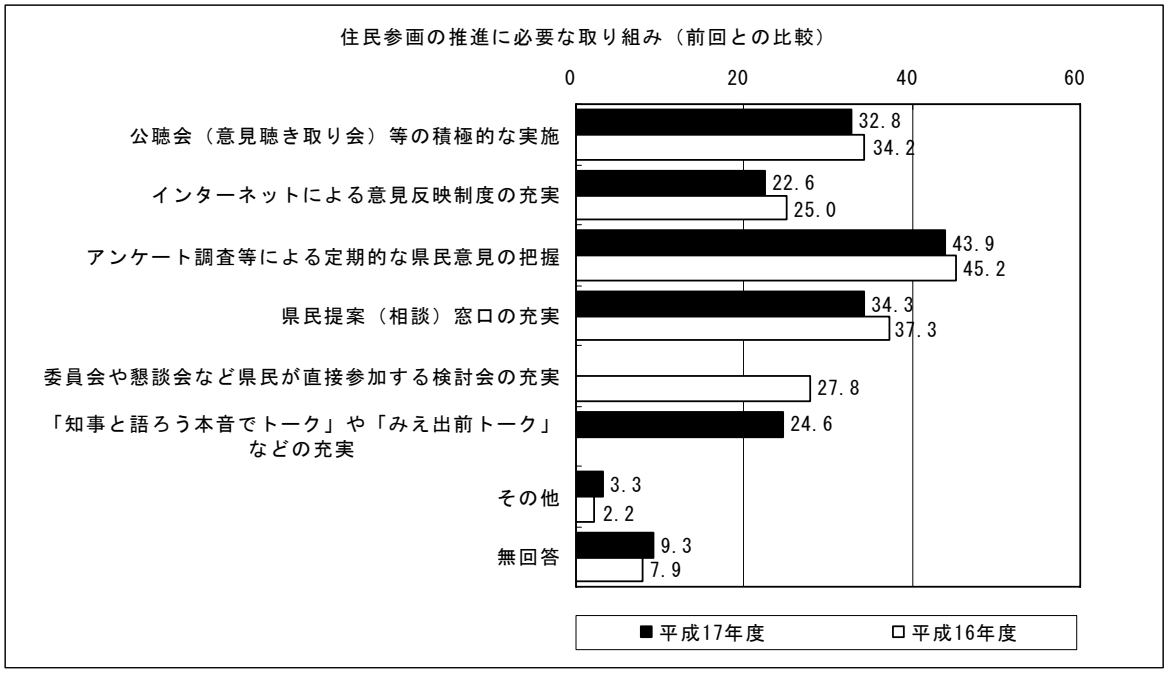
○全　体

（集計資料　p.150）



平成 17 年度

住民参画の推進に必要な取り組みについては、「アンケート調査等による定期的な県民意識の把握」と回答した人の割合が 43.9%と最も高く、次いで「県民提案（相談）窓口の充実」(34.2%)、「公聴会（意見聴き取り会）等の積極的な実施」(32.8%)、「『知事と語ろう本音でトーク』や『みえ出前トーク』などの充実」(24.6%)、「インターネットによる『ネットで県民参画（e－デモ会議室)』などの充実」(22.6%）の順となっており、様々な参画方法を求めていることがうかがえる。



なお、平成 16 年度と比べて特に大きな変化はみられない。

５．回答者からの自由なご意見

問５　このたびのアンケートに対するご感想、または三重県行政に対するご意見などございましたらご自由にお書きください。今後の参考にさせていただきます。

今回の調査で、上記の質問を設定して回答者の方にご意見をお聞きしたところ、計 1,166 人の方から回答が得られ、延べ 1,496 件の意見にまとめました。記入していただいたご意見は、

（１）一万人アンケートについての意見　　222 件
（２）その他の意見　　1,274 件

に分類しました。内容等は、以下のとおりです。

（１）一万人アンケートについての意見並びに県の考え方

いただいたご意見の中には、内容を同じくするご意見もありますので、ご意見をいくつかの類型に分類し、主な意見として集約した上で、県の考え方を併せて提示いたします（詳細は次項以降）。

（２）その他の意見

県政のさまざまな分野に対するご意見もいただきました。

いただいたご意見につきましては、この調査を担当している政策推進室から関係部署等へ情報伝達し、県として諸施策の今後の展開を検討するための参考資料として活用いたします。なお、ご意見を県行政の各分野における 44 項目別に分類した件数は次のとおりです。

01. 人権尊重	10 件	02. 生涯学習	8 件
03. 学校教育	45 件	04. 青少年の健全育成	7 件
05. 高等教育機関	11 件	06. 市民活動	26 件
07. 文化・芸術	10 件	08. 歴史・文化遺産	5 件
09. スポーツ・レクリエーション	14 件	10. 地域での防災の取組	32 件
11. 災害対策	14 件	12. 交通安全	24 件
13. 防犯	39 件	14. 食の安全	4 件
15. 高齢者、障害者の社会参画	33 件	16. 保健予防体制	5 件
17. 子育て環境	66 件	18. 医療体制	43 件
19. 福祉サービス	54 件	20. 自然環境との共生	32 件
22. ごみの減量	34 件	23. きれいな空気	4 件
24. 川や海の水質	7 件	25. 地球温暖化防止	1 件
26. 農林水産業の振興	17 件	27. 産業振興	6 件
28. 観光	13 件	29. 技術開発	1 件
30. 地域商工業	12 件	31. 雇用	29 件
32. 職業能力開発	4 件	33. 国際化	11 件
34. 広域交流・連携	1 件	35. 情報ネットワーク	4 件
36. 高速交通網	24 件	37. 道路の整備	53 件
38. 公共交通機関	34 件	39. 港の整備	2 件
40. 快適なまちづくり	22 件	42. 過疎地域等の振興	38 件
43. エネルギー	4 件	44. 飲料水の供給	4 件
広聴広報	95 件	新しい時代の公	12 件
その他	360 件		

（１）一万人アンケートについての意見並びに県の考え方　一覧

①アンケートの目的（98 件）

- この程度のアンケート調査で、県民のニーズがわかるのか。
- アンケート項目はすべて重要なものであり、重要か重要でないかを聞くのはおかしい。
- 今回のようなアンケートは大変よいと思う。

〔県の考え方〕

アンケート調査の目的についてのご意見をいただきました。

県は、平成 16 年３月に総合計画「県民しあわせプラン」を策定し、「みえけん愛を育む“しあわせ創造県”」をめざし、「県民が主役の県政」を推進しています。このためには、県民の皆様の意向等（ニーズ）を把握して県政に反映していくことが重要と考えており、平成 10 年度から一万人の県民の方にアンケート調査をお願いし、今年度が６回目の調査となっています。

県行政の各分野にわたる 44 項目に関して、重要意識、満足意識、認知意識をお聞きし、これらを組み合わせて分析することで、県民の方のニーズが高い項目は何かなどについて知ることが可能と考えていますので、ご理解をくださいますようお願いします。

また、44 のアンケート項目はすべて重要であり、重要か重要でないかを聞くことはおかしいのではないか、といったご意見もいただきました。

ご指摘のとおり、アンケートの結果をみましても、44 項目すべてで 50%以上の県民の方が重要であると回答しています。こうした中、各項目に対する県民の方の満足状況はどのようになっているか等を組み合わせて分析することで、より重要な項目は何なのかを明らかにすることができるものと考えていますので、ご理解くださいますようお願いします。

一方、今回の調査に対して、激励・賛同のお言葉もいただきました。県としましても、さまざまなご意見に耳を傾けながら、有意義なアンケートになるよう努めてまいりたいと考えています。

②アンケート実施方法（18 件）

- 真剣に県民の意向を聞くのであれば、直接聞き取り調査すべきではないか。
- アンケート項目が多すぎる。「今回はこれ」とテーマを絞ったアンケートしたほうがよい。
- 北勢、中勢、南勢地区などと地域を分けてアンケートした方がよい。
- アンケートを返送する前にお礼のハガキが届いたが、税金の無駄ではないか。

〔県の考え方〕

アンケート調査の方法についてのご意見をいただきました。

アンケート調査には多くの実施方法があり、今回の調査で用いた郵送調査法や、国勢調査などで用いられている面接調査法などがあります。そして、各々の調査法にはそれぞれ長所、短所があります。

郵送調査法は、調査地域を広く設定でき、調査に要する費用は小さいのですが、回収率は低くな

ります。また、面接調査法は、調査票の回収率は高いのですが、調査員の交通費、手当及び教育費などといった調査に要する費用が高くなります。

今回の調査の目的は、できるだけ幅広い県民の皆様の意向を把握することであるため、郵送調査法が最も適していると判断しました。

アンケートのテーマを絞るべきではないか、地域別に分けるべきではないか、といったご意見もいただきました。

一万人アンケートでは、県行政の各分野全般にわたる 44 項目について広くご意見をお聞きし、どの様な分野や項目で県民ニーズが高いのかを分析し、これを県政に反映していくことを目的としています。また、地域ごとの県民ニーズを明らかにするため、県内を９つに分けた生活創造圏別の分析も行っていますので、ご理解くださいますようお願いします。

さらに、税金の効果的な活用についてのご意見もいただきました。前述しましたように、郵送調査法では回収率の向上が課題となりますので、アンケートの回答期限前に、ご協力のお礼と未回答の方への再度のお願いを兼ねたハガキをご送付させていただきました。いただいたご意見も踏まえまして、今後とも、限られた予算を効果的に活用するための方策を講じていきます。

③対象者（数）の抽出方法（13 件）

- 一万人という数がどの程度信頼できる数なのかわからない。
- 対象者を無作為に選んでいるというが、どのように選んでいるのか。以前にも同じようなアンケートの依頼があった。
- 高齢者なので、もっと若い人にアンケートをとってほしい。

〔県の考え方〕

アンケート調査の対象者（数）についてのご意見をいただきました。

アンケート調査を行う場合、何人の方から回答をいただく必要があるのか、いわゆる標本数を事前に見積もることが必要です。

三重県にお住まいの成年男女約 150 万人の方を対象とする今回の調査では、統計的にみて、約 2,000 人の方から回答があれば全体の意見を反映していると考えられます。このことと、県内を９圏域に分けた分析を行うこと、過去の一万人アンケートの回収率、及び他のアンケート調査の回収率の推移などを勘案して、調査対象数を 10,000 人としています。

また、調査対象者の抽出方法についてのご意見もいただきました。

今回の調査では、市町村選挙管理委員会の選挙人名簿からの単純無作為抽出法（注）を採用しています。結果として過去に一万人アンケートにご協力くだいました方に調査票が届いている場合がありうるかもしれませんが、決して同じ方を意図的に抽出しているわけではありません。

さらに、回答者ご自身の年齢などを危惧するご意見もいただきました。

統計的には、「すべての調査対象者は回答者となる可能性を等しく有する」ことが無作為抽出法の基本であるため、結果として調査対象となった方の年齢などはそれぞれ異なります。調査対象となられた高齢者の方など、ご負担をおかけしていることとご推察いたしますが、皆様からの回答は、すべて貴重なお答えとしてお取り扱いさせていただきます。

（注）単純無作為抽出法

標本抽出台帳から、乱数表を用いて、必要な標本を抽出する方法を指す。今回の調査では、選挙人の氏名が順に並んでいる名簿（選挙人名簿）のなかから、調査対象者を一定間隔（間隔数は地域ごとに異なる）で抽出した。

④アンケート結果の公表（７件）

- このアンケートの結果は、いつ頃、どのように公表するのか。
- 今回のアンケートやこれまでのアンケートの結果はどこに掲示しているのか。

〔県の考え方〕

アンケート調査結果の公表方法及び時期についてのご意見をいただきました。

今回の調査の目的は、「①アンケートの目的」でも述べたとおり、県政に反映させるべく県民の皆様の意向等（ニーズ）を把握することです。このため、平成 18 年度の県政運営においてその結果を反映することができるよう、平成 17 年 10 月頃に結果を公表することとしています。

公表方法については、電子データとして県のホームページで、冊子としては当室並びに生活部及び県民局の情報公開窓口で閲覧できるようにする予定であり、ご希望があれば、結果の概要や報告書を県からお送りします。

なお、平成 12 年度以降の一万人アンケートの結果は、県のホームページの「県政運営　県民しあわせプラン（http://www.pref.mie.jp/shiawase/hp/）」に、“一万人アンケート”として掲載しています。

⑤アンケート結果の活用方法（23 件）

- このアンケートの結果を県政に反映させるとのことだが、具体的には何をどのように反映させるのか。
- このアンケートを十分県政に反映してほしい。

〔県の考え方〕

一万人アンケートは、県の行政運営の仕組みである「みえ行政経営体系」（注）の中で、県民の皆様や市町村からの意見やニーズを把握し、その把握した内容を理解・分析する「広聴広報・情報マネジメント」の一つに位置づけています。

具体的な反映方法としては、まず、結果の全体について「県民しあわせプラン」に基づいて、翌年度どのような考え方で県政運営にあたるのかを示す「県政運営方針」の中に、県民の目線から見た県政の現状認識として反映させることとしています。県では、この方針に基づいて予算や人員など翌年度の行政経営資源の配分を行うことになります。このため、「④アンケート結果の公表」で述べたとおり、平成 18 年度の県政運営に反映できるよう、今回のアンケート結果は平成 17 年 10 月頃に公表することとしているところです。

また、個別分野ごとの結果、生活創造圏別の結果については、県の各部署が、所管する諸施策の展開の参考として、活用することとしています。

さらに、同じく「みえ行政経営体系」の枠組みの一つ、県民に提供された行政サービスの成果を検証し、その結果を翌年度以降の取組に反映させる仕組みである「みえ政策評価システム」の目標の中に、一万人アンケートの県行政の各分野にわたる 44 項目の不満意識の平均を「県行政への不満意識」として設定しているところです。

（注）みえ行政経営体系

県政運営の仕組み全体を、「県政のマネジメントのベース」「広聴広報・情報マネジメント」「戦略策定」「戦略展開」「評価」の五つの枠組みに沿って体系的に再構築したもので、全体最適の観点から不断にマネジメントシステムを改善、進化させ、県民から見てより価値の高い行政サービスの提供を目指すもの。

⑥調査票の構成（59 件）

- 分野別の質問が難しい。もっと簡単に答えられるものにしてほしい。
- 分野別の質問が抽象的で答えにくい。設問の用語が難しいので分かりやすくしてほしい。
- アンケートの形式がわずらわしく、回答するのに時間がかかり疲れた。
- 新しい時代の公についての設問は、わかりにくいと思う。
- 重要意識、満足意識、認知意識の答え方が解らず苦労した。
- 分野別質問の各項目について、県が取り組んでいる内容がわからない。

〔県の考え方〕

アンケートの調査票の構成については、多数のご意見をいただきました。

一般的に、アンケート調査の設問は一読して理解できるものであることが必要条件ですが、設問が長すぎる、難解な言葉を用いている、重要意識・満足意識をはじめとする選択肢の設定が不十分である、などのご意見をいただきました。これについては、昨年度に回答者にわかりやすい調査票をめざして大きく見直したところであり、その結果、以前と比較して多くの項目で「どちらともいえない」「わからない」の回答が減り、重要意識や満足意識が増加しています。一万人アンケートでは、県民ニーズがどのように変化したかなどについて時系列的に把握していくうえで、設問等に継続性を持たせる必要がありますのでご理解くださいますようお願いします。

また、アンケートの回答に時間がかかる、設問に対する答え方がわからないといったご意見もいただきました。

一万人アンケートでは、県民ニーズを明らかにすることを目的として、同じ質問において重要意識や満足意識など複数の回答を求める必要があります。いただいたご意見も踏まえまして、より簡単に答えていただけますよう、調査票の形式の見直しや、記入方法の説明や記入例の適切な記述について検討をしていきます。

さらに、質問項目に関連して、県の取り組んでいる内容が解らないというご意見もいただきました。

一般的に、アンケート調査時に、回答者に対して設問に関する過剰な情報を知らせることは、調査の結果をゆがめることにつながります。このため、県の広聴広報活動等を通じ、日頃から県民の皆様に、県の取り組んでいる施策に関する情報を適切にお知らせできるよう努めていきます。

⑦個人情報の取扱い（２件）

- 今、話題となっている個人情報の取扱いについて注意してほしい。
- 個人情報が流出する話をよく聞くので、そのようなことがないようにしてほしい。

〔県の考え方〕

最近、国、地方公共団体、企業などで個人情報漏洩事故が発生しており、県民の皆様にはご迷惑、ご心配をおかけしています。個人情報が流出すると、当該個人の私生活上の権利利益を害するおそれがあるため、個人情報の管理については、特に注意しています。

県としましては、個人情報保護法が制定・施行されたことも踏まえまして、今回の調査における具体的な対策として、三重県個人情報保護条例に基づき、委託業務受注業者と締結する委託契約書に特記事項として「個人情報の保護に関する事項」を設けました。この特記事項に基づいて、発注者である県が個人情報を適切に扱うことはもちろんのこと、委託業務受注業者に対しても、選挙人名簿から把握した個人情報の適切な取扱いを指示しています。

なお、把握した個人情報は、裁断するなど細心の注意を払いながら破棄します。

⑧調査への不信感（２件）

- 突然こういうアンケートが来ると、怪しいところから来たのではないかと思う。
- 送られてきた封筒の住所が間違っていた。信用して回答するが、ちゃんと説明してほしい。

〔県の考え方〕

最近、全国各地で、振り込め詐欺等、悪質な「利用した覚えのない請求」が横行しており、中には公的な機関に似た名称を語った手口も聞かれます。

アンケート調査対象者の方からは、お電話でも、調査の信ぴょう性を確認するためのお問い合わせをいただいており、前述のような悪質な手口が横行していることに私どもも閉口しています。

調査対象となった皆様が、こうした悪質な請求を疑われることはやむを得ないことと認識しており、県としましても、できるだけ不信感を抱かれることがないようにするため、「県政だより　みえ」でのアンケート実施のお知らせ、発送及び返信用の封筒は県仕様のものを使用する、調査票の回収先を県とする、といった対策を講じています。

なお、封筒の住所の間違いについては、選挙人名簿から転記する際に誤ったものと思われますが、おわび申し上げますとともに、皆様のご不審を招かないよう気をつけていきます。